SD
85 09

SWEDISH GRACE

特集—

現代スウェーデン・デザイン

——花瓶から戦闘機まで

Contemporary Design in Sweden
: from Flower Vases to Fighter Planes

ボルボ, サーブ, ハッセルブラッド, コスタ・ボーダなど北欧の美しい自然とスカンジナビアの工業力が生んだスウェーデン・デザインのすべてをインテリアを含めて紹介.

●

作品:

テーブルウェア, 身体障害者用器具, テキスタイル, 家具, 工業デザイン, インテリア, 他.

●

NICE SPACE: アントネッリの塔　鵜沢 隆＋大西次郎

連載—フランク・ロイド・ライトの呪術の空間⑬ [最終回]



ISSN 0563-0991

スペースデザイン都市・建築・芸術の総合誌
第252号昭和60年 9月1日発行毎月1回1日発行
昭和40年 2月5日第3種郵便物認可
昭和59年10月9日国鉄首都特別扱承認雑誌第7825号



Kandenko

どんな未来見せてくれるのかな。関電工



あなたはどんな顔の関電工をご存じですか。「総合設備企業」の関電工は、じつにさまざまな顔を持っています。だから活躍の場は、幅広い分野に及んでいるのです。「総合設備企業」を支えるのは、13の部の、10,000人の関電工マン。きょうも未来をひらく最新技術の開発に取り組んでいます。

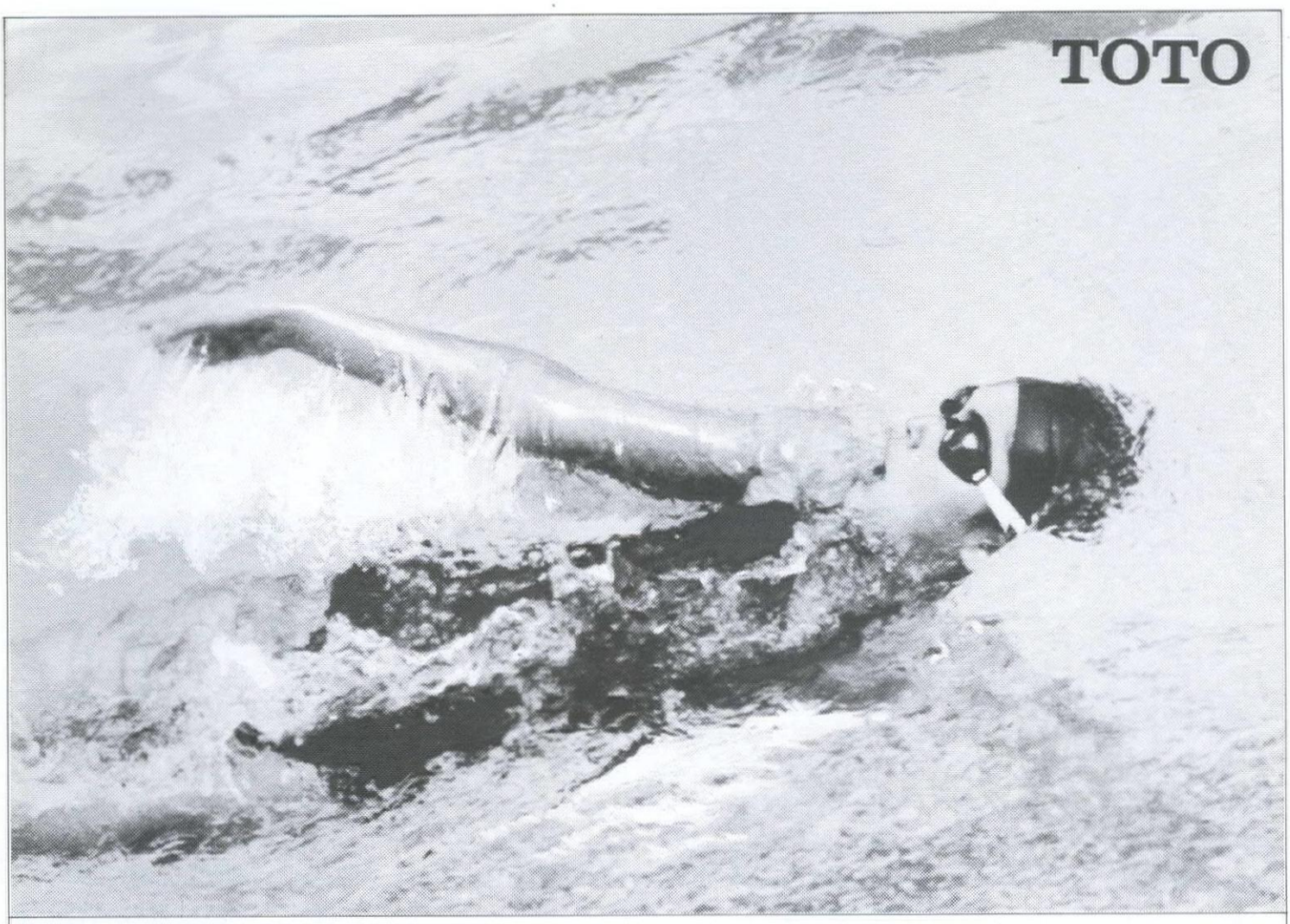
〈13の部門〉 ●技術部 ●内線部 ●プラント部 ●空調管工部 ●防災設備部 ●架空配電線部 ●地中配電線部 ●発変電部 ●送電線部 ●地中線部 ●土木部 ●電子通信部 ●原子力部

最新技術で未来をひらく

株式会社 関電工

本社：〒113 東京都文京区湯島4-1-18 TEL.(03)812-5111

主要事業所：東京／横浜／千葉／浦和／水戸／宇都宮／前橋／甲府／沼津／八王子／大阪／札幌／仙台／長野／香港／シンガポール



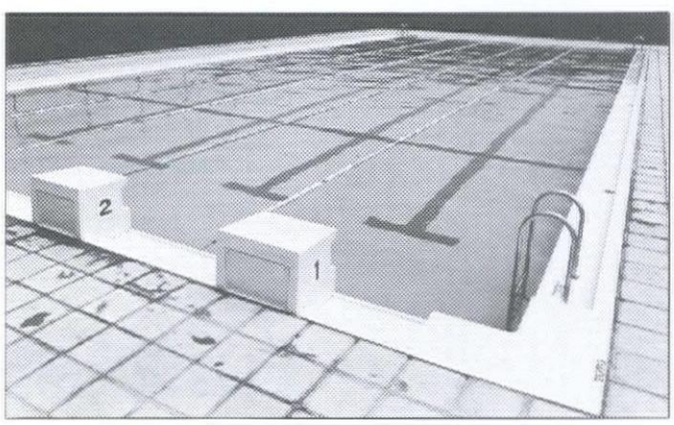
主流、FRP

いま、プールはFRPの時代。

TOTOが、FRPの世界をひろげました。既にご好評を頂いておりますポリバス・Pタンクなどの FRP製品。TOTOがこうした豊富な経験と実績に基づき、先進の技術と斬新なアイディアを駆使して開発したのがFRPプールです。FRP製品には、浴槽・水槽・ボートなどがあり、プールの素材としても理想的なものです。これからはプールもFRPが主流の時代です。

TOTO FRPプールは……

- ●耐食性に優れています。
- ●強度・耐久性も抜群です。
- ●施工期間が短縮できます。
- ●設置方法は幅広く対応できます。
- ●維持管理が容易にできます。
- ●安全性への配慮も十分です。



TOTO FRPプール

東陶機器株式会社 ●本社／〒802 北九州市小倉北区中島2丁目1番1号 ☎(093)951-2293

資料をご希望の方は、ハガキに住所・氏名・職業・電話番号をご明記の上、上記広告宣伝部までご請求ください。

技術にこころをこめて75年

HITACHI

知能は鋭敏
動きは柔軟

先進16ビットマイコン搭載。
知能群管理エレベーター
(CIP-52000)新登場。



待ち時間の少ない経済性・信頼性にすぐれた効率のよいエレベーター……このテーマにチャレンジしつづける日立が自信をもっておすすめする知能群管理エレベーター(CIP-52000)。この知能群管理エレベーターは、従来の群管理制御系に加えて、新たに「学習機能系」と「知能系」として、それぞれ16ビットマイコンを搭載。群管理プログラムの自動修正を可能としたものです。すなわち、ビルの個性(用途・立地条件など)、季節、曜日などによって変わるあらゆる利用状況の変化に、自ら適応していく能力を持っています。いわば、自ら「考え、そして成長する」能力を備えたオフィス、ホテルの機能をグンとアップします。

知能群管理(CIP-52000)の特長

- 変化する利用状況に的確に対応します。
- 混雑も未然に防止できます。
- 特別行事に対してもあらかじめ行事予約ができます。
- 知らず知らずのうちに効率的に節電できます。
- 予約精度を99%以上に高めました。
- 戸の開閉時間を状況に合せ自動調整し無駄をなくします。
- 稼動状況のモニターも可能です。

日立知能群管理エレベーター(CIP-52000)

株式會社 日立製作所

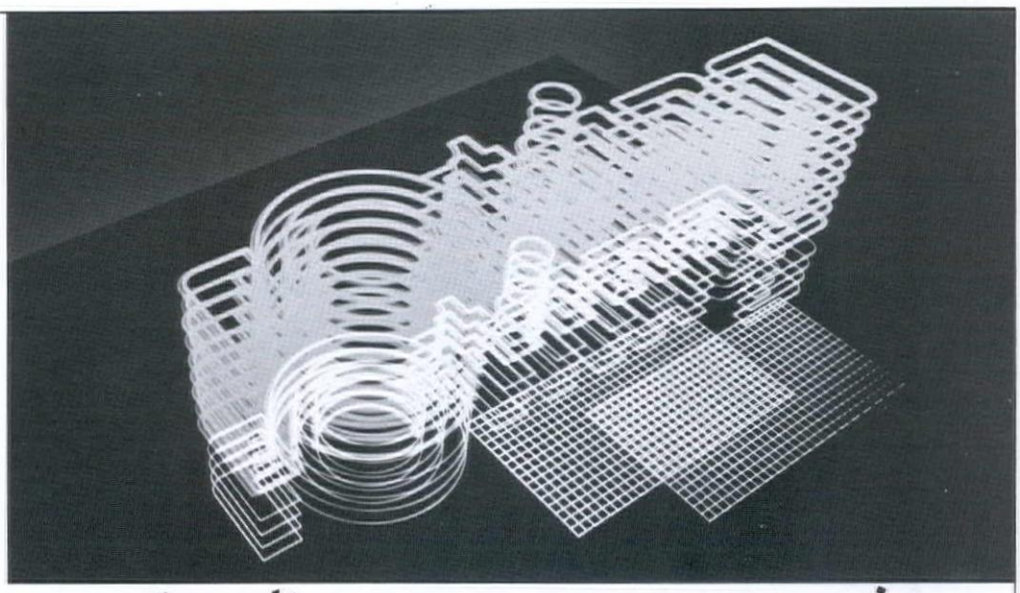
お問い合わせは機電事業本部/営業本部 〒101 東京都千代田区神田駿河台4-6 電話 東京(03)258-1111〈大代〉または最寄りの支店へ 大阪(06)261-1111・福岡(092)741-5831・名古屋(052)251-3111・札幌(011)261-3131・仙台(0222)23-0121・富山(0764)33-8511・広島(082)223-4111・高松(0878)31-2111

信頼を手から手へ。ロットリング製品はロットリング日本㈱がおとどけします。

rotring

drawing and writing

ロットリング日本㈱●本社/東京都千代田区飯田橋1-7-10(山京別館4F・5F)〒102TEL.東京03(263)1755代●大阪支店/大阪市東区南本町5-13(エイコービル4F)〒541TEL.大阪06(244)0796代



次代への軌跡、ロットリング。

ノンストップ ノンドライ NEW



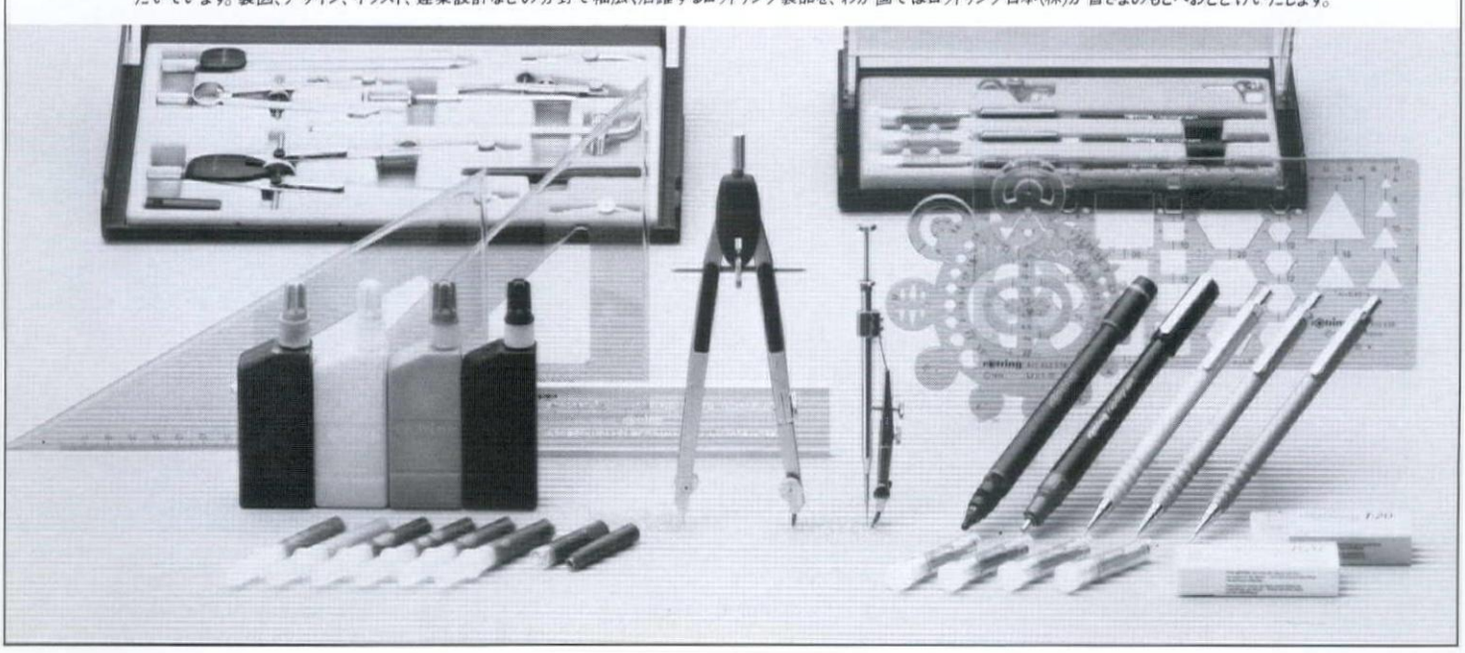
インク交換のたびに流体システムを新しくする、革新のキャピラリーカートリッジを採用**ロットリング・ラピッドグラフ**



比類ない伝統の描き味。最適なインクフローを保つ、独自のスパイラル設計**ロットリング・バリアント**

製図ペンから製図システムまで、プロフェッショナル・スピリットに応える技術と信頼のロットリング。

たゆまない技術革新が生んだ信頼のロットリング製品。製図ペンから製図用品、先進の製図システムまで、そのすぐれた品質と精度は世界のプロ達から高い評価をいただいています。製図、デザイン、イラスト、建築設計などの分野で幅広く活躍するロットリング製品を、わが国ではロットリング日本(株)が皆さまのもとへおとどけいたします。



膜構造建築

カジマ・エアドームは
中規模スポーツ施設を対象とした実用モデルです。

カジマ・エアドームは、学校等公共施設の屋内体育施設として実用になる規模（公認テニスコート2面）と設備を装備した、国内最大規模の本格的エアドームです。鹿島の新しい技術を盛り込むことによって、鉄骨造体育館と同程度のコストに抑えることが可能になりました。膜屋根の透光性からくる明るく解放的な室内は、時代にマッチしたスポーツにふさわしい生き生きした空間を創ります。



■特徴

●構造、設備を一体化して表現

膜およびコンプレッションリングを支える構造と、24時間加圧をコントロールする設備を、一体として立体トラス内におさめ、ひとつのシステムとして完結させました。

●大スパンで美しく、経済的

膜面を支えるケーブルを最小に押え、最大の膜面規模が得られるようにレイアウトしました。

●自動加圧制御システム

エアドームは、外界の状況に応じて常に内圧を理想的な状態にコントロールしなければなりません。自社開発によるマイコンを利用した自動制御システムで24時間、確実にコントロールしています。

●KACOM工法でシンプルな外観

エアドームの外壁は、鹿島の開発した構造材と仕上材を兼ねた型枠コンクリート・ブロック工法（KACOM）を採用しており、合理的で親しみやすい外観になっています。

●避難の安全を最優先した防災システム

光電センサーによる火災の早期発見、排煙時に膜面降下した場合の避難空間の確保等、防災上の安全性も充分検討しています。

●コート周辺の環境維持

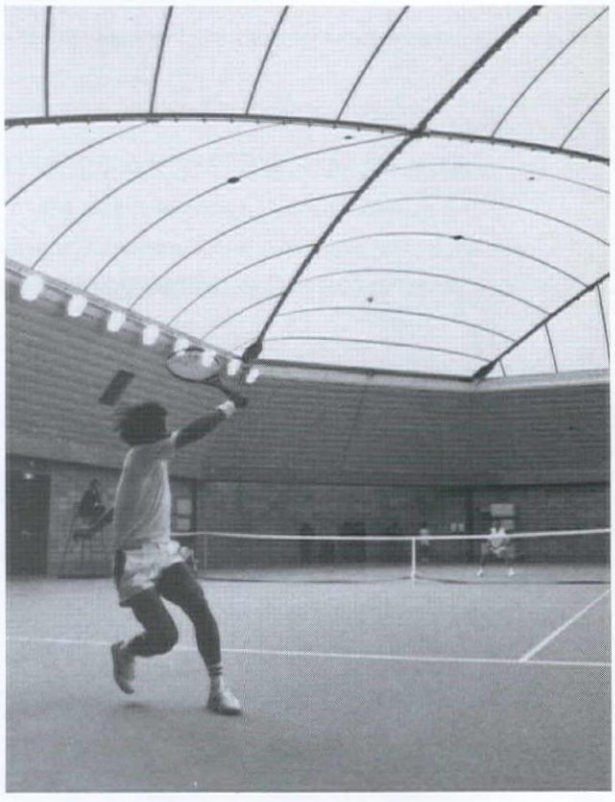
コート周辺部へ旋回気流（うず）方式により心地よいそよ風を送り、快適な半屋外空間を創る経済的な方式を採用しました。

●膜面への散水

夏期の膜面温度上昇をふせぐために、膜屋根面へ散水を行なって輻射熱の低減をはかり、空調機の負荷を軽減し、快適な室内環境を創りました。

■適用範囲

- 屋内競技場・スタジアム等のスポーツ施設
- 展示場・催事場・講堂・集会施設等の文化施設
- 空港施設・生産施設
- その他





デミング賞
〈実施賞〉受賞企業

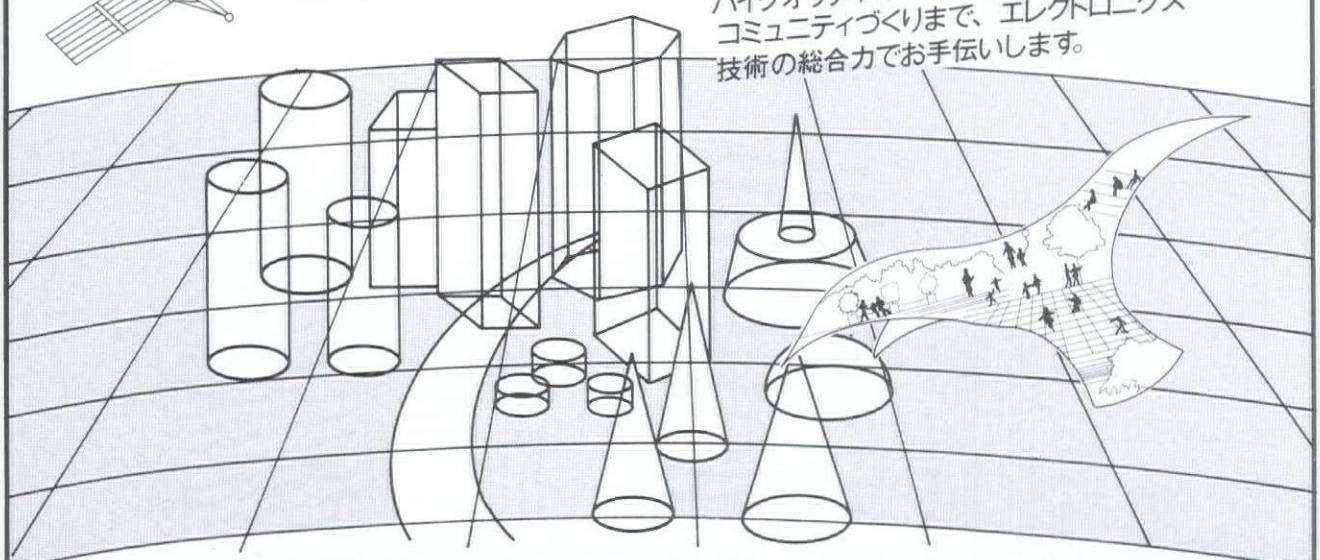
鹿島建設
KAJIMA CORPORATION

本社：〒107 東京都港区元赤坂1－2－7 お問合せ先 建築技術部（03）404－3311

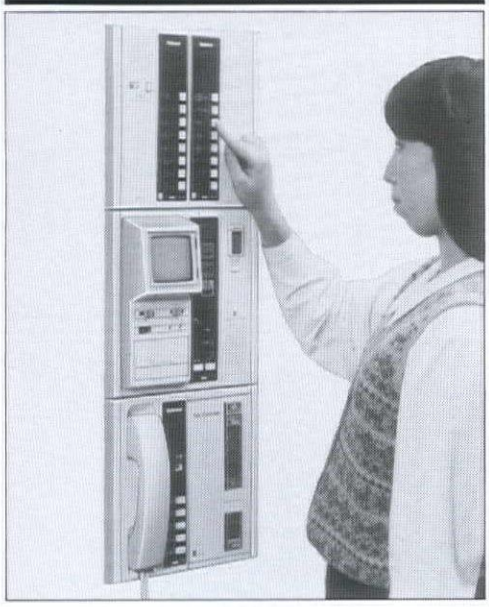
National
-技術でひらく世界の繁栄-

コミュニケーション
人とひと、人と技術の双方向

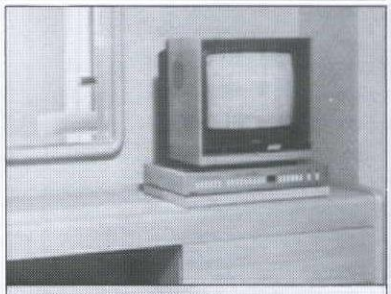
ハイクオリティ・ライフの創造から地域総合
コミュニティづくりまで、エレクトロニクス
技術の総合力でお手伝いします。



マンションのHAシステム

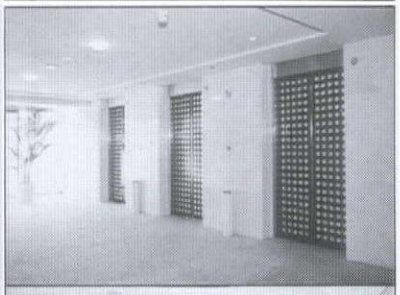


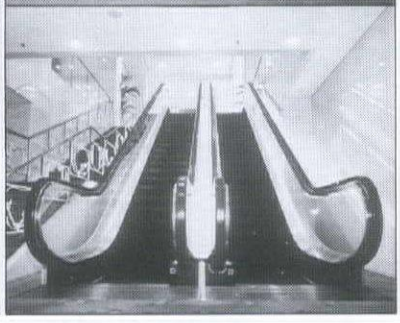
ホテルの双方向映像情報システム





ホテルの昇降機設備





HA・ニューメディア時代に対応する幅広い設備陣容

受配電・非常電源設備
- キュービクル式高圧受電設備
- 各種トランス
- 各種電力管理制御設備
- 直流電源設備
- 自家発電機設備
- ビル管理システム

通信・音響設備
- ホームセキュリティ
- HAシステム
- 防災アンプ
- 各種音響機器
- キャプテンシステム
- マンション総合情報システム

CATV・共同受信・映像設備
- SHF衛星放送受信システム
- テレビ共聴システム
- ビル陰共聴システム
- CATV共同受信システム

換気送風設備
- 屋上換気扇
- 軸流・遠心送風機
- 排煙システム
- 各種換気扇
- 熱交換気ユニット

台所設備
- システムキッチン
- 電気レンジユニット
- 各種調理機器
- 各種台所まわり設備機器

照明設備
- 各種HIDランプ(高輝度放電灯)
- 各種蛍光灯
- 各種電球

冷暖房設備
- 各種エアコン
- 大型空調機器
- ループコイルシステム(排熱回収設備)

給湯設備
- ソーラシステム
- 電気温水器
- 各種給湯器(電気・ガス・石油)

昇降機設備
- エレベーター
- エスカレーター
- ダムウェーター

給排水・衛生設備
- 各種ポンプ
- 各種ユニット設備
- 産業用掃除機
- 生活排水処理装置

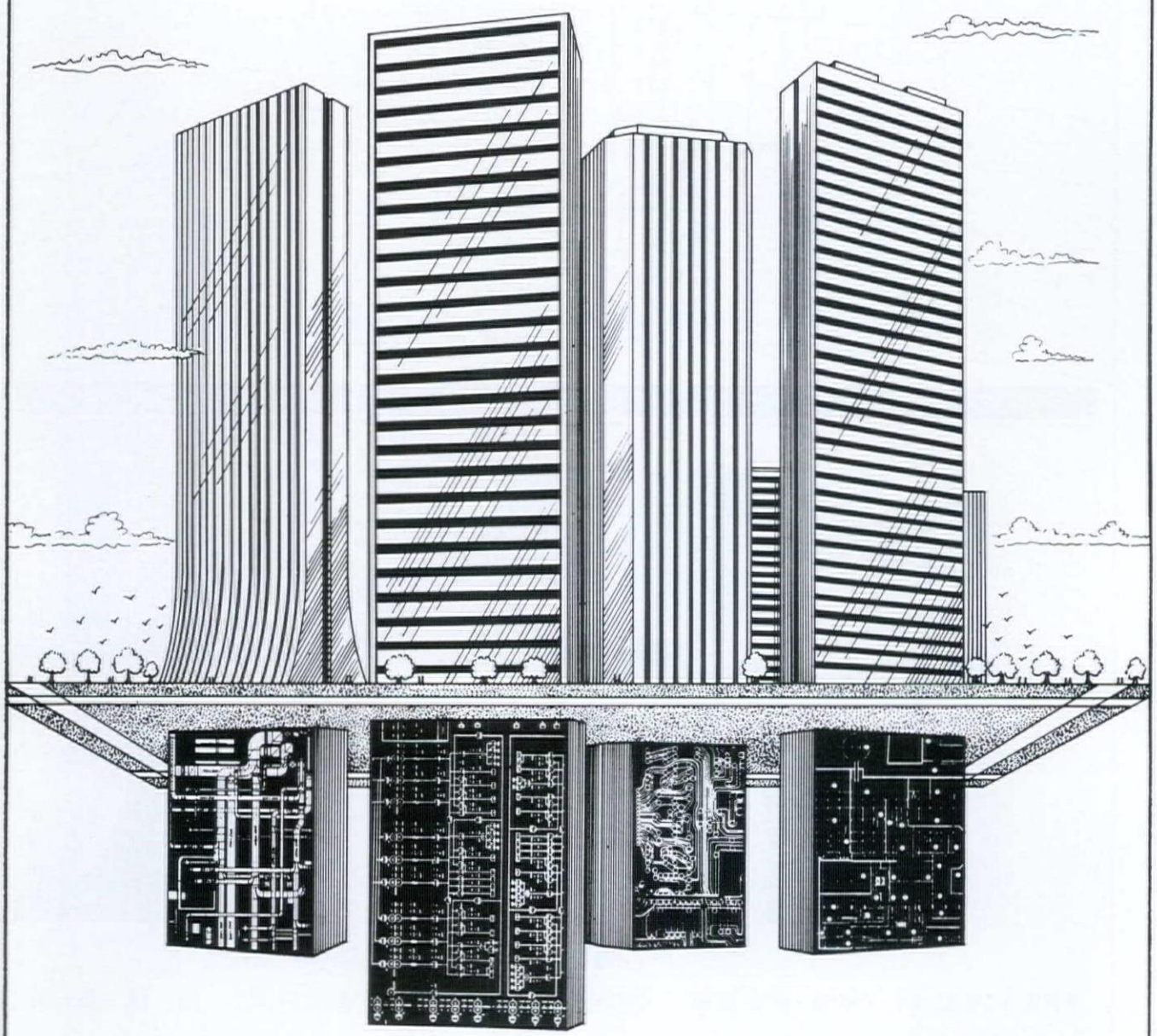
ナショナル 松下電器

ナショナル建築設備

●お問合せは、松下電器産業株式会社
電設営業所・設備機器営業所・電材機器営業所へどうぞ。

情報世紀を照準する……
近電工のシステムエンジニアリング

高度情報社会へと展開する都市……
新しい世紀へ　活動し制御する全機能をきびしく構成する
近電工の総合技術と総合施工体制――



電気・計装・空調・管・防災・土木

システムの信頼を高める
近電工

近畿電氣工事株式會社
大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号　〒531　☎06(375)6000

地震に強い屋根材

本造下地でも建築基準法22条の制約を受けません。

マルエス不燃シングルSP

ベストロン

建設大臣認定・不燃(個)第1683号



maruesu shingle sp

1耐震性に強く、軽くて割れないため屋根から落下する心配がありません 2耐変色性にすぐれ 3寸法安定がよい 4凍害に強く寒冷地にも安心して使用でき 5深みのある色調とソフトな感覚は 6自由な曲線をつくれ 7ユニークなデザインが可能です。

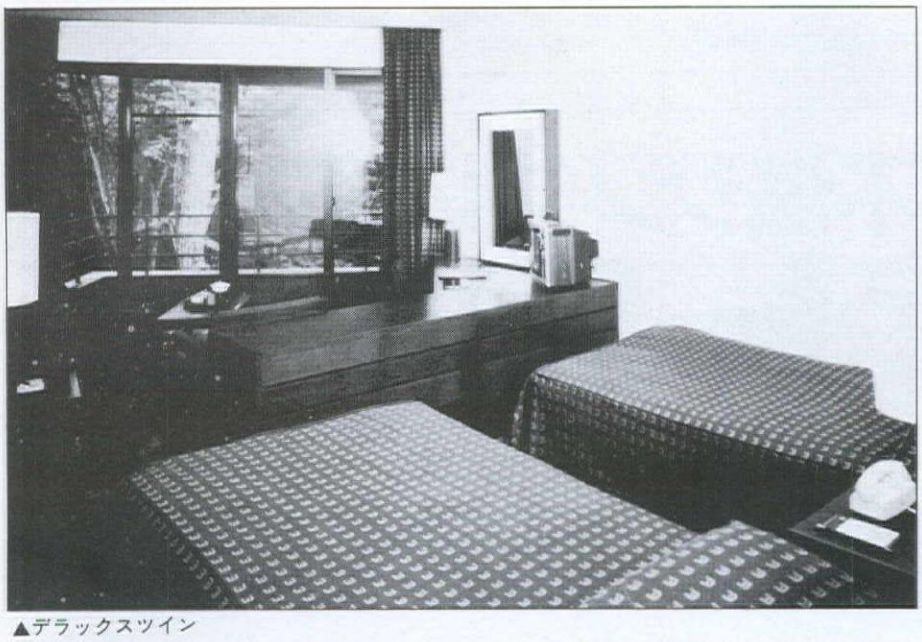
マルエス 日新

日新工業株式会社

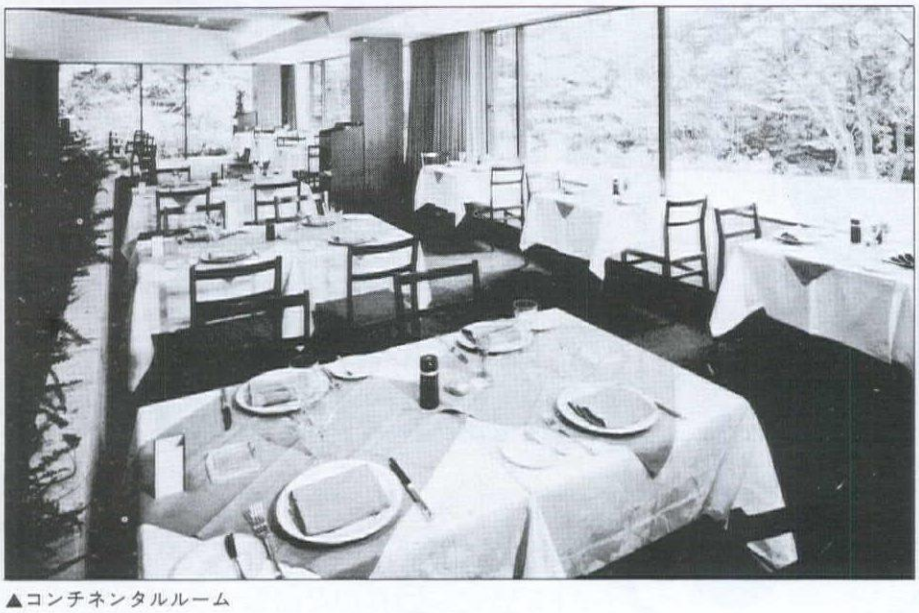
東　京■120/東京都足立区千住東2−23−4☎03(882)2424(大代表)
大　阪■☎ 06(533)3191(代表)　九　州■☎092(451)1095(代表)　名古屋■☎052(741)6257(代表)
札　幌■☎011(281)6328(代表)　広　島■☎082(221)1019(代表)　仙　台■☎0222(63)0315(代表)

軽井沢

HOTEL KAJIMA NO MORI



▲デラックスツイン



▲コンチネンタルルーム



▲ 鹿島ノ森ホール



▲テニスコート（全天候型コート）



▲ゴルフクラブ（60年の伝統を誇る旧軽井沢ゴルフクラブ）

Seminar & Golf・Tennis

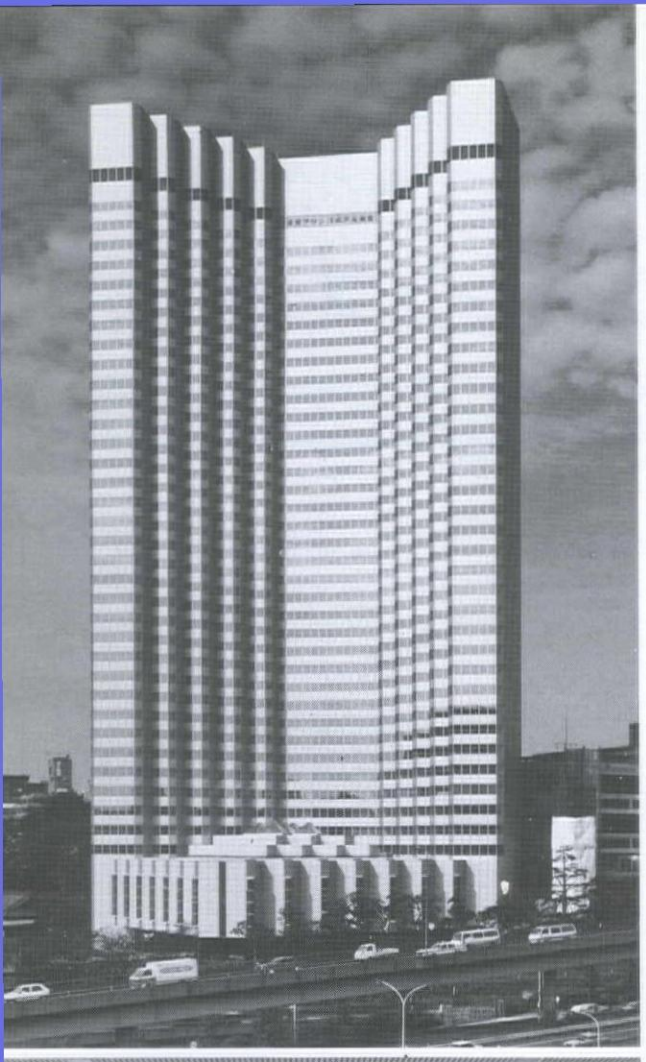
《鹿島ノ森ホール》 ■セミナー：108人、16㎜映画映写装置、2ヶ国語同時通訳 ■結婚式：教会・神式、ご披露宴 ■展示会場 ■パーティー会場

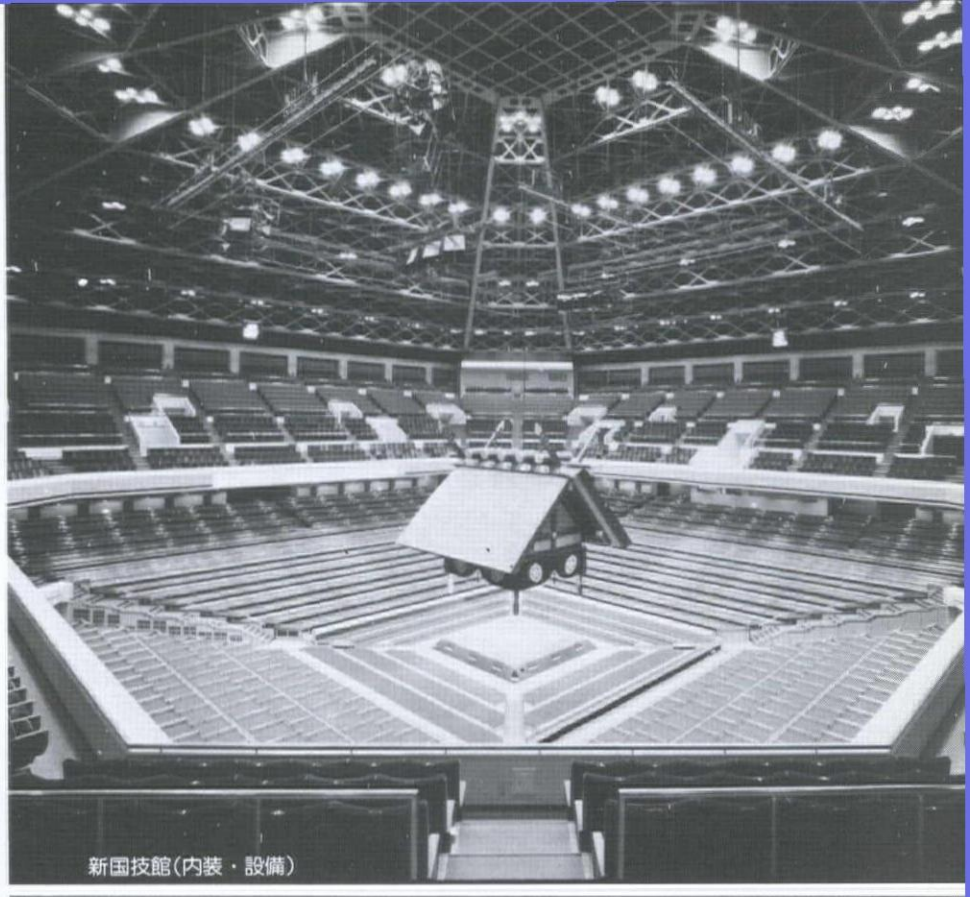
《鹿島建設グループ》

株式会社 ホテル 鹿島ノ森

ホテル オークラ チェーン

●ご予約・お問い合せ：ホテル鹿島ノ森東京案内所 ☎03-478-6220 現地 ☎0267-42-3535㈹ TELEX 3328676 FAX 0267-42-5335





新国技館(内装・設備)



赤坂プリンスホテル レストランブルーガーデニア(内装)

営業種目

○建設資材

鉄鋼及び加工製品・鉄鋼仮設材・一般仮設材・セメント・生コン・コンクリート二次製品・防水養生剤・内外装材etcの販売及び賃貸

○建設工事

鋼管杭・H形鋼・シートパイル・PCパイル各種打込工事・現場造成杭工事・ウェルポイント薬液注入工事・内外装仕上工事・サッシ・シャッター工事・パーティション工事・耐火被覆工事・断熱吸音工事・ALC材工事・スパンクリート工事・インターロッキングブロック工事・外壁調査及び改修工事etcの施工

○建設機械・工具

測量機器・ブルドーザー・掘削機械・積込機器・基礎工事用機械・クレーン・リフト・せん孔機械及びトンネル掘進機・締固め機械・骨材生産機械・コンクリート機械・空気圧縮機・送風機・ポンプ・原動機・完成部品及び特殊機械器具etcの販売及び賃貸
スリップ・トルクコンベヤ及びスィンガー(米国シャトルワース社提携)の販売

○設備機器・工事

空調設備機器・給排設備機器・電気設備機器・昇降機エスカレーター工事・駐車設備工事・ゴンドラ設備工事・厨房設備工事・ユニットバス、キッチンユニット、洗面化粧台工事・防災設備工事・水処理設備工事etcの販売及び施工

○輸出入業務

大理石・御影石・磁器タイル・合板型枠・機械工具類その他各種建設資機材の輸出入業務の取扱い及び施工

○インテリア

家具・応接セット・スチール棚・保管庫・移動書庫・ロッカー・各種施設用品etc

○一級建築士事務所

計画・基本設計・実施設計・工事管理・構造物のチェックと対策etc

あらゆるニーズにお応えできる建設の総合商社

大興物産株式会社

会長　渥美健夫　　社長　柴田銀造

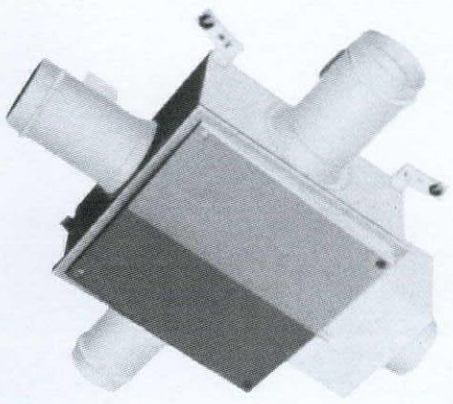
本　社　〒107 東京都港区元赤坂1―6―4　安全ビル7・8F ☎(03) 423―2511
札　幌　〒060 札幌市中央区北三条西3-1-4　北三条三井ビル ☎(011)231-6481～2
仙　台　〒980 仙台市二日町1―27　鹿島建設ビル ☎(0222)61-4141～4
東　京　〒107 東京都港区元赤坂1―6―4　安全ビル7F ☎(03) 423―2511
横　浜　〒231 横浜市中区弁天通り6―79　ハリマヤビル ☎(045) 212―3925
北　陸　〒950 新潟市万代1―3―4　鹿島建設ビル ☎(0252)47-2286～7
名古屋　〒450 名古屋市中村区名駅南1-24-21 名古屋三井ビル別館 ☎(052) 551―2131
大　阪　〒540 大阪市東区谷町5―27上町ビル ☎(06) 762―5661
広　島　〒730 広島市中区中町6―13鹿島建設ビル ☎(082)249―9221
高　松　〒760 高松市亀井町1―3鹿島建設ビル ☎(0878) 39―3191
福　岡　〒812 福岡市博多区博多駅前3-12-10 鹿島建設ビル ☎(092)441-2624～5

先端技術で省エネルギーに大きく貢献!

旭電業のエレクトロニクス製品

中間ダクト用ファンコントロールシステム

(風量制御電動ダンパー付中間ダクト用ファン)



ファンコントロールシステム付
STF-16MDL4

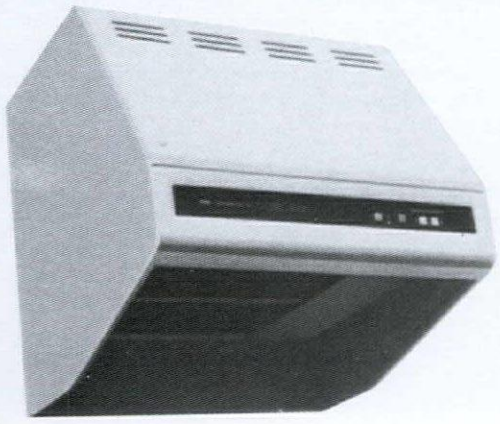
弊社で開発したこのシステムは、電動機の速度の切換えと、ファンの各々の吸込口に接続される電動ダンパーの組合わせにより、各部屋の使用状態に適した換気を行うという画期的な装置です。

① 用途により各部屋の必要換気量は異なりますが、使用状態に適した換気を行うため、常に3室(2室)合わせた換気量でファンを運転していた従来のシステムに比べ、運転電力の無駄がありません。

② 使用状態に合わせた換気量ですから、騒音も大幅に押えることができます。

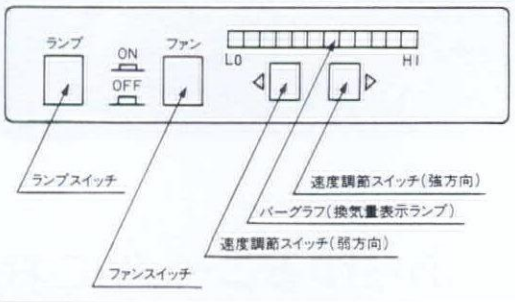
③ 2室・3室用の中間ダクトファンに装備可能です。

無段変速型レンジフードファン AR-35TS・AR-35NS



特 長

1. 速度制御(換気量制御)の方法は、当社独特の電子制御方式です。
2. 超低速より無段階に速度調節できます。
3. 騒音、振動、電波障害が全くありません。
4. 低速運転が可能ですから、省エネルギーの効果が大いに期待できます。



ASAHI Denki

旭電業株式会社

本　　社 埼玉県浦和市南浦和2－12－17　電話0488(82)2288㈹　〒336
FAX 0488(82)3150
東京事務所 東京都中央区八重洲2-11-2(城辺橋ビル4F)　電話 03(273)1981㈹　〒104
大阪営業所 東大阪市長田東5－44(新栄ビル3F)　電話 06(744)1882　〒577
埼玉工場 埼玉県熊谷市大字小曽根字北浦599　電話0485(24)1196㈹　〒360

カタログご請求下さい。

kembo meubelfabrieken;holland



ES35



DOLMAS

軽さと機能の調和――ケンボー・チェア

ケンボー／ES35

アームチェア￥51,000
2人掛チェア￥95,000

ケンボー／ドルマスチェア

フレーム・ナチュラル	アームレス￥18,000	アーム付￥21,000
フレーム・グレー	アームレス￥19,000	アーム付￥23,000

mobilia

モビリア 株式会社
東京都港区麻布台2-3-5 〒106 ☎03-582-3341
大阪市東区安土町2-30 大阪国際ビル 〒541 ☎06-261-9951
名古屋市中区丸ノ内2-20-19 名古屋東京海上ビル 〒460 ☎052-221-6393

建築設備の一役を担う

電気設備工事

最新の技術と信頼される施工

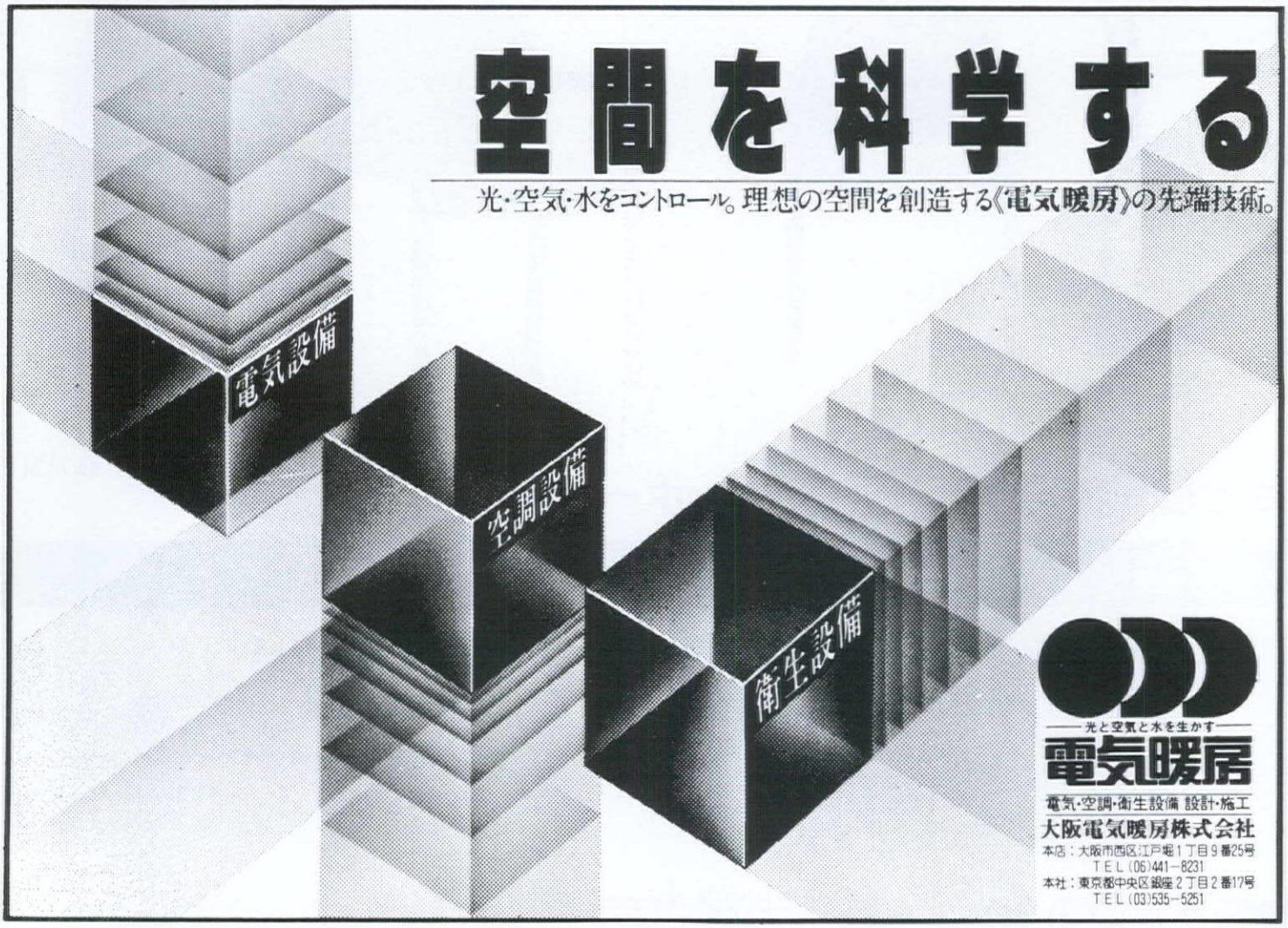
大栄電気株式会社

代表取締役会長　伊藤 孝太郎

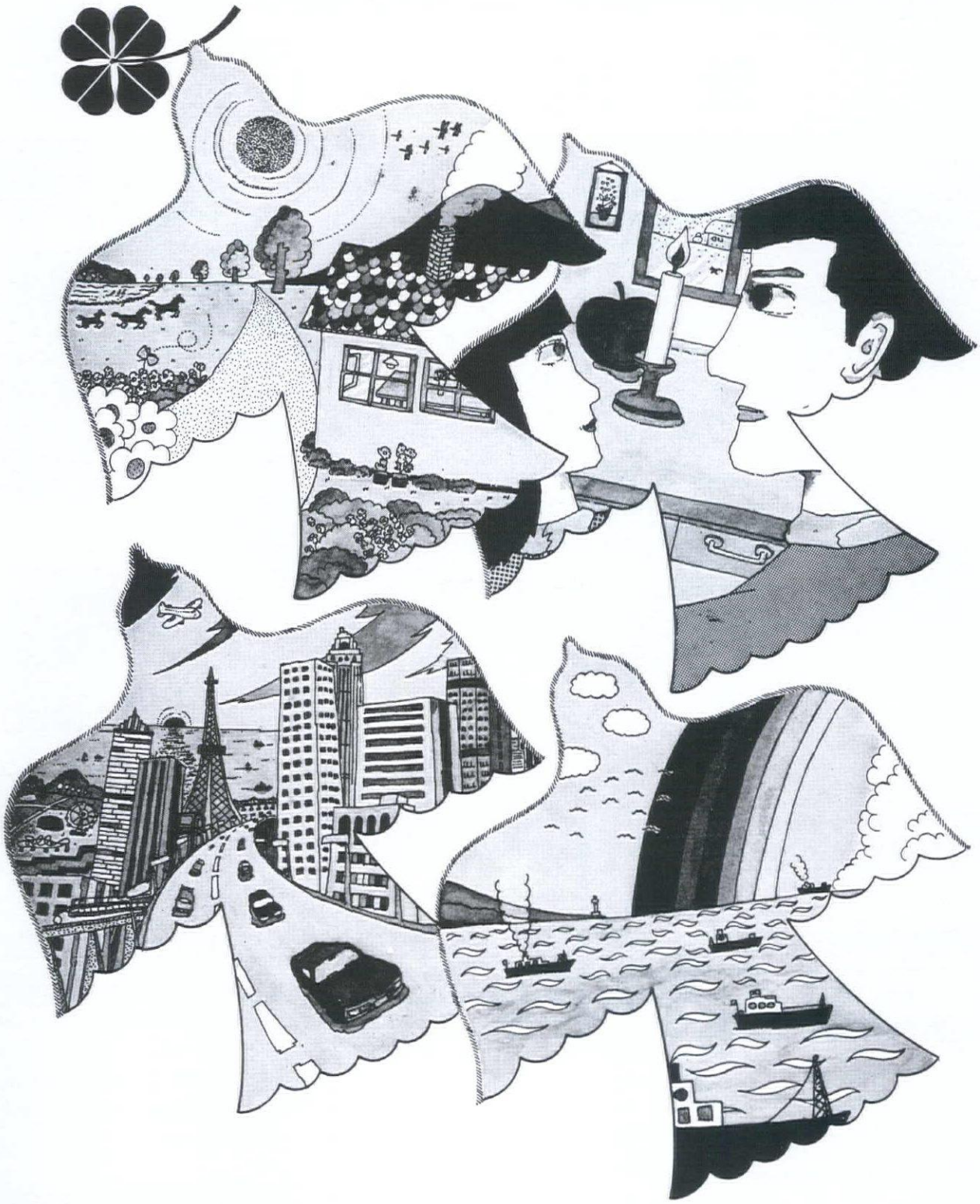
代表取締役社長　伊藤　　赳

本　　社　東京都中央区銀座3－7－10　TEL 03(562) 0311(大代表)

支店営業所　大阪、名古屋、北海道、東北、北関東、東関東、神奈川、浜松、神戸、四国、中国、九州、沖縄



豊かな人間生活と
明かるい光の創造に



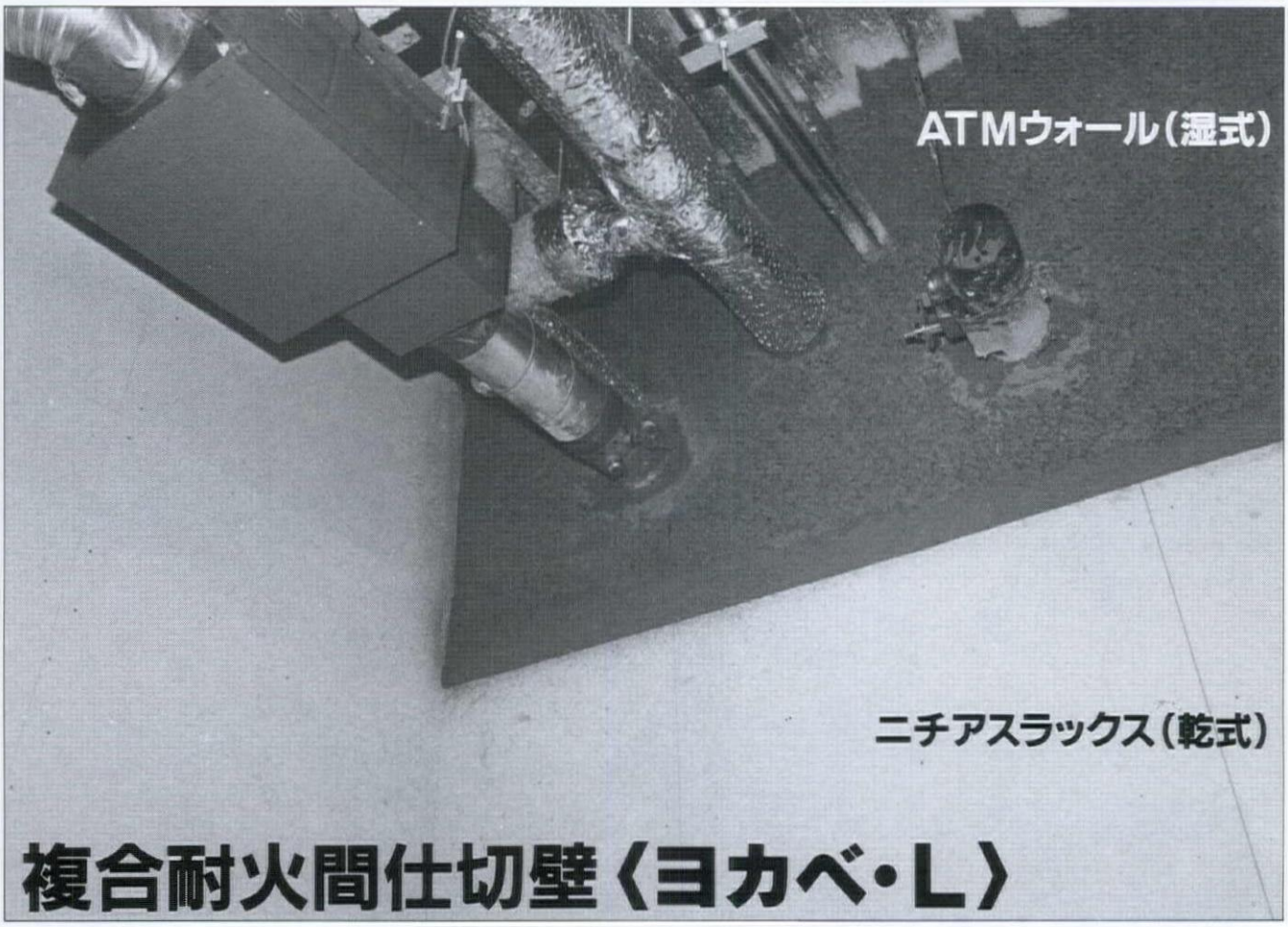
中立電気株式会社

取締役社長　斎　藤　　勲

本　　社　〒160 東京都新宿区新宿1丁目13番12号　☎東京(356)2511代
山梨支店　〒403 富士吉田市下吉田町2005番地　☎吉田(0555)(2)3258代
大月出張所　〒401 大月市大月町2丁目10番地14号　☎大月(05542)(2)1013
笛吹川事務所　〒405 山梨市小原西1118番　☎山梨(05532)(2)6651

ニチアスの燃えない建材

湿式 ATMウォールと、乾式 ニチアスラックスの 機能一体。



複合耐火間仕切壁〈ヨカベ・L〉

新工法

湿式・乾式工法の一体化では、初の"耐火指定"を取得!

建設大臣指定 W2157 (昭・59年7月11日)

耐火間仕切壁の代表的な施工法である湿式工法と乾式工法の一体化は、従来より、さまざまな工法が試みられてきました。

ニチアスは、これら工法の長所のみを抽出し、ATMウォール(湿式吹付ロックウール)と、ニチアスラックス(けい酸カルシウム板)を一体化。新たに、複合耐火間仕切壁〈ヨカベ・L〉として確立させ、耐火指定を取得しました。

湿式工法と乾式工法の特長の相乗効果が、品質の向上と現場工数の低減を生み出します。

〈ヨカベ・L〉は、今、画期的な新工法として、各方面に大きな反響をよんでいます。

複雑な壁面は、従来の湿式工法で

天井裏の設備配管、開口部等の壁面は、ATMウォール(湿式工法)で施工します。湿式工法ですので、これら複雑な取合部の施工が容易であり、また、気密性と耐火・遮音性に優れます。

表面化粧を施す壁面は、乾式工法で

クロス・タイル貼り等、いろいろな表面化粧を施す壁面は、ニチアスラックス(乾式工法)で施工します。乾式工法ですので乾燥期間を必要とせず、工期を大幅に短縮することができます。

ニチアス
本社／東京都港区芝大門1-1-26 〒105
☎03(433)7241 大代表
東京支社☎ 03(438)9741(代)
名古屋支社☎052(931)9217(代)
大阪支社☎ 06(252)1371(代)
九州支社☎092(531)3031(代)

SD (Space Design)
Back Issues and Price Lists
Price includes seamail postage fee.

SD Space Design

Kajima Institute Publishing, Co., Ltd.
5-13 Akasaka 6-chome, Minato-ku,
Tokyo, 107 JAPAN

"SD" (Space Design) made its debut in 1965 as a comprehensive monthly magazine on architecture, urban problems and fine arts which was unique in the world and led the modern design. Since then "SD" has been highly praised by many people in every quarter of society and now established an unshakable standing in the fields of architecture and design.
It seems to be attributed to overwhelming support of the wide-ranged readers who strongly sympathize with the magazine's original policy and novel editing — a posture to pursue untiringly and comprehensively the design problems of now-a-days demanded by the age of dynamic urbanization.
"SD" tries to advance further by making its articles richer in contents which focus their attention on the methodological, technological and aesthetic themes of modern architecture, city and fine arts.
The text of "SD" is in Japanese but carries summary in English of some feature articles, too.

○ Selected back issue

8401 Arata Isozaki 1976-1984 Sold out
23 works including Tsukuba Center Bldg. by Isozaki, with notes by the architect. Full English texts.

8402 The Arts and Crafts Movement and Late Nineteenth Century British Architecture ¥2500

8403 Two Pillars of German Industrial Design : D. Rams and F.A. Porsche ¥2500

8404 Gardens : Wonderland of Contrivance and Illusion ¥4300
All the major gardens in Europe and U.S.A. English texts.

8405 L.A. Modernism ¥2500
Including the interview with E. McCoy. English text.

8406 The Artist Le Corbusier : Lithographs and Etchings ; Columbus, Indiana : Museum of Modern American Architecture ¥2500

8407 Art Nouveau : Capturing the Magic of Dim Space ¥4000
All the major Art Nouveau architectures in Europe. Photographs by Keiichi Tahara, 116 pages including 48 color pages.

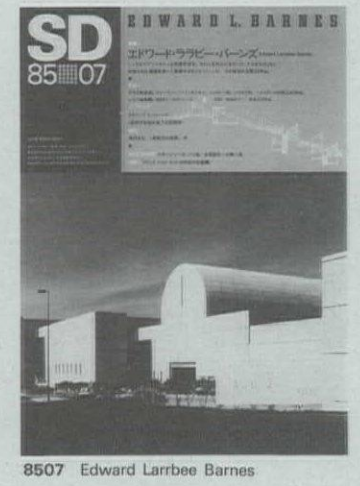
8408 Mario Botta ¥2500

8409 Hisao Kōyama : The Three Books of Architecture ¥2500
Hisao Kōyama's Composition Book introducing his works. English text.

8410 James Stirling : New State Gallery Stuttgart ; Robert Venturi : Venturi Collection of Knoll International ¥2800
English texts by James Stirling and Robert Venturi.

8411 Achille Castiglioni ¥250c
Recent Projects by Kohn Pederson Fox Associates.

8412 "SD Review, 1984" ¥2500
18 regular entries, 1 special ent



8507 Edward Larrbee Barnes



8508 The Netherlands

8501 HIGH-TECH ¥4300
Introducing the prominent persons and works in HIGH-TECH architecture, including C. Eames, J. Prouve, F. Otto, B. Fuller, R. Piano, N. Grimshaw, T. Farrell, R. Erskines, etc. English texts. ¥2500

8502 FRANCE : A New Generation of French Architects
23 architects and designers of Post-Modernism. English texts.

8503 Global Art Deco in the Twenties and Thirties : ¥3000
Art Deco in L.A., Miami, Nice Shanghai, Paris, Moscow, London, Tokyo.

8504 Itsuko Hasegawa ¥4300
Selected works of I. Hasegawa, a young popular Japanese female architect. Full English texts.

8505 Adolfo Natalini 1979-1983, The Furniture of Teruaki Ohasi ¥2500
English texts.

8506 Houses and Towns of Morocco, Spain and Portugal:A Travelogue ¥2500

8507 Edward Larrabee Barnes. ¥3300
All the major works of E.L.Barnes. Full English texts.

8508 The Netherlands: ¥2500
Paradise of Modern Architecture

8509 Contemporary Design in Sweden: ¥2500
From Flower Vases to Fighter Planes

Overseas Subscription

Name

Profession

Address

Signature

The amount is being sent in advance by :

☐international money order

☐enclosed check

☐bank transfer

Please enter my subscription to
Space Design (SD)
Starting in_____, 1985

☐new subscription

☐12 issues ¥30,000 (seamail postage included)

☐24 issues ¥50,000 (seamail postage included)

Please register my order for the following back issues of SD :

SD Space Design

Overseas Subscription

● Hardcover edition

Seiichi Shirai ¥4500
7 great works of Seiichi Shirai, a great master architect of Japan.

Arata Isozaki ¥4500
28 great works of Arata Isozaki with notes by himself. Chronological review. Writings by H. Hollein.

Arata Isozaki 1976-1984 ¥5300
23 works including Tsukuba Center Bldg. by Isozaki, with notes by the architect. Full English texts.

Kisho Kurokawa ¥4500
Extensive works of Japanese metabolist, with writings by C. Levi-Strauss, etc. Full English texts.

Fumihiko Maki ¥4500
Selected works—architecture and urban design—of Fumihiko Maki, with writings by Philip Drew, Maki, etc. Full English texts.

Kenzo Tange ¥5000
58 architecture and urban designs of Tange, selected by himself. 202 pages. Full English texts.

Kenzo Tange 1977-1983 ¥5300
1977-83, 21 architecture and urban designs of Tange.
218 pages. Full English texts.

Masako Hayashi ¥4500
All works of Japanese female architect. Full English texts.

Kiyonori Kikutake ¥4500
All the major works of Japanese metabolist Kikutake and his writing. Full English texts.

Tadao Ando ¥4500
Selected works and drawings of popular Japanese young architect, Writings by Y. Futagawa, T. Ando, etc. Full English texts.

Shin'ichi Okada ¥4500
The Supreme Court, Metropolitan Police Department, etc.

Sutemi Horiguchi ¥4500
Organization of architecture and garden. Major works of Japanese pioneer of modern architecture. English texts.

● Hardcover edition
This is a *de luxe* edition for keeping of the feature part reproduced from the regular edition of "SD" magazine.



●Arata Isozaki 1976-1984



●Kenzo Tange 1977-1983

■ Extra edition
This is a *de luxe* edition for keeping of the feature part reproduced from the extra issue (with a summary and explanatory comments in English) of "SD" magazine.



■Space Design for Commercial Facilities



■Space Desigh for Commercial Facilities ❷

Alvar Aalto ¥4500
All the major works including Finlandia Hall, Villa Carre etc. Writings by Juhani Pallasmaa, Michele Merckling. With English summary.

Carlo Scarpa ¥4500
Great work of Italian maestro covering architecture, furniture, and industrial design. With English summary. 162 pages.

Kim Swoo Geun ¥4500
All the major works of distinguished Korean architect. English texts.

Andrea Palladio ¥4500
31 works of Palladio by color photos and drawings. I Quattro Libri dell' Architettura. 170 pages. English summary.

Gio Ponti ¥3500
Special issue edited by Lisa Ponti in memory of her father. Writings by L. Ponti, Allessandro Mendini, etc. Full English texts.

I.M. Pei & Partners ¥4500
28 great works of I.M. Pei & Partners including the Design Process of National Gallery of Art. Full English texts.

The Whirlpool : Post-Modernism-Young American Architects. ¥4500
Works and projects of 50 young American architects.

Erik Gunnar Asplund ¥5000
All the major works including Woodland Crematorium. Cinema《Skandia》, Gothenburg Law Courts, etc. With English summary.

Art Deco in New York ¥5000
About 80 Art Deco architecture. The Art Deco architectural map and list of New York City.

Gardens : Wonderland of Contrivance and Illusion ¥4700
All the major gardens in Europe and U.S.A. including Villa d'Este, Versailles, Schloβ Schonbrun, Alhambra, Stourhead, etc. English texts.

Please register my order for the following hardcover/extra edition of **SD** :

U.S. dollars, Sterling pounds, West German marks, Swiss francs and French francs equivalent to the above Japanese yen prices are acceptable.

Payment should be made in abvance by mail transfer to our bank :
The Shinbashi Branch of the Kyowa Bank, Co., Ltd.,
account number 514836 in the name of Kajima Institute Publishing Co., Ltd.

The amount is being sent in advance by :

☐international money order

☐enclosed check

☐bank transfer

Send your payment made payable to :
Subscription Department
Kajima Institute Publishing Co., Ltd.
5-13 Akasaka 6-chome, Minato-ku,
Tokyo, 107, JAPAN

SD
85 09
スペースデザイン
第252号
昭和60年9月号

5 特集＝
現代スウェーデン・デザイン
――花瓶から戦闘機まで

22 論文
●

22 ハンディキャップ者用器具デザインの先進性
堀田明裕

26 織物とテキスタイル・デザインの現況
――川上玲子氏に聞く

42 日常生活に浸透したグッド・デザイン
今井一夫

56 モダン・クラシックの建築
宗 幸彦

60 ベルイマンの映画に見る風景
今井一夫





作品 8
●●

8 シグネ・ペッション・メリンとボーダ・ノバ
モニカ・バックストロームとコスタ・ボーダ
カリン・ヒヨルクィストとグスタープスベリ

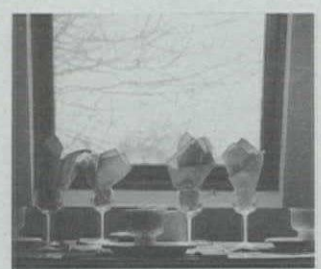
18 エルゴノミ・デザイン・グループ
A&Eデザイン

28 アストリッド・サンペとリビナ・ライン
テン・グループ
ハンドアルベーテッツ・ベンネル

36 リンダウ&リンデクランツ
サンディーン&ブロフ
ブルーノ・マットソン
オーケ・アクセルソン

46 ボルボ
サーブ
ハッセルブラッド
スカンジナビア航空

編集長●伊藤公文
編集スタッフ●吉田雅彦
相川幸二
水越 裕
浜地三千世
伏見佳子
アート・ディレクター●工藤強勝
デザイン・レイアウト●上田宏志
釣巻敏康
デザイン実験室
発行人●河相全次郎
編集人●長谷川愛子
発行所●鹿島出版会
〒107 東京都港区赤坂六丁目5番13号
電話(03)582―2251(代)
振替 東京6―180883番
TLX:02422467 KAJIMA J
FAX:(03)589―2928
印刷・製本●凸版印刷株式会社
〒174 東京都板橋区志村1―11―1
電話(03)968―5111(案内)
取次店●東販・日販・大阪屋
栗田出版販売・誠光堂
鈴木書店・西村書店・中央社
定価●1,500円
年間直接購読料●20,000円
(特別定価号＋送料込み)



表紙写真●
デザート・ボウル／シグネ・ペッション・メリン

16 作品
●●●

16 ヘルサ・ヒルフォンのアトリエ

24 エドナ・マーティン邸

34 スウェーデン国会議事堂増改築計画

44 ボルボ社本部ビル

50 ニルス・グンナル・サンデル自邸

54 ペーテル・コンドゥ自邸



65 NICE SPACE
アントネッリの塔，トリノ，イタリア
鏑沢 隆＋大西次郎

69 連載＝フランク・ロイド・ライトの呪術の空間 ⑯［最終回］
ユニティの神秘
草森紳一＋大倉舜二

81 ニュース
デボラ・ターバヴィル写真展
イタリアの新作家具

85 記事・書評

95 海外建築情報
荒ぶれば野性時代
DUCTSPACE＝編

103 国内建築ノート 聖百洋
筑波博，どこが面白かったか，
どこがつまらなかったか

5 **SPECIAL FEATURE**
Contemporary Design in Sweden
:From Flower Vases to Fighter Planes

22 **Articles**
●

22 Advancement in the Design of Aids for the Handicapped
by Akihiro Hotta

26 Weaving and Textile Design Today
:A Talk with Reiko Kawakami

42 Good designs That Merge with Daily Life
by Kazuo Imai

56 "Modern-Classic" Architecture
by Yukihiko So

60 The Landscapes of Bergman Movies
by Kazuo Imai

16 **Works**
●●●

16 Hertha Hillfon's Atelier

24 Edna Martin's Flat

34 Reconstruction of Swedish Parliament Buildings

44 Volvo Corporate Headquarters

50 Nils Gunnar Zander's Flat

54 Peter Condu's House

Works
●●

8

Signe Persson-Melin and Boda Nova
Monica Backström and Kosta Boda
Karin Björquist and Gustavsberg — 8

Ergonomi Design Gruppen
Tom Ahlström and Hans Ehrich — 18

Astrid Sampe and Livina Line
TIO-Gruppen
Handarbetets Vänner — 28

Börge Lindau and Bo Lindekrantz
Kersti Sandin and Lars Bülow
Bruno Mathsson
Åke Axelsson — 36

Volvo
Saab
Hasselblad
SAS — 46

65 **NICE SPACE**
Mole Antonelliana, Torino, Italy
by Takashi Uzawa+Jiro Onishi

69 **SERIAL PRESENTATION**
〈Frank Lloyd Wright's Enchanted Space〉 ⑱
Mystique of Unity
by Shin'ichi Kusamori+Shunji Okura

81 **News**
Deborah Turbeville Exhibition
New Italian Furniture Designs

85 **Informations**

95 **Eminent Works Abroad**
The Natural and the Wild in Contemporary Architecture
by DUCTSPACE

103 **Domestic Architectural Notes**
Sei-Go-Hyoh
The Terrific and the Trivial at the Tsukuba Science Exposition

SD 85 09

Space Design
No.252
September 1985

A Monthly Journal of Art and Architecture

Editor●
Kobun Ito
Associate Editors●
Masahiko Yoshida
Koji Aikawa
Yutaka Mizukoshi
Michiyo Hamaji
Yoshiko Fushimi
Art Director●
Tsuyokatsu Kudo
Design, Composition●
Hiroshi Ueda
Toshiyasu Tsurimaki
Design Laboratory
Publisher●
Zenjiro Kawai
Executive Director●
Aiko Hasegawa
Published by
Kajima Institute Publishing, Co. Ltd. ©
5-13 Akasaka 6-chome, Minato-ku,
Tokyo, 107 Japan
Telephone: (03) 582—2251
TLX: 02422467 KAJIMA J
FAX: (03)589-2928
Printed in Japan
Overseas●
This copy: ¥2,500
(including seamail postage)
Subscription Price
¥30,000 a year
¥50,000 two year
(including seamail postage)
Order form: pp. 1-2

Cover Photo●
Dessert Bowl by Signe Persson-Melin

SWEDISH GRACE

特集

現代スウェーデン・デザイン

花瓶から戦闘機まで

Contemporary Design in Sweden: from Flower Vases to Fighter Planes

GLASS

CERAMICS

TABLEWARE

TEXTILE

FURNITURE

PRODUCTS

AIDS FOR THE PHYSICALLY HANDICAPPED

LIGHTINGS

CAR

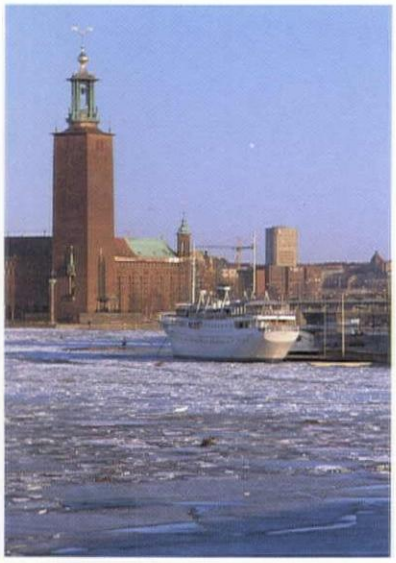
FIGHTER PLANE

CAMERA

INTERIOR

ARCHITECTURE

スウェディッシュ・グレイス.
本来は建築について言われる言葉だが (→p.56—59),
スウェーデンのモダン・デザイン全般の
性格を端的に表現している.
優美, 典雅, 高貴, 上品ということだが,
とりわけスウェディッシュと冠することに意味が
あるのは, そこでのグレイスが通常連想されるように
上流階級, 貴族社会あるいはアップ・タウン
などといったものと縁がないからだ.



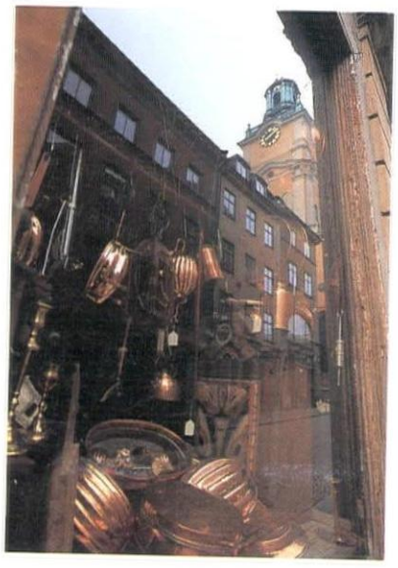


スウェディッシュ・グレイスは,
趣味の領域で一途に洗練をくり返して遂に達せられる
ものではなく, 贅の限りをつくした
蕩尽の世界に飽きて
質素無欲の道に歩んで得られるものでもない.
形態の過剰, 意味の過剰, 装飾の過剰, 重量の過剰,
などなど一切の過剰を排し,
簡便と耐久性を旨としたところで初めて得られる,
「痩せてこそ美し」の心に通ずるグレイスなのである.





SWEDISH GRACE



スウェディッシュ・グレイスは，
だからこそ野に咲く花のごとくに
慎しみ深く，頑強だ．
スウェーデンのガラス製品がいかに
モダンであろうとも，必ず土の香りを残している．
その家具がいかに進歩的に見えようとも，
必ず独得の田舎くささがこびりついている．
ＩＤ製品がいかに格好のよいものであろうとも，
必ず比類なくタフでパワフルなのだ．

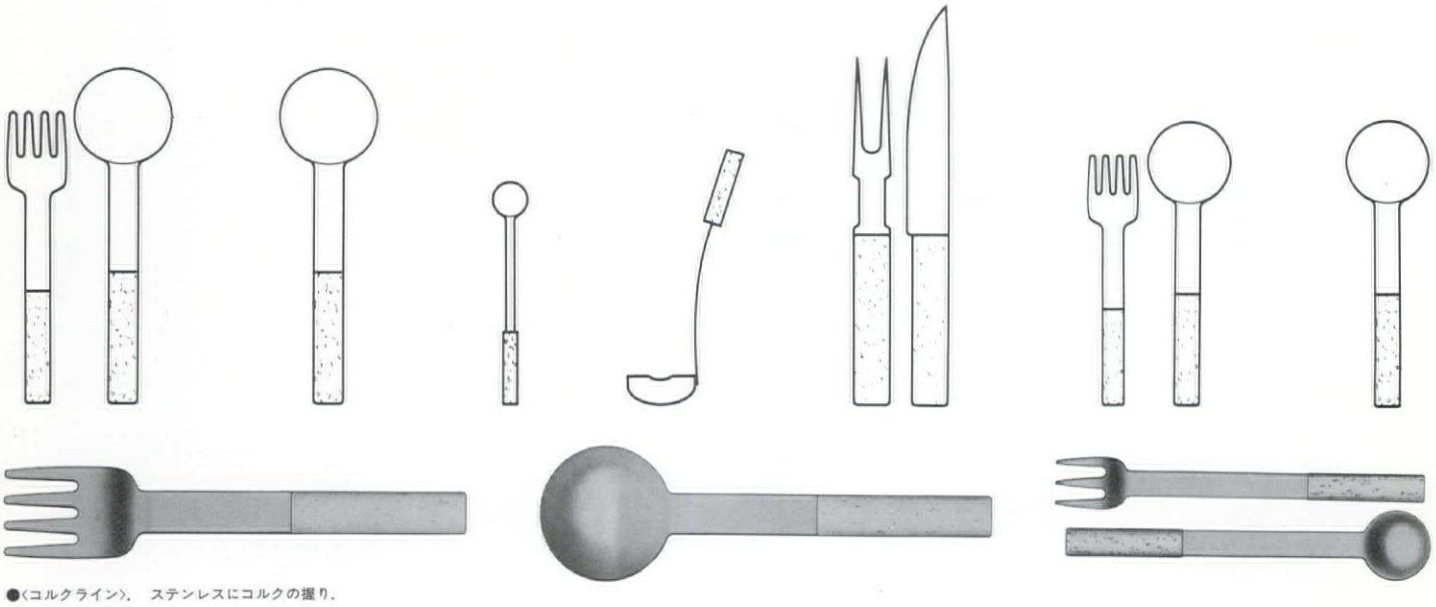
スウェーデンのモダン・デザインは，
他のスカンジナビア諸国ともども，1930年代から
50年代にかけて世界に冠たる黄金時代を築いた．
高まりの後には決まって低落がある．
しからば現代はと言うと，
スウェディッシュ・グレイスは，その優しさを増し，
パワーもまた高めて蘇生しつつあるのだ．
たった今現在の流行からはやや距離を置き，孤立も
せず，その独自性は輝きを増しつつあるのだ．

コルクの食器で晩餐が始まる

■
シグネ・ペッション・メリンとボーダ・ノバの食器
Signe Persson-Melin and Boda Nova


●マルメのフォルム・デザイン・センターで語るシグネ.


●〈フォルム〉. 耐熱炉器, クローム把手つき.


●〈コルクライン〉. ステンレスにコルクの握り.

家庭の食卓に毎日あらわれるコップ, 皿, ティーポットの類のデザインほど保守的なものはない, と誰もが考えてきた. それは, 鉛筆のデザインが変わりようがないのと同じで, おおよそ前例のないものをデザインすることは不可能とさえ思われていたのだ. しかし, 近代の食器のデザインの歴史をふり返ってみると, たった一度だけ, 空前絶後の革命があったことを私達は知るのである. 1971年, シグネ・ペッション・メリンがボーダ・ノバ社の製品として発表した一連の食器がそれである. 手吹きの耐熱ガラスとコルクと金属とを組み合せた, ポット, コップ, アイスバケット, ナイフやフォーク等々のデザインは, 把手の形や縁飾りの模様などのディテールに汲々としていたデザイナー達の度肝を抜くのに十分であった. それを, 1971年のシグネの革命と呼んでも大袈裟ではないだろう.

永年スウェーデン第三の都市マルメに住む彼女を訪ねると, 革命の火の手をあげた女闘士という言葉の響きとはほど遠い, 優しく, 家庭的で, 知的で穏やかな人物が笑顔をたたえて待っていた.

――― あなたはずっとこの辺に住んでいらっしゃるのですか.

SPM そうです. スコーネ地方は地味が豊かで, 平原が多く, 食事はスウェーデンの他の地方に比べると多彩です. 私はこの地方に育ち, ここを愛していますし, 何らかの形で私の仕事にも影響を及ぼしていると思います.

――― 父親が建築家だと聞きましたが.

SPM 父は戦後, マルメの町やその周辺に, 当時としては革新的な集合住宅や個人住宅を作りました. もし私にも進取の気性というものがあるとするなら, それは父のおかげかもしれません.

――― どのような教育を受けましたか.

SPM デンマークの陶器デザインの重鎮ナタリー・クレブス女史に教えを乞うた後, コペンハーゲンの学校, 次いでストックホルムの芸術・工芸・デザイン学校で学びました. マルメはコペンハーゲンの目と鼻の先にありますし, 私の経歴から言っても, 私は半分はデンマーク人であると今でも思っています.

――― 卒業後はどうされましたか.

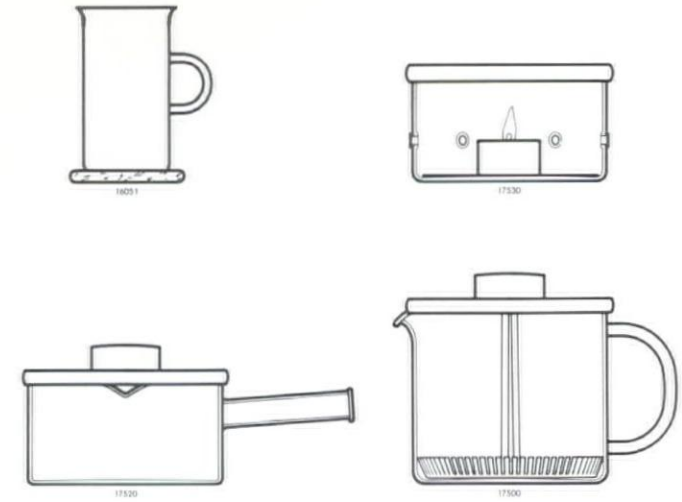
SPM 陶器のアーティストとして活動しました. 小さなジャーから地下鉄の駅の大壁面を飾る仕事まで実にいろんな種類のことをやりましたが, どんな場合でも, 特定の好事家の収蔵品となるような芸術品を作るのではなく, 実際の用に供するものとしたいと思いました.

――― アーティストでなくデザイナーでありたいということですか.

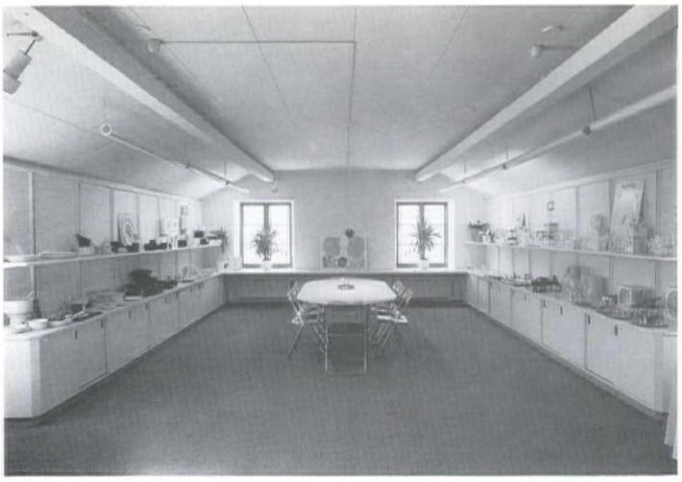
SPM 違います. 私は土をいじって何かを作り出すことが大好きです. 紙と鉛筆で考えるよりも手を動かすことで新しいものを産み出したいのです. その意味で, 私は自分がデザイナーであると思ったことはありません. たとえ私の作った物が大量生産されることがあったとしても, それは飽くまで一品生産の自然な延長だと考えています. 土をいじることは私の出発点であり, 帰着点であるのです.

――― さて, ボーダ・ノバ社のあの画期的な製品を出された前後のことを聞かせて下さい.

SPM 60年代の後半にコスタ・ボーダ社のエリック・ローセンと私の夫のジョン・メリン（グラフィック・デザイナーであり広告にも通じている人）と私とミカエル・ビヨンステルナの2人のデザイナーの計4人が集まって, 高品質の機能的な良いデザインの食器を世に出そうと企画したのです. 当時はガラス業界が不況で, 何とか挽回策を打ち出す必要



●〈ホット〉シリーズの図面。　容器を見せるのでなく，飲み物そのものを見せるという考えが徹底されている。



●ボーダにある，ボーダ・ノバのショールーム。



●ステンレス製のスプーン・フォーク・セット〈グルメ〉。　ふっくらとした優美なカーブ。



●〈チェス〉。　格子状の微細な模様のある白い磁器。

もあったのです。　私は以前からガラスにも手を染めていましたので，ガラスを用いた日用食器のデザインをすることにはとても魅かれました。

――　その結果，耐熱ガラスとコルクの組合せが生まれた訳ですね。

ＳＰＭ　いろんな材料を検討した結果，耐熱ガラスと組合せるには機能的にコルクが一番良いと判断したのです。　軽いし，耐衝撃性が高く，熱に強く保温性に優れていて，加工性も良い，等々です。　今でこそ耐熱ガラスもコルクもあふれる程目につきますが，当時はどちらの材料も新鮮でモダンなものでした。　何しろコルクと言えば，ワインの瓶の栓くらいしか見かけなかったのですから，それが正面切って食卓に登場した驚きは想像を超えるものだったのです。　耐熱ガラスも，その頃はスウェーデンでたった一つしか工場がない程で，とても貴重で珍しい素材だったのです。　今と違ってハンドメイドですから，形は自由にすることができました。

――　1971年に発表されたそれらの製品が今もって生産され続けているというのは素晴らしいことですね。

ＳＰＭ　私もそのことを誇りに思っています。　しかし何しろ14年も前のことですから，今となっては格別な新しさを感じさせるものではなくなってしまっているのは仕方がありません。　また，コルクの質が極度に悪化してきているという問題もあります。最近デザインした〈ホット〉というシリーズでは，コルクの代わりにプラスチックを使って，耐熱ガラスと組合せています。

――　1971年には同時に炉器のシリーズもボーダ・ノバ社から出されていますね。

ＳＰＭ　同じ形で，色は白と黒の２種類です。　耐熱ガラスのものも同様ですが，私達はともかくシンプルで飽きのこないデザインを心がけました。　食器がファッショナブルである必要はありません。それは草花やテーブルクロスのように簡単に変えられるものではないし，毎日使うものだからです。　多くの人々は食器に関心を抱く余り，流行にのったデザインの食器とか無意味な装飾のついた食器を買い込み，すぐに後悔してはまた同じ誤りを繰り返しています。　私達は，長年使っても飽きず，そして順々に買い足していくことが可能なデザインや生産方式を是非とも実現したかったのです。

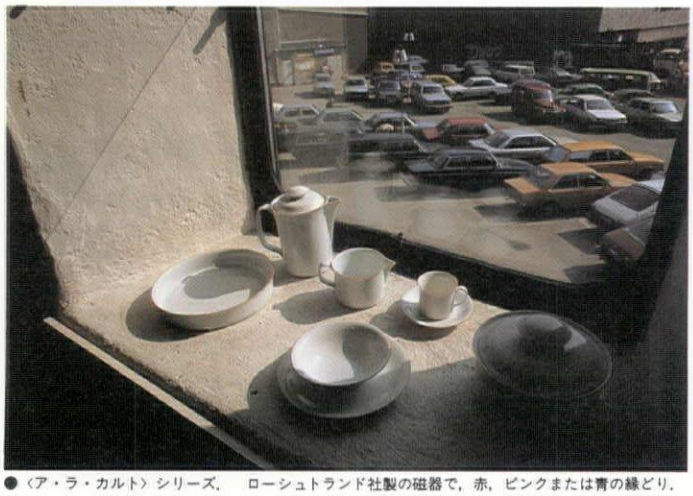
――　最新の〈チェス〉シリーズには，今までとは違って表面に模様がありますね。

ＳＰＭ　確かにありますが，とても繊細でソフトなものです。　遠目では殆んどパターンが目につかず，真近かに寄った時はじめてかすかなパターンに気づくが，意識に残るようなものではない位の穏かなものです。　私はベージュ色にしたかったのですが，営業面から白色になってしまいました。　いずれにしても食器は料理が盛られた状態で常に使用されるのであり，器のデザインは料理の引き立て役であるべきです。　料理を入れたら隠れてしまう所に花柄模様を描くなんていうのはナンセンスだと思います。それは店の中では人目を引くかもしれませんが，食卓の上では何の効果も発揮しないのですから。

――　これからの活動の予定は。

ＳＰＭ　私はここ10数年，ボーダ・ノバ社の他にもローシュトランド社からも幾つか作品を出してきました。　そうした大量生産のための仕事はもうそろそろ卒業したいという心境なんです。　昔に戻って，アーティストとして作品を作りたいのです。　それと，ストックホルムの学校で若い人達に私の経験してきたことを教えることを始めようと考えています。

●マルメのフォルム・デザイン・センターに置かれたシグネのガラス器。　土器のような曲線は彼女特有のもの。



●〈ア・ラ・カルト〉シリーズ。　ローシュトランド社製の磁器で，赤，ピンクまたは青の縁どり。家庭用食器として随一の人気を得ている。



●全部で10種のグラスからなる〈ライト・サイズ〉シリーズ。





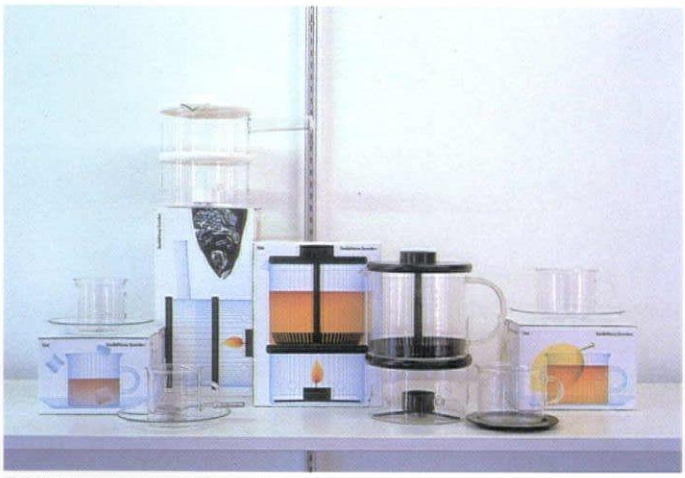
●炉器とコルクの組合せによる〈フォルム〉。オーヴンから出して直接サーブできる。



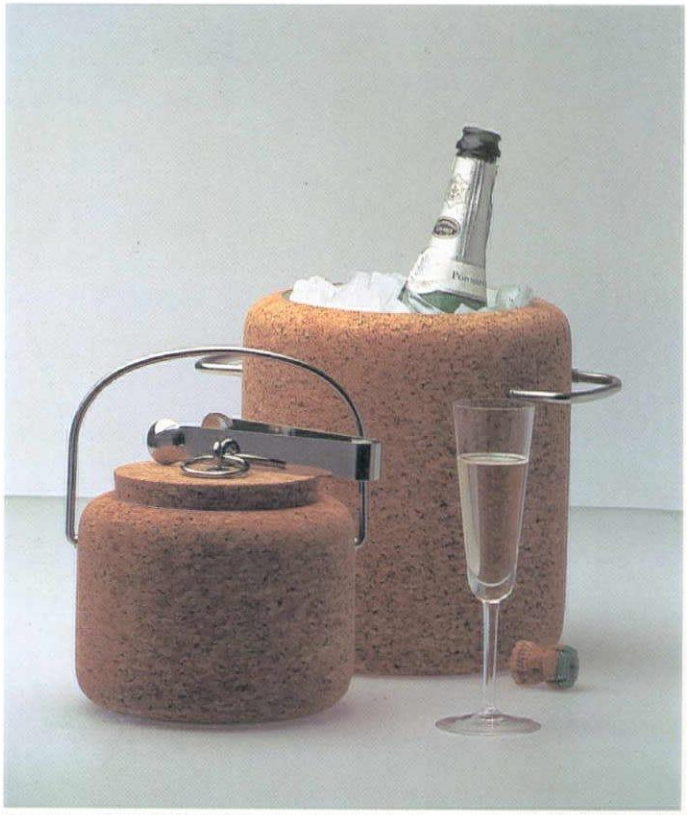
●〈ライト・サイズ〉シリーズ。　ギフト・ボックスがナウイ。



●耐熱ガラスとコルク製のティーポットとキャンドル・ウォーマー。　1971年。　伝統的な形態，革新的な材料の組合せ。



●耐熱ガラスとプラスチック製の〈ホット〉シリーズ。　使用状態をグラフィックに使ったパッケージが新しい試み。



●ステンレスをコルクで包んだアイスバケットとワインクーラー。　コルクを食卓に持ち込むことは当時は夢想だにされなかったことだった。　1971年。　右手前は〈ライト・サイズ〉シリーズのシャンパン・グラス。

自然に回帰するガラス

モニカ・バックストロームとコスタ・ボーダのガラス

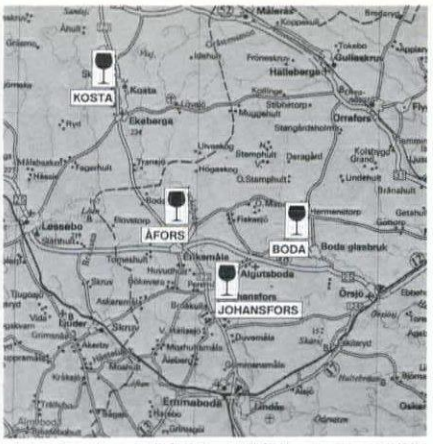
Monica Backström and Kosta Boda

スウェーデンのガラス製品の工場は，スモーランド地方の一区画の非常に狭いところに集中している．高貴なデザインで有名なオーレフォーシュ社Orrefors もそうだし，それと並んで二大メーカーの一つであるコスタ・グループのコスタ，ボーダ，オーフォーシュ Åfors，ヨハンスフォーシュ Johansfors の各工場も皆その地域にある．　昔は窯をたくのに木材を使用したので，豊富な樹林のあるこの地域がガラスのメッカとなったのだ．

そこは鳥の啼き声がしじまを破る静かな土地だ．活動の徴候といえば赤茶けた工場の煙突からたちのぼる煙のみ．　私達を案内してくれたモニカが言うように，「長い冬はガラスと格闘し，短い夏に一息つく．　それでおしまい．」　工場を中心とした徒歩圏内に，ガラス吹きの職人もデザイナーも皆住んでいる．　全員が一家の成員としてガラスに没頭する，求道者にも似た毎日を送っているのだ．

なるほどコスタ・ボーダの作品は長年に渡って，モダンなガラス器のデザインをリードしてきたが，それは決して近代的な工場とデザイン室，あるいは騒がしく都市的な環境から生まれているのではなく，職人とのがまん比べのような交流や，雪や樹林や野草などの自然との親しみの中から出たものなのだ．その作品が，非常に前衛的に見えるものでも土の香りを失わず，過度な抽象化に走ることもないのはそのためであろう．

私達はボーダで1人，コスタで2人のデザイナーに会った．



●コスタ・グループ工場所在地．　鉄道はエンマボーダが起点．

モニカ・バックストロームは，テキスタイル・デザイナーの先駆者の1人であるアストリッド・サンペ（→p.28）の娘である．　代表作は〈卵〉．　ガラスという永久に自然に回帰しえない鉱物質の素材を，自然とともに生きづいているかのような有機的な物体へと形象化している．

ベングト・エーデンファルクは，絵画や彫刻にも通じており，ポップな色合いの作品を多く作っている．またヨーラン・ベルフは，早くから独特の技法を編み出し，活躍してきたが，クリスタル・ガラスのデザインにおいても小細工を用いない平明な形で素材自体の美しさを引き出している．



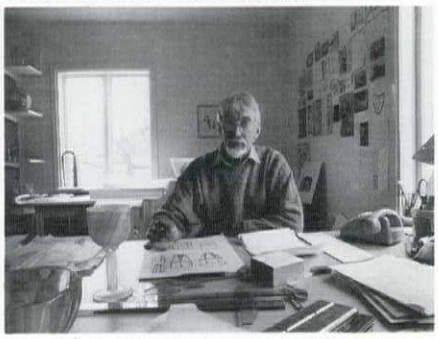
●アトリエのモニカ・バックストローム．　棚には大小の〈卵〉．



●名作の並ぶコスタのショールーム．　夏季にはヨーロッパ各地からの見学者であふれる．



●モニカのアトリエの壁．　製図用具や試作のペンダント．ここは工場から歩いて1分のところにあるのだ．



●ベングト・エーデンファルク．　コスタの自分のアトリエで壁を飾るオブジェの構想を練っていた．



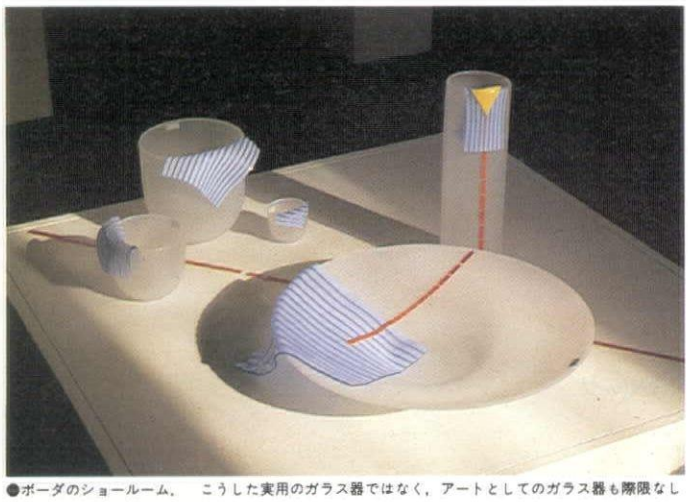
●ボーダのショールーム．　バックストロームらのアート作品が並ぶ．



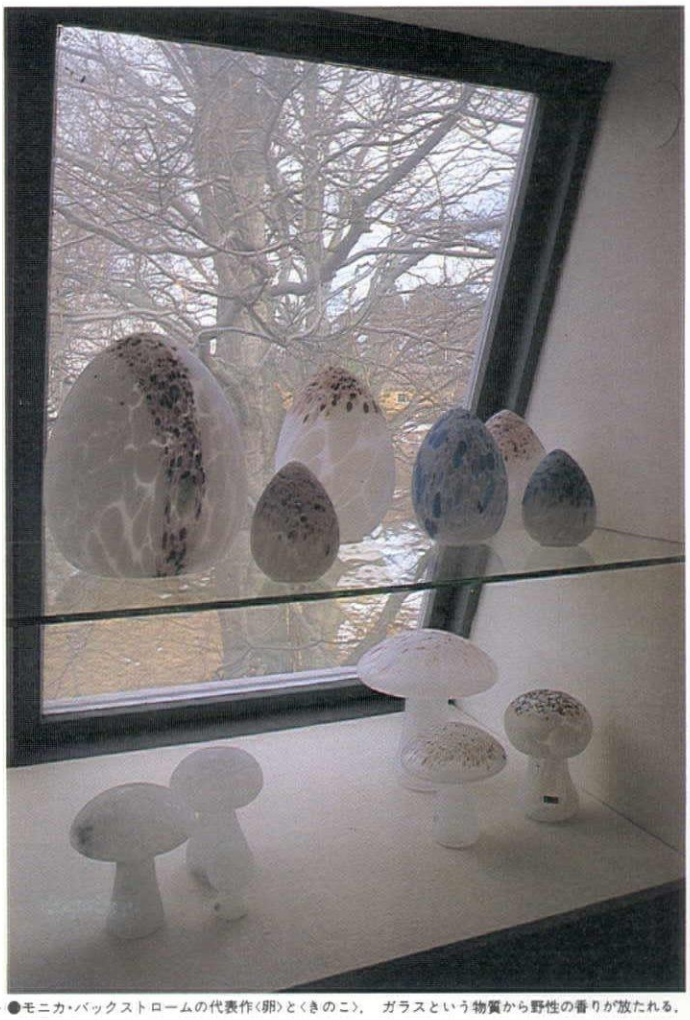
●ボーダにあるモニカ・バックストロームのアトリエ。　室内には試作品を含めた彼女の作品が所狭しと置かれている。



●ボーダのショールーム。　左はシェール・エングマンの眼鏡付きのガラス器。



●ボーダのショールーム。　こうした実用のガラス器ではなく，アートとしてのガラス器も際限なしに陳列されている。



●モニカ・バックストロームの代表作〈卵〉と〈きのこ〉。　ガラスという物質から野性の香りが放たれる。

受け継がれる日用食器のデザイン

カリン・ビヨルクィストとグスタープスベリの陶器

Karin Björquist and Gustavsberg

グスタープスベリ社（Gustavsberg, 1827年創立）はローシュトランド社（Rörstrand, 1726年創立）と並ぶスウェーデンの二大陶磁器メーカーの一つである．その歴史を顧みることは即ち，スウェーデンの家庭の食卓を賑わしてきた数々の食器を遍歴することに等しいとさえ言える．　ストックホルム郊外，約1時間のところにある同社の工場の一角の美術館には，何百という製品が一堂に展示されていて荘大な陶磁器のパノラマが繰り広げられていた．

スウェーデンの陶器界ばかりか，アート・インダストリー全般のパイオニアであり，父でもあったのがウィルヘルム・コーゲ（Wilhelm Kåge　1889—1960）である．　彼はグスタープスベリ社のアート・ディレクターを1917年から49年までつとめた．　〈プラクティカ〉に代表される実用的，機能的なモダン・デザインを産み出して，30年代のスカンジナビア・デザインの黄金時代の一翼をになう一方では，民俗的モチーフの紋様や絵を描いたものや，〈ファーシュタ〉と称する男性的で力強いスタイルの磁器を晩年の1952年に発表しセンセーションを巻き起こすなどして，後続の世代に絶大な影響を及ぼした．

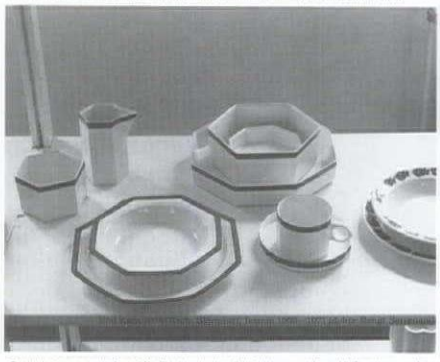
彼の次にアート・ディレクターとなったスティグ・リンドベリ（Stig Lindbery　1916—1982）は多彩な才能の持ち主だったが，量産陶器の分野では，郷びた感じすらする，時にユーモラスな曲線を持ったものをデザインした．

カリン・ビヨルクィスト（1927年生れ）は，1950年にグスタープスベリに入り，5年前にアート・ディレクターとなった．　彼女は食器のデザインにおいては，殆ど極限までの単純性を追求している．　かといって，それは無味乾燥な抽象化に陥ってはいず，ふんわりとまろやかで味のある器なのである．　そうした彼女の特質は，1979年の〈BV〉シリーズに最も良く現われている．　それは椀が炉器，他はボンチャイナの真白なレストラン用の食器のシリーズで，把手の僅かな親指をかけるための突起がただ一つの付加的要素となっている，機能性，耐久性抜群のベストセラーで，ローシュトランド社から出されたシグネ・ペッション・メリンの〈ア・ラ・カルト〉（→p.10）とともに現代陶器のテーブルウェアの代表作とされている．

●グスタープスベリ陶器美術館を案内してくれたカリン・ビヨルクィスト．　彼女の右手，上から2段目の棚にあるのがウィルヘルム・コーゲの記念碑的名作〈リージェブロウ〉，1917年，労働者向けの食器と銘打ったこのシリーズの登場によって，飾り物としてではない使用することを第一とした食器のデザインが始まったと言える．　これが初めて展示されたストックホルムの〈家庭博覧会〉は，家庭内の家具や器具の近代化の幕開けを告げるものであった．



●コーゲの1933年の作品〈プラクティカ〉．　30年代の機能的デザインを代表する名作．　収納，積み重ねに関する多くのアイディアがここで開発され，無数のエピゴーネンが生まれた．



●カリンの1968年の作品〈オクタゴナル〉．　赤い縁取り．　右手に見えるのもカリンの作．



●カリンのスタジオの片隅．　炉器の花入れは彼女自身の作．　壁にあるのはコーゲの作品で劇場用ポスター．





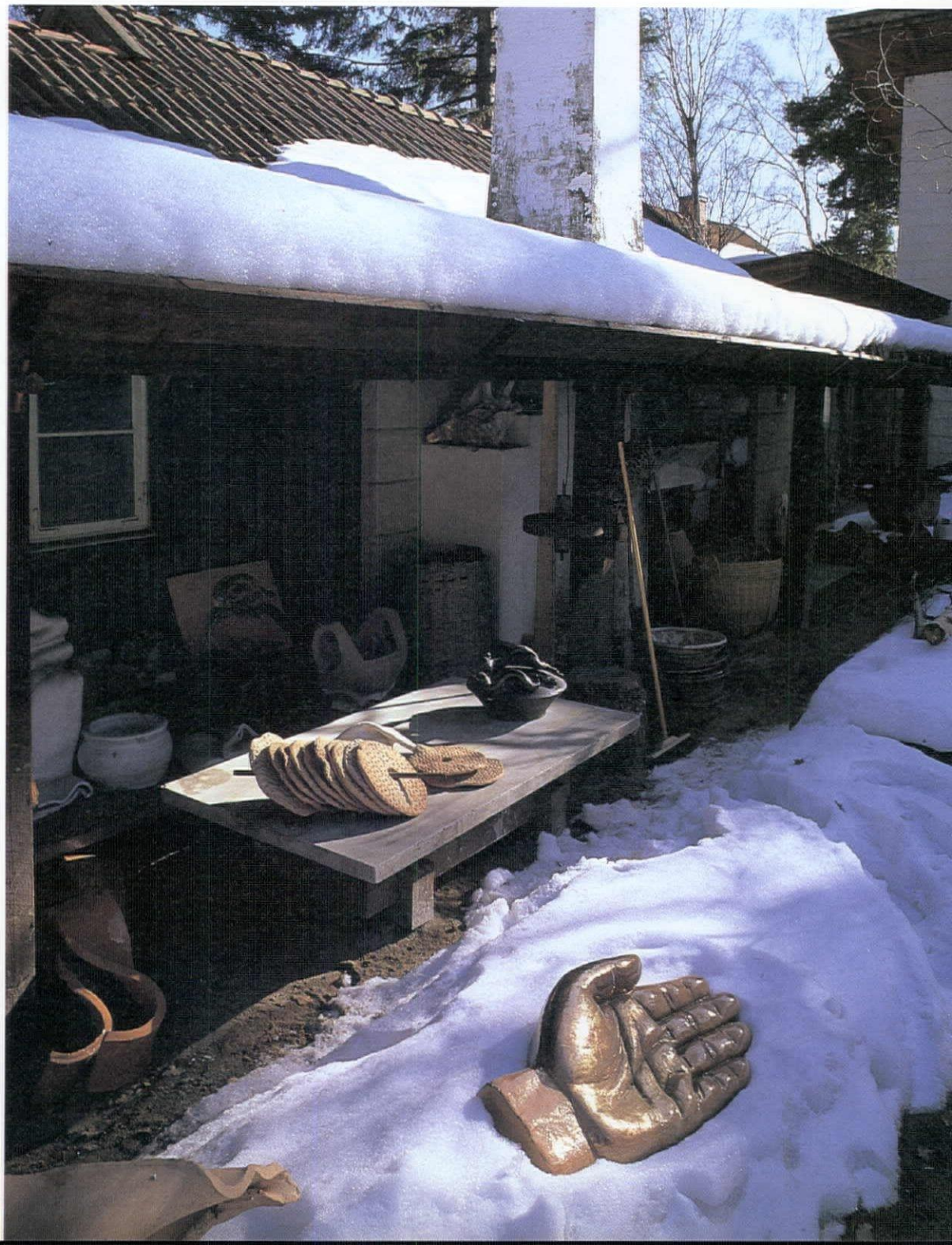
●1957年の〈今日の炉器展〉に出品したカリンの作品。　彼女の存在を世に印象づけた実質的なデビュー作。そうした展覧会に日常の用に供するものを出品すること自体が，一種のプロテストだった。



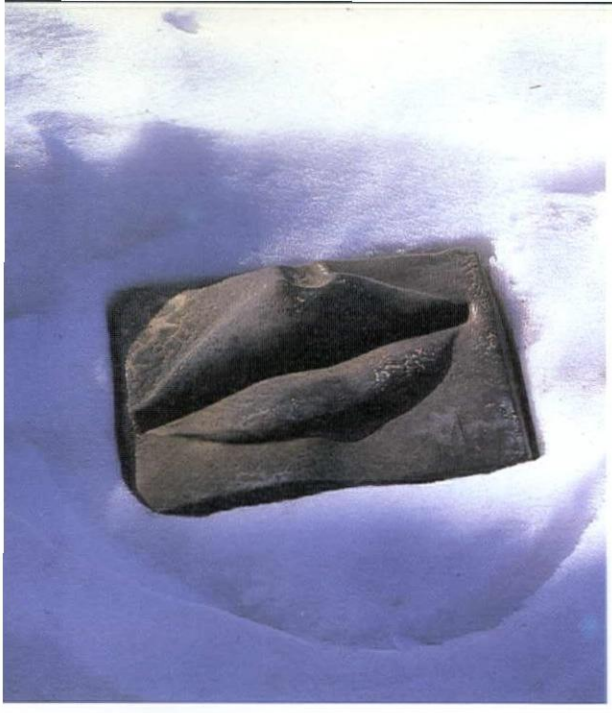
●カリンの1980年の作品〈BV〉シリーズ。　装飾として小さな花が描かれている。　これでも彼女が許容できる最大限の装飾要素である。

悠々泰然とした時空間

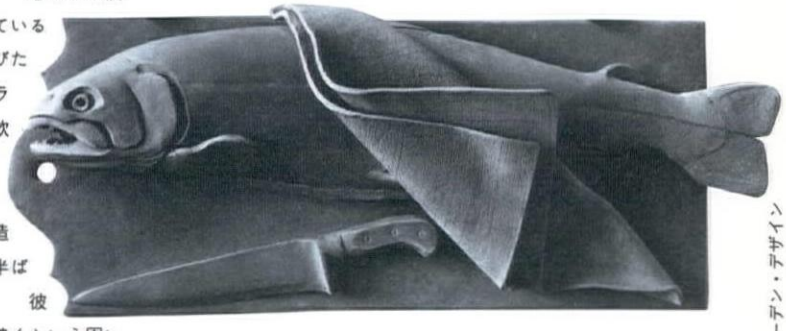




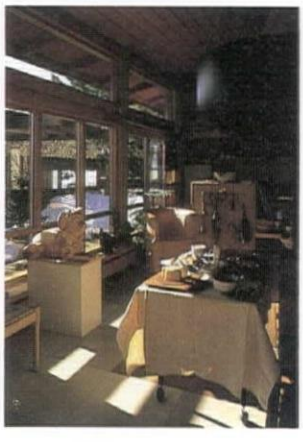
陶芸家
ヘルサ・ヒルフォン
のアトリエ



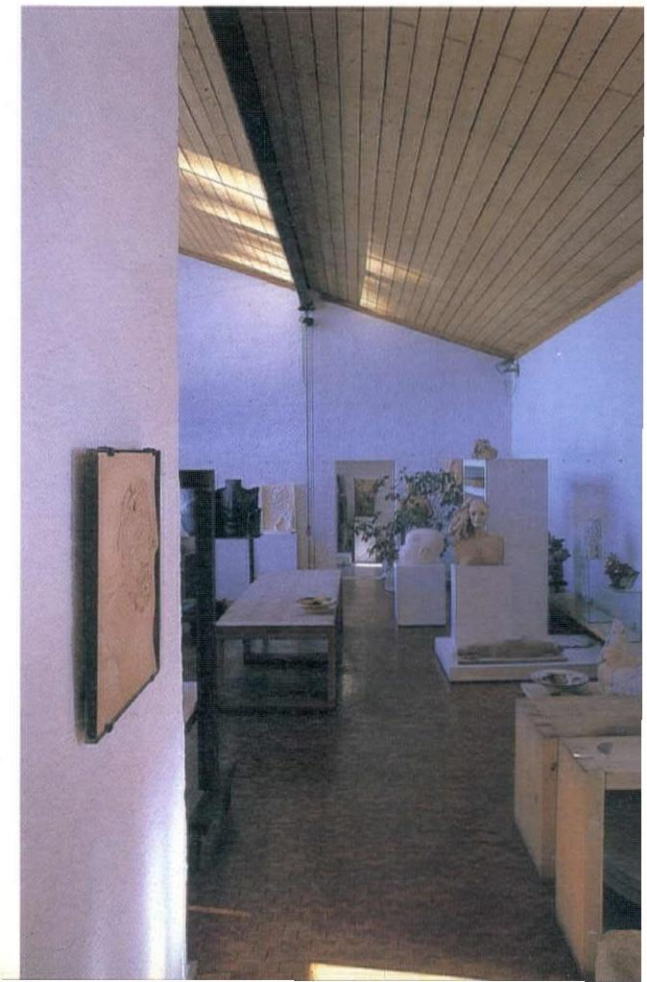
陶芸家ヒルフォン女史の住居兼アトリエを訪れた3月30日は，快晴ではあったが地を覆った雪はいまだ溶けだす気配はなかった．　ストックホルム郊外のヒルフォンの住居は，わずかな起伏を見せる中庭を囲んで，住居，夫（建築家）のアトリエ，作業場，納屋等々が幾度にも渡る増築が重ねられて建っていた．　その光景は，〈最もスウェーデン的な〉と冠される画家カール・ラーション（→P.60—62）の描いた〈雪の中の小屋〉1909年そのままであった．　恐らくは慎重に選択されているのであろう古びた木の臼や，ブランコや鳥の水飲み台等々に混じって彼女自身の作品が無造作に雪の中に半ば埋もれていた．　彼女自らが毎日焼くという固いパンをつまみながら，私達は悠々として泰然たるスウェーデン流の時間と空間を味わうことができた．



ヘルサ・ヒルフォンは1921年生れ．　実用に供するものとしての陶器を芸術の世界に一挙に引き上げた偉大な人である．　工芸と芸術（アート）の世界の分別が割に厳しいスウェーデンにあって，彼女は陶芸家でありながら彫刻家として認められている数少ない人なのである．　60年代後半からは，靴，衣服，家具，食物などの身の廻りのものを題材とし，それらを使われた状態のまま一瞬の内に凝固せしめて陶器と化してしまったかのような表現を完成させた．　それらの作品からは日常的な時間の永遠性が少しずつ，しかし絶え間なく流れ出し，あたりの空間を満たしていくのだ．







人間工学的デザインの伝道者たち

■

エルゴノミ・デザイン・グループの活動

Ergonomi Design Gruppen



●アトリエの外観.

エルゴノミ・デザインの事務所は，ストックホルムの中心から車で約20分，もとは伝道者の施設だった独立した建物を買い取って，デザインの伝道者達のアトリエとしたものである．　訪れたのはちょうど昼食時で，グループのメンバー14人が全員で食卓を囲んでいた．　食卓の上には，ホーカン・ベルグキヴィストの作った凧を照明器具に改造したものが吊り下げられていた．

中心となるのが日本でも既にその製品が良く知られているマリア・ベンクトツォンとスベン・エーリック・ユーリンである．　彼らはハンディキャップ者用の製品開発を主としているが，人間は皆何らかの意味で肉体的な機能障害を持っているという認識のもとに，特殊な器具を作るのではなく，ハンディキャップ者は言わずもがな，誰もが日常的に使用して美しくまた便利であるものを製品化しようとしている．　その方がコストも安く，品質管理もしやすく，製品の生産長期化にもつながるからだ．　残念ながら開発途上ということでここには掲載できないが，長時間の歩行に使用しうる特殊なグリップのついた杖の試作品を見せてくれた．　それは握力の弱まった老人，元気一杯だが足を折ってしまった若者，その双方がわずかの部品の調整で共用しうる素晴らしいアイディアのものだった．

また，メンバーの１人ベント・パルムグレンは，これまた発表不可だが軽量かつ多機能の担架を実演つきで紹介してくれた．　それは様々な姿勢や階段などのいろんな場面にきちんと，そして簡単な操作で対応でき，なおかつ簡便な手押し車椅子にも化けるという奇想天外な担架だった．

そしてカール・ヨーラン・クラッフォードは，代替エネルギーの開発，既ち成長の極めて速い樹木を植え，そして伐採する工程をすべて機械化することを考え，またミーケ・ストットはというと，試し刷り用の印刷機や５色オフセット印刷機の開発に精力を注いでいた．



●昼食時の光景.



●マリア・ベンクトツォン．　ハンディキャップ者用の機器.



●カール・ヨーラン・クラッフォード．　代替エネルギー.



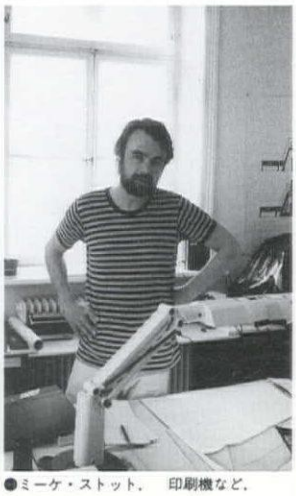
●ハンス・ヒンベルト．　バーコ社の製品など.



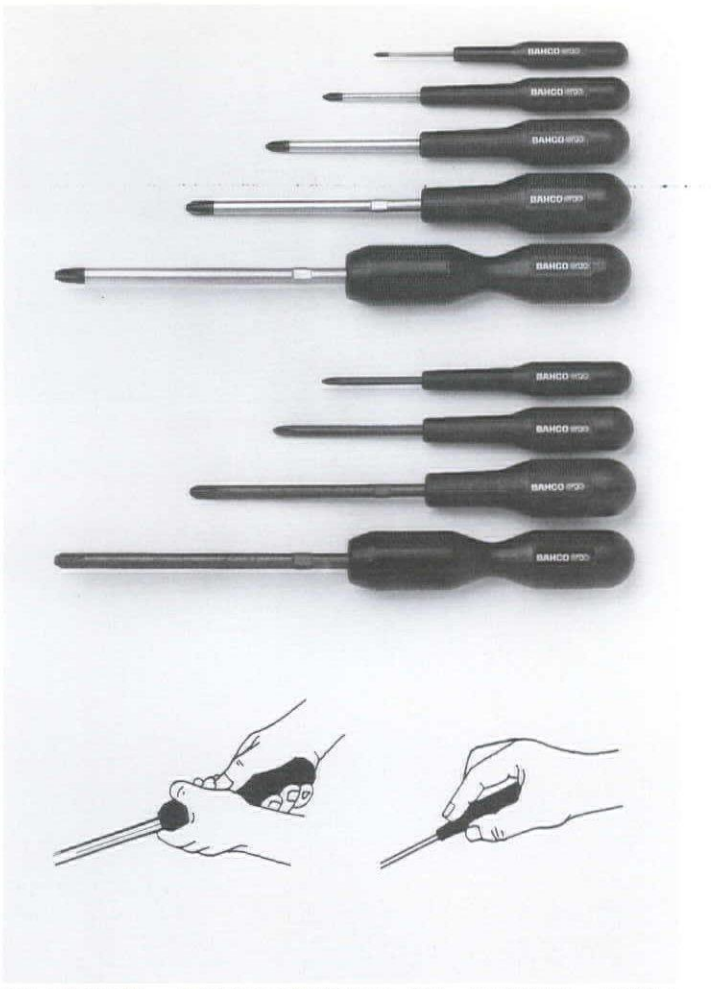
●スベン・エーリック・ユーリン．　ハンディキャップ者用の機器.



●ベント・パルムグレン．　担架など.



●ミーケ・ストット．　印刷機など.



●バーコ社のねじ回し．　大小にかかわらず握りの長さは一定とし，径を変えている．　特別なトルクを必要とするものにはダブル・ハンド・グリップを使用．



●一連のバーコ社のノミ・シリーズ．



●バーコ社のノミ．　日本のノミから多くのヒントを得てデザインされた．　握りが長く，ハンマーで頭を打つ際の安全性が考慮されている．



●ベンクトツォンとユーリンのデザインした数々のハンディキャップ者用の器具．

脱スウェーデン&脱スカンジナビア

■

A&Eデザインの工業製品

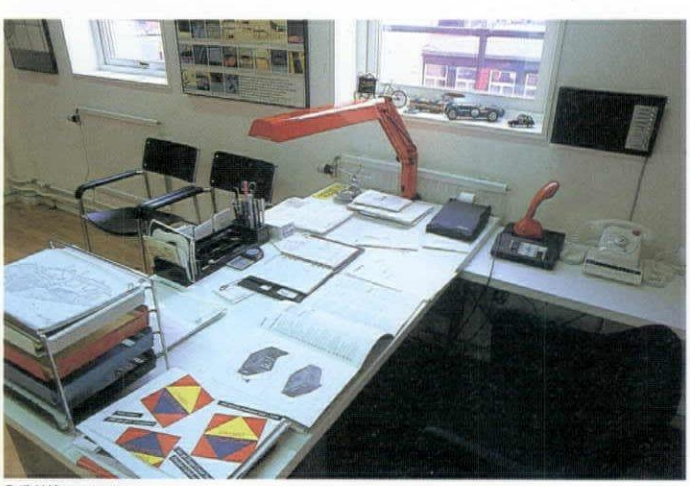
Tom Ahlström and Hans Ehrich



●デザイン室の扉。　シンボル・カラーの赤と青のロゴタイプ。



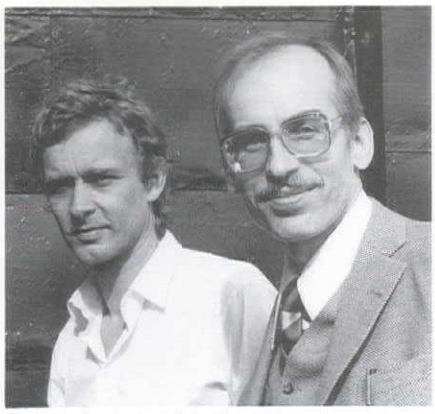
●デザイン室。　ランプや車椅子など彼らの作品が見える。



●受付嬢のデスク。



●デザイン室内のショーケース。　左が照明器具〈ルシフェール〉，右に〈ロボット〉。



●ハンス・エーリッヒとトム・オールストローム.

「スウェディッシュ・グレイスなんか意味ないね. この国は落ち着き過ぎてしまって活気に欠ける. 私達の手がけるものは国境なんて関係ないんだから, そのデザインをスカンジナビア的にしようなんて思ってもみない.」 彼らはこともなげにこう言い放った. 最も影響を受けたデザイナーはという問いには, イタリアのマエストロ, 劇的な突然の死を迎えたジョエ・コロンボの名を挙げた. なるほど彼らの製品を見て国籍を当てることは不可能だ. 鮮やかな色彩, 自由闊達な形状, プラスティックの多用. どれをとってもスウェーデン的とは言いにくい. しかし, ジョイント部, ことに可動のそれを見ると, いずれもやや大仰で頑丈な造り方がされていて, ここにはスウェーデン式のタフネスが表現されていると見ることが可能だ.

彼らのオフィスはもとはエリクソン電気会社の倉庫だったという建物のペントハウス. デザイン・ルームと同じ面積の工作室があって5人の職工が汗を流し, 上階には何とサウナがあった.



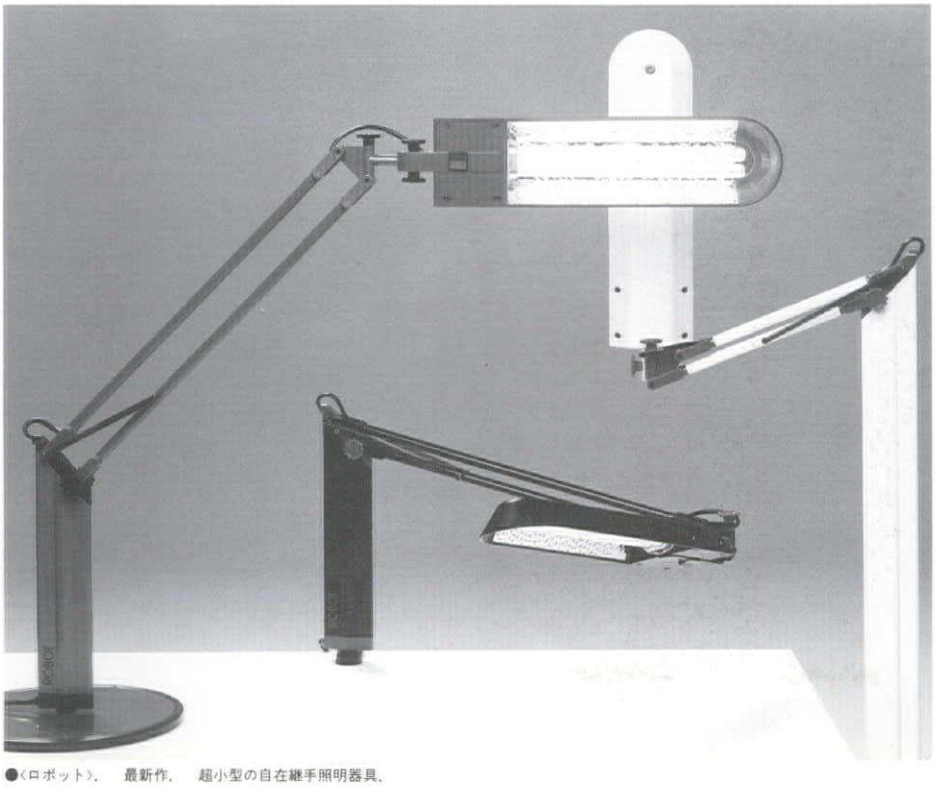
●工作室. 切断から塗装まですべてが可能な設備がある.



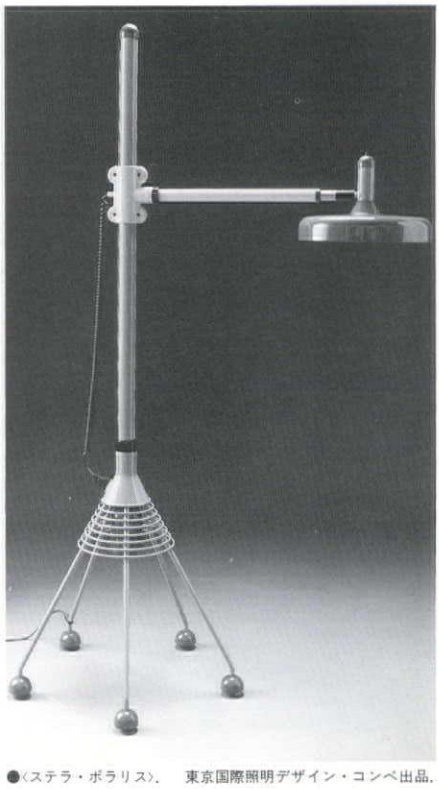
●真空掃除機のプロトタイプ. 1979年.



●ティケット・ディスペンサー. ABS樹脂. 1975年.



●〈ロボット〉. 最新作. 超小型の自在継手照明器具.

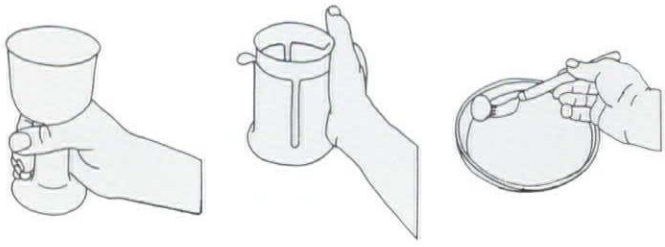


●〈ステラ・ポラリス〉. 東京国際照明デザイン・コンペ出品.

ハンディキャップ者用器具デザインの先進性

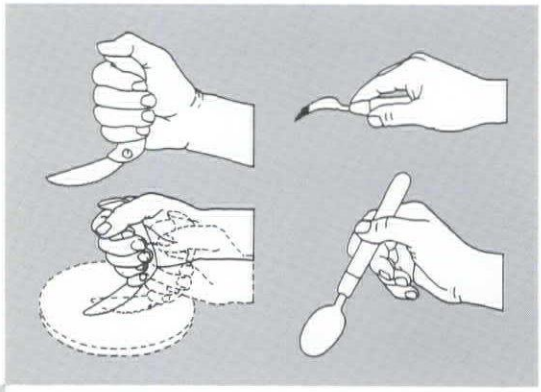
スカンジナビア・デザインで知られる北欧諸国は，福祉社会としても名高い．　スウェーデンでは1932年から40余年間の長期にわたって社会民主党が完成させた福祉制度が，現在も継承されている．　それは老人や児童，身体障害者等のハンディキャップ者に対する社会保険や社会サービス，バリアフリーの住宅改造や住宅供給，あるいは地域へのインテグレーションを目的としたサービスハウスの建設である．　これ等の施策と並行して，ハンディキャップ者の生活や労働を補助するための機器や設備の研究，開発，テスト等が国立のハンディキャップ者研究所（Handikappinstitutet）によって行われている．　開発された製品は，ここで作業療法士，理学療法士，補助具の専門家，エンジニア，工業デザイナー，ユーザーであるハンディキャップ者によって，耐久性や使い勝手等がテストされる．　このテストに合格した製品がハンディキャップ者に無償で提供されるのである．

ここに紹介するA＆Eデザインと，マリア・ベンクトツォン，スベン・エーリック・ユーリンによるハンディキャップ者用製品も前述したテストを経たものであるが，形や色彩等造形的な観点からも優れたデザインであるといえる．　一般にこの種の製品は身体を補助する機能条件を優先させ，これを満たすだけに終るデザインが多く，ハンディキャップ者専用製品というダークイメージをぬぐい切れない．　しかし彼等のデザインは，地味な研究の積み重ねの上に完成させたものだけに，機能条件を充分満たすと同時に高品質のイメージを与えている．

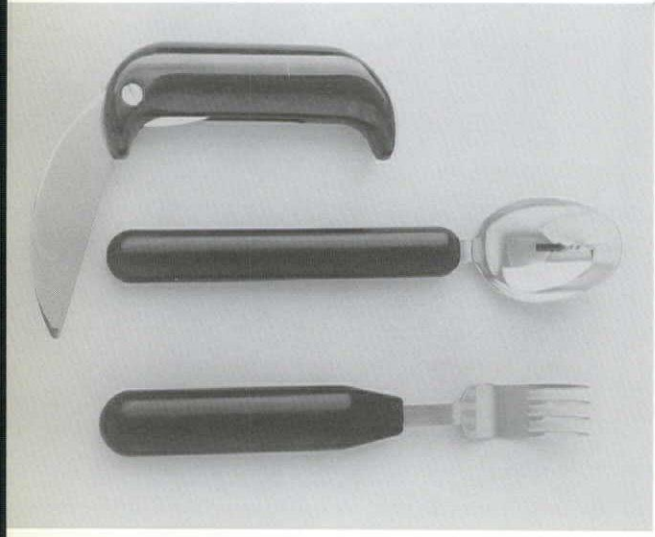


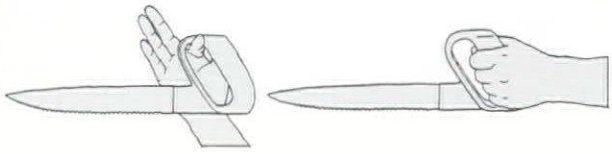
●極度に軽く握りやすいコップ，
両手でしっかり握ることも
可能な，熱いものも入れられるマグ，
片縁を高くしすくいやすくした皿，
エルゴノミ・デザイン．
（→p.19）

A＆Eデザインはトム・オールストロームとハンス・エーリッヒの2人が1968年に結成したチームである．　彼等のデザインは洗浄ブラシ，絵筆や画家用の設備，照明器具，椅子などがあるが，仕事の中心はハンディキャップ者のための補助具や設備のデザインである．　最近のデザインでは，身体障害者用トイレットの折りたたみ兼固定式補助アームレストがある．　また最近わが国でも見られる病院用移動リフト等，いずれも使いやすく合理的で，造形的にも無駄の無いまとめ方が注目される．　彼等のデザイン手法は，数多くのモデルによって検討した後，技術的あるいは人間工学的検討が可能な原寸ワーキングモデルで，最終決定に進むという．　また彼等は，幾何形態によるシンプルで明快なデザインをモットーとし，意味のない装飾や，機能と関係がないデザイン・アプローチには関心を示さない．　A＆Eデザインの特性のすべ



●フォーク，スプーン，ナイフ．
安全で扱いやすく，しかもメンテナンスが容易で，
何よりも握力が弱い人でも
使いこなせることを目ざして開発されたもの．
柄は黒のカーボン・プラスティック，
先はステンレス．
エルゴノミ・デザイン．　1980年．





●今やスーパーマーケットでも
売られている包丁．
握りやすく，切りやすい．
エルゴノミ・デザイン．
1974年．

てがこれに言いつくされているといえる.

マリア・ベンクトツォンとスベン・エーリック・ユーリンはエルゴノミ・デザイン・グループのメンバーであり，現在スウェーデンのハンディキャップ者用製品デザインの第一人者として活躍している. 特に上肢の筋力や，移動能力に障害を持つハンディキャップ者のための補助具の研究と開発に力をいれている. 1972年に，ハンディキャップ者研究所のもとで行ったハン



●ハンディ・エクステンダー.
2ヶ所の自在継手がワンタッチで調節でき，好みの角度に変えられる.
ナイロン製で，柄は楕円形断面. A＆Eデザイン. 1977年.

ドルとグリップに関する研究結果は，手が不自由で力の弱いハンディキャップ者の調理や食事用補助具のデザインに見事にいかされた. 持ちやすさを考慮して柄を太くしたスプーンやフォーク，あるいは角度付きナイフ，また調理用の固定まな板，パン切り等上肢機能に障害を持つハンディキャップ者に便利で，清潔感あふれる製品としてデザインされている. これ等の製品はプラスティックと金属によっているがそれにもかかわらずスウェディッシュ・モダンのぬくもりを感じさせる. 彼等は特別の補助具をデザインするのではなく，標準製品と付属品の組合せによる誰にでも使える製品のデザインを目標とし，また完成した製品は，実際の生活の中でテストされる事が唯一の意味ある評価と考えている. 彼等のデザインの背景には，ハンディキャップ者に対する人間工学的検討と考察がうかがわれ，この分野でのデザイン方法論の一つの方向を示したといえる. この方向は彼等の属するエルゴノミ・デザイン・グループがデザインしたノミのシリーズにも見られ，機能と形態を合理的に統合した美しいデザインとなっている.

一般的にハンディキャップ者用製品を工業的生産プロセスにのせる事は難しいといわれている. ハンディキャップの内容が多様で要求が異なるためである. しかしここに見た製品は，工業的処理による高品質のデザインを完成させている. 勿論これ等の製品が軽度のハンディキャップ者を対象としているせいもあるが，デザイナーの鋭い観察力が共通の要求を製品デザインに集約させたといえるのではなかろうか. ふり返ってわが国の情況を見ると，一般デザインは世界的水準にあるにもかかわらずこの分野では非常に立ち遅れている. スウェーデンの例からもわかるように，優れたデザインは社会的コンセンサスと優秀なデザイナーの結びつきによって，初めて可能であるという事を再認識させられるのである.

●堀田明裕／工業技術院製品科学研究所



●介護ユニット.
風呂に入れる時などに用いる.
A＆Eデザイン. 1980年.

●シャワー，トイレ用車椅子.
軽量で美しいデザイン.
座は用途に応じて取りかえ可能.
A＆Eデザイン.



風雅な織物の飾られた部屋

テキスタイル・デザイナー
エドナ・マーティン邸

ハンドアルベーテッツ・ベンネルの主任として，またストックホルム王立工芸大学の教授として長年，スウェーデンのテキスタイル・アートを育て，指導し，牽引してきたエドナ・マーティン．　その業績についてはp.32を参照．
彼女の住居は，スカンセン民家村の近くにあるハンドアルベーテッツ・ベンネルの建物の2階．　扉を開けるとそこは厳選されたモダン・デザインの展示場であった．　壁はもちろん，ほとんどすべての家具類は無彩色で，敷物と壁にかけたリトグラフやエドナ自身の作品がひときわ映えて見える．　まるでテキスタイルを始めとする芸術作品の家庭内の展示の見本を示すかのようなのである．
彼女が独立した芸術家として活動を始めたのはハンドアルベーテッツ・ベンネルを辞してからのことである．　室内には二つの額入りの小さな刺しゅうの作品と，二つの比較的大きな作品がかけられている．　いずれも材質の性状，柔らかさ，温かさなどを最大限に生かした無理のない表現手法で作られていて，恬淡とした彼女の境地がストレートに現われたような，風雅にして軽やかな作品で，彼女が指導していたハンドアルベーテッツ・ベンネルで織られている重く，厚く，深みのあるテキスタイルとの鮮明な対比が印象的だった．

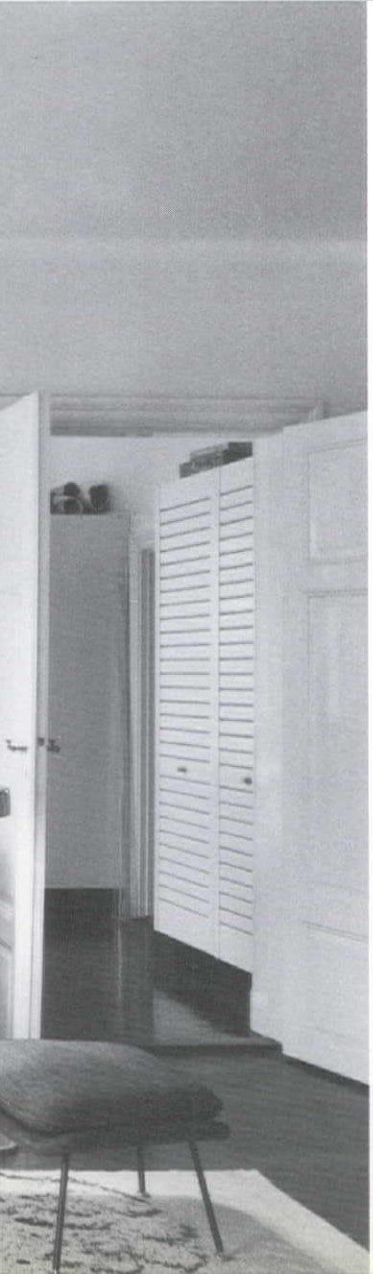






●左手の壁にエドナの1982年の作品〈シャブラック〉。　飾り馬衣の意。中世の騎馬ゲームに用いる飾り馬衣から着想を得たもので，手法は〈マルク〉と同様。　床のマットはヘレーナ・ヘルンマルク，椅子はエリエル・サーリネン。

●向かいの壁にエドナの1984年の作品〈マルク〉。　土地という名前である。　彼女が夏期を過ごす島の地面，亀裂の入った石灰岩と丈の低い植物で覆われたそれをイメージとして，漁業用木綿糸の網，麻糸，日本製の絹の薄布で表現したもの。　180×250 cm。　右手のリトグラフは〈ネブローサ〉，星雲の意味。　1983年作。　床のマットも彼女の作。　ポール・ケアホルムの黒皮製ソファ，ジョエ・コロンボのサイドテーブルも見える。





織物とテキスタイル・デザインの現況

川上玲子氏に聞く

—— スウェーデンの公共空間には，大きなタペストリーなどあらゆるテキスタイルが用いられていますが，北欧の他の国でも同様なのでしょうか．

川上　北欧は寒くて長い冬を家の中で過ごすために，暖かみのあるものを室内に取り入れる必要があるということでテキスタイルが用いられるのだと思います．　スウェーデンでは特に，テキスタイルがアートとして扱われる傾向が強く，なおかつただ飾って美しいというより以上に，何らかのメッセージを含んでいるべきだという考え方が，ベトナム戦争の頃から顕著になってきています．　教会，学校，公民館，病院，銀行などの公共空間に飾られているタペストリーも，人々にやすらぎを与えるということと同時に，社会との結びつきを図ろうとしたテーマであることが多い．　病院や公民館などの場所に，鋭くつき詰めたような問題をテーマとしたものが飾ってあると，私などドキリとすることもある程ですね．住空間のテキスタイルはそれとはまったく別のものだと考えた方が良いと思います．

—— アートとしてのテキスタイルとはまた別の，家庭の中で母親から直接手ほどきを受けて学ぶといった形のテキスタイルももちろんある訳ですね．

川上　実用の，趣味のテキスタイルのためのヘムスロイド（手工芸協会）という組織があります．　この協会はスウェーデン各地にあって，木工品や陶器など地元の技術を生かした物を生産しています．　ここで作られたものは手工芸品として扱われアートという範疇では語られません．　主な活動として家庭の主婦を対象としたコンペを開いて，手織りのタオルやテーブルクロスを募集したり，昔の織物を再現して販売したりしています．　日本にも〈スウェーデン伝統工芸展〉という形でヘムスロイドの作品が紹介されています．

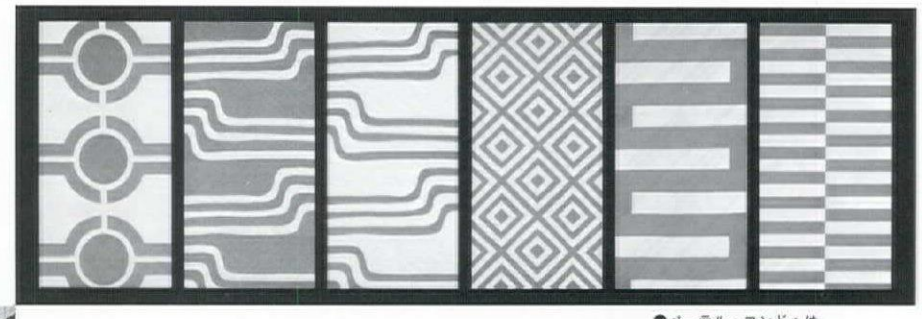
—— スウェーデンのテキスタイル・デザインの特徴はどんな点にあるのですか．

川上　つかみどころがないというか，一つの傾向にしぼり切れないというのが特質と言えば言えるのではないでしょうか．　世界の動向だとか，流行を追うことには少なくとも今までは関心を向けないで，自分達自身の国の伝統を生かし新しい物に発展させてきたというのが本当のところではないでしょうか．　少しでも新しいものをというのが日本人の一般だとすると，スウェーデン人は良いもので気に入っているものなら幾らでも長く使うんです．

—— 実際，50年代のプリント・テキスタイルが今もって新鮮に見えるという事実もある訳ですね．

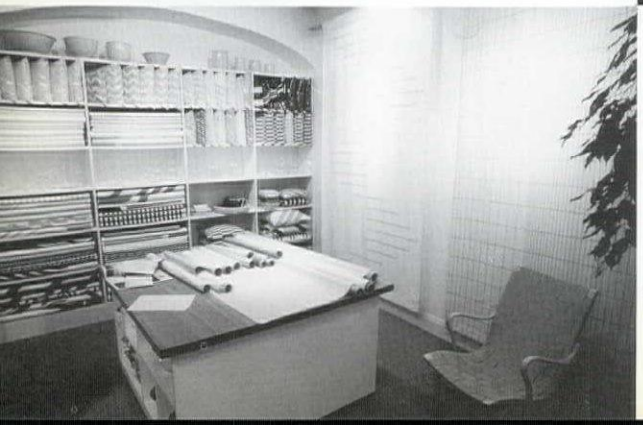
川上　プリントではアストリッド・サンペ女史の果した役割を見逃すことはできません．　彼女はNKデパートのテキスタイル部門の責任者として，数多くの芸術家や建築家のアイディアを生かし，それらをプリント・テキスタイルとして実現させるのに功績があったのですが，テキスタイルを含めた総合的なインテリア・デザインを推進したことでも手腕を発揮したのです．

—— プリントに関しての新しい傾向はどのようなものでしょうか．



●ベーテル・コンドゥは，若手のプリント・テキスタイル・デザイナーの中でも個性に富んだ人である．近年はますますその表現が繊細になってきている．

川上　テン・グループの作品がまずデザイナーの間で話題になり，パリでも好評を得て，その後でスウェーデンの一般にも徐々に浸透したことからも知られるように個性的なデザインはなかなか家庭には受け入れられにくいのですが，それでもボロース社

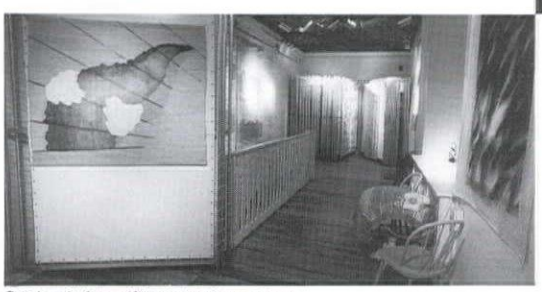


●ベーテル・コンドゥのショップ．

のスベン・フリッツステットのものとか，シナサンド社のトーマス・ブローリンのものなどは，それぞれに特色がはっきりしていて人気も高いですね．　それらの傾向を一言では述べられませんが，確かにフィンランドのものとは明白な違いを有していることも確かです．

―― 織りの分野についてはこの特集ではハンドアルベーテッツ・ベンネル(以下HV)の活動だけを取り上げているのですが，そこの主任を長くつとめていたのがエドナ・マーティンですね．

川上　彼女は王立工芸学校の主任教授も長くしていて，私も2年間教えを受けました．現在活躍しているテキスタイル・デザイナーの大部分は，彼女から直接に習うか，影響を受けています．　もちろんその中には彼女の指導してきたHVのやり方に批判的な人もいるのですが．



●テキスタイル・グルッペンのショールーム．

スウェーデンでは，教師は知識を与えるのではなく，学生の潜在的能力なり魅力なりを引き出す役割を果している点が特長です．　私もエドナによって自分でも気づいていなかった日本人としての意識を引き出されましたし，逆にエドナにとっても東洋の女の子は興味深いものだったようで，彼女自身の作品にも，例えば墨の筆の掠れを刺しゅうで表現したようなものが見受けられます．　結局今でも私は，彼女を通して得たスウェーデン人の感性と，日本人としての感性をミックスさせたところでテキスタイルに取り組んでいるのだと思っています．

―― HVでのエドナの役割については．

川上　HVでは常に外部の芸術家と協力して製作にあたるのですが，エドナは彼らとHVのアトリエで実際に織る人達との間に立つトランスレーターの役目を果していたと言えます．　芸術家が赤で描いたものでも，織物で表現するには多様なテクニックがある訳で，それは絵とはまったく違った表現になるのです．　エドナは表現と技術の良き媒介者であったし，そのことによって公共空間に大きなタペストリーが飾られるようになったのだと思います．

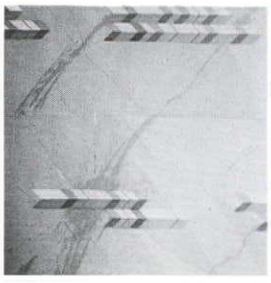
―― 最後にテキスタイル・グルッペンについて簡単に説明していただけますか．

川上　このグループは，すべてテキスタイル・アーティストによって構成され，現在約50名でストックホルム市内に共同のショールームを運営しています．　そこでは，アーティスト自身で制作した染め物や大きな織物を展示販売し，また講習会，仕事の交渉等，幅広い活動が行なわれています．ここでは，利益の一部を組織に収め運営費にあて，店のこともすべてメンバーだけでうまくやっている自立した共同体といえるでしょう．　たとえば個展を開いた場合，社会的なテーマをモチーフとしたテキスタイルを生み出すアーティストが多いのが特徴的ですが，その中で大手メーカー側でも個展を見に来ていいパターンがあればコンタクトをとって量産するといった開かれた組織でもあります．

●川上玲子／テキスタイル・デザイナー



●テキスタイル・グルッペンの展覧会案内状．





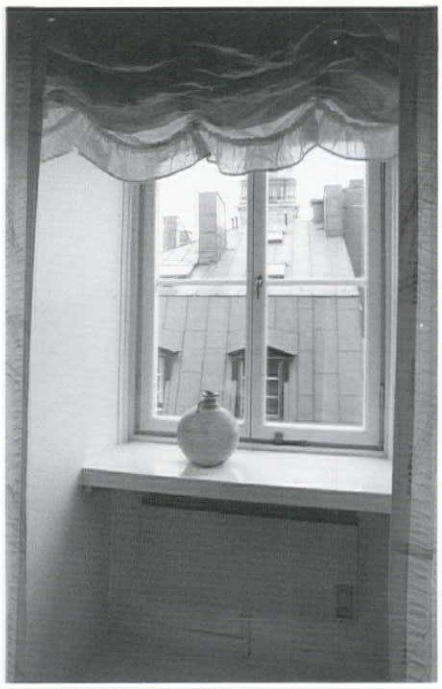


●トーマス・ブローリンのプリント・デザイン〈エア〉1984年．(右)
●HVの60年代後半を代表する作品．(中)
アーティストは
マックス・ウルテル・スパーンベリ．
織物の多彩なテクニックが駆使されている．
●エリザベット・ハッセルベリ・オルソンの織物〈家〉1970年．(右)
スウェーデンのどこにでも見られる
風景を淡く綿密な階調で表現している．
彼女は国会議事堂の議場に
飾られた大作を手がけた人だ (→p.35)．

黄金期プリント・デザインの復元

■
アストリッド・サンペとリビナ・ライン
Astrid Sampe and Livina Line

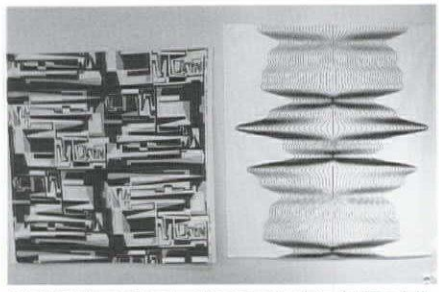
50年代のスカンジナビアのモダン・デザインの黄金期の形成には，家具，ガラス，陶器，照明器具などとともにプリント・テキスタイルも大きく寄与した．ことにスウェーデンにおいてそうであったのは，アストリッド・サンペ女史とエリック・ユングベリーの２人の絶妙のコンビの故であった．　サンペは北欧最大のデパートであるＮＫのテキスタイル部門を設立したデザイナーであり，自身のデザインによる他，大勢の建築家や芸術家と協力して，そのデザインの製品化に努力し，プリント・テキスタイルをデザインの一部とせしめるのに貢献大であった．　彼女を技術的な面で支えたのがユングベリーである．彼自身も芸術家であったが，ハンドプリントの技術者として進取の気性に富み，1944年のサンペとの出会い以降，小さな工場でプリント・テキスタイルのあらゆる可能性を試し，実行したのであった．



●シナサンド社ショールームの窓辺．



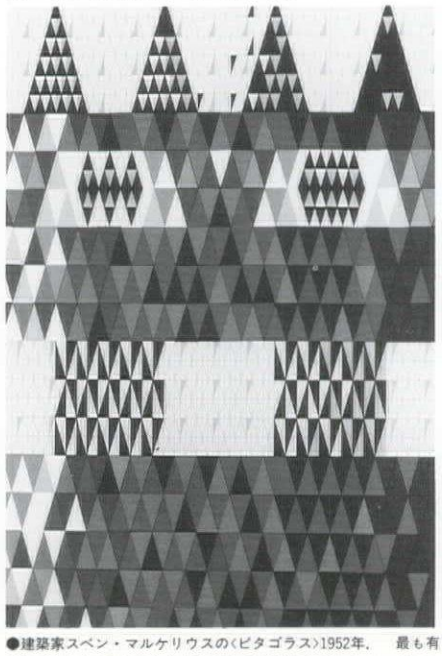
●シナサンド社ショールーム．



●左が画家オーレ・ボニエールの〈ラックスト〉，右がアストリッド・サンペの〈コンピュータ・コローネ〉．



●手前にハンス・クロンダールの〈スペファグラー〉，その奥に陶芸家スティグ・リンドベリーの作品〈フルックトローダ〉．



●建築家スベン・マルケリウスの〈ピタゴラス〉1952年．　最も有名なプリント・テキスタイルであり，50年代のスウェディッシュ・デザインの代表作の一つ．



●ガムラスタンのシナサンド社のショールームにて。　ビオラ・グロステンのテキスタイル〈カサ〉。　彼女は一時ＮＫデパートでサンペと協働。

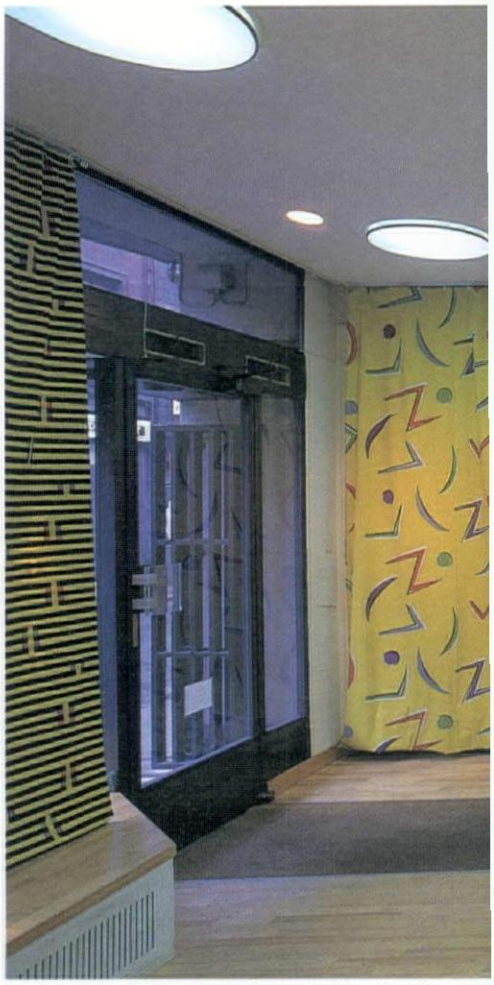
躍動し挑発するテキスタイル

■

テン・グループのプリント・デザイン

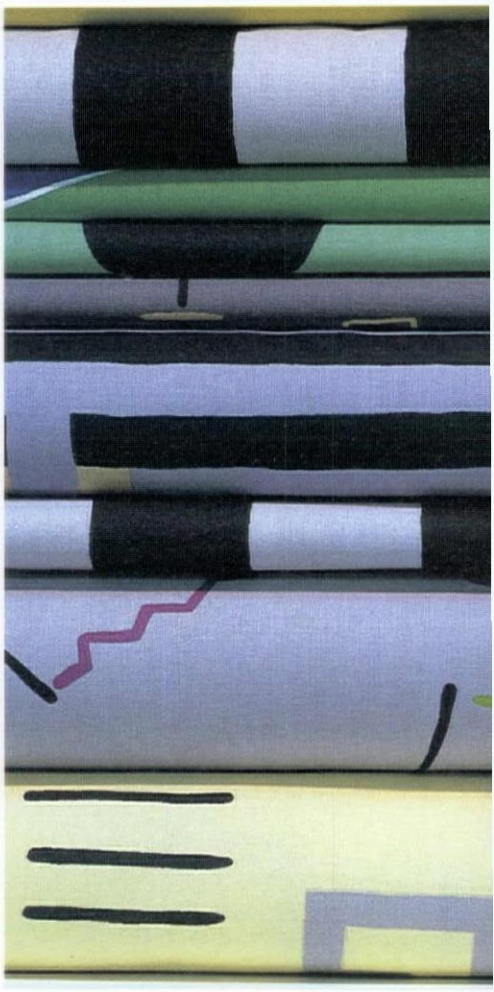
TIO-Gruppen

目を射る激しい色彩，ロシア・アヴァンギャルドを思わせる形態要素。〈テン・グループ〉のプリント・テキスタイルは，スウェディッシュ・グレイスとはかけ離れた，この国では珍しい存在のものだ。デザイナーの個性，好みがストレートに強烈に反映されたテキスタイルが受け入れられる素地は，10数年前のグループ発足当時は殆どなかったのだが，1973年にストックホルムに自分達の店を構えて以降，先ずフランスとイギリスで注目を浴び，ファッション・デザイナーがコレクションに用いるなどした。その後ようやくスウェーデンでも市民権を得て，今では若者たちが衣服として使い，家庭の中にはソファ，壁装等々にも彼らのデザインのものが使われるに至っている。彼らの活動は，スウェーデンでは特異点としか認められないものかもしれない。しかしそれによってもたらされている現代のデザインの幅の拡大は，すこぶる意義深いものだといえるのである。イネース・スベンソンを中心とした〈テン・グループ〉は当初の10人から現在は7人のメンバーとなり，毎年新作を発表しながらも，数年に渡って入手できるような生産法をとって，プリント・テキスタイルをシーズン毎のファッションに終わらせないように努めている。



●ストックホルムの〈テン・グループ〉のショップ。彼らがデ







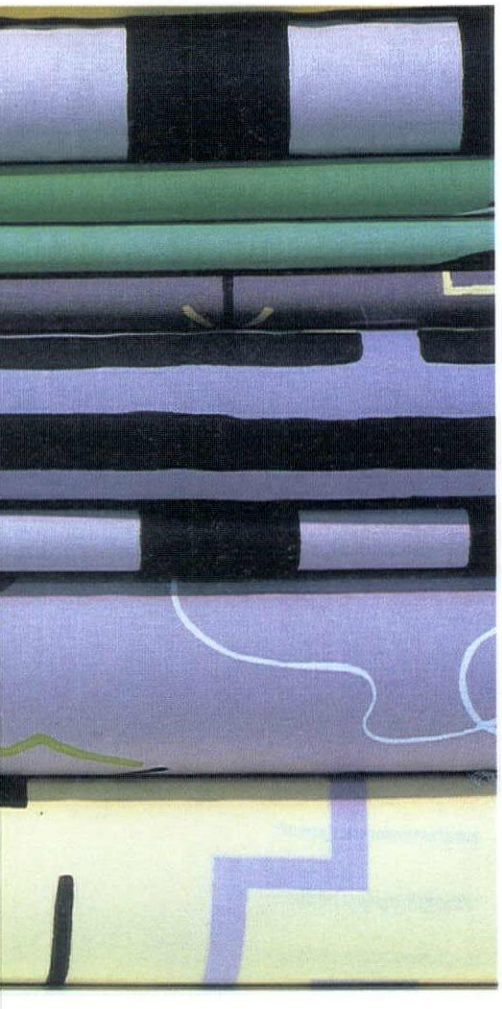


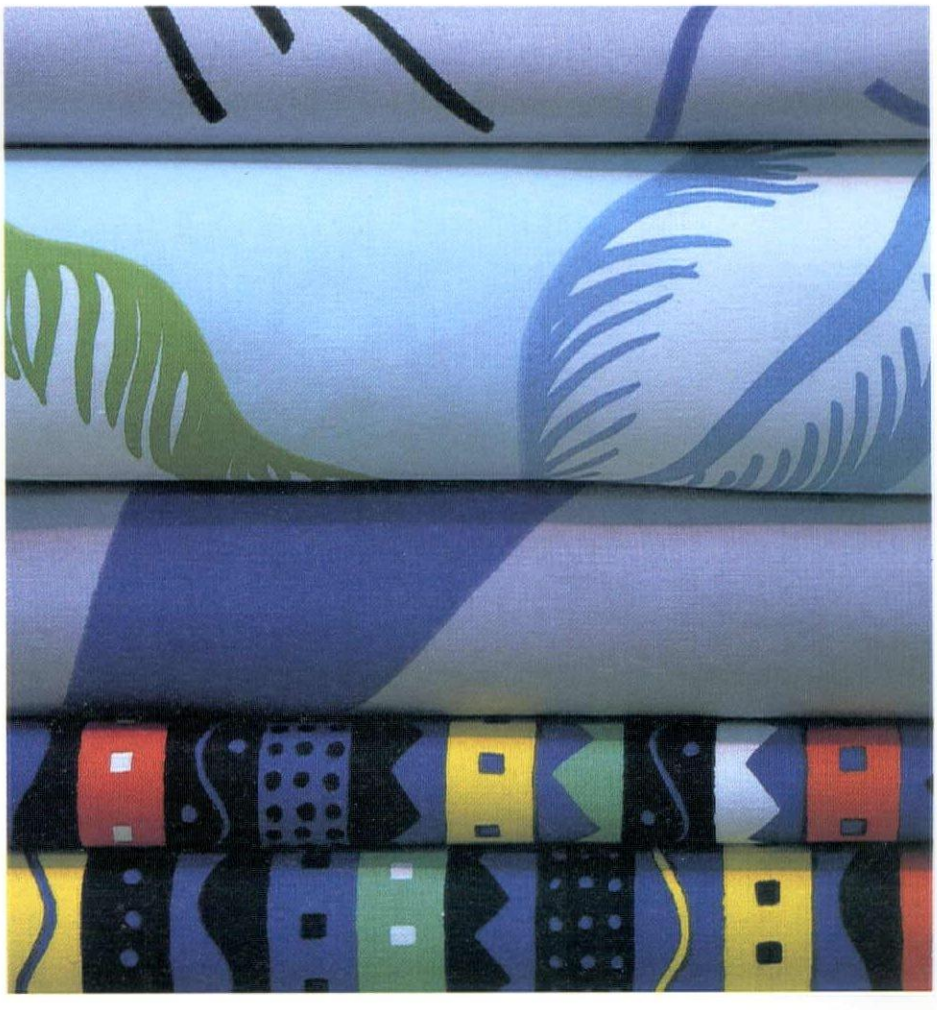
ザインした布で作った製品も売られている。





●壁紙のためのデザイン見本。



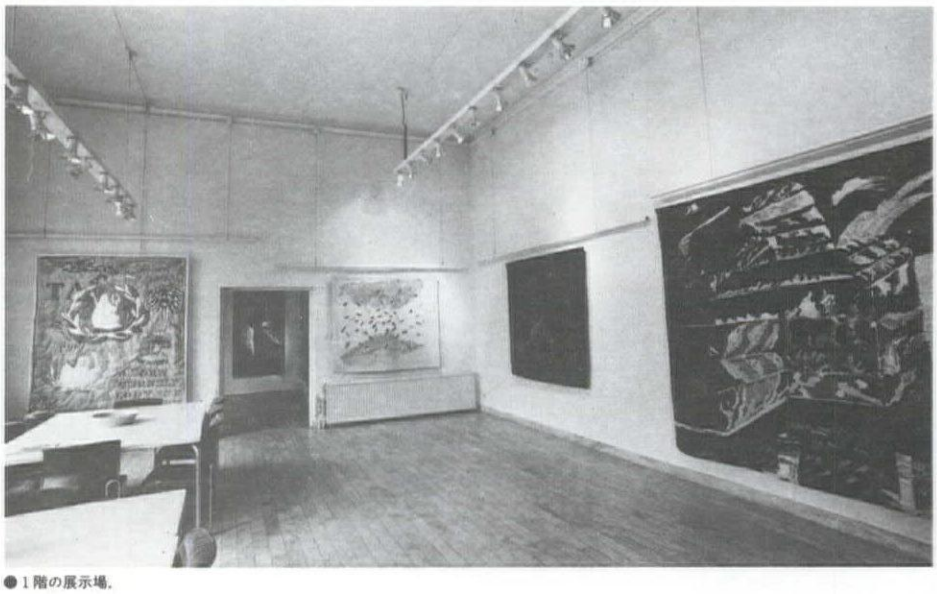


公共空間を彩る織物の温もり



■
ハンドアルベーテッツ・ベンネルの活動
Handarbetets Vänner

スウェーデンの織物芸術の中心に位置するのが，ストックホルムのユールゴーデン島にあるハンドアルベーテッツ・ベンネル（以下ＨＶアトリエと略す）である。　ここでの織物は，様々な芸術家（画家，彫刻家，テキスタイル芸術家，その他）とＨＶアトリエの共同製作であることに大きな特色がある。即ち注文を受けると，芸術家が原画を作る。　それは細密な場合もあれば，ただイメージを記しただけのこともある。　それに基づいて芸術家とＨＶアトリエのスタッフが協議し，試作を重ねて，イメージの実現に努力するのであるが，その過程では古今の織物の豊かな技術のすべてが参照されることになり，芸術家とアトリエのスタッフとの完全な共同作業がなされることになるのだ。
1951年にエドナ・マーティンがＨＶの主任になってから，ＨＶには大きな飛躍が訪れた。　コンクリートやガラスの建築の中に温もりをもたらすことができること，扱い易いこと，伝統に基づいたもので誰にも親しみ易いこと，等のために，ことに60年代になると織物が広く公共施設の空間に飾られる傾向が著しく，ＨＶに発注される作品は一挙に大型化するとともに高度な芸術性を求められるようになってきたのだ。　彼女は1977年に引退し，現在はオーサ・ベングトソンを中心に活動を続けている。



●１階の展示場。



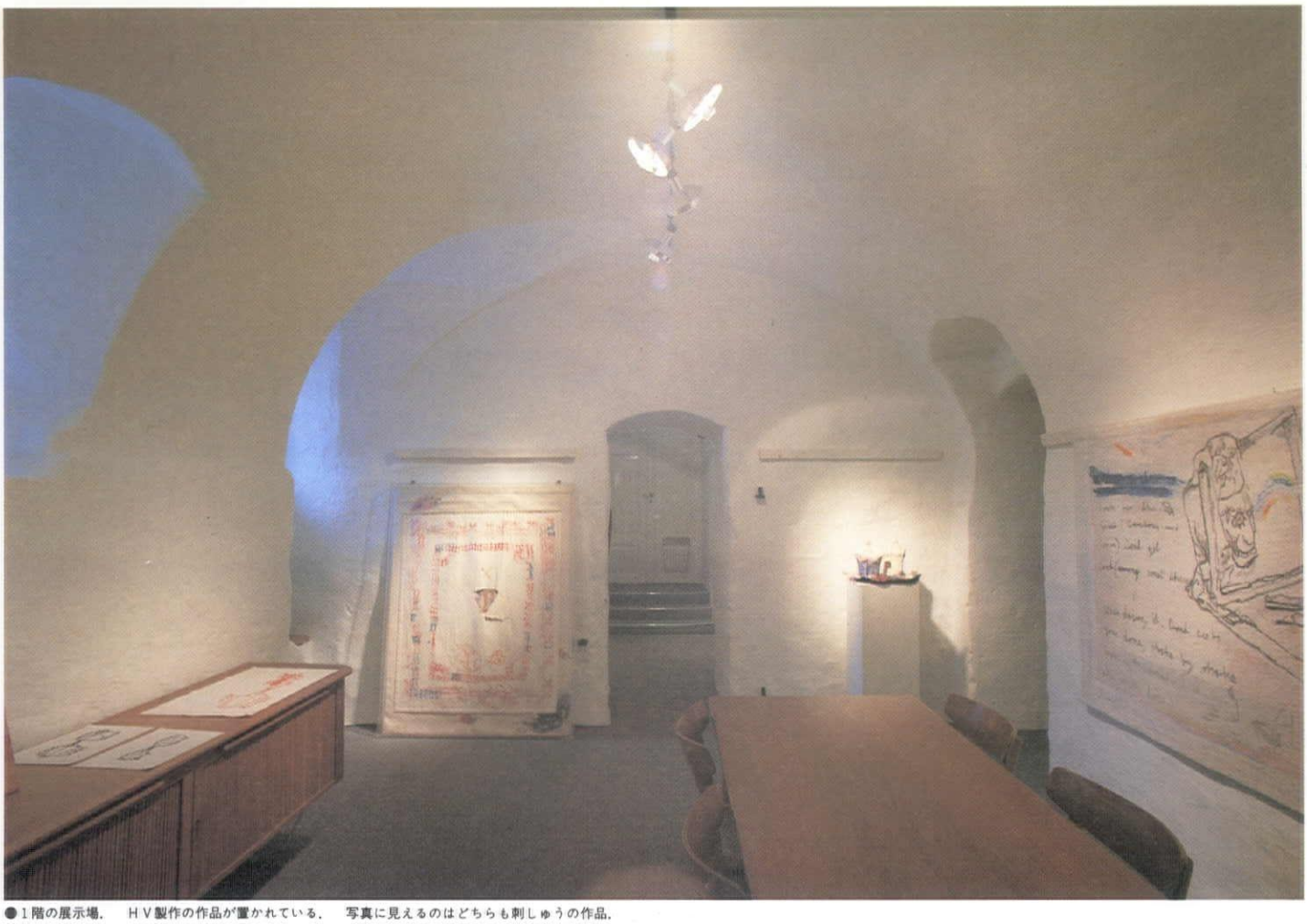
●部分的な試作が壁にある。　幾度もの検討が重ねられる。



●織りの部門。



●織りの部門。　ＨＶの最上階にある。



●1階の展示場．　HV製作の作品が置かれている．　写真に見えるのはどちらも刺しゅうの作品．



●HVの最上階にある刺しゅう部門のアトリエ．　自然光の下での作業が好まれるので，朝早くから始められる．

歴史の綾を尊重した増改築

スウェーデン国会議事堂増改築計画

ここに極めて重要な国の施設があるとする。　それは町の中心部に1世紀近く建ち続け，景観上もすでにすっかり町に溶け込んでいる。　とは言え，建物自体のデザインは，ことにその外観は過度に重々しく大仰で評判はおおむね好ましくない。　最近，この建物の用途に大幅な変更が生じ，壊して建て直すか，保存改修するかの二者択一がせまられている。　金額的にはどちらも余り変わりはない。　判断の基準は，現代のモニュメントを打ちたてるのか，それとも営々と積み上げられてきた歴史の層を大切にするのか，ということである。

ここに紹介するスウェーデン国会議事堂の場合は，一度はコンペを実施して全面的新築の線で動き出したものの，最終的には後者の保存改修案を選択した。　その結果は，決してセンセーションを巻き起こすようなものではないが，都市にたつ建物は一過性のファッションによってはならず，幾重もの歴史の綾を尊重し，それをさらに豊かなものとするべく寄与する義務があるのだということを，私達の目に明瞭に見せてくれる，素晴らしいものとなっている。　1905年に建設されたアロン・ヨハンソン設計の建物の新古典様式の外観が評判の良くないものだっただけに，それを保存しようとする決断と，それに応じて上品で優雅な新旧の融合をデザインとしてまとめあげた設計チームに拍手を送りたい。



●議場。　威厳を感じさせない，極めて気やすく家庭的な雰囲気。

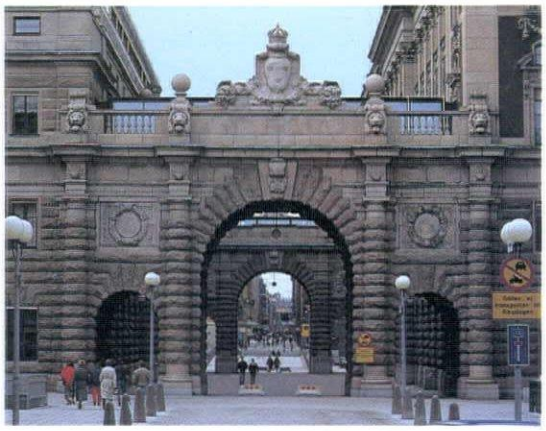


●旧議場の上部。　ガラスをかけて光庭風に仕立てている。

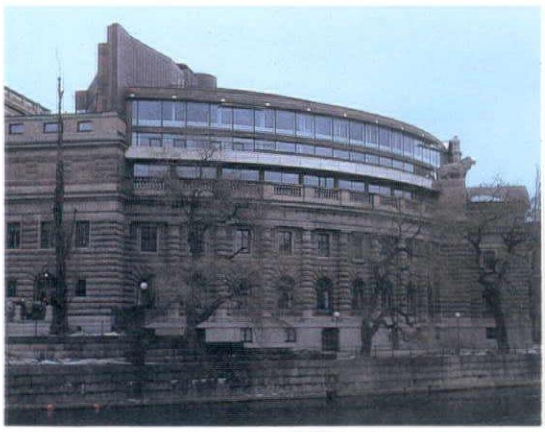
●旧議事堂主階段室。　緑を基調にした淡くエレガントな〈スウェディッシュ・グレイス〉。　円柱はカラーラ大理石だが，他の部分は大理石模様のスタッコ仕上げ。　ウィルトン・カーペットは，シナサンド社の上品なデザインで名高いイングリッド・デッサウ。



Reconstruction of Parliament Buildings
Stockholm, Sweden
architects: Ahlgren, Olsson, Silow Arkitektkontor AB
partner-in-charge; Sven Silow
team leader; Göran Streijffert



●門の上に目立たぬように両棟をつなぐ通路が設置されている。



●西側外観。ルスティカ仕上げの重々しい建物の上にのせられた，鋼板仕上げの軽々とした議場部分。凍てついたマラレン湖に突き進む砕氷船と見立てられている。

●エリザベット・ハッセルベリ・オルソンの大作タペストリーが議場正面を飾る。

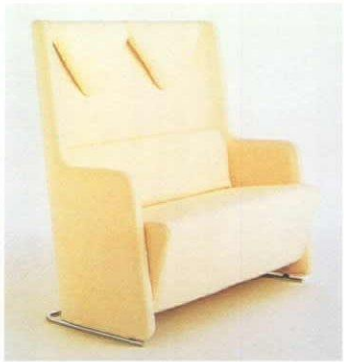


北欧に飛び火したポスト・モダン

■

リンダウ&リンデクランツの椅子

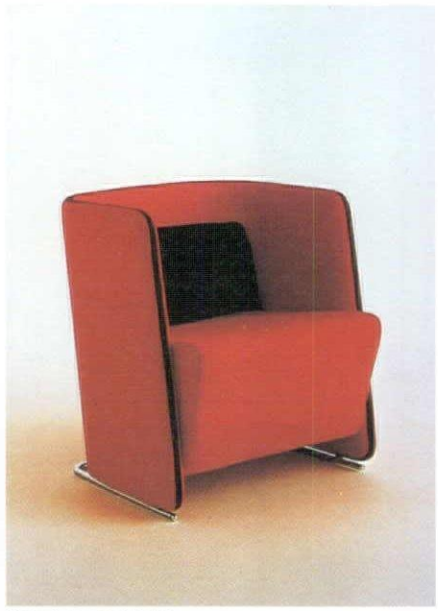
Börge Lindau and Bo Lindekrantz



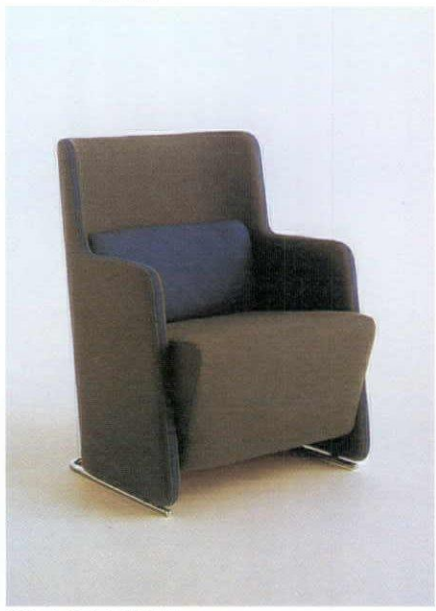
●2人掛けソファ〈ソロXL〉。〈ソロ〉シリーズは1983年作。



●2人掛けソファ〈ソロS〉



●アームチェア〈ソロS〉



●アームチェア〈ソロM〉



●ストックホルム家具センター1階のラムフルツ社のショールーム。ここの作品はすべてリンダウ&リンデクランツのデザインである。写真には，右からバーストゥール〈S70−3〉，角テーブル〈T105〉，アームチェア〈フーゴ〉，アームチェア〈77〉，照明器具も彼らのデザイン。

60年代後半以降，約20年間にわたってスウェーデンの椅子のデザインの波頭たり続けているのが，この２人組のデザイナーである。　彼らは共に1932年生まれで，一緒に学び，同じ設計事務所につとめ，1964年に独立して自分達の事務所を開き，文字通り二人三脚で今日まで活動を続けてきたのだ。

彼らの作品は，発表の都度，大方の予想を裏切り，新鮮な衝撃を与えてきたという意味で，時代の先頭を駆けていると言えるのだ。　だからといって，それらが突拍子もないデザインであるわけではない。素材の組合せは意表をつくものでありながら，実用性，耐久性を備え，飽きのこないマイルドなものであるのが常なのだ。

最初の発火点は60年代末の〈S70〉シリーズだった。32mm径のスチール・パイプと木の組合せ，鮮やかな原色の使用，コーデュロイのカバー等々，かしこまったモダン・デザインの桎梏を一挙に打ち払った若々しい作品だった。

次は1972年の〈X75〉と呼ばれる折りたたみ椅子とテーブルであった。　25mm径のパイプ，生成りの麻か黒い防水布張りという折りたたみのディレクター・チェアは極めて性能が良く，以後無数の模造品を産んだ。

そしてさらに，〈ソロ〉シリーズはL＆Lファンをも仰天させるに値するものだった。　ポスト・モダンの色彩が濃厚ながら，イタリアやフランスなどのものとは明白に異なる北欧性を帯びた傑作である。

さらにまた近年発表された〈ブランク〉という名の，１枚の厚板と簡単な座面よりなる極めてシンプルな椅子，という具合にL＆Lの衝撃は果てしなく続く。



●手前にあるのが今年の新作〈ブランク〉。　向こうに〈オバーレン〉1963年。



●左に２脚のアームチェア〈デュエット８〉，連結ソファ〈ビル・アンド・ブル〉，〈デュエット６〉，〈パラレル〉。



●アームチェア〈デュエット２〉，1982年。



●アームチェア〈ペキン〉，1970年。



●アームチェア〈デュエット３〉，1982年。



●ディレクター・チェア〈X75－２〉，1972年。

若い世代のスタンダード感覚

■

サンディーン&ブロフの家具

Kersti Sandin and Lars Bülow



●ショールームのサンディーンとブロフ.

スウェーデンの家具デザイナーの現在の環境は好ましいものとは言えない. 一般の家庭用の家具は, IKEAや生協組織の圧倒的な量の力によって専有されている. 国内の工賃は非常に高いので高級品以外の製品の価格競争力は弱い. 人々はいわゆるモダンなものを好みはするが, かといって新しいものに敏感である訳ではない. 公共施設は多いものの, 商業施設は極端に少ないので, コマーシャル・ユースの家具の需要は低い. 等々の理由によって, 特に若いデザイナーにとっては活動の余地はとても狭いのである.

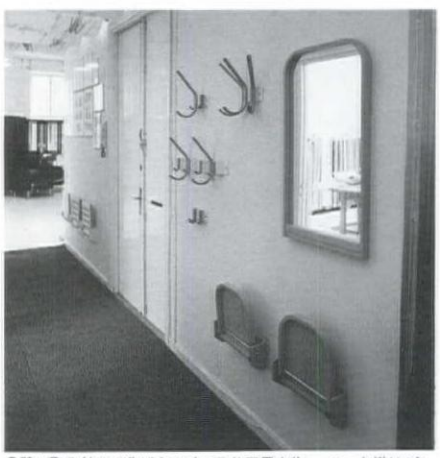
その中では, サンディーン・アンド・ブロフの2人組が目立つ. 彼らは, スウェーデンにこだわらず, 全ヨーロッパのモダン・デザインを参照の対象としつつ, 〈サポーター〉という名のサービス・ワゴンに代表されるような, 使いやすく, 融通性に富んだ, 清潔感のある作品を作っている. 若い世代による若い世代のための若い世代の家具.



●照明器具コーナー. 右手前は椅子〈チェス〉1982年.



●照明器具〈フェニックス〉1984年.



●壁に取り付ける曲げ木のインテリア用小物. コート掛け〈クロクス〉, 鏡とテーブルは〈アルク〉シリーズ.

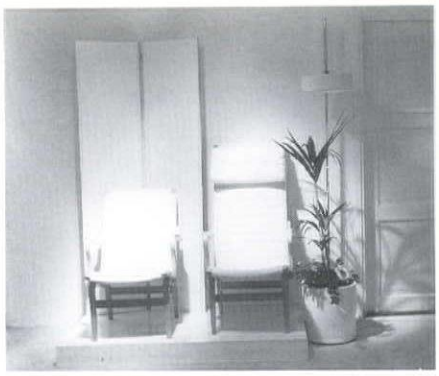


●サービス・ワゴン〈サポーター〉1983年.



●ストックホルムにあるS&Bのショールーム. 中央左にフロア・スタンド〈ジャズ〉, ソファ〈ブリッジ〉1984年, テーブル〈クロス〉1982年, 右奥に2脚並ぶ椅子〈ミディ〉1982年. 窓際と壁に照明器具〈トリック〉1982年, ガラスのテーブルの上に〈フェニックス〉1984年.

異形のモダニズム



■

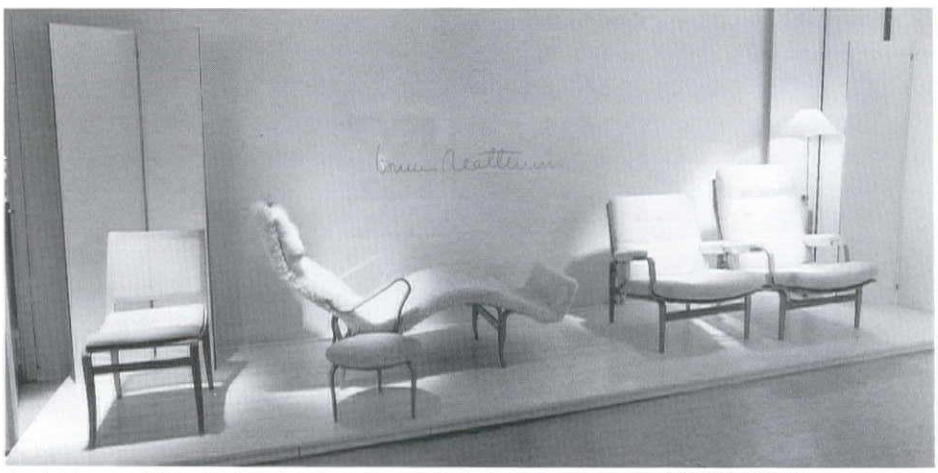
ブルーノ・マットソンの椅子

Bruno Mathsson

フィンランドのアアルトがそうであるように，ブルーノ・マットソン（1907年生れ）はスウェーデンのモダン・デザインを語る時には第一に挙げられる人である．　20世紀の巨匠なのであり，スウェーデンの顔の一つである．　すでにお馴染みながらここに取り上げたのは，そうした理由による．　1934年に製作された〈エヴァ〉，それに続く特有のカーブを有するブナの積層板曲げ加工の一連の椅子．　それと形態上は同傾向ながらスチール・パイプを用いた1967年製作の〈イエットソン〉．　さらに，ゆったりと幅広い座を持つ名作〈カリン〉．　それらすべてが今日では古典の仲間入りをし，家庭に始まり，オフィスや公共空間に至るまで万遍なく使用されている．

にもかかわらず，マットソンの椅子をスウェーデンのモダン・デザインを代表するものと断定するにはためらいがある．　モダンというにはその曲線が，怪異と呼ぶのは大袈裟にしても魔訶不思議ではあるからだ．　正確に幾何学にのっとってもいず，力を受けて張りのある線となってもいず，独特としか形容できない曲線．

好むと好まざるにかかわらず，マットソン以後のスウェーデンの椅子は，原基にして特異点でもある彼の椅子からの距離において評価される宿命にある．



●ストックホルムの家具センターのマットソン・コーナー．　左から〈シャスティーン〉〈ベルニラ3〉〈イングリッド〉．



●アームチェア〈カリン〉



●アームチェア〈ブリギッタ〉



●アームチェア〈エヴァ〉



●アームチェア〈ベルニラ69〉



●椅子〈マスター〉．

時代を超越した椅子の原点

■
オーケ・アクセルソンの椅子
Åke Axelsson

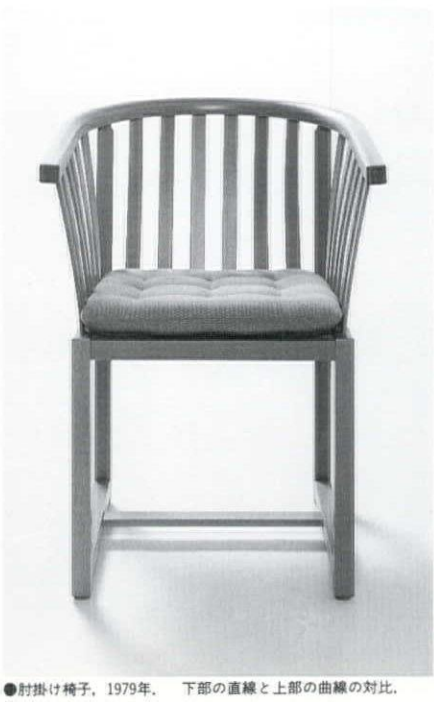
アクセルソン（1932年生れ）の椅子を見ると，月並みな表現だが椅子の原点を思わせられる．「そもそも椅子とは」という言葉をそのまま具体化したもののような気がするのだ．いつかどこかで必ず見た記憶があるのだが，どうしても思い当らない，そんな風な椅子．
徹底的に無駄な厚みを省いた部材からなる彼の椅子が，たんに簡素なものということだけにとどまらず，使い込むに従って愛着が湧き，時間とともに輝きを増してくるように見えるのは，椅子に対する深い知識と，クラフトマンシップの尊重とが底にあるからであろう．
彼は古代エジプトの椅子にまでさかのぼって様々な椅子に精通しているが，それは歴史家としてではなく，職工として見ているのである．つまり様式とは関係がなく，素材の扱い方，仕口の方法，全体の荷重の受け止め方，等々についての多様な技術に精通しており，彼は自らの椅子のデザインにそれらを自由自在に応用して見せてくれているのだ．従って彼の椅子は，極めて工芸的でありながら，優れて合理的であるという，現代では得られにくい二律背反の統合の結果として存在し得ている．古典的に見えはするが決して抹香くさくはなく，現代的に見えもするがいわゆるはやりとは縁のないようなもの．国会議事堂に置かれると気品が漂い，学生ホールに置くと気楽な雰囲気がかもし出されるもの．オーケ・アクセルソンの椅子はできたその時からすでに時代の変化，空間の相違を超えてしまっているのかもしれない．

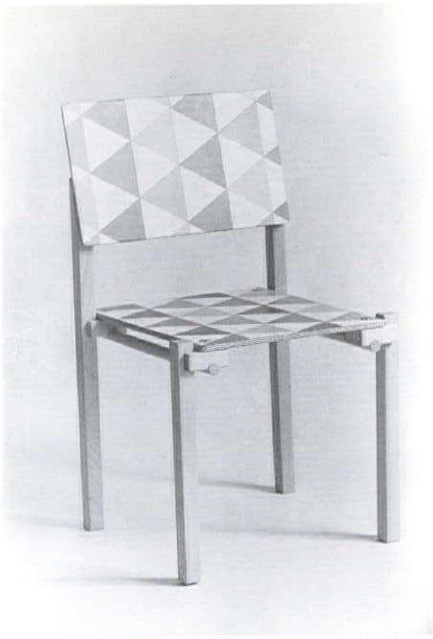
ここに紹介したほとんどすべての作品は，ヤーシュネス社の製作で，同社はアクセルソンの他，ビヨン・フルテンなどのデザイナーを擁して質の高いブナ材の家具を作っている．


●ストックホルムのジャーナリスト・ビル1階のレストラン・グレイツ．アクセルソンの椅子．


●樽のようなイメージの椅子．1967年．


●ジャーナリスト・ビル地階のプライベート・クラブルーム．椅子とテーブルはアクセルソン．

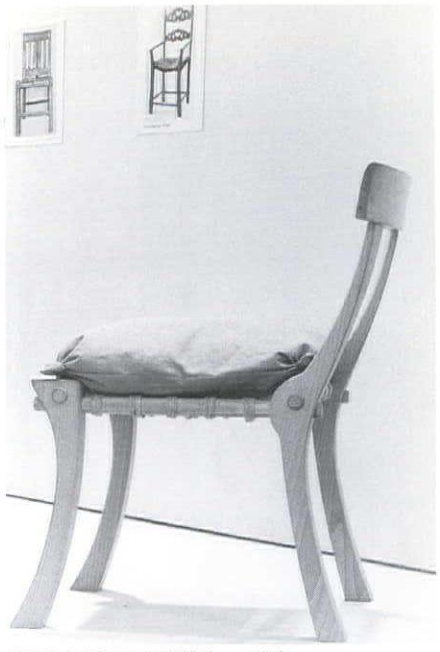

●肘掛け椅子．1979年．下部の直線と上部の曲線の対比．



●K.G.ニルソンと製作した合板製のスタッキング・チェア.



●小ぶりの手づくりの椅子.　1975年.



●ギリシアの椅子の復元製作品.　1974年.



●肘掛け椅子, 1967年.　ハンス・ウェグナーと比べると直線的, 男性的, 素朴.　その他多くのスカンジナビアの著名な椅子と比べてみると, 彼の作品が椅子の原点により近いという意味が納得されよう.

日常生活に浸透したグッド・デザイン

◉スウェーデンの四季と生活

スウェーデンの夏ほど印象深いものはないだろう。　6月中旬，夏至祭の頃からスウェーデンの夏は始まる。　多くのスウェーデン人は，湖畔か森の中の別荘で4週間の夏休みを過ごす。　昼間は高温ではあるが，からりと晴れて爽快で，夜はいつまでも明るい——いわゆる白夜である。　白夜に飲む遅い時間のコーヒーは，コーヒー好きにはこたえられないものだ。　家族，友人が別荘の庭のテーブルに思い思いに腰をおろす。　芝には露，白樺は強く香り，湖水にはさざなみすらたたない。　安物ではないが，スウェーデン家庭にはよく見受けられる，グスタープスベリ社製のコーヒーポットからスウェディッシュ・コーヒーが各人のカップに注がれ，コーヒーの香りが熱くあたりを支配する。白夜の薄暮の中に黒々とシルエットになっている森。　その森を背景にコーヒーカップのホワイトが浮かびあがり，幻想的な一瞬が訪れる。

しかし，スウェーデンの夏は短い。　8月中旬のザリガニ・パーティーで人々は夏の名残りを惜しむ。　庭のテーブルの足もとには，夜気が秋の冷たさを持ってただよい，人々はカーディガンをはおる。　細長い，独特のプロポーションをしたコスタ・ボーダ社製のグラス❶にアクアビットという，ウォッカなみの強さの酒を満たし，スウェーデンの湖から上がってきたザリガニを楽しむ。　重ねるスコール（乾杯）もどことなく哀愁を帯びてくる。

スウェーデンの秋は冷たい。　しかし，雲一つなく晴れあがった秋空のブルーと，白樺，銀杏，ポプラ等の葉のイエローは，スウェーデン国旗の，あの清潔な美しさを思わせる。　もっとも，スウェーデン人に言わせればスウェーデン国旗の色は，夏の空と太陽のイメージであるそうなのだが。

雪が積もり，世界が優雅な丸味を帯びてくる冬を，スウェーデン人はさほど苦にしない。　12月中旬，光の精を祭るサンタ・ルシア祭❷を幕開けにして，自家製のハム，燻製サケ，干ダラ，酢漬ニシン，キャビア等を，ローソクの灯のもとに祝うクリスマス，戸外でのスケート，ソリ，スキー，アイスホッケー等，結構楽しめる。

そして長い冬も4月，復活祭の頃になると春に転じる。　4月終わりの夜，人々は戸外にあかあかとかがり火をたき，来たるべく夏に想いを馳せる。

こうしたスウェーデンの四季に育まれたスウェーデン人の感性は，建築，家具，食器，タペストリー等，各分野におけるデザイン活動にも強く現れている。　スウェーデン製品の持つ，シンプルさ，おおらかさ，かつある種の優雅さ，いつの頃からか，これらはスウェディッシュ・グレイス❸とよばれるようになった。



❺内装，家具とも総て白木の住宅

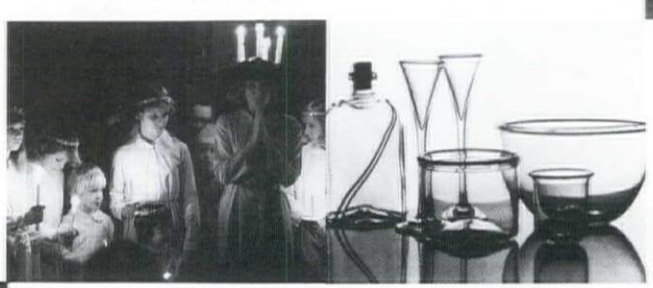
▲・デ グレイス ▼ スウェディッシュ

◉日常生活における家具の質の高さ

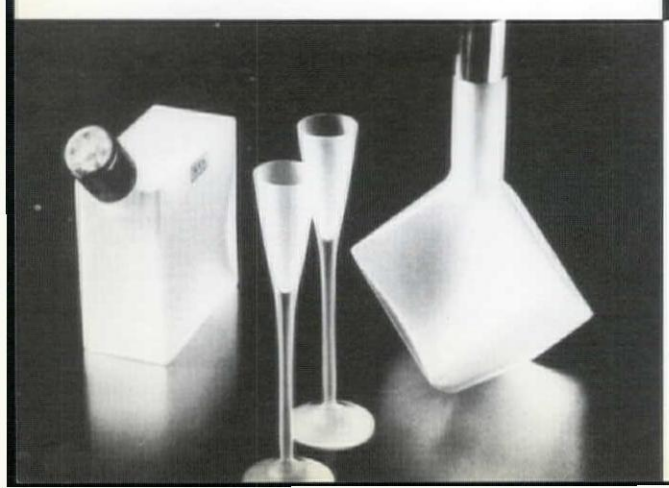
スウェーデンで生活していて，私達，日本人が驚かされる事の一つに，スウェーデン一般家庭や事務所，公共建物，つまり，どこにでも高級家具類が見られるという事がある。　ごく普通のサラリーマン家庭——多くの場合，郊外ニュータウンの90～100㎡のマンション——に招かれてみるとよくわかる。　家具に少なからぬ興味を持っている人であれば，あァ，誰それがデザインした椅子とか，或いはデザイナーの名がわからずともレベルの高いものであるのが一目でわかる家具を，すぐさま居間に見い出すであろう。　ダイニングキッチンには，日



❹〈ベルニラ〉／B.Mathsson

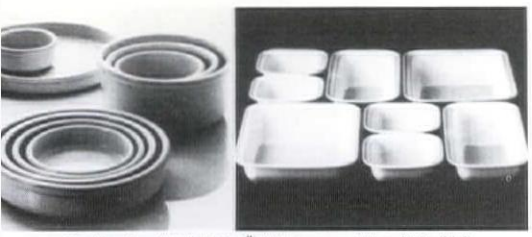


❷サンタ・ルシア祭（左）
❸グラス，ピン，ボウル／A.Wingård（右）



❶グラスとピッチャー／R.Sinnemark，Kosta Boda社

▲・デ グレイス ▼ スウェディッシュ



❻スタッキング可能な皿／Ö.Johansson, Höganäs社（左）
K.Björquist, Gustavsberg社（右）

本でいう，いわゆる高級ユニットキッチンがごく当たり前にビルトインされているし，ダイニングテーブルもむくの白木造りだったりする．　テーブルクロス，皿，グラス，ナイフ・フォーク，いわゆるテーブルウェアの中にも，デザイナーの名をすぐに思い出すものが多い．　バスルームには，イーフォー社でなければ，グスタープスベリ社製のバスタブ，ウォッシャー，トイレットが，私達の目にはややまばゆく置かれている．

おもしろいのは，一般スウェーデン人自身，自分達がこうした高級品にとり囲まれているという事にほとんど気付いていない事である．　私はスウェーデン滞在中，一般スウェーデン家庭の居間のコーナーに，読書・TV用であろうブルーノ・マットソンのデザインによるチェア❹が無雑作に置かれているのを幾度となく見たものである．〈マットソンのチェア〉と私達は思ってしまうが，スウェーデンでは単によく売れている家具の一つにすぎない．　決して安い値段ではない．　しかし，スウェーデン人は家具にお金をかける事にあまり抵抗がないようである．　だいたい家具は2～3世代使うという基本的な姿勢が彼等にはある．1970年代前半，ちょっとしたブームを引き起こしたイケアやイノベーターの家具のセールス・ポイントが〈安い〉という点にあった事を考えると，スウェーデン人の持つ家具に対するイメージが想像できるのではないだろうか．

スウェーデンの学生寮は，バスルーム付，又はシャワー付きの18～20m²位の個室から成っている．　各個室には白木のベッド，机，イス，アームチェアが付いている．私が住んでいた頃（1970年代）のストックホルムでは，交通の便の良い幾つかの学生寮は夏の間，学生を帰省させて，中級の観光ホテルとして使用されていた位だから，個室，家具，共に質が高かった事は確かで，かつそれが普通であったのを再認識せざるを得ない．

白木に対するスウェーデン人の愛着心は驚くほど強い．　家具に限らず建築でも，梁成の高い白木合成梁がよく使われている．



❼群になっているため保存されている古い建築物

内装，家具，総て白木という住宅も珍しくない❺．　白木はたいていFuru(フールー)とよばれるホワイト・パインである．　スウェーデンで豊富に産出される事をもちろん見逃すわけにはいかないが，事務所や役所のオフィス家具まで白木造りが多く，スチール・オフィス家具を見慣れている日本人には，ぜいたくすぎる感じさえ受ける．　最近こそ，金属パイプを使った家具もスウェーデンで製作されているが，元来，スウェーデン人は金属の持つ冷たさを嫌っていた．

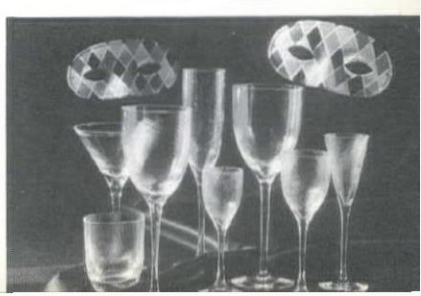
◉群の創り出す美

スウェーデン人は概して合理的であり，整合性を好む．　スウェーデン的なフォルムのベースになっているのも，これら合理性，整合性である．　例えば，4人用のダイニングテーブルには，4人分のテーブルウェアがきっちりならべられるようにデザインされているものが多い．　さらにキッチンの収納も，皿，カップ等が無駄なく収められるようデザインされている．　つまり標準寸法があるわけだ❻．　他の家具についても，レイアウト研究がよくなされていて，居間や寝室の寸法の標準化（即ち建材の標準化）が非常に進んでいる．　極言すれば，どんな家具を買ってこようとも，一応はレイアウトできるというわけで，いかにもスウェーデン人の好みそうな事ではある．　スウェーデンの家庭が高いレベルにあるとはいえ，あらゆる面で平均化，標準化されてくるのも無理はないと思う．　コントロールのやり過ぎだという声がないわけでもない．　このような傾向のもとに造られた製品の一つ一つは，スウェーデン的な気品がただよってはいるものの，そう個性的であるわけではない．　しかし，群としてまとまった時，それらはバランスの良さを示し，群造型としてもおもしろいものになるのは興味深い．　スウェーデンの建築法は歴史的建築物の保存を可能にしているが，この法はさらに，個々の建物としては歴史的建築物としての価値が認められなくても，群としてまとまっていれば❼，その地区全部を保存の対象とする事ができる．　これなどは，スウェーデン人が〈群の創り出す美〉について充分に注意深い事を証拠付けるものではないだろうか．

ローシュトランド社製の朝食テーブルウェア(p.10)にしても，一つ一つは何の変哲もない，普通の食器である．　しかし，これらをセットで見る時，しぼりたてのミルク，バター，半熟玉子，コーンフレーク……等よりなる朝食のイメージが，すがすがしいスウェーデンの夏の陽ざしと共に湧きあがってくるのは何故だろうか．　ガラス製品❽も，単体ではシンプルな形をしているだけに印象が薄いが，いくつか集まると透明な美を感じさせるようになる．　これら日常よく使う食器やガラス製品の中にスウェディッシュ・グレイスを見い出す人々は少なくないはずだ，と私は思う．

●今井一夫／建築家

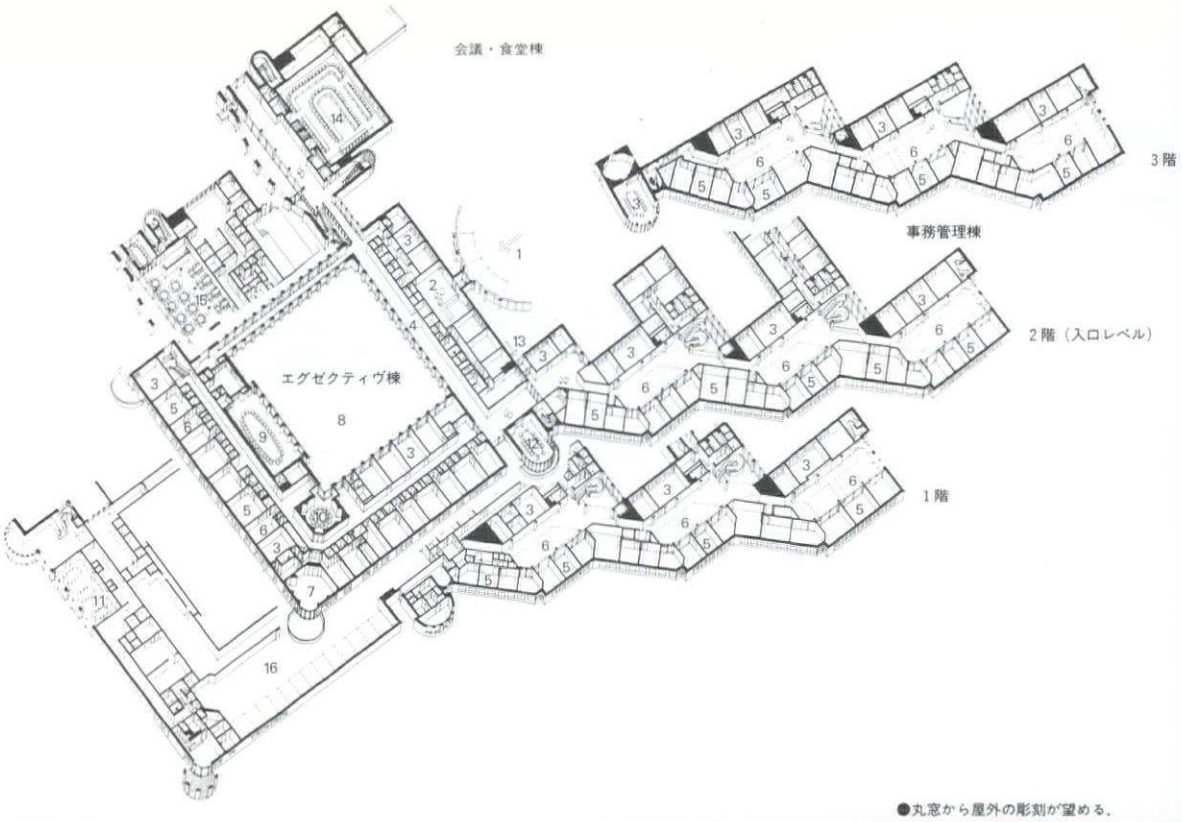
グレイス▼
イッシュ
ウエー▲デン



❽グラス／Kosta Boda社

北欧と地中海の気品あるブレンド

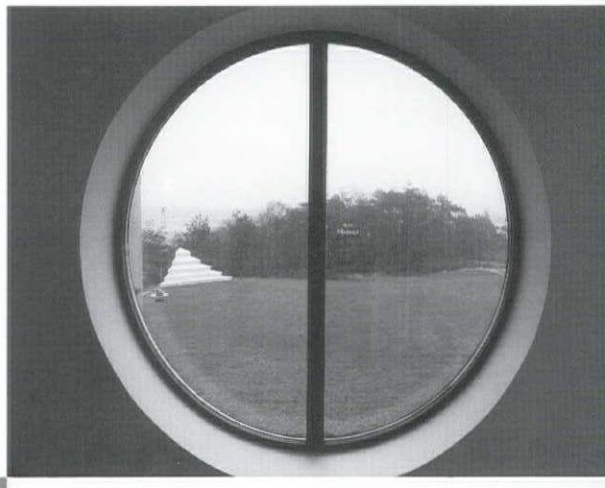
ボルボ社本部ビル



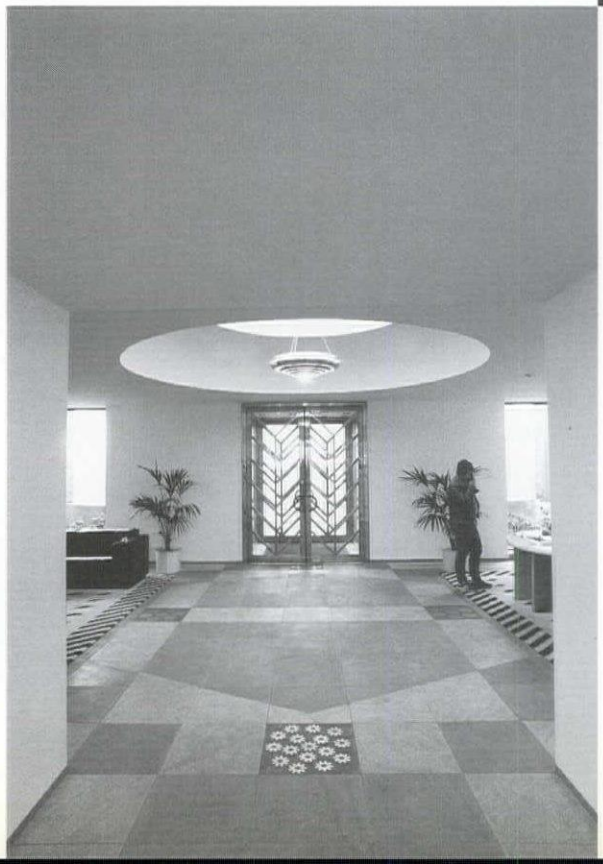
●アクソメ図

1 ポーチ
2 主入口ロビー
3 会議室
4 回廊
5 オフィス
6 秘書室
7 社長室
8 中庭
9 役員会議室
10 特別会議室
11 特別食堂
12 図書室
13 通用口
14 大会議室
15 食堂
16 駐車場

●丸窓から屋外の彫刻が望める。



●主入口。　扉はウッツォンのデザイン。　床に車の部品を埋設。



北欧の建物は閉鎖的である。アアルト然り，アスプルンド然り。　氷点下の気温と乏しい光の長い冬を耐え忍ぶには閉鎖的であらざるをえない。



●回廊．　右手の壁は，リン・ウッツォン作のロイヤル・コペンハーゲン製のタイル．　コバルトとプラチナの配色．



●会議室．　右手のバルコニーからは工場全景を見渡せる．　椅子はオーケ・アクセルソン．　カーペットはリン・ウッツォン．

●主入口からエグゼクティヴ部門への渡り廊下．　三方がガラスで外部と同然．



北欧に育ち，暮らした者ならば，このことは覆すことのできない事実だと認めるに違いない．　しかし，ヨーテボリのボルボの主力工場を一望のもとに見下ろせる小高い岩山の上にたつこの建物は，そうした常識を真向から覆したものだ．　実に地中海的だからである．　開放的な大きなガラス面．　各所の屋外テラス，中央の大きな屋外中庭とそれを囲む幅の広い回廊．　ふんだんに射し込む光．　正面入口や食堂前の衝立風の列柱スクリーン，等々．　こうしたことはちろん設計者のロマルド・ジョゴラの意図による．　長い冬を過ごすには建物が閉鎖的だといけない．　圧迫感が増すだけだからだ．　短い夏は，できる限り自然と触れ合えるような建物のあり方が好ましい．　いずれにしても，北欧の建物は開放的であるべきなのだ，というのがジョゴラの提案である．　言われてみれば納得のいく，常識の逆転．　もちろん全体の雰囲気は非常に北欧的である．　白を基調とした配色，スウェーデン製の家具，木のサッシ，等々．　このような地中海と北欧のブレンドによる新しいタイプの〈スウェディッシュ・グレイス〉の創造が，アメリカの建築家ジョゴラと，同じくアメリカの彫刻家ジェニファー・バートレット，デンマークの芸術家リン・ウッツォンという外人部隊の手によってなされたというのも，おもしろい事実として記すに値しよう．

Volvo Corporate Headquarters
Gothenburg, Sweden
architects : Mitchell／Giurgola + AKOS

流麗優雅な堅牢さを求めて

■

ボルボのカー・スタイリング

Volvo; Cars and Buses



ボルボが変わる。 ヨーテボリのボルボのデザイン・センターのショールームで〈ボルボ780〉を初めて見た時，少なからぬ驚きとともにそう感じた。 3年前，最上級車種として発表された〈ボルボ760ＧＬＥ〉のやや固くボクシーなフォルムは，対抗車種として考えられたメルセデス・ベンツに匹敵する高級感と風格を備えつつ，ボルボの誇る堅牢性，安全性を体験するに十分なものであった。 しかしどうであろう，〈780〉の流麗にしてまろやかなサイドビューは，テールランプ付近に幾分か〈760ＧＬＥ〉とのつながりが認められはするものの，外観に関して他の点では近年の一連のボルボの車種とはまったく趣を異にするのだ。 〈760ＧＬＥ〉が世界の潮流とは一線を画して，時代感覚を超越したところに独自のスタイルを主張しようとしたものであったのに対し，こちらの方は現代の動向を正確に見据え，その中から移ろい易いものを除去し，時代感覚にマッチしながらも時とともに褪せることのないスタイルに到達している。 徒な誇張がどこにもないフォルムは，おとなしい印象を与えるが，今の時代ではそのこと自体が強い個性となっているのではないだろうか。



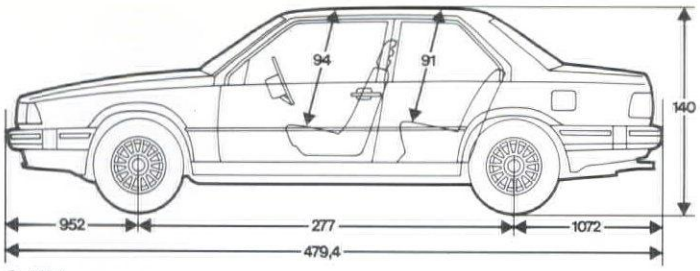


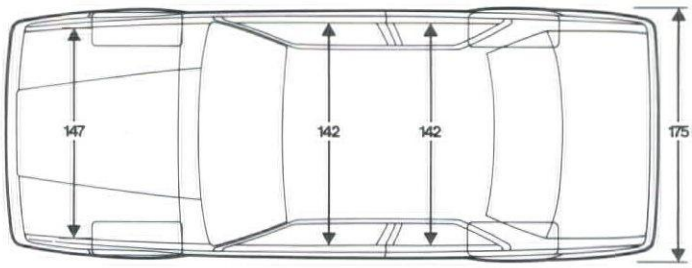
●〈760ＧＬＥ〉。 現在のボルボのフラグシップ・カーである。 ボクシーなフォルムが居住性を高め，安全性に貢献し，風格を生んでいる。





●レディメイドのツーリストバス〈C10M〉。 センター・エンジンは310馬力。 全長12m。



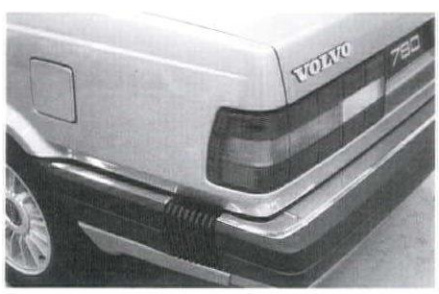


● 〈780〉





●電動の座席調節機構.





● 〈780〉. デザインはイタリアのベルトーネで，彼は1977年に〈262クーペ〉も手がけた. エンジンは2500ccターボV型6気筒インタークーラー付き，163馬力と，2400ccターボ・ディーゼル6気筒インタークーラー付き129馬力の2種.

空陸を駆ける高性能マシーン

■

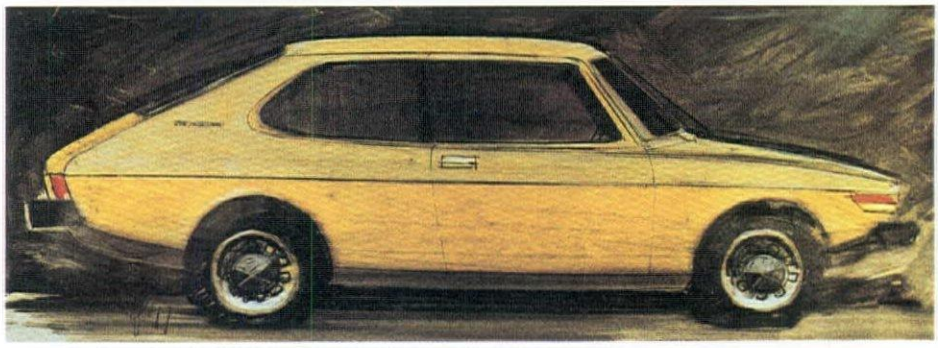
サーブの車とジェット戦闘機

Saab; Cars and Fighter Planes



●〈サーブ92〉の開発段階のスケッチ。　航空機の機体のようなサイド・ライン，フル・フェンダー，極端に小さいリア・ウィンドーなどに注目。　市販車は，2ストローク2気筒，764cc，25馬力のFF車。　全長391cm，全幅162cm，最高速107km／h．（右上）

●ハッチバックの〈サーブ99コンビ・クーペ〉初期スケッチ．（右）





●現在の主力車種〈サーブ900ターボ16〉。　ビヨルン・エンヴァルのデザイン。　〈99〉のコンセプトを殆どそのまま守りながら，ターボ標準装備の車として力強さ，高性能が強調されている。　全長4695mm，全幅1690mm，全高1425mm，水冷直列4気筒DOHC16バルブターボ2000cc，最高出力160馬力。　前席オートヒート，ヘッドライト・ワイパー，タイヤはピレリーP8．





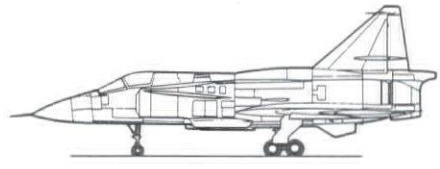
●〈サーブ9000ターボ16〉。　長いホイールベースの，大型で，広い室内と大きなトランクルームを有する新型車。　最高速220km／h。　エンジンは16バルブDOHCターボ，インタークーラー，APC，LHインジェクション．

シックステン・サッソンとビヨルン・エンヴァル．サーブのカー・デザインを語る時は，この２人がすべてである．　サッソンは航空機メーカーであったサーブ社（現サーブ・スカニア社）が車の生産に進出しようとした1940年代からデザイナーとしてかかわり，市販モデル１号車種〈サーブ92〉に始まり〈サーブ93〉を経て1960年より販売されたロングセラー車〈サーブ96〉に至る主力車種の他，すべてのサーブの車をデザインした人である．　それらの主力車種はいずれも航空機の機体を直接に連想させるような，ややフロント・ヘビーの丸まっこい流線型クーペ・タイプで，速さと強さを感じさせながらもどこか愛嬌のあるボディ・ラインを持ち，転変激しいカー・スタイリングの中で独自の位置を築いたものであった．　サッソンは驚くべきことに50年代の末には，まったく新しいイメージの車を構想していた．それは，弟子である早熟の天才デザイナー，ビヨルン・エンヴァルの手で完成に導かれ，1967年に〈サーブ99，現90〉として市販された．　〈99〉は全体としてはウェッジ・シェイプのボディといいフロント・ガラスの曲面といい優れて現代的でありながら，奇妙とも言える独持のラインによって他の車種とは隔然とした違いがもたらされている．　市場性を意識する余り画一化に陥りがちな，あるいは個性化を狙う余り過度なデザインに走りがちな現代の車の中で，〈サーブ99〉は例外的に中庸さの中にも，まぎれのないユニークさを持ったものだと言えよう．　その後，ストリート・ターボの先駆けとなった〈サーブ99ターボ〉，さらにより大型の〈サーブ900〉，そしてフィアット／ランチア，アルファロメオと共同開発の〈サーブ9000〉と進んで現在に至っていることは改めて記すまでもないことであろう．











●サーブ社の戦闘機は常に性能とスタイルの両面において新しい頁を開いてきた．　この〈サーブ37ヴィッゲン　Viggen〉は，1967年初飛行の超高性能戦闘機．　Pratt & Whitney／Sfa JT8Dターボファン，アフターバーナー付き．　マッハ２，着陸滑走距離500m，同離陸400m．　揚力を高めるための，フラップ付きの前方補助翼と後方主翼の組み合せが非常にユニーク，かつ美しい．（上写真と図面）

●〈JAS39グリペン　Gripen〉．　サーブが中心となって開発中の戦闘機で1987年には試作機が完成の予定．　写真は模型．　重量化，大型化の道をたどってきたジェット戦闘機の流れに新しい展開を生むべく考えられた，軽量，小型，高性能の戦闘機で，かつ空中戦，偵察等，多目的な任務を一機でこなす．　重さ８トン，全長14m，翼長８m．（左）

●表紙の図面は，〈サーブ35ドラケン　Draken〉．　スウェーデン最初の超音速戦闘機で巡航最高速マッハ1.8．　ダブル・デルタ状の翼がまことに新しく前衛的だった．　史上に残る名作．

軽(かろ)みのアンサンブル

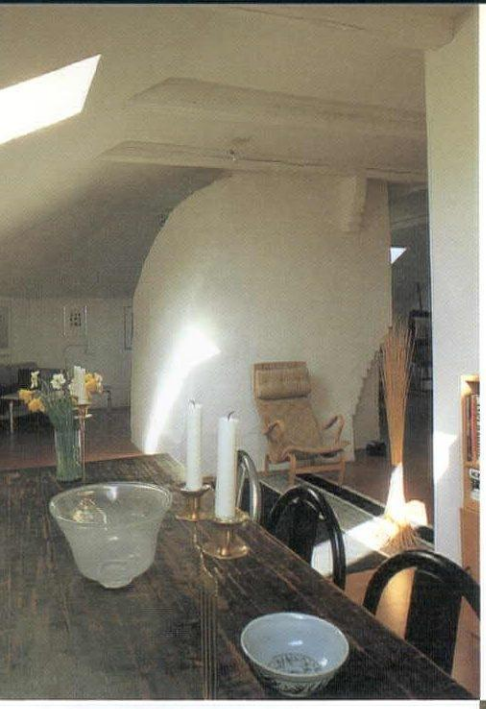
彫刻家のサンデルの住宅はストックホルム市内のアパートの最上階にある。広間のほぼ中央に，小山のような格好の今は使用されていない暖炉の煙突が白漆喰に塗り込められて存在している。部屋の中は，30年代の家具と彼自身の作品と，そして彼が日本を訪れた際に収集した日本のものとが入り混じっているのだが，異和感はまったくなく，軽(かろ)みのアンサンブルとでもいえる状態が現出している。ものの原初の状態に対する尊敬の念さえあるならば，その形が異なったとしても互いに排斥しあうことはないことを知らしめてくれるようなインテリアである。

彫刻家としてのサンデルは，和紙，鉛，砂岩，金箔などの微妙な触感と色とを好み，日本的な風流さえ感じさせる作品を70年代半ばから作っている。

●天窓の下のテーブルはウィルヘルム・コーゲの製図台。右手前の1930年代の椅子はがらくた市で見つけた。



彫刻家
ニルス・グンナル・サンデル
自邸



●右手奥にはブルーノ・マットソンの椅子，その手前にサンデルのオブジェが置かれている．

●中央の彫塑的な壁は白漆喰に塗りこめられた暖炉の煙突．　右手奥の粘土製トーテムポール，左手のオブジェ，ともにサンデル自身の作品である．

月に届いたカメラの神話

HASSELBLAD®

■

ハッセルブラッドの6×6判カメラ

Hasselblad; 6×6 Cameras

ハッセルブラッドはカメラの神話そのものである．あらゆるプロフェッショナルがハッセルにあこがれ，ハッセルで撮られた写真には特別な意味さえ与えられた．　歴史は第二次大戦中にスウェーデン空軍の要請によって，ヴィクトル・ハッセルブラッド氏が小型高性能のカメラの開発に手をつけたことに始まる．　ロール・フィルムが使用でき，かつマガジン・バックでフィルム交換可能であること，視差がないこと(一眼レフ)，小型軽量であること，レンズ交換可能なこと，そしてもちろん4×5に劣らない質の画面が得られること．　これらをすべて満足したカメラが1947年に誕生した〈ハッセルブラッド500C〉である．　神話が作り上げられるのは早かった．　超高価な値段さえもが神話の形成に与したのである．1969年7月20日，アポロ計画の宇宙飛行士が月面着陸に成功した時，彼らの手にはハッセルがあった．神話は月にまでも届けられたのだ．　精度，耐衝撃性，人間工学的配慮，等々，粋を極めた技術の産物としてのスタイルもまた，美しさの極みに達している．



● 〈ハッセルブラッド500C/M〉．　システムの基本カメラ．　CFレンズ，Cレンズ装着可．　CFレンズ14種はすべてカール・ツァイス社製．　ビューファインダー，フォーカシング・スクリーンは交換可能．ボディのみの部品数444．



●〈ハッセルブラッド500EL/M〉．　モーター内蔵自動巻きを上げ機構．　1分間に70枚の連続撮影．リモートコントロール可能．　レンズ等は〈500C/M〉と同様．　ボディのみの部品数578．



●〈ハッセルブラッドSWC/M〉．　ビューファインダー，レンズともに固定．　レンズはツァイス38mm，f/4.5ビオゴンCF．　ボディのみの部品数294．



●〈ハッセルブラッド2000FC/M〉．　シャッター・スピード1／2000を可能にした電子制御式フォーカル・プレーン・シャッター．　レンズ等は〈500C/M〉と同様．　Fレンズも装着可．　ボディのみの部品数846．

機体から制服に至るイメージ作戦

SAS

●新しいロゴタイプ．　ダークブルーの文字に金の陰．

■

スカンジナビア航空のCI計画

The New CI Program of SAS

航空会社にとってコーポレート・イメージは極めて重要である．　競合が激化するに従い，運賃，サービス，安全性など以上に，コーポレート・イメージが効力を発揮する．　それはたんに識別マークであることを超えて，サービスの質や内容を示すものだからだ．

ＳＡＳは1983年秋，〈ニュールック〉と称するコーポレート・イメージの全般的な更新の計画に着手し，今や完成に近づきつつある．　それは，ロゴ，機体，キャビン，クルーの制服，地上のチケット・オフィス，地上の車輌，印刷物など直接に客の目にふれるところはもちろん，それ以外のすべての部分を含むものである．



●冬用制服．　100%ウールのネイビーブルーのサージ．　女性用は金ボタンがアクセントの折り返し襟つきジャケット．　ブラウスはスタンディング・カラーで，翼形のピンで取り外し自由のアスコット・タイがつく．　フェルトのベレー帽は夏冬兼用．　男性用はバック・ベントなしのダブルのブレザー．



●左が冬，右が夏用の女性の制服．　夏用は冬用とデザインは同じで，チャコールグレイのギャバジン．　靴，バッグ，ベルト，手袋はボルドー色の皮製で，夏冬兼用．

新しい制服はカルバン・クラインによる．　色は黒，ネイビーブルー，タウペ，チャコールグレイ，ボルドー，白，そしてアクセント・カラーに金．　素材はすべて天然のウール，コットン，シルク．　季節に制約されない組合せの自由さが追求されている．　デザインは控え目なセミ・ミリタリー調．



●夏用コート．　女性用はタウペと呼ばれるグレイ・ベージュ色のコットン・ポプリン．　取り外し自由のケープつき．　男性用は黒のコットン・ポプリン，ダブルのトレンチ・コート．　両方ともライニングをつけられる．



●ブルーに白のラインの椅子の張地．　カーペットも同系色．



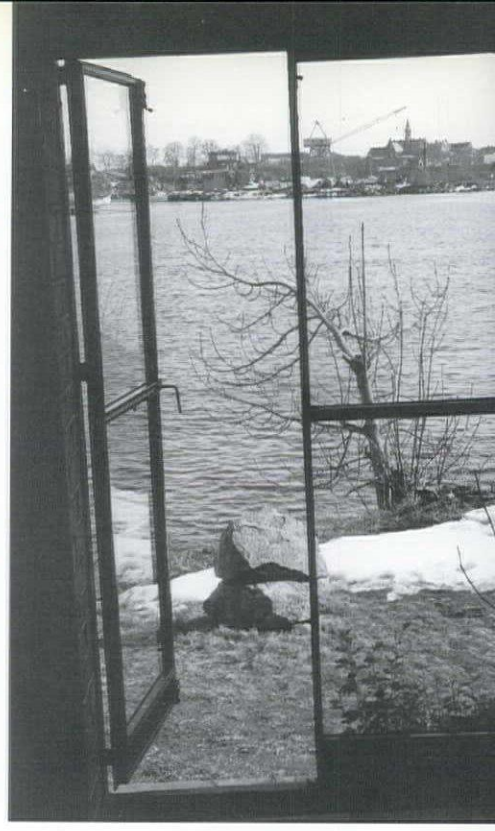
●白い機体にスカンジナビア３国（スウェーデン，デンマーク，ノルウェー）の国旗と同じ色の太いカラー・ストライプをあしらったデザイン．



●銀座のチケット・オフィス．　椅子やカウンターなど手に触れるところは木としている．　カーペットはダークブルーに白のストライプ．　全体にブルーのグラデュエーションの中に原色のアクセントカラーがごく僅かに散りばめられている．

岩陰の隠れ家





テキスタイル・デザイナー
ペーテル・コンドゥ自邸

テキスタイル・デザイナーのペーテル・コンドゥ（→p.26）は，身体の一部と化してしまっているかのような古色蒼然たる自転車を脇にして，私達をグランド・ホテルの前で待っていた．　グランド・ホテルといえば，王宮を目の前に望むストックホルム市内の一等地にある建物だが，彼の家はそこから国立美術館の前を抜け，橋を渡って東洋美術館，建築博物館，現代美術館，などのあるシェップスホルメン島を横断してさらに橋を渡り，小島にある．　ホテルから徒歩わずか6分．　つまりは市内の真只中にある訳なのだが，実は都会の喧噪とはまったく隔絶されながらも，その繁華のきまを目前にすることができる絶妙の立地にあるのだ．ストックホルムでもたった1点しかないであろうような奇蹟的な立地である．

もともとシェップスホルメン島には外海からストックホルムにせまる敵船を迎え撃つ軍事上の要塞があった．　従って民家など無かったし今も無い．　コンドゥの家はもとは兵器庫だったのである．　最も人目につきにくい岩陰のほんの僅かの平地にこっそり置かれたレンガ小屋．　むき出しの，急にそそり立つ岩々のみがレンガ小屋を兵器庫として成り立たせしめていたのだが，それは現代のアーティストにも最良の隠れ家を提供しているのである．　この家には，レンガの壁と鉄の扉とおよそ16個の窓，たったこれだけの要素しかない．　窓によって切り取られた自然の景観．それがすべてなのだ．　近景はスウェーデンの原風景そのもの．　つまり，鉛色の海と強固な岩，たくましく生き延びる茎の細い植物，朽ち落ちそうな船着き場．　そして遠景はというと，夏ともなると電飾まばゆいチボリ公園，行き交う遊覧船，丘の上にはスカンセン民家村，左手には海底から引き上げられたヴァイキング船のヴァーサ号のドック，その向こうに北方民族博物館の威容．　北欧一の都会の栄華喧噪のパノラマを前に，厳しくも物悲しいスウェーデン特有の地形の中に身を置く．こんな贅沢なことが現実のものとなっているのが，このコンドゥの家である．　彼はその贅沢を最大限に味わうべく，最小限のシンプル・ライフを実践していた．

モダン・クラシックの建築

◉ストックホルムのモダン・クラシック建築

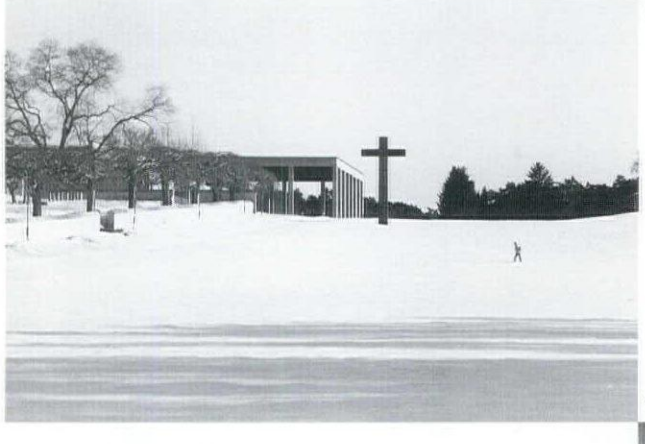
1910年から30年代にかけてストックホルムに建てられたモダン・クラシックの建築はどことなくしゃれ気があり，粋で上品だ．歴史的なスタイルをまとっているが，どこかモダンな雰囲気を漂わせ，不思議な印象を与える．　1920年代のイギリスの建築家であり，評論家でもあるモートン・シャンドは，このような建築をスウェディッシュ・グレイスと名づけたが，それは実に言い得て妙である．

作品にはよく知られたものとして，アスプルンドの市立図書館❶，森の礼拝堂，スカンディア映画劇場やテングボムのコンサートホール❶などがある．　また建築家としてはこの2人の他に，エストベリ，ラレルステッド，レヴェレンツ，ニルソン，ベルグステン，ヨハンソンらが挙げられる．　彼らの作品に共通している大きな特徴は，古典主義的なモティーフを使用しながら，なによりも重々しくなく軽やかだということである．　彼らにとって問題なのは古典主義的な形態や装飾そのものでなく，歴史的なヴォキャブラリーをいかに独創的にコントロールするかという，知的で感覚的な技法にある．　そのような建築はモダンな要素と古典主義的なモティーフが入り混ざって，より豊かな空間体験を与えるものとなっている．　更に多くの作品において，同時代の近代建築の精神からは排除されてしまったようなイメージの世界に対する志向が強いのである．

たとえば，スカンディア映画劇場はその基本的なコンセプトとして，夜の空を，コンサートホールは昼の空をそれぞれイメージした内部空間をつくることにある．　同じスカンジナビアのデンマークのカンプマン設計のコペンハーゲン警視庁と同時期のスウェディッシュ・グレイスと呼ばれるモダン・クラシックの建築を比較すると，これまで述べてきたことがよくわかるだろう．すなわち前者はそのスケールの圧倒的な巨大さが古典主義そのものであり，記念碑的性格を獲得するものとして古典主義をとらえているのに対して，後者にはこうしたものがほとんど見られないのである．　スケールの巨大化というよりはスケールのアンバランスな引き伸ばしがみられる．　さらに後者は素材そのものの質感に頼るのでなく，壁を抽象化された面として考えている．こうした方法はあきらかにモダンな建築のとらえ方である．

◉ベルグステン——リリェヴァルエ美術館

この時期の初期の作品で，後にストックホルムにおける最初の近代建築と評価されたリリェヴァルエ美術館❸はとりわけ注目に値する．　それはベルグステン34歳のときの，今から70年程前の建物であるにもかかわらず，今見ても実に新鮮だ．　それはスウェディッシュ・グレイスと呼ばれる一連の建築のなかでももっとも完成度の高い作品の一つである．　その建物のポイントはベルグステン自身が述べているように，異なった大きさの矩形の部屋の配置と光の取り入れ方にある．　考えだされたトップサイド・





❹カール・エルデのアトリエ，1918／R.Östberg



❺海事歴史博物館，1931／

グレイスト・



❷森の火葬場，1940／E.G

❶ストックホルム市立図書館 1928／E.G.Asplund

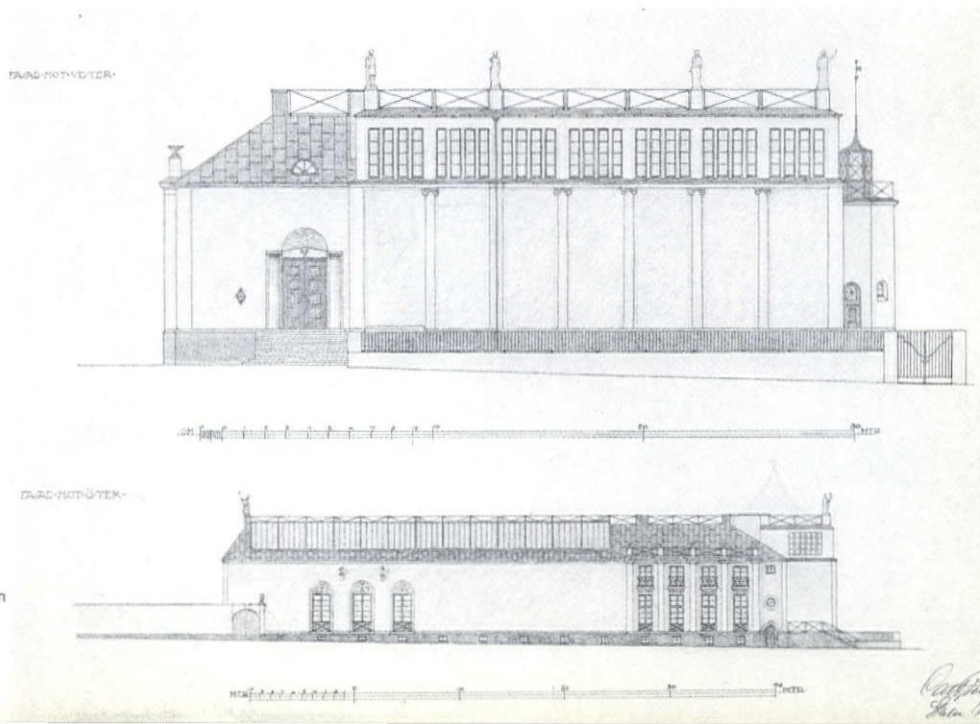
グレイシ



ライトのデザインは1913年という時点でとらえてみても，実に透明感があり，あくまでもモダンだ．しかもそのトップサイド・ライトには，冬期には融雪装置が夏期には展示室が暑すぎないように換気設備が，それぞれ十分働くように工夫されている．そのトップサイド・ライトと簡略化されたドリス式オーダーとが並列されている内部空間には，近代的なものと歴史的なものが異和感なく存在していて，いったいこの建物がいつ頃たてられたのかわからないような，時間を超えた不思議な新しさがある．つけ柱，ロマネスク式アーチ，ドリス式オーダーのならぶロッジアという歴史的モティーフはできる限り単純化されている．総てにわたってほどよく制御されたクールな秩序が支配しているといってよい．

◉エストベリ——彫刻家エルデのアトリエと海事歴史博物館

エストベリの作品のなかでは，彫刻家カール・エルデのアトリエ④と海事歴史博物館⑤が重要である．前者では市庁舎のめくるめくほど変化に富んだ表現が，その基本的な考えは同じで，もっと整理された明確な構成に置きかえられている．これは市庁舎よりも前に完成しているから，1910年から20年代にかけてのエストベリの建築表現がいかに多彩であったかを物語っている．そこでは円と異なる大きさの長方形の幾何学的形態がからみあい，そして過去と現代を表現する三つの異なるかたちの屋根がそのまま対立させながら配列されるという方法がとられている．海事歴史博物館では，ほとんど平らといってよい薄い板状の屋根が白い壁体の上に軽くふわっとのせられている．市庁舎の質感のある赤い煉瓦の壁がなめらかな白い壁となった．素材のコントラスト，表面への強い関心といった特徴が消えている．シンメトリーの平面，きわめてゆるやかな円弧をえがく細長い翼



❸リリェヴァルエ美術館，1913／C.G.Bergsten

と交差する中心部という構成の原イメージは，もしかしたらパラディオの作品にあったかもしれない．　また1階の大きな縦長の窓は窓台に持ち送りがつけられていて，幾分バロック的な表情をもっているとしても，全体としては窓が白い壁の穴というより外側からとりつけられたように収められ，あくまで均一な立体であることを強調している点からわかるように，より抽象化が進められているモダンな作品といえるだろう．

◉テングボム，ラレルステッド，レヴェレンツ

テングボムはスウェディッシュ・グレイスの建築家たちのなかではその優雅さの点でもっとも際立っている．　コンサートホール⓫では，その内外部においてコリント式オーダーを極端にすっきりと細長く引き伸ばすという折衷主義的な操作をみせている．その内部には，すでに述べたように昼の空をイメージして，あたかも切りとられた一つの絵の様な，もう一つの外部世界が存在する．　日常的な世界と切り離したイリュージョンの中に人々をまきこもうとする建築家の強い意図が感じられる．

ラレルステッドの法学，人文科学学部の建物はきわめてコンパクトな平面をもち，経済的で空間の使い方に工夫がなされている．　建物として要求される基本的な条件を十分追求した上で，古典的なモティーフがちりばめられている．　たとえばドリス式オーダー，ペディメント，頭身像であり，単純な角柱に柱頭をのせたものであり，壁面に面一に収められたつけ柱であり，バラエティーにとんでいる．　それらは過剰な装飾の露出というより，古典主義的なヴォキャブラリーに対する建築家のアレンジの仕方，配列の巧みさを示していることに他ならない．　ここにもスウェディッシュ・グレイス特有な自由で楽しい歴史主義という性格がみられる．

レヴェレンツの復活の礼拝堂⓬は，アスプルンドの森の礼拝堂が大地に深く根をおろすイメージがあるのに対して，天に舞い上がるような上昇感をもっている．　ポルティコの背後の部分は極端に引き伸ばされたプロポーションの単純な形態をもち，重々しいペディメントのかわりに薄い屋根が軽くのっかっている．　異なるスケールのオーダーとペディメントというモティーフの繰り返しの使用，ほとんど開口部をもたない立面，そしてポルティコの配置を含めた単純な平面などに，レヴェレンツの独自性がみられる．



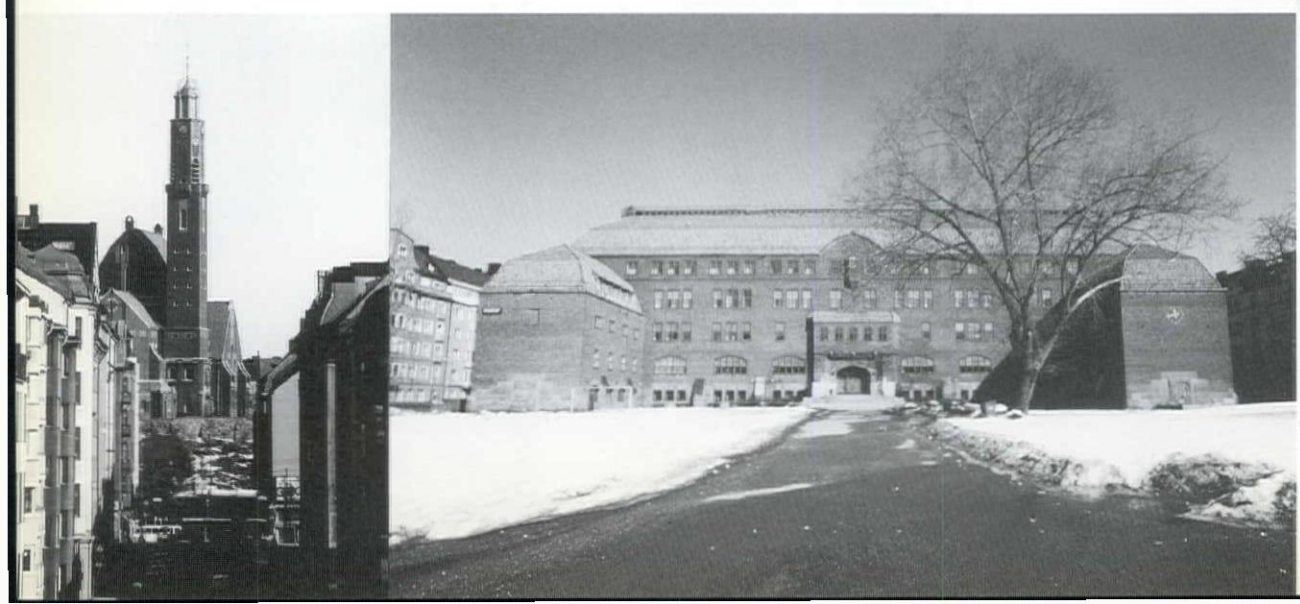
⓫経済学部校舎，1925／I.Tengbom



⓬復活の礼拝堂，1923／S.Lewerenz

◉近代建築の一つの相——知的歴史主義

1910年から30年代にかけては今世紀のもっとも活動的な近代建築の揺籃期であった．初期のいわゆる近代建築は産業構造の変化に十分合致した，機能主義的な建築理論に支えられた，機械のイメージを追求する建築をめざした．　当然そこでは，それらと対立する歴史的な要素やスタイルを排除しようとした．　しかし実際にはそうした傾向は，必ずしも総ての地域において同じように進行していったわけではない．　歴史的なもの，伝統的なもの，ヴァナキュラー



❻エンゲルブレスト教会，1909／L.I.Wahlman（左）
❼エステルマルムの学校，1906／R.Östberg（右）

なものなどが新しい感覚で処理されていたし，とにかくとても多彩な状況が存在していたわけである．　つまり広くながめれば，もともと近代建築とは実にさまざまなレベルのモダンな建築を内包していたわけで，すべてがインターナショナル・スタイルに収斂されるものでなかったのである．

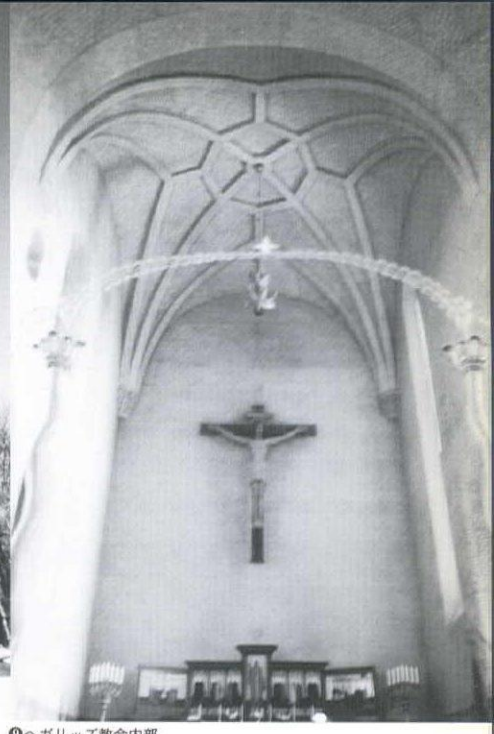
それだからこそスウェディッシュ・グレイスと呼ばれるモダン・クラシックの建築を，いわゆる本流としての近代建築に対する支流として位置づけたり，あるいはインターナショナル・スタイルに至る単なる過渡的現象にすぎないと消極的に評価したところで，それ自体はたいして意味がないのである．　それよりも大きな近代建築の枠組みの中の一つの相として，他のあらゆるものと等価に考えることの方が重要なのである．

今はポスト・モダンの時代であり，それには三つの流れがあるという指摘もなされている．　すなわちハイテック，レイト・モダン，ヒストリシズムである．　前の二つはいわゆる初期近代建築の構成言語を再度見直して，それを更にリファインさせようとするものである．　後者は歴史的なヴォキャブラリーを積極的にとり入れようとするものであり，いかに知的に歴史的な要素やスタイルを使うかが問題となってくるのである．　同時にそれは建築を文化と深くかかわりのあるものとしてとらえ，芸術的な要素を積極的に評価するものでもある．





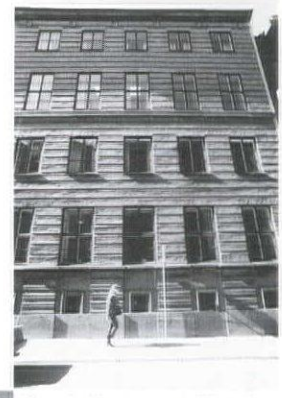
❽ヘガリッズ教会，1923／I.Tengbom



❾ヘガリッズ教会内部

そこでスウェディッシュ・グレイスなる建築の存在価値が浮かびあがってくるのである．　確かにそれは，時代的には完全に近代建築をつきぬけていないから，ポスト・モダンの中の歴史主義とは異なるかもしれない．　しかしそれは単純に古典様式をリヴァイヴァルさせるのでなく，モダニストたちの眼を通して歴史的なヴォキャブラリーを新たに創造している点で，知的な歴史主義であり，モダンな歴史主義といえるだろう．　だからこそ今の我々の眼にも刺激的に見えるのである．　ストックホルムのモダン・クラシックの建築家たちは，近代建築の教義にとらわれるよりも，きちんとしたルールにとらわれない自由で空想にあふれた楽しい建築をつくる方を選んだ．それはいいかえれば，建築というものを，ギリシャ，ローマの古典から現代までのできる限り長いスパンでとらえようとすることに他ならなかった．

●宗 幸彦／建築家



⓬マッチ会社ビル，1928／I.Tengbom



⓫コンサート・ホール，1926／I.Tengbom

▼スウェーデン・デザイン
現代スウェーデン・デザイン

ベルイマンの映画に見る風景

◉最新作〈ファニーとアレクサンデル〉

先日，私はイングマル・ベルイマン監督の映画を久し振りに観た．〈ファニーとアレクサンデル〉[1]というベルイマンの自叙伝的な映画で，上映時間５時間11分，最近では珍しく長いものであった．ベルイマンの生まれ故郷でもあるスウェーデンの古都ウプサラ，1907年，その地の上流階級エクダール家の大クリスマス・パーティーでこの映画は始まる．ベルイマンの幼少時代の投影であろう，エクダール家の10才になる孫アレクサンデルと，その妹ファニーを中心にエクダール家物語が展開されていく．この映画には，ベルイマンが今まで創ってきた作品のテーマがほとんど出そろっていると言ってもよい．男女間，親子間の愛と憎しみ，父，母，家族，女，強い女，社会的仮面，死，神の不在……，まさに〈ベルイマンの総て〉である．ここまでくるといささか商業主義に乗りすぎている感がしないでもないが，ベルイマン・ファンを堪能させる事は間違いないだろう．ただし，この作品にはベルイマン映画特有の観賞後に覚える重苦しさはない．ある種のなごやかささえ感じる．ベルイマンの映画としては珍しいハッピー・エンドなのである．北欧の冬の曇空のようなベルイマンも歳をとって丸味が出てきたという事なのか，或いは彼にとって最後の作品という事で，自分自身に対して拍手を送っているのか……，エクダール家の大パーティーがこの映画のラスト・シーンになっている．この映画は，1984年幾つかのアメリカ・アカデミー各部門賞を受賞し，フランスやイタリアでも数多く受賞している．



❶映画〈ファニーとアレクサンデル〉

◉監督イングマル・ベルイマンと映像

ベルイマン（1918年生まれ）は国際的には映画監督として有名であるが，スウェーデン国内では舞台監督としても有名であり，かつシナリオ・ライターでもあり王立演劇大学の学長をしていた事もある．映画監督としては1946年以来40本以上の作品を世に送りだし，カンヌ国際映画賞，ヴェネチア国際映画賞，アメリカ・アカデミー賞等を何回か受賞している．日本においても，〈不良少女モニカ〉，〈第７の封印〉，〈野いちご〉，〈沈黙〉等が1950年代から60年代にかけて紹介され，最近では〈叫びとささやき〉，〈ある結婚の風景〉，〈魔笛〉，〈秋のソナタ〉，〈鏡の中の女〉が上映されている．

私はかなりの本数，ベルイマンの映画を観ている．が，特に彼の作品が好きだったわけでもない．1970年代初め，私が王立ストックホルム工科大学に学んでいた頃，安く映画が観られるという理由だけで，ストックホルム大学映画学科の聴講生になったが，そのため１年に200本近くの映画を観る破目になってしまった．世界各国の有名監督毎にシリーズで観せられたが，シネテック所有の映画の種類と数の多さに驚いたものだった．中には日本の監督の作品で，もう日本では観られないようなものもあった．ベルイマン特集もあり，まとめて彼の作品を観る機会を得た．その時，ベルイマンの映画は，当時の他のヨーロッパの監督の作品――例えば，ブニュエルのシュール・リアリスティックな映像，ゴダ



❷映画〈野いちご〉



❹映画〈夏の夜は三たび微笑む〉

グイ▼スウェ
レッシュ・デ
イシウエー
ス▲ユ

ールのドキュメンタリー・タッチの映像，ルノアールの絵画的な映像――とは大きく違っているという印象を持った．　たまに北欧神秘主義的な幻想的シーンがあるにしても，ベルイマンの映像は，概して，平凡な，日常的な，淡々としたシーンの連続なのである．　その意味では日本の小津安二郎監督を思わせるが，ベルイマンは，さしてドラマチックでない台詞や，日常的なシーンを積み重ねる事によって，あの絶望的なやり切れない彼の世界を，構築してしまうのである．　スウェーデンの文学者オーギュスト・ストリンドベリ（1849～1912）のテーマによく似ているところがあると思っていたが，実際ベルイマンは一時期，ストリンドベリの研究をかなりしていたし，舞台ではストリンドベリの作品を多く演出している．

◉ベルイマン映画に見る風景とテーマ

〈野いちご〉(1957) の映像は特に印象深い．ベルイマンはこの映画で画像による精神分析を試みたと言っている．　イサックという79才の老医師の１日がストーリーであるが，現在と過去が交互に現われる，いわゆるフラッシュ・バック手法で構成されている．　冒頭シーンのイサックの夢，――街頭にかかる針のない大時計，転倒する黒塗りの馬車，馬車からずり落ちる棺桶，蓋の開いた棺桶の中をのぞきこむ主人公自身イサック．　棺桶の中にはイサックが横たわっている――．　背筋が寒くなるようなシーンである．　映像は死の世界を語っているが，ベルイマンはスウェーデンのどこにでもあるような田舎町の街頭を写すだけでこれを表現している．　イサックの追憶――幼少時代の食事風景[2]――は別の意味で印象深い．　ダイニング・ルームの雰囲気がスウェーデンの画家カール・ラーション（1853～1919）の描く世界[3]にそっくりである．　フランスの影響の強い，白ペイント仕上げ，布張りの家具，床の敷物，レースのカーテン，ランプ……．　このような家具は〈夏の夜は三たび微笑む〉(1955) や〈叫びとささやき〉(1973) 等の映画にもでてくるし，〈ファニーとアレクサンデル〉のエクダール家の家具も，ブルジョワ好みの同じタイプのものである．　ストックホルムの高級マンション街ウステルマルマ地区や，郊外の高級住宅地ユーシュホルム島に行けば今でもお目に掛かれる家具である．　おそらくグスタビアンスク・スタイルと呼ばれているものと思われるが，このタイプの家具へのスウェーデン人の好みは依然強い．ただし骨董品並みの値段が付いていて，そう簡単に入手できるわけではない．　ベルイマンの映像にはモダン・ファニチュアの類がほとんど出てこないのは少々興味深い．ベルイマンの父親は教会の牧師であったというからベルイマンは上流階級の出という事になる．　ベルイマンにとって家具とは，こうしたクラシックなものだったのかもしれない．



❸カール・ラーションの描く世界

ベルイマンの作品に繰り返し出てくるテーマ，〈神の不在〉は彼の幼少時代の環境がはぐくんだものであろうが，教会の影響はよく彼の映像に現われる．　それは中世の教会であり，厚い石の壁や鉄格子が彼の幼少時の体験を象徴する．　〈第七の封印[5]〉(1956) はベルイマンが子供の時，教会で見た中世絵画の思い出を表現した作品だと言われているが，幻想的なシーンが多く，北欧神秘主義的なものを強く感じた．

ベルイマンの映像から，スウェーデンの彫刻家カール・ミレス（1875～1955）による彫刻を想い起こす事がある．　ミレスの作品はストックホルムではノーベル賞授与式を行うコンサート・ホール前や，スウェーデンの建築家グンナル・アスプルンド（1885～1940）設計の森の火葬場の中に在るし，リーディンゲ島のミレス・ゴルデン[6]に行けば数多く観る事ができる．　日本でも箱根の〈彫刻の森美術館〉に彼の作品が

▼スウェーデン・デザイン▲

在る．　優雅なラインの，飛翔感の強い彫刻が多いが，神を求めるイメージをそこに見い出す人は少なくないと思う．

◉スウェディッシュ・ロココの世界

ベルイマンはなかなかカラー映画を手がけなかった．　〈鏡の中にある如く〉(1961)を創る際，最初カラー使用を考えたそうであるが，この時精神分裂症の主人公を演じる女優ハリエット・アンダションの顔が，カラーではあまりに生き生きと映ってしまう，という懸念で取り止めてしまったそうである．　その後ある日，遊びに来ていた15歳になる女の子が「映画はカラーでなくっちゃ」としゃべっているのを聞いて，次の作品をカラーで撮ることを決心したと言う．ベルイマンらしくない時世への乗り方だが，案外これが真相なのかもしれない．〈情熱〉(1969)は彼のカラー映画２作目であるが，私は正直言ってこの映画には失望した．　映像もストーリーも全くもってモノクロ的な印象を受けたのである．　バルト海に浮かぶ島――ゴットランド島ではないかと思うが――での４人の男女に起こる心理ドラマで，人生のたそがれを強く感じさせるストーリーであった．　その上，映画の中の季節もどうしようもない位絶望的なスウェーデンの冷たい晩秋である．　ベルイマン映画はモノクロでないと駄目なのかとも思ったものだが，次に観た〈叫びとささやき〉(1973)ではすでにベルイマンはカラーの特質を充分に彼の映像に生かしていた．　スウェーデンの上流階級，男女間の愛と憎しみ，死，といったお馴じみのテーマではあったが，カラーの映像に新しいベルイマンの世界を観た思いがした．　ショットのかわりざまに，はっとするようなカラー・コントラストを示すシーンが度々現われた．　屋敷の中，白い壁と真紅の緞帳とか，秋の青い空に黄金色の樹木等のシーンは何かスウェディッシュ・ロココといった感じさえした．　このスウェディッシュ・ロココ調は，〈ファニーとアレクサンデル〉中のエクダール家の大クリスマス，夏の別荘，ラスト・シーンの大パーティーシーン等に華やかに映し出される．

◉白夜の幻想

白夜シーンもベルイマンの映画によく出てくる．　もっとも〈沈黙〉(1963)や〈蛇の卵〉(1977)を除いてはベルイマンの作品の舞台はほとんどがスウェーデンであるから，白夜が出てくるのは当然なのかもしれないが．白夜とは本当に幻想的な体験である．　夕暮や早朝の明るさでもないし，もちろん昼間の明るさではない．　ぼーっと明るく，影も薄くしかできない……ちょうど夢の中にいるような気分になる．　〈不良少女モニカ〉(1952)〈夏の夜は三たび微笑む〉〈鏡の中にある如く〉等に白夜シーンは出てくる．特に〈不良少女モニカ〉は夏のストックホルム近辺の島々をモーターボートで遊び回る，というストーリーだけに白夜のシーンが多かったが，コントラストの弱い，薄明るい映像は北欧ムードでいっぱいであった．〈ファニーとアレクサンデル〉にも白夜のシーンが出てくるが，やはり全体的に白っぽい映像になっていた．　夜中，ベッドから抜け出た孫達がおばあさんと話をしているが，窓の外は薄明るい，このシーンを観て，白夜だと気付かなければ，随分不思議な思いをする事になる．　カール・ラーションの絵にも，全体に白っぽいのが幾つかあるが，そのムードからして白夜を描いているものと思われる．

◉スウェーデン文化の反映

ベルイマンの映画についてはすでに多くの人達が解説・論評を行なっている．　故に，ベルイマン論はさておいて，私は自分が観た範囲で，彼の映画を別の角度からながめてみた．　私は，ベルイマンはスウェーデンの中では特異な存在だと思っていたが，案外他のスウェーデンの芸術家達と似たようなものの捉え方をしているところもある事がわかり，スウェーデン文化の土壌を改めて考えさせられた．

●今井一夫／建築家



❺映画〈第七の封印〉



❻リーディンゲ島にあるカール・ミレスの彫刻

▼スウェーデン▲

劇的に訪れた春は スウェディッシュ・グレイスの世界だった。

話に聞き，文章を読んだことはあるのだが，湘南育ちのためか，春の訪れに欣喜雀躍した覚えはない．　蕗のとうが顔を出し，春一番が吹き，春雨に濡れるという具合に，いつも春はいつの間にか，はっきりとした区切りもなしにやって来ては去って行く，そういったものだった．　今度スウェーデンを訪れた時，幸運にも北国にしかありえない劇的な春の訪れを初めて体験した．

ストックホルムのアーランダ空港に降り立ったのは3月26日．　曇天下に雪が舞い，路面は凍てつき，河も海もビシッと氷が張りつめていた．　そう言えば今年の冬は史上まれに見る寒波がヨーロッパ全土を襲い，ストックホルムからは北極にもレニングラードにもケルンにも歩いて行ける，などとため息まじりに言われていたのであった．

それから6日目に，春が来た．　晴れ渡った空からまぶしいほどの陽が射し，人々はマフラーをはずし，帽子をとり，手袋もコートもまとわずに，ひなたに立ちすくみ，じっと陽を受け止めていた．　概ね暗灰色系の装いから，女の子が好んで着る白とごく薄いパステル・カラーの氾濫，そして風になびく金髪．

風景も一変した．　雪が溶け，氷が割れ，それまではそこにあっても全く目に止まらなかった無数の係留してある大小の船が，急に精彩を放って見えてきた．　町全体の活動のボルテージがローから一足跳びにトップへとシフトされ，あろうことか人々の口からはサマー・ヴァケーションの話題が出るのであった．

北国にやって来る劇的な春は，劇烈な冬の耐久生活を僅か数日で記憶のかなたへ運び去ってしまう効果を有しているものらしかった．　（K I）

3月下旬，予定より3日遅れて，春うららの東京をあとに，2週間の取材旅行にでました．　デンマークのゼネストの余波で朝の5時にアーランダ空港に降りてしまい，4時間あまりの待ちぼうけの後，市内にあるスペンスク・フォルムにつれてゆかれ，7枚つづりのイエロー・ペーパーの日程表を受けとり，時差ボケもなんのその取材にとびだしました．　まだまだ気温も0度前後と低く，メラーレン湖は，氷でうまり，市街全体が寒々としており，黒ずんだ残雪があちこちに山をつくり，人と車が動いたあとは，土ホコリが舞います．

この国の魅力を満キツするにはいささか早すぎる訪問時期と感じられました．

アトリエ，事務所，住宅等，1日3～4ヶ所の訪問です．　狭い市内を，何度もゆきつもどりつするので，土地不案内，方向感覚がつかめなくても，早々自分なりの地図ができあがります．

このスケジュールは，なかなかハードで，移動に多くの時間をさいてしまいます．　車から降り，トランクから荷物をだし，初対面の挨拶，撮影，挨拶をし，車を待って次の取材場所へのくりかえしで，みんなの後からついてゆき，前後左右の関係なく，カメラにしがみついている有様で，時間のなさと，光源の弱い室内に，1人ぶつぶつです．

いそいでいるあまり，ダウンパーカーからカメラを落した日は，終日，胃が痛かったです．

それでも，各デザイナー，画家，彫刻家，建築家等訪問の輪がしだいに拡がり，先方の期待（各々が連絡を大分とりあっているようです），好意がつたわってきて，日々，充実感もましてきました．　2週間の間に，これだけの内容をつめこんだ関係機関の力量を強く感じました．

後半は，ヨーテボリ，エンマボーダ，マルメと南下しての取材となりました．

アウトドアスポーツの王国らしく，駅につくたびに列車から若者達がおりて，森林に消えてゆきます．　毎日この国のデザイン・ポリシー感のある機能性と簡潔さと明るさに接していましたので，マルメのテキスタイル・デザイナーの家の出窓に，アンティークな時計と共に，カスティリオーニのランプがおかれていたのが印象的でした．

イースターの前日にストックホルムにもどり，祭気分の中で最後の取材を終えたころは，長い厳しい冬もおわり，サマータイムがひかれ，春うららの市内になっていました．　（K.T.）

●取材協力
スウェーデン大使館
The Swedish Institute
Svensk Form
Form Design Center (Malmö)
スカンジナビア航空
植松恵美子

●写真撮影
田中宏明

●写真提供
A & E Design
Åke Axelsson
Bahco Verktyg
Boda Nova
Gärsnäs
Hasselblad
Hertha Hillfon
今井一夫
Lammhults
リビナ・ヤマギワ
RFSU Rehab
Saab-Scania
Rolf Salomonsson
Sandin & Bülow
スカンジナビア航空
西武自動車販売
宗幸彦
Volvo Car Corporation

空中楼閣の見果てぬ夢

鵜沢 隆

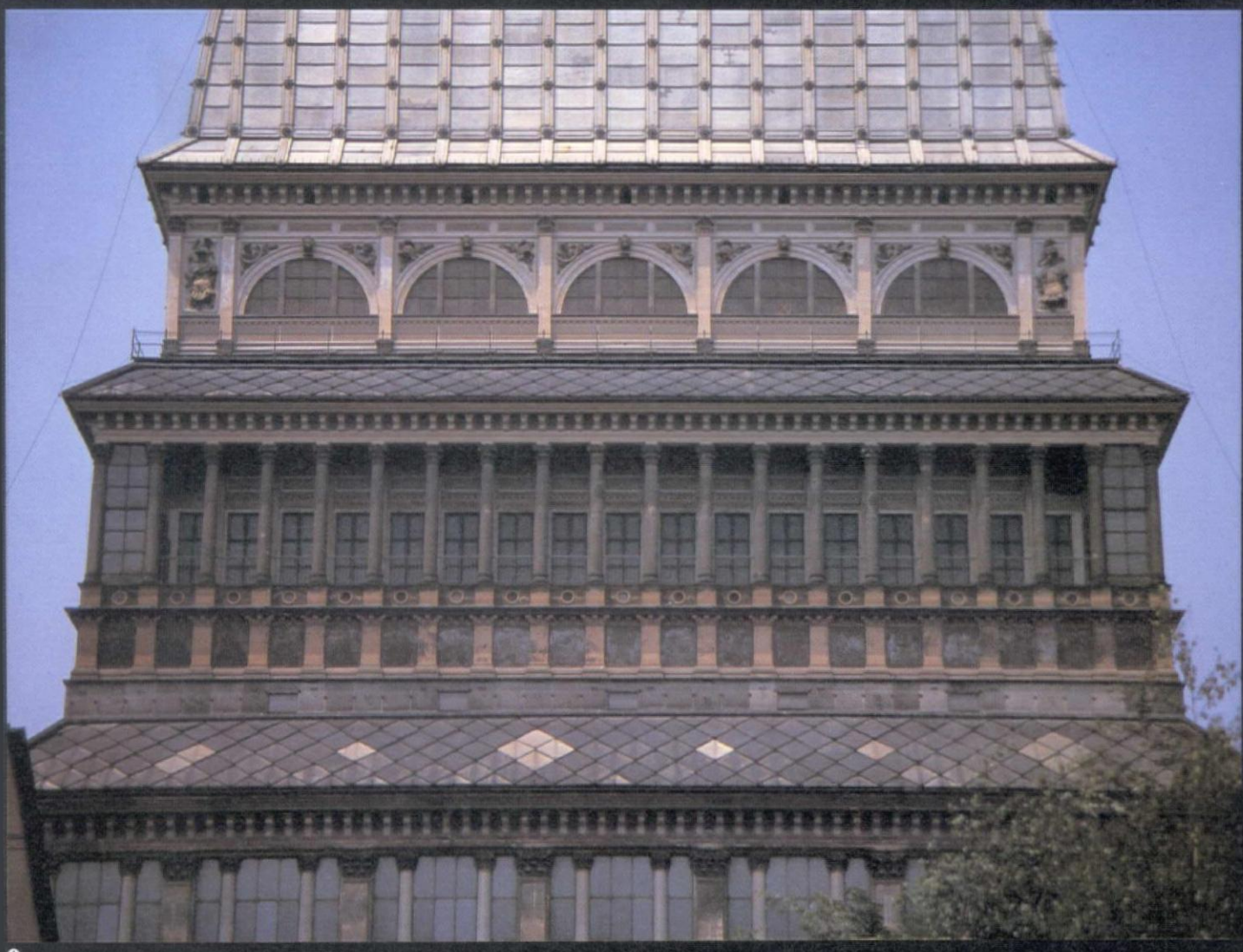
1889年，ふたつの都市に〈奇妙な塔〉が出現した。　トリノの〈アントネッリ・タワー〉は，難工事による遅延のすえにようやく163mの高さに達して，都市のシンボルのこの年の出現を市民は歓喜の声で迎えたという。　かたやパリでは，新しい工業社会の到来を告げる万国博のために完成したエッフェル塔が，そのむき出しの構造ゆえに罵声すら浴びせられた。

奇しくも同じ年に出現したこのふたつの塔ほど対照的なものはあるまい。　従来の建築形式の束縛から開放されて，計算された合理性と工期の中で成立した，新しい工業技術のモニュメントがエッフェル塔であるなら，アントネッリの塔（Mole Antonelliana）の象徴性は，レンガ造の構造的限界に挑みながらも，旧来の建築形式を最大限に援用したこと自身にある。　あるいは，その前年の彼の死から，この塔をアントネッリ自身の墓碑（モニュメント）であると言ってもよい。　ブルーノ・ゼーヴィが指摘するように，内部のレンガ造の壮観さと外部の建築オーダーの理不尽さの奇妙なアンバランスが，この建築のすべてである。

古典的神殿を模した基部。　まのびしたブルネレスキのクーポラ。　空中に持ち上げられたパルテノン。　バベルの塔を暗示するスパイラルな階段が連続する尖塔。　翼を持った頂部の守護神像。　様々なイコンの残骸を串刺にして，メガロマニアックなアントネッリの空中楼閣がトリノの街にそびえる。

トリノ・アカデミーを代表する建築家アントネッリ（1798―1888）が，シナゴーグ（ユダヤ教会堂）として最初に提示した計画案（1862）は，半円球クーポラを載せた47mの建築にすぎなかった。　しかし，1863年の着工後，度重なる工事の中断に見舞われながらも，彼はそのつど設計変更を繰り返して，逆に高さを伸ばしていっ

●
アントネッリの塔　Mole Antonelliana
設計＝Alessandro Antonelli, 1863-1900
Torino, Italy

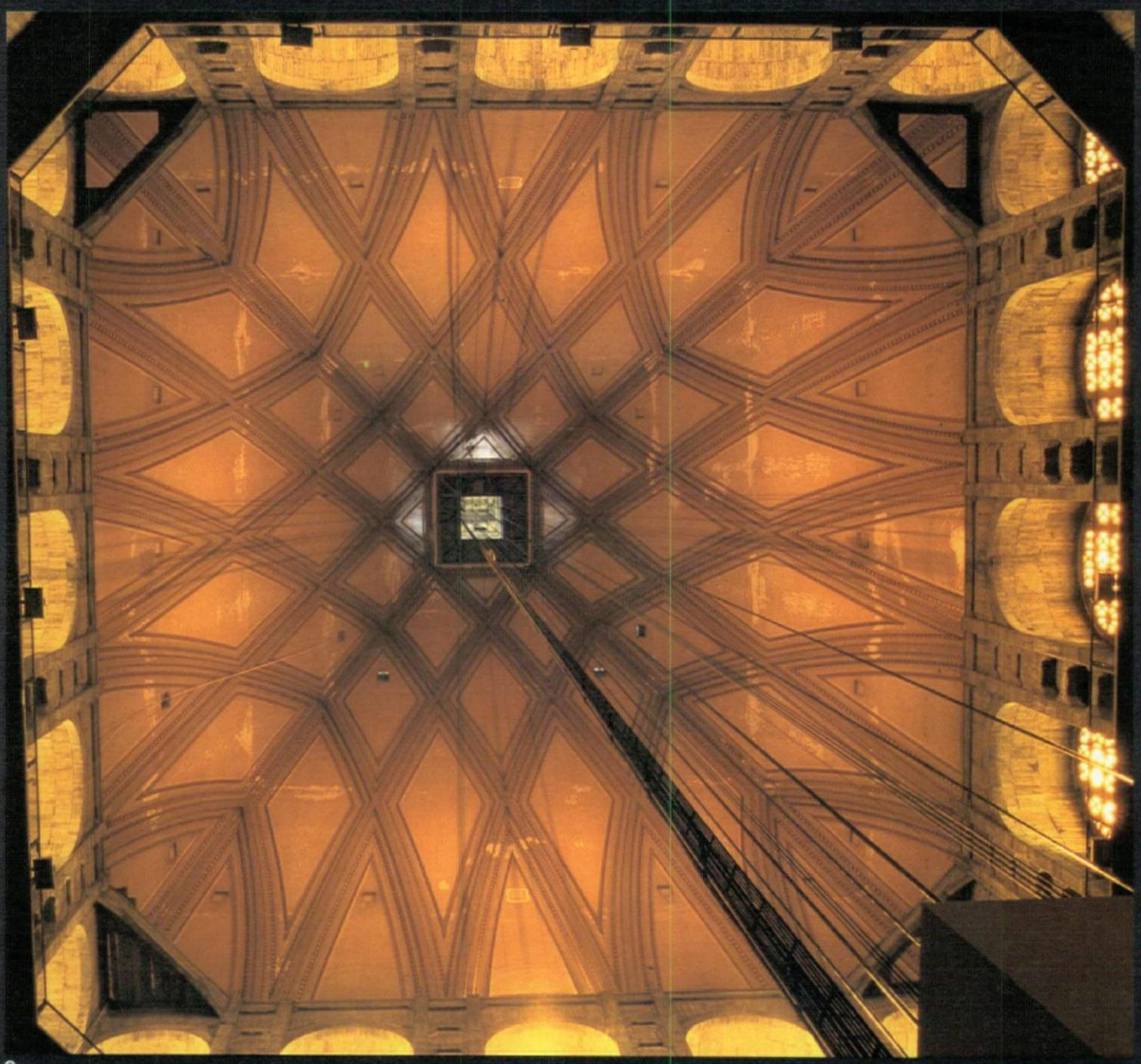


❶

た。　すでにこの年には，尖塔状クーポラに置き換えて，113mの計画案をつくっている。　この大変更は，その年の彼のフィレンツェでの経験が，ひとつの鍵になったようだ。　フィレンツェ大聖堂の未完ファサードの設計競技審査員として招かれたアントネッリは（ヴィオレ・ル・デュクとゼンパーが共に招かれた点でも興味がある），ブルネレスキの画期的な構造による大円蓋から多くの示唆を受けたはずである。　新しい計画案の構造は，鉄筋で補強された放物線状リブで連結された二重殻で解決され，ブルネレスキのクーポラとの相似性を示している。

1869年には，クーポラの上部わずかを残すところまで工事は進むが，建設資金の浪費へのユダヤ人からの非難に，構造家の危惧も手伝って，その取り壊しすら検討され，工事は中断する。遂には，その建設をユダヤ人は放棄して，建物は市に譲渡され，街のモニュメントとして工事が再開される。　アントネッリは，モニュメントの強調を理由に，上部にパルテノン，尖塔，守護神像を次々に載せる計画変更を繰り返し，頂部に守護神像が据えられて163mの高さまで達したのが，前述の1889年であった。
その後に一応の完成は見るものの，ブルューゲルの描いたバベルの塔のごとく，この空中楼閣は，建設以来つねに崩壊への危惧に苛まれてきた。　度重なる暴風によって頂部が数度倒壊したばかりか，基部はその荷重からおびただしい亀裂を生じていた。　コンクリートによる構造補強が完了したのが1936年である。
倒壊は免れたものの，トリノのスカイラインの中に，見果てぬ塔の夢をタイム・スリップさせて，いまはただたちつくすばかりである。

●うざわ・たかし／東京工業大学篠原研究室



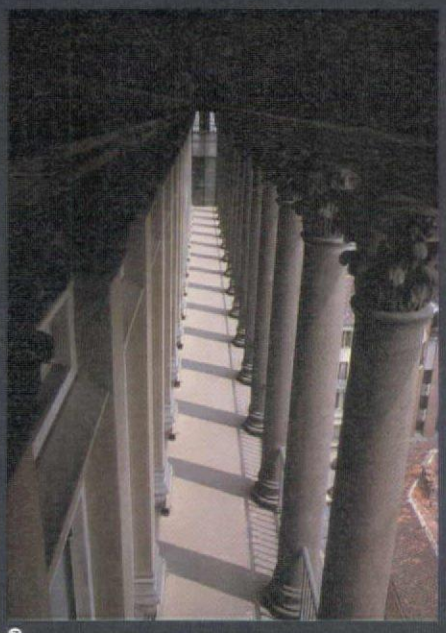
❷

るが，未使用のまま時が流れる．　使用され始めたのはわずか5年前，1980年のことである．こんなところにもイタリアのある一面を見た思いがした．

大ホールに足を踏み入れると，ドーム天井までは70mを越す吹抜けである．　薄暗く，ひんやりした堂内を見回すと，壁はコンクリートで覆われ，30mも聳り立っている．　まるでロケットの格納庫にでも迷い込んだ気がして，思わず肩に力が入る．　浴場窓からの黄色い光が，ドーム内の緊張を唯一和らげていた．　ドームは，オリジナルの構造ラインをうまくデザインしたものだが奥行を感じさせず，むしろ逆パースのような印象さえ与える．　時々上下しているエレベーターのみが，スケール感を与えてくれる．エレベーターにより展望台に出ると，しっとり落ちついたトリノの街のパノラマが拡がっていた．　ようやくホッとした気分になった．

アントネッリは同時期，ノヴァラに聖ガウデンツィオ教会を完成させているが，これも尖塔，ドラム，ドームをうまくまとめ上げた折衷様式である．　このアントネッリの塔は，彼がさらに理想を求めた建物となるはずであったが，今もまだ未完成であり，モニュメント性ばかりが，際立っている．　さまざまな人の手を経て，さまざまな顔を持つこの建物は，他には生まれえない毒や刺を持っている．　それが，かえって大きな魅力であるとも思えるのだ．　今は街のシンボルとして生き残っているこの塔だが，さらに，建築として息を吹き返す日を期待したい．

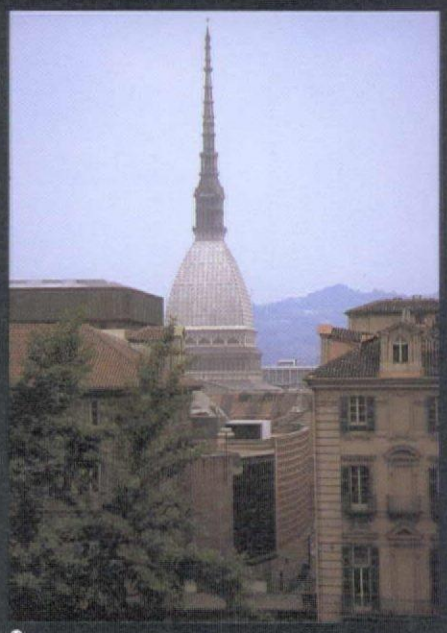
●おおにし・じろう／在フィレンツェ大学建築学部



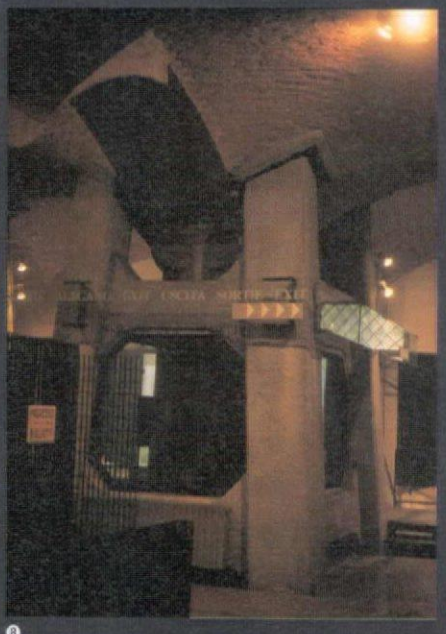
❼



❾



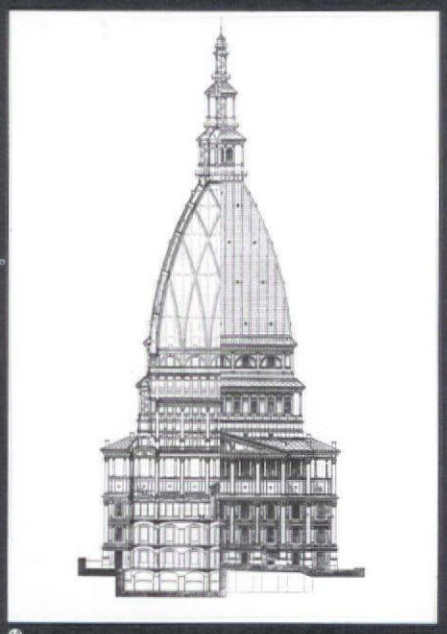
❶



❽



❿

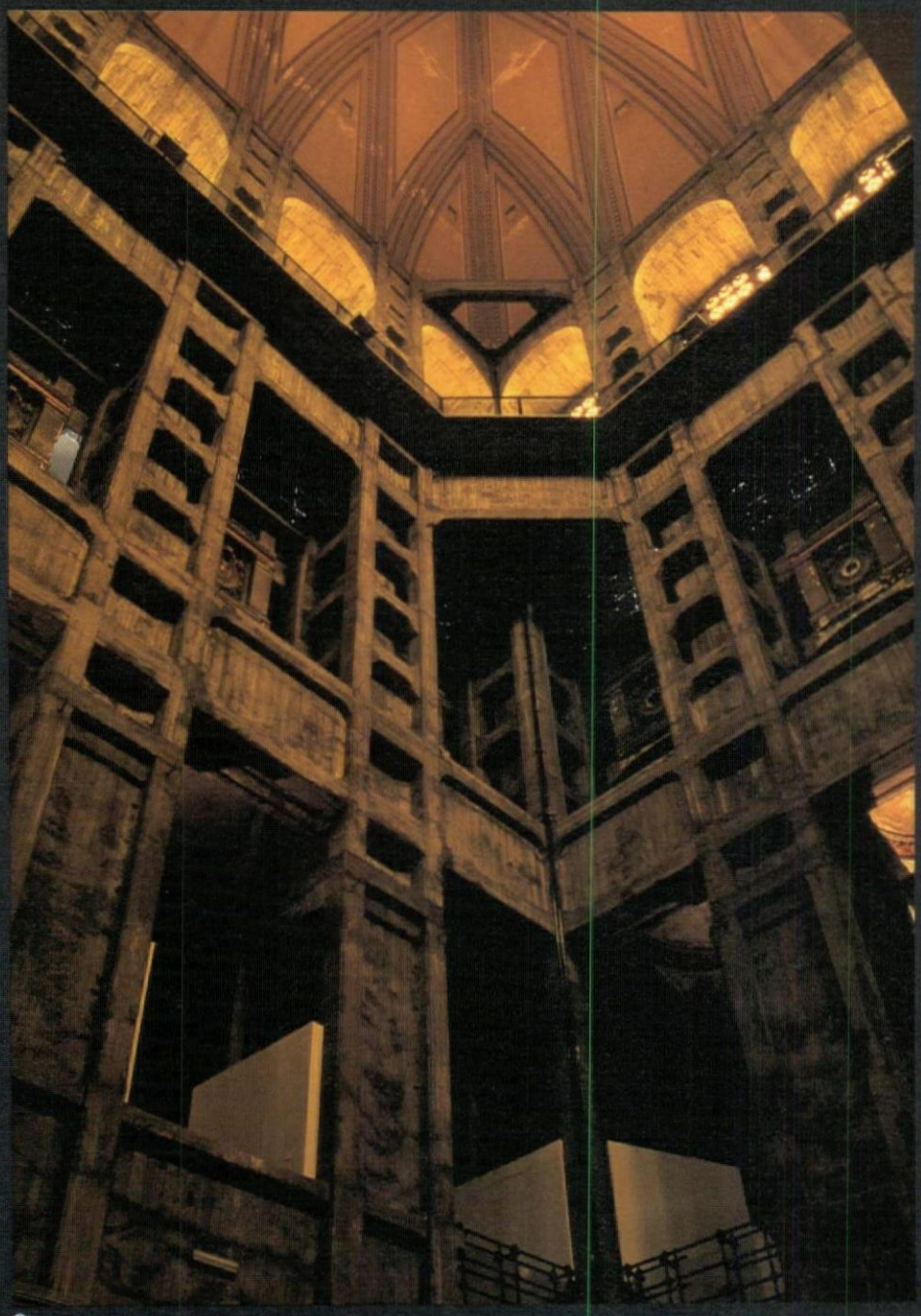


⓬

❶東側低層部全景　❷天井ドーム見上げ　❸大ホールコーナー見上げ　❹天井ドーム詳細，頂部展望台へのエレベーター通過口　❺浴場窓詳細　❻大ホール壁面　❼東側列柱廊　❽1階資料室　❾北西ファサード　❿正面入口部ファサード　⓫遠景　⓬立-断面図　写真：大西次郎（❷-❼❾⓫），野口昌夫（❶❽❿）

イタリアの魅力は，街にある．　各々の都市が，異なる顔を持って生きている．　近代都市ミラノ，男臭い港街ジェノヴァのように．　これらふたつの都市から2時間程で，静かなトリノの街に辿り着く．　この街の歴史は，古くローマ時代に遡り，街並はバロック以降の様式で統一されている．　長く続くロッジア(列柱廊)，屋根裏部屋が，北のイメージを誘う．

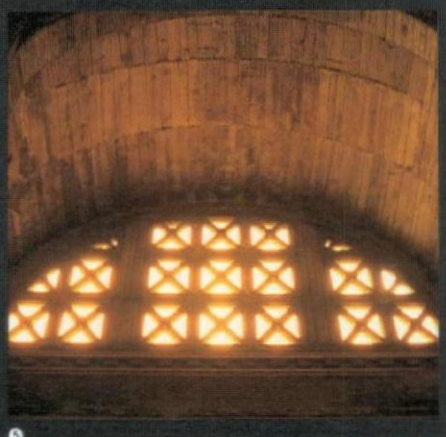
駅から，バロックの教会，パラッツォに目を奪われながら街の中心カステッロ広場に向かう頃，右手に尖塔が見え出す．　友人のフィレンツェの建築家に言われた言葉を思い出す．　「この建物は，ブルット（醜い）だぜ！」　近くのレアール公園に出ると，新緑の中から鈍い銀灰色のドームが浮かんで見える．　鋭く伸びたシルエットは，街のシンボルとして見る者を十分満足させてくれる．　尖塔を頼りに歩を進めモンテベッロ通りに出た途端，それは全貌を現わした．　ゴツゴツした表面，チグハグな様式に，遠くからの穏やかな印象が一度に消えた．　やけに強調した屋根，重い色調のせいか，イタリア的なにおいがしない．　「これが，ブルットか！」と思いつつ，明治の和洋折衷建築，城，風呂屋などのイメージが頭をかすめた．　中に入って，また驚かされる．　ドームの大ホールは巨大空間を誇示するだけで辛うじて，頂部が展望台として，一部が市立ギャラリー，資料館として活動している．　これは，どうした事だろうか．　この建物は，当時64才の建築家アレッサンドロ・アントネッリによって，1863年よりユダヤ教会として建設され，彼が90才で他界した後も，仕事は続けられた．　建設途中から，資金不足，構造，地震，台風，戦争などのトラブルが起こり，その都度，工事は中断され，意匠，構造，担当者，さらに使用目的まで変わってしまう．　外観は，1900年に一応の完成をみ



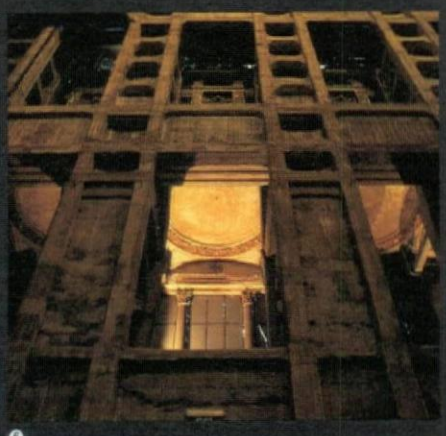
❸



❹



❺



❻

文=草森紳一

写真=大倉舜二

ユニティ(単一性)の神秘

1

日本人が，西欧世界を理解することの壁として，キリスト教がある．これは，だれもが言うことだが，正しくは，キリスト教ではなく，キリスト教会であるように思える．

この教会が，おびただしい分派をつくっている．　プロテスタントとカソリックの区別もよくわからぬのに，無数の分派の名が押し寄せてくる時，私などは，お手あげになる．　ヨーロッパの歴史は，キリスト教会の分派争いだともいえるわけだから，通観でなく，もう一つ奥にはいろうとすれば，固い壁があり，それを知識の斧で破ったところで，そこに見えてくるものは，迷路の蜘蛛の巣であり，たちまち竦み，窮し，立ち往生してしまう．

フランク・ロイド・ライトの建築について思いめぐらすようになってから，心にひっかかり続けているのは，ユニテリアン教である．　これが，どのような教派なのか，よくわからない．　ライトの建築的精神(スピリット)に影を深く落しているようにも思えるが，母方の祖父はユニテリアンであり，伯父はその牧師であるが，彼自身ユニテリアン教について，くわしく是非を言及している文章もない．

1884年(明治17年)の11月，内村鑑三は横浜を出帆し，アメリカに渡った．　すでに札幌農学校時代，洗礼を受けている．　プロテスタントであった．　翌1885年の１月から７月まで，ペンシルヴァニアの〈精神薄弱児童養護学校〉の看護人となった．　ライトは，この年，ウィスコンシン大学の土木科に入学している．　バプチスト派の牧師だった父ウィリアム・ライトが，離婚し，家族から離れていった年である．

内村鑑三が世話になった学校の院長は，キリスト教というよりも，〈神の摂理〉を信じるタイプだったらしいが，ユニテリアン主義を「一番偏狭で，一番無味乾燥な教派」だと，攻撃していたという．
(〈余はいかにしてキリスト信徒となりしか〉)

ところが，この「院長夫人はユニテリアン」だったのである．アメリカへやってくるまで，頑固なピュリタンの内村鑑三は，「どうしてもユニテリアン主義に好意的な考えは持てなかった．　ユニテリアン主義は，異教よりさらに悪い，ちょっと見がキリスト教に似ているだけに一層危険だ」と思っていて，院長夫人に対しても，嫌悪の念を隠そうともしなかった．

信仰の偏見，おそるべしで，排他的になる傾向があり，鑑三も例外でなかったわけだが，まもなく「彼女は自分のユニテリアンの信仰にふさわしい行為によって，心(ハート)を，じつに柔和な女らしい心(ハート)をもっていることを証してくれたのである」と考えをあらため，「ユニテリアン主義と共存できないような正統信仰は，〈正統な教義〉に立っているとか〈正しい教義〉に立っているとか称する資格はない」と反省している．

だからといって，改宗したわけでない．「ユニテリアンなど主知的な傾向の宣教師が，我我東洋人を主知的な民だと思い，そこからまた我々をキリスト教に導くのに知的な方法によらなければならないと考えたことは，誤りの最たるものだろう」と批判的である．

内村鑑三が考えている東洋人とは，「真理を証明するのに，論理より視覚による」とし，「我々は詩人であって科学者ではないから，真理にいたるにも，ややこしい三段論法によらない」としている．ユニテリアンは，どうやら主知的な教派であると，鑑三はみなしたらしい．　だから院長夫人を「頭脳ばかりで心(ハート)がなく，……聖き女らしさにはおよそ無感覚」と偏見的に決めつけたのも，こういう理解があったからだ．　《余はいかにしてキリスト教徒となりしか》で彼は，こうもいう．

「本来最も純粋で高い形のユニテリアン信仰は，人間の能力(ちから)をどこまでも高く評価するところから起ったのだろう．　しかるに人は，自己の努力をもってしてはこうして考えられるかぎり高くされた道徳の水準に達することはできない．　そこでキリストを引きずりおろして人間の貧弱な知力で割り切ることになる」

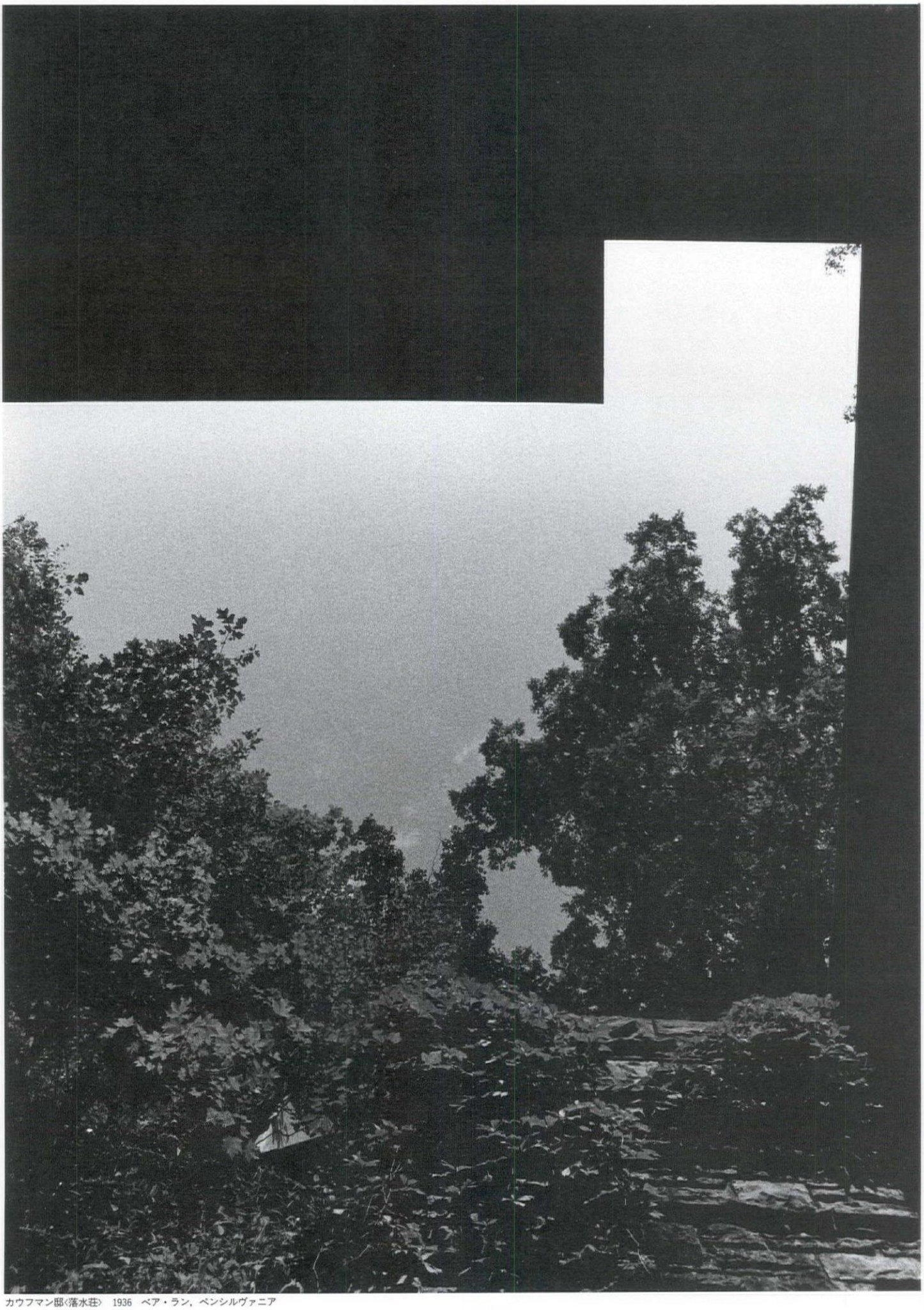
人間は，〈キリスト〉の出現によって，神がなんであるかわからなくなったともいっているが，この〈キリスト〉も厳密には，はてしなく分派する〈キリスト教会〉なのであろう．　しかも，〈キリスト教国アメリカ〉が，「ダーウィニズムに改宗させられてしまったみたい」な状況を目の前にして鑑三は，迷いに迷っている．

その彼に救いをあたえたのが，スウェーデンボルグである．「どういう神秘主義でもありがたかった．　事実の世界では取り除くことのできぬ障害も，心の内なる霊の世界においては飛びこえてゆけるからである」とし，彼を「愚物扱いする人が多いが，私は決してそう思わない．　彼の心は私の理解をはるかに越えており，彼の直観は，多くの場合，まことに驚くべきものである」と感嘆している．　鑑三が渡ったころのアメリカは，ダーウィニズムと反動としての神秘主義が盛りあがっている時だった．

教派の数の多さにもびっくりしたが，「イエスは人だ」という主張にもぶっかる．　ユニテリアン教の牧師の位置を棄て超越主義をとなえだしていたエマーソンの名が，この時，でてくる．「そうだとすればキリストの神性を信じる私の信仰は，大変な犠牲を払ってふり棄てた偶像崇拝の迷信同様に，愚かで根拠がないことになる」と困惑している．

簡単に言ってしまえば，ユニテリアンとは，キリスト教の正統教義〈三位一体〉(神・キリスト・教会)に反対，イエスの神性を否定し，神の単一性(ユニティ)を主張している教派ということになるのだが，こう説明されても，日本人には，よくわからないのである．簡単でも，詳細であっても，体験をくぐらなければ，どうしても言葉をこえた暗黙の空間が見えてこない．

ライトの〈名作〉，シカゴの〈ユニティ教会〉(1904)はユニテリアンの教会で，ユニティとは〈神の単一性〉を意味していたことが，こ



カウフマン邸〈落水荘〉 1936 ベア・ラン，ペンシルヴァニア

れでわかる．　ライトは，他にウィスコンシン州のショアウッド・ヒルズにユニテリアン教会(1947)を作っている．

ユニテリアンは，異端である．　三位一体がオーソドックスであるなら，他はすべて異端なのである．　日本人は，オーソドックスの真の意味を理解していない．「イエス」でなく「ノー」の体系といわれているユニテリアンが〈クリスチャン〉という名を棄てているという意味も，日本人には実感的にわからない．　アメリカには，今も15万近くのユニテリアン(1012の教会)がいるといわれているが，19世紀よりは減っているのであろうか．

ヨハネの使徒時代にまで，ユニテリアンの教義はさかのぼれるものらしい．「人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみな，神からのものです」というヨハネの言葉，それらが，ヨーロッパに静かに広がっていたこの異端思想は，18世紀にアメリカでピュリタンへの反動として，急に盛りあがりを見せ，1825年にアメリカ・ユニテリアン協会が設立される．

ライトの父はバプチストの牧師であったが，母はユニテリアンであり，伯父はシカゴにユニテリアン教会を最初に建てた人である．内村鑑三は，ドイツの近代主義に力をえて18世紀後半になると急速にユニテリアン教が伸張をみせていた時に渡米したのである．　彼を雇った院長夫妻もライトの父母もどちらかがユニテリアンであり，属する教派がばらばらであった．　これは，当時のユニテリアン教の勢いを示しているのだろう．

聖書をも信頼しない否定の体系であるユニテリアンが，肯定する面は，つぎのようなものだと，福音派の牧師ボーロ・B．スミスは《異端について》の中で語っている．

「科学，理性，進化，そしてなかんずく人間の熱心な崇拝者である．彼らのうちの60パーセントが大学を卒業しており，25パーセントが学位をもっている」

それでも神にたいしては曖昧なところがあるらしい．　スミスの引くカナダのユニテリアン教徒の調査によると，

「29パーセントのみが，クリスチャンであると主張しており，71パーセントは，そうでないと言っている．　3パーセントの者が，聖書の神を受け入れており，30パーセントは，神を全く信じていない．なんらかの意味で神を信じていると主張している67パーセントは，十中八，九まで，神を非人格的な力，あるいは原理として信じているのである．　その同じ調査は，90パーセントが，どのような死後の不滅をも信じていないことを明らかにした」

スミスは，こういうのであるなら，なぜ彼等は，牧師を必要とし教会をもつのかと疑問を投げかけ，今日もっとも危険なのは，彼等よりも福音派の教会内にいるユニテリアンであり，クリスチャンでありながら，無神論，同然のものが増えているからだとしている．

「神の王国は，汝らの内にあり」というキリストの言葉をライトは，好んだ．　これは，ユニテリアン的なものだというべきなのか，それとも超越主義的ともいうべきなのか．　しかし，この言葉は，どのようにでも解釈できる深さをもっている．　エマーソンらの感性や体験をこえるものとしての超越主義も，しかし，ユニテリアニズムの子であるにはちがいない．　子が父を超えようとしたあがきである．

「ユニテリアニズムは商人階級の抬頭を背景として成熟した思想であった．　その悟性的・散文的な性格は，まさに商人階級の意識を良くも悪くも正確に反映していた．　商品を売手から買手へ，あるいはこの地点からあの地点へ，単に移動させることで利潤を得るという彼らの基本的な生活様式は，神秘を拒み，飛躍を嫌い，ただおのれの感覚だけを信じるという彼らの静止的な意識構造を規定していた」

これは，《アメリカ・ルネッサンス序説》の著者酒本雅之の言葉である．この本で彼は，エマーソン，ソーロー，ホイットマンを語っているが，その前史として，ユニテリアニズムに頁を割いている．　清教徒のカルヴィニズムにくらべれば，人間を解放するが，自分，つまり感覚しか信じないという点では，人間を閉じこめたとも述べている．

ユニテリアニズムは，まさにアメリカ大陸的でありダーウィニズムに便乗し産業革命，商業資本主義体制とドッキングしアメリカで伸張拡大したということが，よくわかってくる．　冷淡で，生気に欠け，機械的な感覚的唯物主義への反動として，ユニテリアニズムの内部から，感覚よりも想像力と霊魂を尊ぶ超越主義がおこってくる．

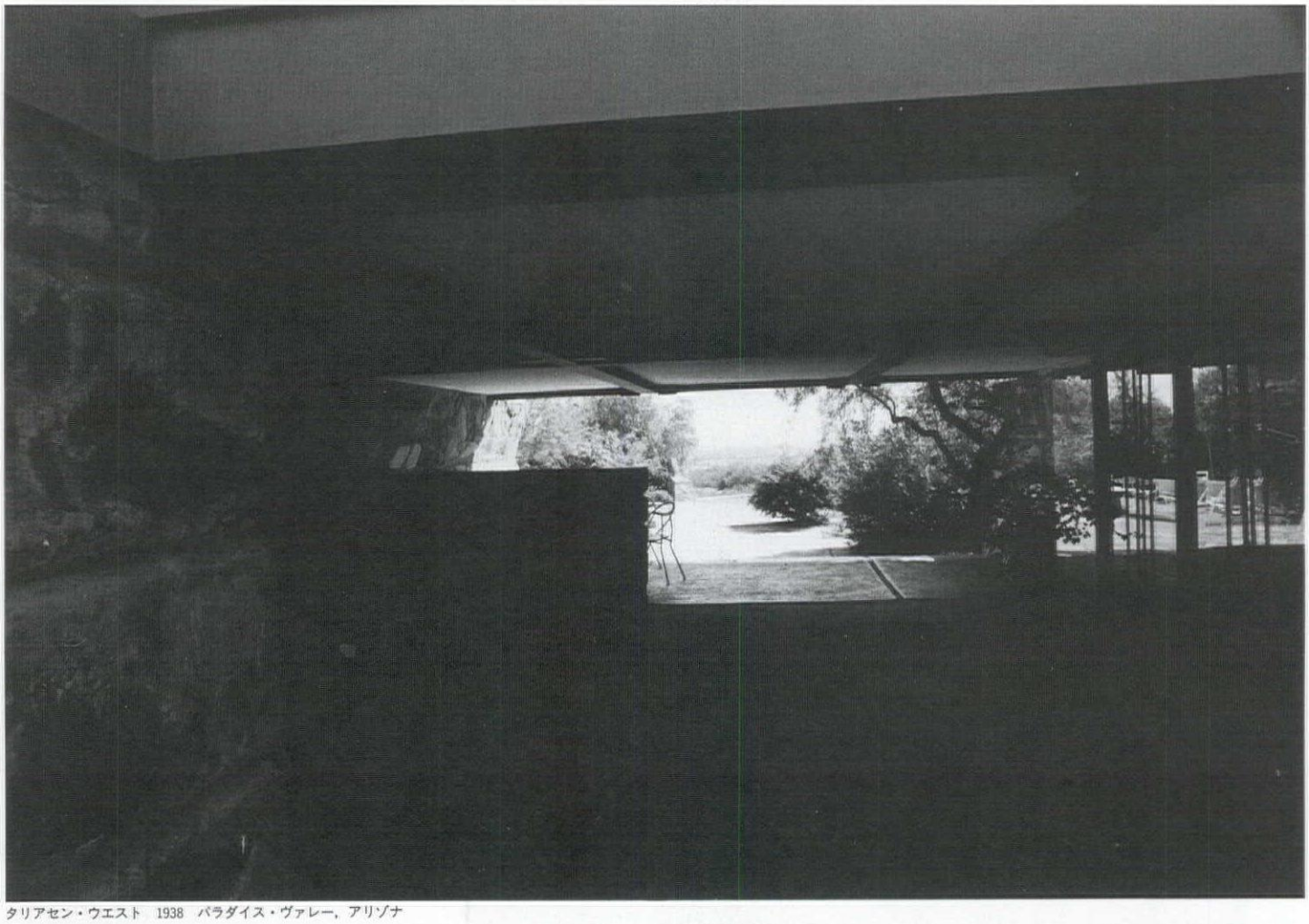
青年ライトは，この思潮の勃興してきた真っ只中に生きていたのであり，内村鑑三も，この渦中にとびこんで，目を白黒させたのである．　ユニテリアンは，自分たちの思想は，東洋的だといった．たしかに，彼等の神はわがうちにありという人間肯定は仏教の唯識論にすこし似ていなくもないが，鑑三が，東洋には，そんな三段論法の悟性的めんどうくささはないと反撥したのは，それなりに正解であった．　だが，エマーソンやソーロー，そしてライトが，東洋に帰依するだけの契機をユニテリアニズムも超越主義も抱懐していたのである．

ユニテリアンは，カルヴィニズムの三位一体の神秘的面被をはいだ．　そうしなければ，彼等が19世紀の産業革命の嵐をのりきれなかったからというより，この時点でのアメリカ社会がユニテリアニズムを必要としたのである．

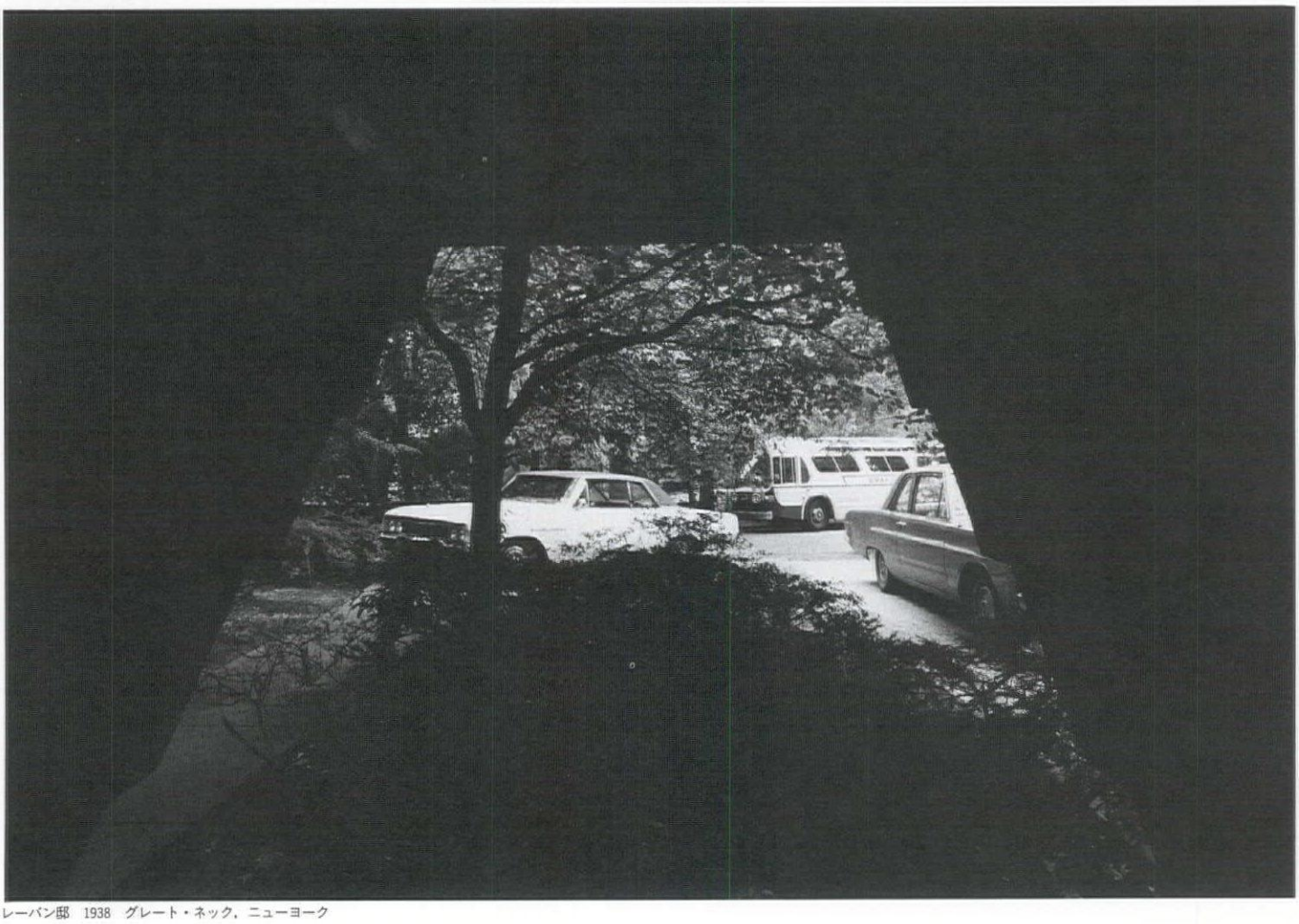
しかし宗教的神秘の否定からはじまったユニテリアニズムが，たちまち外部からも内部からも突き崩しがおこり，自己救済不能のものとして，あらたな神秘をまとうことになるのも，哀しい人間の運動パターンである．　そっくり逆戻りするわけではないが，超越的有機主義という宇宙につらなる人間のうちなる神秘の観念が登場するのである．

東洋的ともいえるスウェーデンボルグの神秘思想の見直しも，そういうところからでてきて，頭のこんがらかった内村鑑三をして「彼の説に初めて接した時，私はひどい霊的傾向に陥ったが，その後，この傑出した人から受けた思想的影響は常に健全なものだった」といわせるのである．　神秘がなければ，人間，たちまち息がつまるのである．

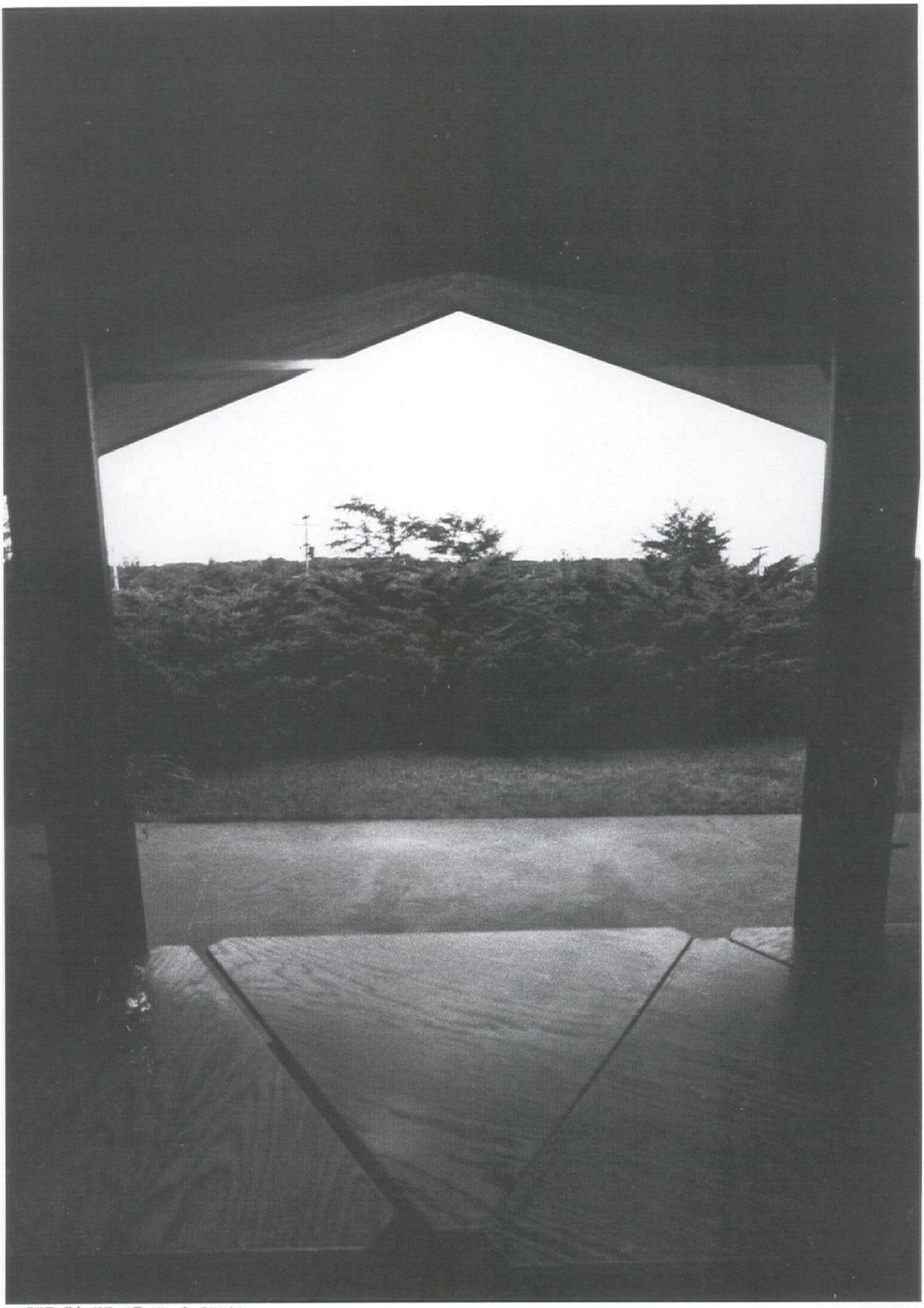
俺を論じるなら，エマーソン，ソーロー，ホイットマン，そしてクリスタル・パレス，アール・ヌーボー，グリーノウ，サリヴァン，コールリッジと比較し，〈真の比較〉をやってみろと，フランク・ロイド・ライトは啖呵を切ったものだ．　類似と影響のちがいもわ



タリアセン・ウエスト　1938　パラダイス・ヴァレー，アリゾナ



レーバン邸　1938　グレート・ネック，ニューヨーク



ユニテリアン教会　1947　マディソン，ウィスコンシン

からず，偉そうに人を他と比較するなといったものだ．

「超越主義とは，現実世界の論理に対して，人間の神格化を願う意識が相譲らぬ力で拮抗し得た転換期の思想であった．　くり返して言えば，それは転換期の激刺たるエネルギーに横溢しつつ，現実世界の堅固な論理に挑んだのであった．　それは人間のみずみずしい内部を宣揚し，人間を無限者になぞらえることができた」

と酒本雅之は，《アメリカ・ルネッサンス序説》の中で，エマーソンを定義づけ，「たといそれが，転換期の終了とともに，やがてしぼまねばならない無限の虚空に咲いた狂い咲きにすぎなかったとしても」と頌歌している．

エマーソンの思想は，19世紀後半の転換期に咲いた虚空の徒花であったにしても，ライトは，死ぬ20世紀半ばまで，その信奉をやめたわけでない．　エマーソンの弟子ともいうべきソーローの有機主義は，師が観念の虚空を仰いだのに対し，自ら森の中へ入っていくほど現実的であり，この二人はそれぞれのかたちでユニテリアニズムを超えたのだといえる．

だが，ともに転換期の徒花である．　ライトは，それらを止揚するものとしてホイットマンをわが胸中に坐らせたかのごとくである．　そのホイットマンも，かならずしも，20世紀の切札とならなかった．　にもかかわらず，ライトは，20世紀をのりきったところがある．

ライトが古いというのは，やさしいが，古いということでは，20世紀の末葉を迎えている今，コルビュジエも，ミースさえも，ライトより蒼然と苔むして形骸化している．　エマーソン流には，〈天才〉だからということになるのだろう．　ライト流には彼の建物の予言と啓示の力が，そうさせるのだということになるのだろうが，それで人は満足できるはずもない．　いったい，どういう予言で，なにを啓示したというのか．

2

ユニティ教会は，これまで一方的に建築的に語られてきたにすぎない．　ユニテリアンの教会として，その正否を語られたことは，あまりない．　こういう現象は，あまり珍しくない．　リチャードソン流には，建築とは仕事をとることだ，であり，そのあとは一挙にどう作るかの造型の問題になってしまい，肝腎のだれが中に入り，だれが住むのかは，論議の場外におかれるからである．　これは，世界共通の暴力的習慣である．

1887年，ライトは，ウィスコンシン大学を中退し，シカゴにでて，牧師の息子だったシルスビーの事務所に勤め，そこでまた同じ牧師の子のセシルと知りあう．　シカゴの叔父ジェンキン・ロイド・ジョーンズが主宰するユニテリアン教会が建設中だったが，その現場監督をしているのがセシルだという偶然に出っ喰わす．　そしてそれを見学した時の感想をライトは《The Biography》の中でこう記す．

「それはどう見ても教会らしくなく，むしろ〈アンヌ女王〉式の住宅に似ていた．　しかし，私には興味があった．　繰り返して言うが，美しくはなかった——しかし……珍らしかった」(樋口清訳)

実際にどういう建物であったのか，写真も見ることはできないが，「教会らしくなく」と「珍らしかった」の感想は見逃すことができない．

その印象が，のちの〈ユニティ教会〉に開花したというのでない．私の体験でも，ユニティ教会は，すこぶる「教会らしくなく」「珍らしかった」のだが，そうなったのは，伯父の教会にヒントをえたからでなく，ユニテリアニズムの思想にからむことである．

すでに述べたように，ユニテリアンは，〈クリスチャン〉であることを否定し，なぜ教会や牧師が必要なのかと皮肉られたということを想いおこしてほしい．　ユニティ教会は，同派の否定の体系の産物なのである．　ポーロ・B．スミスの《異端について》の中に，同派に属する銀行家の言葉が引かれている．

「教会の任務は，聖界と俗界を結ぶリンクとして奉仕することである．教会としての存在を正当化される唯一の根拠は，霊的な事がらをこの世にもたらし，そうすることによって，信仰に行ないを生じさせ，人がこのどちらをも持たずに滅びることがないようにすることなのである」

スミスは，これを思弁だと攻撃している．　否定の体系により，宗教性を失い，社会性社交性ばかりとなって本末顛倒してしまっていることを隠すしわざだとも，ののしっている．

ライトは，親族がみなユニテリアンだといえ，エマーソンを通して，その限界を知っていたはずだが，作ることと考えることはまた別だったと思える．　その意味では，リチャードソン流に，「建築とは，仕事をとること」なのであったにちがいがない．　建築家的というより職人的である．《自伝》の中で，ライトは，ユニティ教会の設計について書いているが，なんとも妙なすべりだしである．(エドガー・カウフマン，ベン・レーバン編〈建築の理念〉谷川正己・睦子訳)

「ユニティ教会のユニバーサリスト派の牧師ジョナット博士がジュニペロ師であったならば，ユニティ教会の〈様式〉はあらかじめ決まっていたことだろう．　彼がラトゥール親父であったならば，建物はミディ・ロマネスクになっていただろう．　確かに，そして恐らく彼が何であろうとも，彼の知っている唯一の伝統を採用できたのである——小さな，白いニュー・イングランド教会のそれ，天を指す細い尖塔——．　〈東に返れ〉．　感傷的に考えればそうだろう」

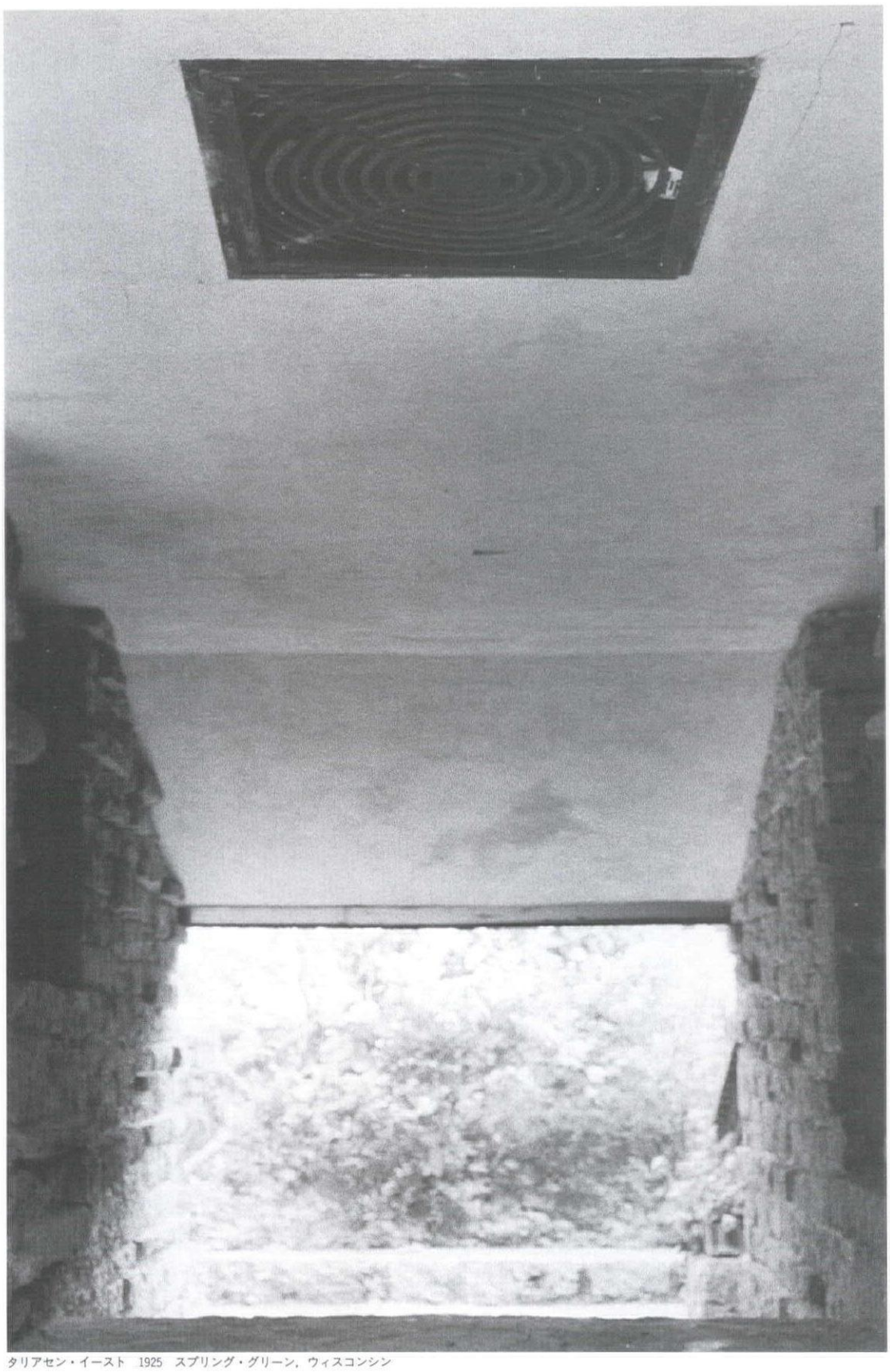
ユニテリアンは，即物的で散文的である他に，自由をもっていたとみてよい．　それをひっかきまわしたのが，ライトなのである．

ユニティ教会の牧師ジョナット博士が，他の神父だったらという仮定尽しをライトは遊んでいるが，「……だったら」こうなってしまうという多様性を示しているわけで，それはユニテリアンの自由性だったといってもよい．　他の教派とて流行と趣向に動くにしても，これほどの自由はない．

牧師ジョナット博士は，〈建築の問題〉にも熱中するインテリ・タイプだったので，それが運の尽きで，「直線と平面はキャンティレバーのスラブ」として教会が立ちあがることになったとライトはおどけて楽しげに回想している．

ユニテリアンは，富裕な商人階級が教徒だといっても，みなインテリであり，建築委員はみな啓蒙的で，創造者たるを自任していて，一家言の持主だけに論争によって撃破し，ライトの内側にひきずりこむことが容易にできたのだろう．

教会建築は，シンボルのモザイクだが，文学的にすぎるといっ



タリアセン・イースト　1925　スプリング・グリーン，ウィスコンシン

て，まず取り払った．「人間の感受性に深く根ざした内面的リズム」こそ大切だと，説得してしまった．　ユニテリアンは，人間肯定主義だから，納得しないわけにいかないだろう．　つぎの教会の象徴たる塔をなくす問題も，ユニテリアンの弱点をついた．

「私は委員会で一つの物語を語った．　神を見ようと最も高い山にどこまでも登り続けた聖者の話を，彼らは知っていただろうか？　上へ上へと登り続け，その山の上に最も高い聖骨の木もあっただろうか？　疲れ果てて，汗ばんだ熱心な顔を天に向けて，彼は〈神〉を呼んだ．　声があった……下りるようにと……帰るようにと！　彼は本当に神を見ただろうか？　彼は引き返さねばならなかった．　彼の仲間たちがいる下の谷間に戻らねばならなかった――そこでのみ，彼は神の相貌を見ることができたのである」

尖塔をたてる愚は，高い山へ上る聖者と同じだという得意満面のライトの熱弁がきこえてくるようだ．　ライトこそが，説教の牧師になっている．　ユニテリアニズムについて，彼はほとんど語ることはないが，よく知っていたというべきである．　人間のうちに神があるというのは，彼等の主張であったからだ．

「今こそ，より単純にすべき時ではなかろうか．　地上での人間に，より信を措き，人間が何も知ることのできない天国への関心をより薄くして」

「神に対して建てるのではなく，人間のために，集会の場所としての使用に適切なように」

とたたきこむ．　彼等がその身をのりだして，どんな風にときけば，すかさず「だから私の所へ来たのではありませんか」と答える．

「人間のために」，これはユニテリアンの呪文であり，資本主義社会をのりきる行動の原理であったが，超越主義の洗礼を受けていたライトは，彼等の「人間のために」の限界を知っていた．　それればかりか，有機を尊ぶが，現実的なソーロー，観想的なエマーソンの超越主義の限界もこえていた．　建築では，二人の思想を一つにすることができた．

「高貴な部屋を心の中に描き，その部屋の形で全体の建物を形作ること，部屋の内部を建物の外観にすること」

かくて，コンクリートの教会らしくない教会が誕生する．　彼等を満足させながら(ペテンにかけながら)，ユニテリアンをひそかに止揚させてしまったのである．　内部が外観であるというユニティの魔法である．　ライトは，これを霊気と連想に満ちた〈スーパー・フォーム〉だと自賛している．

外観は，フレーベルの積木細工に似て，ユニテリアンの散文性とも合致するが，内部空間はデリシャスそのものである．　アブストラクトもシンボル性ありと彼は否定したが，その内部は，抽象模様が蜘蛛の巣をはりめぐらし軽快にして重厚，重厚にして軽快なリズムを奏でている．　彼にとって，このアブストラクトは，内的リズムであって，ただの抽象ではないという確信のしわざなのだろう．

19世紀末にライトが根城としたオークパークは，〈聖者の休息地〉と呼ばれ，ユニテリアン派の信者がたくさん住んでいた．

「若い，ユニテリアン派の建築家にとっては，可能性あるクライアントが大勢いた．　都市の悪，騒音や混雑からの脱出は，今に始まったことではなかった」

ライトの弟子であったエドガ・ターフェルは《Apprentice to Genius》(邦題〈天才建築家の人と作品〉谷川正己・睦子訳)の中で述べている．　ライトは，信徒だったのだろうか．　彼の思想は，ユニテリアンを超えていたはずだからだ．

ユニテリアンが，同志の社会的(商売的)つながりを重視したように，彼等を大切なクライアントとみなし，ために同派の絆を意識的に押しだしていたのだろうか．　そのあたりの処世のニュアンスはよくわからないが，ターフェルの回想によれば，タリアセンにあっては教派へのこだわりはなかったらしい．

「日曜日の朝は，カトリック信者の生徒何人かはスプリング・グリーンの教会のミサに参列した．　ライトが，宗教をタリアセンでの生活の一部として組みこもうとしたことはまったくなかった．　しかしある年の夏，彼は谷間にあった一族用のチャペルを公開することに決めた．　教会での日曜礼拝を実施すると言って，マディソンの牧師を呼んだ．　礼拝では小さな足踏み式のオルガンで音楽が演奏され，また独唱や合唱もあり，説教は聖公会，ユニテリアン，メソジスト，あるいはユダヤ教の，その日来ることのできる牧師がした．宗派が尽きると，彼は生徒たちのそれぞれに説教をさせようと決めた」

教会建築は，〈ユニティ教会〉が1904年だが，後続はずっと年代が遅れる．　1938年の〈プレイファ・チャペル〉，〈ユニテリアン教会〉が1947年，〈サイエンス・コスモグラフィ・ビルディング〉は，1953年，〈ダンフォース・チャペル〉は1954年．　〈ベス・ショロム・シナゴーグ〉も同じ年．　〈ギリシア正教会〉は1956年である．

〈サイエンス・コスモグラフィ・ビルディング〉は，〈クリスチャン・サイエンス教会〉のことであろうか．　これは，医療による人間救済をはかる一派で，さきのスミスがユニテリアンとともに異端として論じたものだ．　ライトは，ユダヤ教会もギリシア正教会にも手を染めている．　タリアセンで各教派の牧師に説教させたように，晩年にはいっさいのこだわりなく，注文に応じたように思える．

〈GAシリーズ〉のファイファー・チャペル＆ベス・ショロム・シナゴーグの特集号にブルース・B.ファイファーのエッセイ(安藤正雄訳)が巻頭にのっているが，その中にユダヤ教の牧師コーエンへのライトの手紙が引かれている．

「この教会は，永遠の神を賛え，心からささげられたものです．　あなた方アメリカのユダヤ教徒が必要としているものを，私がなしえたことは慶びの至りです．　平面の計画は，いかようにでも変形させることが可能で，お望みとあらば，拡げたり縮めたり，あるいは形を変えることも可能です」

ここには，信じられないほどの，ライトがもつにいたった〈自由〉感が溢れている．　ファイファーは，〈神の家〉たる教会を，〈人間の家〉にしつらえたと賛美している．

ユニティ教会では，ライトは，その教義に合せて，キリスト教のシンボルを拒否した．　しかし，内部空間は，きわめて新しい呪術にみちていた．　シンボルは消えても，彼のいう有機的な内的リズムがそれにかわり，それは呪的なものであった．　既製の教会の魔術がすべてとりこまれ新しい姿に煮つめられて姿を現していたといってよい．

キリスト教は，原始呪術を征服したが，実際はそのエキスを洗練化して用いつづけた．　ライトは，そのキリスト魔術を征服し，あらたな呪術体系をつくりあげたのである．

ライトの建築が20世紀をもちこたえたばかりか，21世紀の建築の姿をも〈予言〉するような気配さえ漂わせているのは，この宇宙的有機に根ざした物我一如の呪術体系，移りかわる時代時代の材料，施工技術を敏感にアダプトすることを忘れなかったからだろう．ライトは，ホイットマンをはるかに超えるところにいたとも言える．

晩年の教会建築は，アナクロニズムなまでに宇宙イメージと呪的イメージを正面に押しだした．　このアナクロニズムこそが，21世紀の〈予言〉だといえないこともないのだ．

●くさもり・しんいち



私は、ボルボを味わっている。

ジャン クロード ドゥモネル 45才 ―― パリ レストラン〝プール オウ ポウ〟主人

「ボルボの味わいがたまらなく好きだから」約一〇〇年もの歴史を持つレストラン〝プール オウ ポウ〟の3代目のオーナー兼シェフであるムッシュ ドゥモネルは、彼にとって3代目のボルボ760GLEを前にして、目を細める。「ボルボは、私の店や私の料理と同じ。ひとりで座っても、誰と座ってもゆったりとくつろげて、味わいのある走りを満喫できる。ボルボに乗るとリッチな気分になれるんだ。」そして、「このひとは、ボルボの味に夢中なの」とかたわらで微笑むマダム ドゥモネルの肩を優しく抱きながら、今度は、彼のもうひとつの自慢、家族のことを語り始めた。



●写真の車は760GLE。但し、細部において日本国内で販売されるものと異なる場合があります。

8.9% 業界最低利8.9%の
ボルボ ローンをご利用ください。

知る人のボルボ。

ボルボの優れた快適さ、それは、北欧家具の伝統、ドクターまでが参加して追求される人間工学、最先端を行くテクノロジーの見事な調和から生まれました。さらに、9ヵ月間ボディを海水に漬けてもさびない、14mの高さから落下しても乗る人を守る、など、数々の実験から証明された高い品質と安全性は、他に類を見ません。車の本当に大切な性能とは何か、を知る人のボルボ。今、写真のプレステージサルーン760シリーズからコンパクトボルボ360シリーズまで、3シリーズ8タイプ揃いました。

Safety & Quality
VOLVO

帝人ボルボ株式会社／〒106 東京都港区六本木4-1-4 TEL.(03)585-8231 ●東京支店 TEL.(03)585-8833 ●西東京営業所 TEL.(03)994-8321 ●目黒営業所 TEL.(03)714-3261 ●横浜支店 TEL.(0427)96-1171 ●横浜関内ショールーム TEL.(045)651-3221 ●埼玉支店 TEL.(0488)55-3121 ●名古屋支店 TEL.(052)612-1175 ●大阪支店 TEL.(06)943-8201 ●神戸営業所 TEL.(0798)36-1477 ●ボルボのお問い合わせは、上記支店、営業所、又は最寄りのディーラーへどうぞ。●国産車、外国車にかかわらず下取りさせていただきます。

資料請求番 SD-9

スカンジナビア航空

SASのお客さまは、ホテルで“フライト済ませてしまいます。

着いてから、もっと差がでる。SASのヨーロッパ出張

手荷物ひとつで、出発までの時間を気軽に過ごせる。とてもラクですね。

スカンジナビア航空をご利用のお客さまなら、お泊りのホテルで搭乗便のチェックインができます。もう、空港まで重い荷物を運ぶ必要はありません。出発までの時間を、手荷物ひとつで気軽にお過ごしいただけます。多忙なビジネスマンには、うれしいゆとりですね。この独自のサービスは、現在スカンジナビア主要都市のSAS系ホテルなどで実施中。今後さらに拡大していく予定です。このように空の上だけでなく、ヨーロッパでも様々なサービスをご用意しているSAS。スムースでゆとりあるご出張の旅を、あなたにお約束します。ぜひご利用ください。

ファースト・ビジネス・クラスの主なサービス

●ヨーロッパ内では、24時間の電話予約サービス●空港では、ご搭乗前のひとときを専用ラウンジでゆったりと●空港でのチェック・インは、専用カウンターで素早く●コペンハーゲン空港で乗り継ぎに3時間以上ある場合は、デンマーク政府観光局によるサウナと朝食の無料サービス（北極ルートSK980便のみ）機内でも…●フットレストを装備した新設計シートを採用●一流の料理を陶器のお皿で、コースごとに●お好きなお飲みものをいつでも●お帰りの便では、お寿司やおそばのサービス

月・木・土 ●東京21:30 —SK980 アンカレッジ経由→ コペンハーゲン06:45

水 ●東京10:20 —SK982 モスクワ経由→ コペンハーゲン16:55

SAS

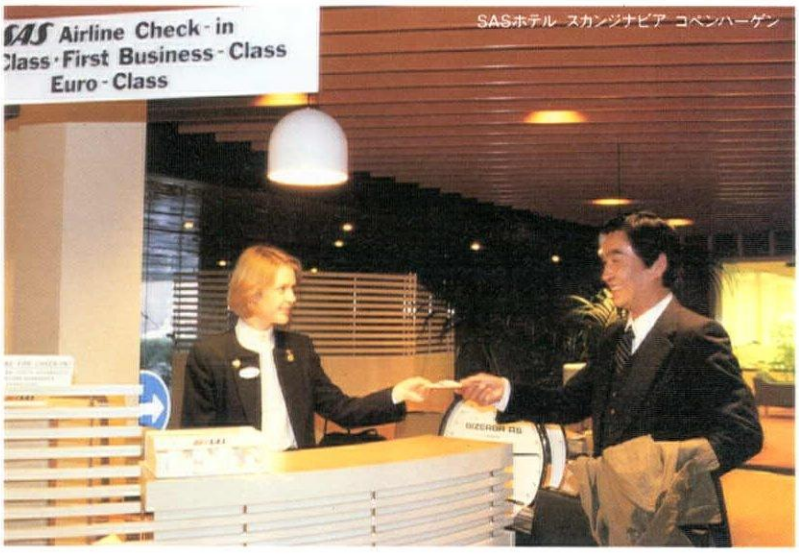
The Businessman's Airline

"WE LISTEN"

スカンジナビア航空 東京503-8101（予約）・3151（旅客営業） 横浜671-7207 札幌241-6050 大阪348-0611・0211（予約） 名古屋561-6913 神戸321-1170（大阪へ自動転送） 福岡713-7581

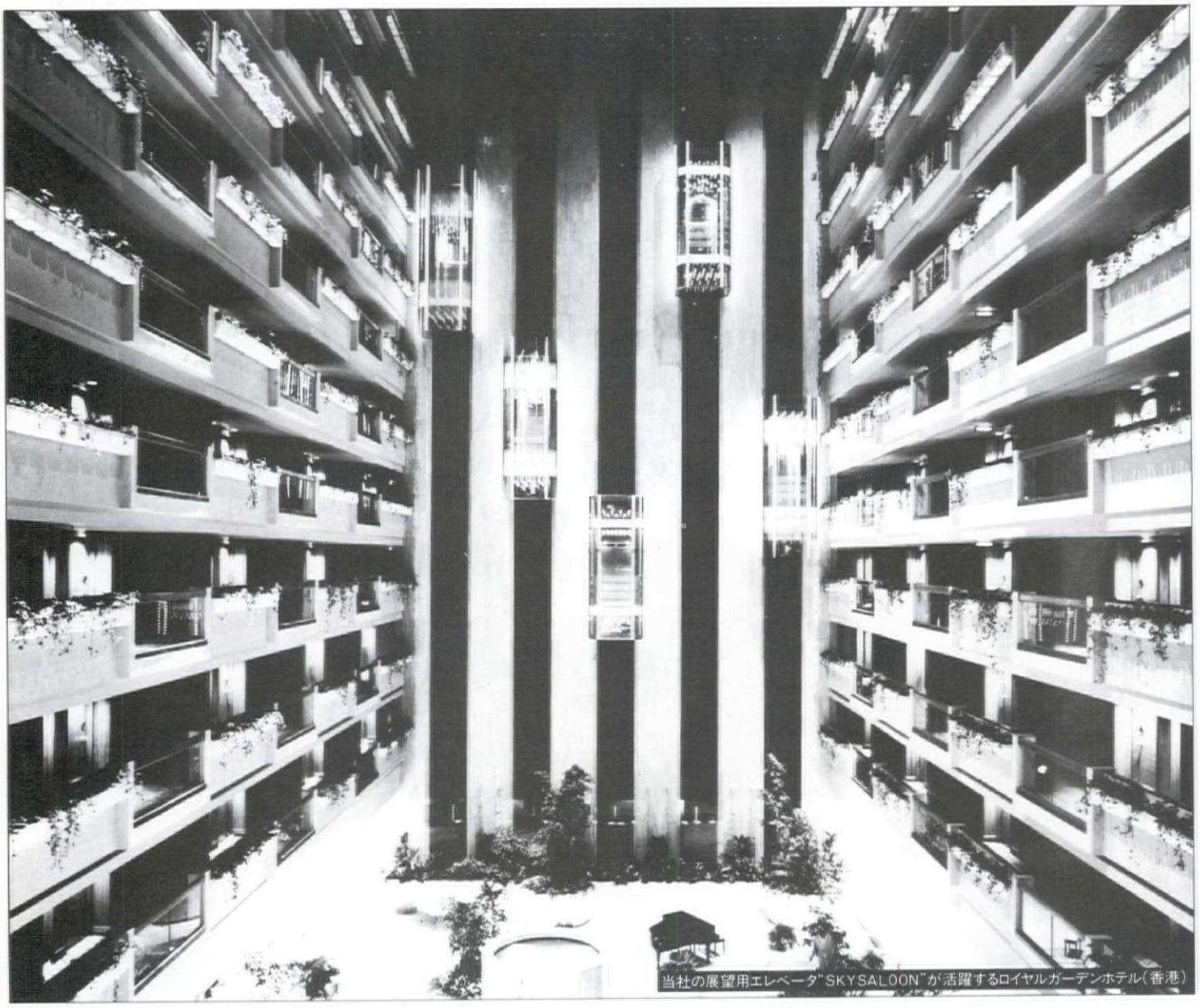
※ご予約は、お近くの旅行代理店またはSASスカンジナビア航空へ。

のチェックイン”を



SASホテル スカンジナビア コペンハーゲン

●世界のエレベータ **FUJITEC**



当社の展望用エレベータ"SKYSALOON"が活躍するロイヤルガーデンホテル(香港)

エレベータは人の流れを読む。

●ビル交通需要の変化を予測して、エレベータが動く。しかも、その動きはきわめて効率的。FLEX-11はまさに先進の群管理システムと呼ぶにふさわしい装置です。中枢部には学習機能をそなえた高性能マイクロコンピュータを搭載。時々刻々変化する交通需要を逐次、分析・整理します。結果、常に最新の交通データが確保されます。乗場呼びが発生すれば、その交通データからビル内の人の動きを予測、最適なエレベータを割当てます。この予測割当てには高度なゲーム理論"ベイズ戦略"を応用。その精度の高さは驚嘆に値します。しかも待ち時間の短縮だけでなく、消費電力の節減、予報はずれの防止などからも総合評価し、割当てます。FLEX-11はサービス性でも、経済性でも一歩進んだ群管理システムです。

エレベータの動き、あざやか。FLEX-11

- ■エレベータは乗場呼びに素早く応答します。長待ち発生率は大幅に減少、平均待ち時間は約20%(当社比)短縮。
- ■高精度な即時案内。
- ■省エネ運転。乗場呼びには停止回数の少ない、走行距離の短いエレベータを割当て、消費電力を節減します。
- ■テナントの入れ替わりなどによる大幅な交通需要の変動にも自動的に対応できます。プログラムを変更する必要はありません。

●群管理システム

FLEX-11

フジテック株式会社
●本社　大阪府茨木市庄1-28-10 ☎0726-22-8151

●東京 03-443-5231　●札幌 011-742-2241　●仙台 0222-22-0271　●横浜 045-201-0869　●名古屋 052-261-6851
●大阪 06-441-8521　●金沢 0762-61-5108　●京都 075-231-7144　●神戸 078-391-4795　●広　島 082-231-6760
●高松 0878-31-0015　●福岡 092-472-1591　●鹿児島 0992-26-9555

ニュース NEWS

デボラ・ターバヴィル写真展

昨年，ＣＦの撮影で話題を呼んだが，その全貌は知られず，《ヴォーグ》などのファッション雑誌で僅かに作品が紹介されていたデボラ・ターバヴィルの〈漂う時間――現在・過去・未来の邂逅を捉える現代女流写真家〉とサブ・タイトルされた写真展．
ターバヴィルは，1937年ボストンに生まれ，最初はファッション・エディターとして《ハーパース・バザー》や《マドモアゼル》誌の編集を担当していたが，66年リチャード・アベドンとイズラエルに写真と美学を学び，活動を始めた．　その作風は，フィクション性の高いもので，今日の写真家の中で最も演劇的な写真家といわれている．

Deborah Turbeville Exhibition

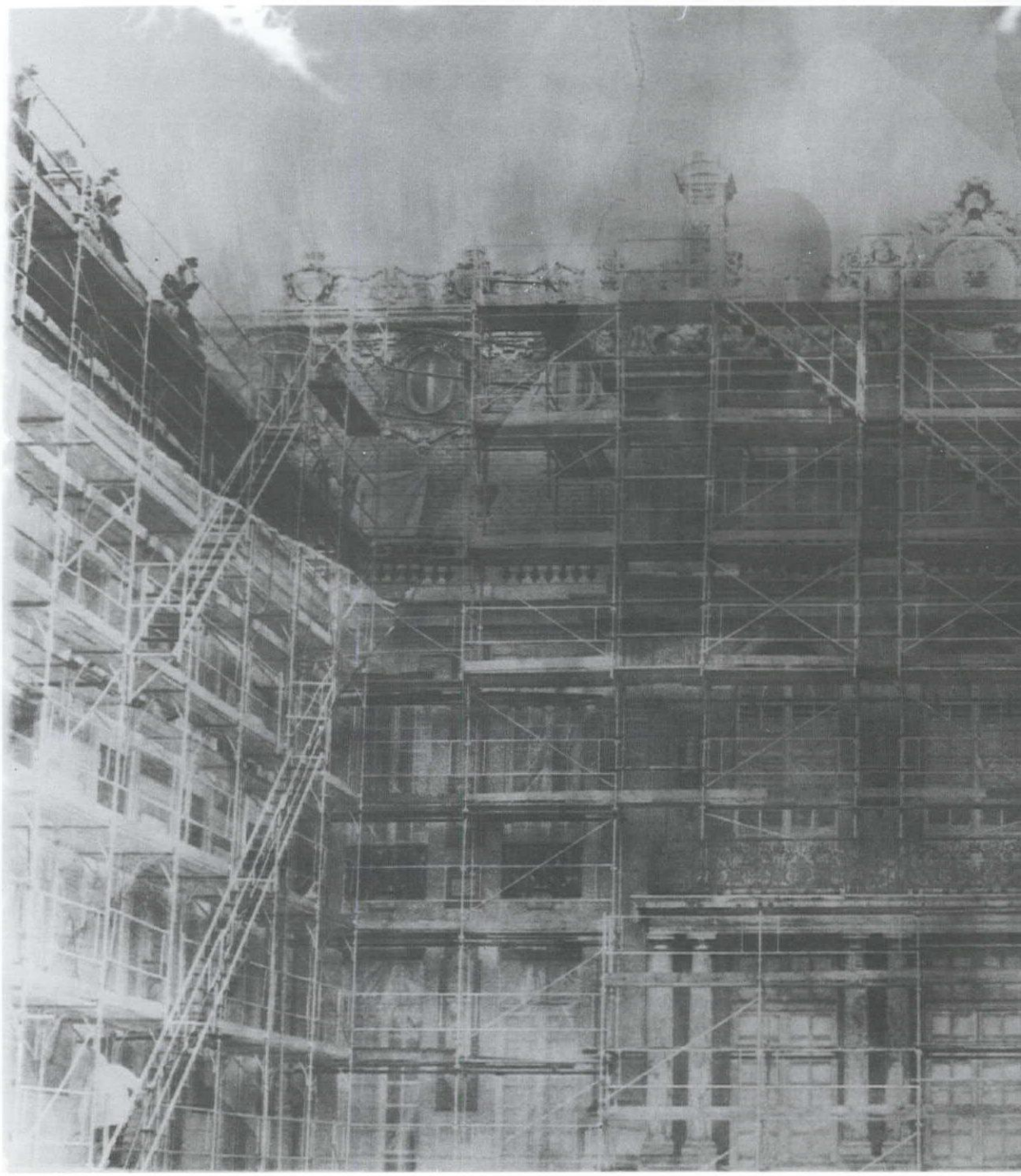


〈Unseen Versailles〉より．

ニュース NEWS

今回展示されるのは，79年に出版された処女作品集《WALLFLOWER》，81年の大作《Unseen Versailles》，ファッション，ヌード写真などオリジナル写真約200点，他数本のビデオワーク．

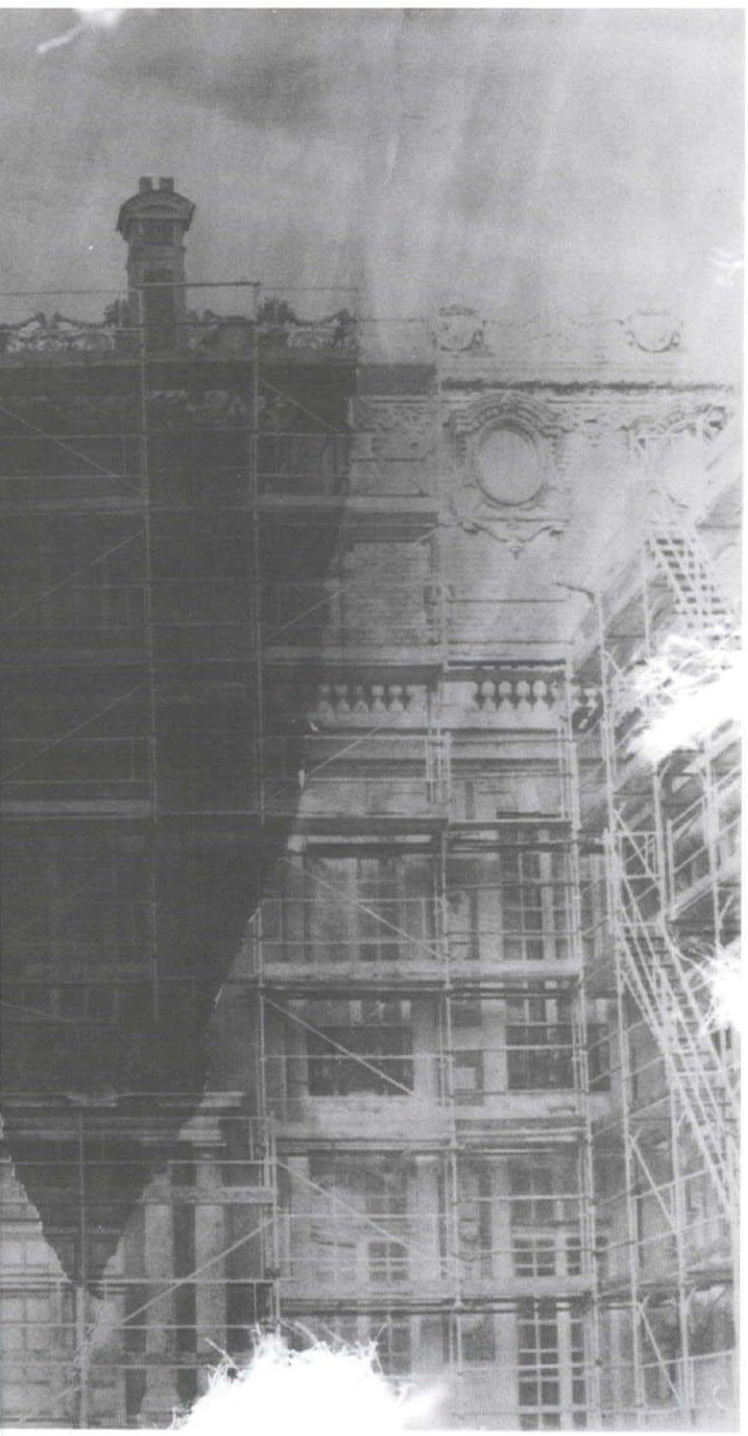
展示作品中，最も注目すべき大作《Unseen Versailles》は，ジャクリーン・オナシスの発案により，ベルサイユ宮殿を題材に，部屋，彫刻，庭などをスプレーしたガラスをかけて不透明さをねらった手法で撮影したもので，人工的に凍結した奇妙さとそれらの底流にあるバイオレンスの暗示の緊張感が，ドラマとそして陶酔と同時に恐怖すら感じさせるような独特のムードを創り出している．《ヴォーグ》誌は，二つの関連したテーマ——密接な関係にあった旧体制からもぎとられた有名な歴史的記念碑の意味についての瞑想と，写真の歴史についての瞑想をもった注目すべき作品であり，彼女はそれを詩のように創り変えたと評した．ディスプレイは，デボラ自身の希望による



〈Unseen Versailles〉より．

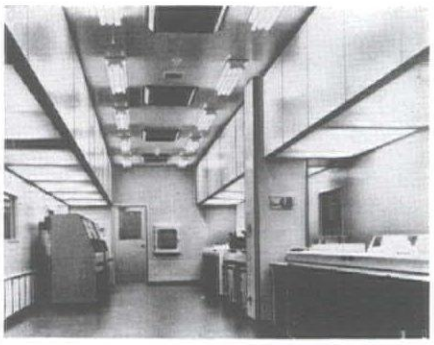
ガラスを使用したユニークなもので，ターバヴィルの求えてやまない過去と現在と未来を同時に邂逅できるような雰囲気と，そのデカダンスの中に逆説的に表現されたエナジーとが，単なるノスタルジーではなく，妖しい〈ターバヴィルの世界〉に惹き込んでくれる．

●デボラ・ターバヴィル展
漂う時間――現在・過去・未来の邂逅を捉える現代女流写真家
展示作品：〈WALLFLOWER〉〈Unseen Versailles〉（コラージュ含む），ファッションワーク，ヌード，ルポルタージュ，他．
カルバン・クラインの最新プロモーションビデオ，他2本．
会期：9月2日（月）～9月8日（日）10:00～20:00
会場：渋谷パルコパート3　8F　スペースパート3
主催：パルコ　後援：アメリカ大使館
協賛：旭硝子株式会社，SONY
入場料：一般700円　学生500円



FUJI ELECTRIC

トータル技術で
ミクロの世界に挑む



生産環境、研究環境など多方面にわたり、空気のクリーン化は重要な役割を果たしています。
富士電機は、クリーンルームシステムの製造をはじめ、基本計画から設計・施工・監理までの総合エンジニアリングを行なっています。豊富な実績をベースにした数々のノウハウを生かし、さまざまな用途に応じた最適なシステムで、幅広いニーズに応えています。

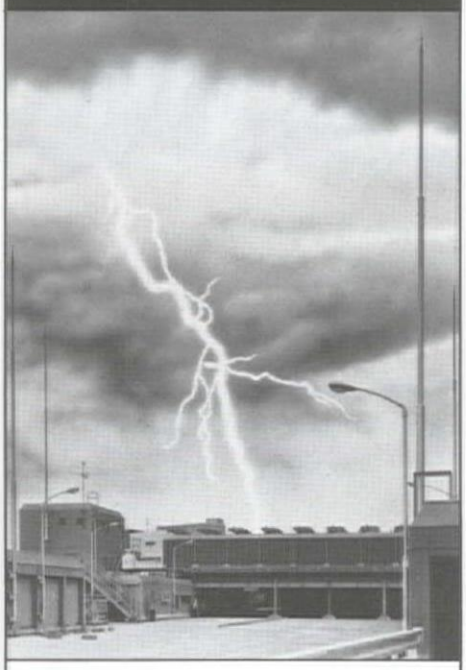
富士クリーンルームシステム

●サーマルキューブ●サーマルベンチ●クリーンベンチ●クリーンブース●クリーンユニット●バイオハザードセフティキャビネット●パスボックス●エアシャワ●メディクリーンユニットなど

富士電機

富士電機株式会社
〒100 東京都千代田区有楽町1-12-1(新有楽町ビル)
TEL (03) 211-7111

避雷設備
／設計・施工
避雷針器材
／製作・販売



東京避雷針工業株式会社
本社　東京都中野区弥生町1丁目55—11
電話(03)372-5261(大代表)〒164
支店　横浜市神奈川区星野町1—12
電話(045)453-1991(代表)〒221

イタリアの新作家具

■椅子《Tライン》
デザイン＝Burghard Vogtherr
製作＝Arflex
2本の足，2本の腕，2本の板よりなる単純だが奇妙な恰好の椅子．　ハイバックとローバックの2種あり，張り地の違いや色の選択によって，公的な場所に用いることも可能である．　構造は見かけよりはるかに丈夫である．　寸法はローバックが75×68×81cm，ハイバックが76×75×100cm．



■プラスチック製ワゴン
デザイン＝Tiziana Violano
製作＝Kartell
このワゴンは，ただ単に食事の際のサービス用に使われるのではなく，テレビを含め家庭内の持ち運び可能なものならどんなものでも載せることができるように，頑丈に作られている．　極めてシンプルな形だが，押し手の三角形部分がユニーク．　本体は白黒の2色だが，押し手は5色のアクセント・カラー．　プラスチック製，75×45×70cm．

■プラスチック製テーブル
デザイン＝Anna Castelli Ferrieri
製作＝Kartell
ねじや金属の継手を必要としないで組立て可能な一本足のテーブル．　一本足ながら非常に安定性に富むので，4本足テーブルの代わりとして使用することができる．　また，足が邪魔にならないので，幾つかをつなげて大きなテーブルとすることもできるし，屋外でも使えるので，レストラン用として最適である．





［ニューヨーク情報環境論］
粉川哲夫＝著
B6判変型　236頁
晶文社　1600円

評者＝
伊藤俊治

劇場都市から電子都市へ

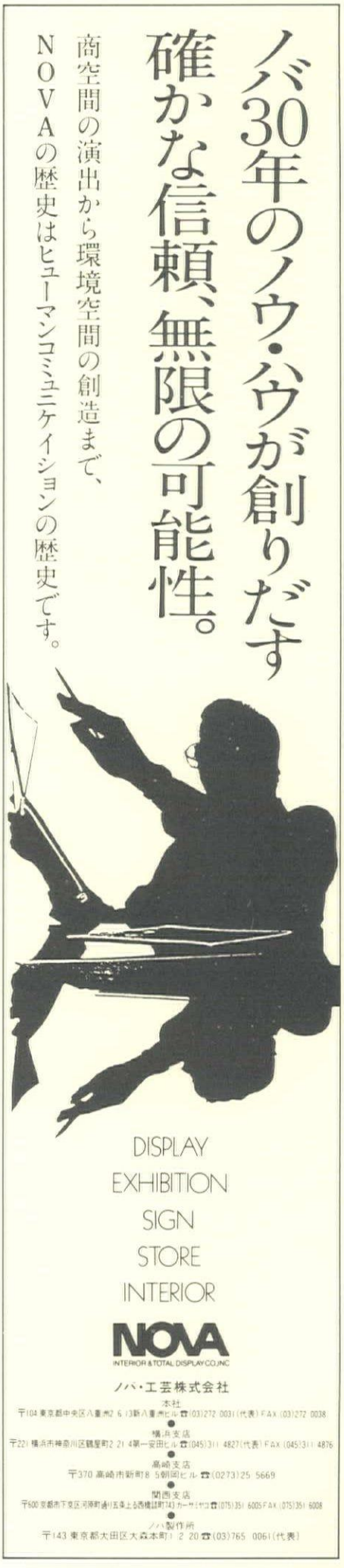
ぼくにはそれまで毎年のように通っていたニューヨークへの訪問を，1980年頃を境にぷっつりとやめてしまったという経験がある．　代わりにバリ，バンコク，マニラ，ジャカルタ，シンガポールといったアジアの騒々しい諸都市をめぐり歩くようになり，その行程は今も続いている．　自分では意識していなかったのだが，本書を読み進めてゆくと，なぜぼくがこの時期にニューヨークからアジアの都市へとその眼差しを変えていったのかがよくわかった．

本書の著者は，街路劇場であったニューヨークが1980年頃を境に急速に活気を失い，劇場都市の面影を消して電子都市へとその衣裳を変えていったという．　都市全体がエレクトロニクスの集積回路と化し，身体を取り巻く環境が電子的なものへつくり変えられていった．　そしてぼくはといえばまさにこのニューヨークの新しい環境になじめずに，まだ身体同志のざわめきやいかがわしさを濃厚に残しているアジアの街へとくりだしていった．　それは非常に個人的な営為ではあるが，おそらく時代の衝動と密接に結びついたものだったのだろう．

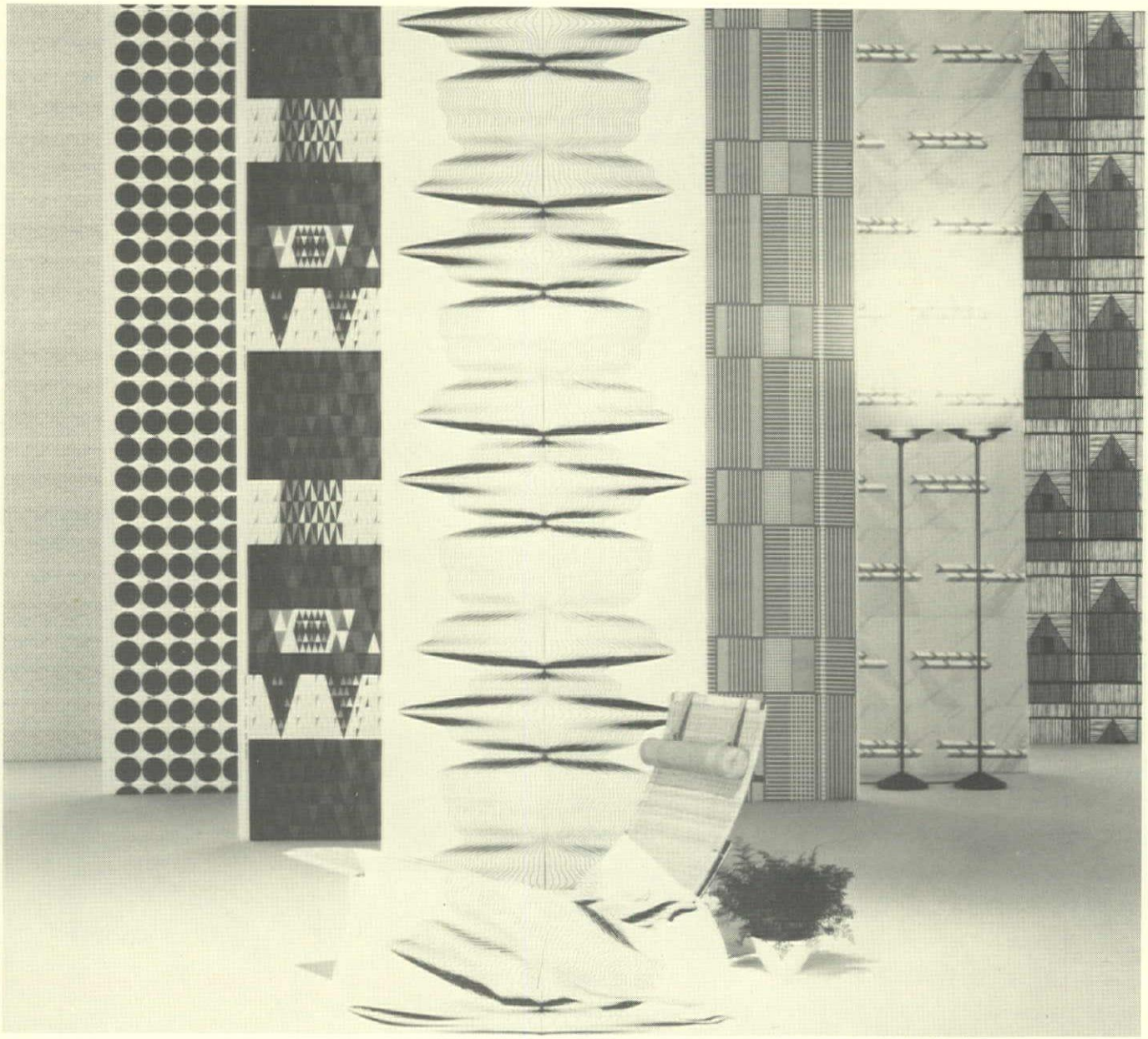
80年代に入ってケーブルTVを筆頭とするニューメディアの発達でニューヨークは本当に大きく変わった．　それはぼくのとぼしい経験からもはっきりと感じとれる明確な方向転換だったと思う．　ニューヨークは〈ジェントリフィケーション〉という新しいライフ・スタイルを採用することで，情報化されつくし，生活や都市の持つハプニングやパーフォーマンスの要素を無効にし始めた．　メディアは，その本来の多様な方向性を失い，人を他の人から孤立させ，自分だけの世界へ閉じこもらせる役割を果たし始めている．　インテリア・ビデオやウォークマンのブームを見ればわかるように，高度な電子テクノロジーを駆使したメディア装置はいまや，生身の人間同志を結びつける媒介としてではなく，逆に遠ざけるものとしての機能を発揮しているのだ．

そして徹底的に情報化しつくされた環境とは〈死の都市〉であると著者は言う．我々は今，その死へ向かう意識を身体の奥底に凶器のように隠し持っているのだと．著者は，その危険な環境の自覚から始め，急速なエレクトロニクス化が進むなかで生活の場の中心を街路から室内へと移し変え，巨大なコンピューターのような形状を呈してきたニューヨークへ身体的突入を果たし，新しい都市像を浮びあがらせた．　それはただ単に劇場都市から電子都市へ意匠が変わっただけではない．　これまで我々が身体や感覚に抱いてきた概念が根底から組み変えられてゆく世界である．　そのはざまで著者の身体が震えている様子がこの本からはヴィヴィッドに伝わってくる．　本書が最も基本的なメディアとしての身体を都市のリズムと記憶に通したスリリングな都市論となっているのはその震えのためなのだと思う．

●いとう・しゅんじ／美術評論家



リビナ・ヤマギワに新しく　インテリア・ファブリックフロア誕生



リビナ5F〈インテリア・ファブリックフロア〉には、ヤマギワオリジナル・スウェーデン王立美術館秘蔵のファブリックコレクションから、シナサンド社のニューデザインテキスタイル、フリッツ・ハンセン社の家具など世界の一流ブランドが勢揃い。照明から家具、ファブリックまでリビナ・ヤマギワでは住まいをトータルにコーディネートいたします。さらに充実したリビナ・ヤマギワにご期待ください。

ヤマギワのあかりとインテリア

LIVINA

リビナ―ヤマギワ

リビナ・ライトガーデン　RF
リビナ・サロン　7F
蛍光灯・浴室灯・屋外灯フロア　6F
インテリア・ファブリックフロア(パーラー)　5F
ペンダント・和風フロア　4F
シャンデリアフロア　3F
スタンドフロア　2F
インフォメーションフロア　1F
システムキッチンフロア　BF



秋葉原東京本店より170m
リビナ隣に電球・管球専門店、バルブショップオープン。
お茶の水駅聖橋口より東へ徒歩5分　TEL(03)253-2111〈大代〉
(インテリア・ファブリックのお問い合わせ、ご用命は、リビナ5F三浦・山川まで)

大阪店 TEL(06)643-2111〈大代〉　世田谷店 TEL(03)483-3111〈代〉　福岡店 TEL(092)721-5661〈代〉　高松店 TEL(0878)39-3195〈代〉　大宮店 TEL(0486)41-7325〈代〉　六本木店 TEL(03)587-2861〈代〉
名古屋店 TEL(052)931-2111〈代〉　千葉店 TEL(0472)25-2111〈代〉　神戸店 TEL(078)241-2111〈代〉　仙台店 TEL(0222)27-1251〈代〉　相模原店 TEL(0427)47-7701〈代〉　金沢出張所 TEL(0762)22-6733〈代〉
横浜店 TEL(045)261-2111〈代〉　札幌店 TEL(011)221-1321〈代〉　広島店 TEL(082)249-5255〈代〉　宇都宮店 TEL(0286)21-1121〈代〉　名古屋ルーサ店 TEL(052)582-2022〈代〉

書評 BOOK REVIEW

［建築のパフォーマンス
——〈つくばセンタービル〉論争］
磯崎新＝編著
A 5判　296頁
パルコ出版　2000円
［ポスト・モダンの時代と建築］
磯崎新＝対談
A 5判　280頁
鹿島出版会　2300円

評者＝
榎本弘之

状況の断面
——論争のパフォーマンス

昨年暮から何冊か，ぽつぽつと連続して磯崎新の本が出た．　そのうち，都市を論じた《いま，見えない都市》(大和書房)は別としても，《ポスト・モダン原論》(朝日出版社)及び《ポスト・モダンの時代と建築》の2冊は，タイトルからして今や誰もが認知するポスト・モダンを高らかに掲げている．　また，最新刊《建築のパフォーマンス》にしても，つくばセンタービルに関して，建築雑誌を賑わした多様な人々からのコメントとそれへの応答を纏めた，いわばポスト・モダン・アンソロジーである．　こう見る限り磯崎は，日本の，否，世界のポスト・モダン建築家のステートマンあるいはヒーローにまで祭り上げられたかの感がある．

ここで大上段に振りかぶってポスト・モダン論や磯崎新論を取沙汰する気はないし，その余裕もないが，一つ興味がそそられるのは彼の語り口である．　もはや通俗的な響きすら一面に持ち，いつパッと見限られるとも分らないこのスタイルに対して，いかなる姿勢をとるか——時代に迎合して要領良く立廻るか，うまい所だけ器用につまんで小奇麗にまとめるか，あるいは片足つっこみながらもあくまで毅然と己れの自律性を保とうとするか——というレベルでの態度表明である．

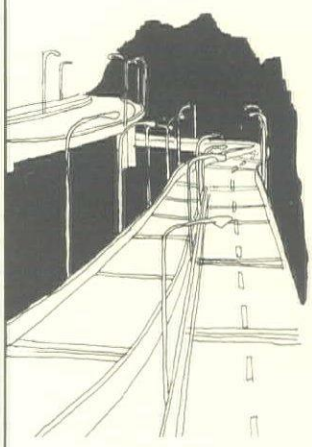
もともと状況への醒めた分析とコンテンポラリーな文化の他領域からの概念の移入を足がかりとして論理を構成してきた磯崎としては，それらとのパイプ役として，こういった問題は尚更重要な意味をもっているのだろう．　その結果彼は，いわゆる通俗的なゲイ的ポスト・モダニズムとは「ジェンクスがひじょうに悪い使い方をしたためかなりの後遺症が残ってしまった」と述べることで一線を画す．　そうしておいたところで次に近代建築の一元性がもつ味気なさ・手応えのなさから説き起して，ポスト・モダンを正統的に解説するのである．しかし彼はこうした一般向けの言説の中でも，自らとの距離を保つことを忘れない．《ポスト・モダン原論》の中でつくばセンタービルを語る時には〈ポスト・モダン〉という言葉は一切用いず，逆にこのスタイルを歴史的に説明する場面では，自作に関する記述を周倒に遠ざけてしまうのである．

それは《建築のパフォーマンス》でも同様であり，広い分野にまたがる多くの人達からの批評に対する応答の中でも，つくばセンタービルは自らのそれまでの論理と方法の正確な延長上にあることが力説され，たまたまそれが時流と一致する部分を持っただけであることが言外に仄めかされる．そして自らのスキゾ・エクレクティシズムは国家の様式というものに対する論理的解答であり，エレメントの意味自体ではなく，それらを引っ張ってきて組合せたときの配列の背後にある論理のみに意識が集中されたことが語られる．

磯崎の建築は常に議論を呼び，時代を前に押進めてきた．　それがここで〈パフォーマンス〉と呼びうるまでの広い論争に至ったことは高く評価するに値しよう．　しかしそれ以上に興味深いのは，共通したテーマを与えられることによって現代という中途半端な時代の断面を垣間見せてくれたことかもしれないのだ．

●えのもと・ひろゆき／建築家

明日の環境づくりを考える……



営業品目
ビル、工場、一般電気設備
防爆電気設備
受変電設備
外線工事及び計装工事
電気機器の販売
設計・施工

篠原電機工業株式会社
本　社　〒210 川崎市川崎区藤崎4丁目4番4号
電話 川崎 044 (244) 1241(代表)
横浜営業所　〒231 横浜市中区真砂町4丁目43番地 木下ビル4階
電話 横浜 045 (651) 4268(代表)
大和営業所　〒242 大和市下鶴間字甲10号1614番地89
電話 大和 0462 (76) 3107(代表)
相模原営業所　〒228 相模原市相模大野6丁目29番
電話 町田 0427 (44) 3238(代表)
出張所　岩井、伊勢崎、藤枝

永年の信用ときたえぬかれた
技術を駆使する!



●一般電気設備工事＝設計施工
●防爆電気設備工事＝設計施工
●計　装　工　事＝設計施工
●電気加熱保温工事＝設計施工
●パイプライニング工事＝設計施工
●静電気接地用リール＝＝販売

昭和電機工業株式会社

取締役社長　浦　道　雄

●本社／東京都港区東新橋２丁目７番３号　電話03(437)3851(代表)
●営業所＝大阪・中部・広島・福岡
●出張所＝苫小牧・京浜関北・新潟・鹿島・千葉・四日市・堺・水島・岩国・徳山・坂出・松山・新居浜・大分
●駐在事務所＝ジャカルタ・テヘラン・シンガポール

新刊紹介 BOOK INFORMATION

［100＋3 Great Danish Industrial Designs
ID prisen 1965-85］
Danish Design Council＝編
207mm×217mm　177頁
Danish Design Council

デンマーク・デザイン委員会が，秀れた工業製品のデザインに対して賞を授与し始めたのは1965年である．　このたびその20周年を記念して１冊の本が出版された．　20年間に選定された100の工業製品と３人の特別賞の受賞者を紹介したものである．　デンマークというと，家具や照明器具，テーブルウェアなどの家庭用品のデザインが名高いが，この賞は補聴器，ディーゼル・エンジン，テスター，計測器，耕運機など実に幅広い分野の製品が対象となっており，選考の基準も，新奇な形態というよりも，製法，労働環境への貢献，安全性，耐久性，精度など技術に関する基本的にして重要な項目が優先されているようである．　社会に対してデザインがいかに深く，幅広い分野において貢献しているか，この本は良く教示してくれると言えよう．

［図形思考・建築家とデザイナーのための
グラフィック・シンキング］
ポール・ラッソー＝著　久野和作＝訳
Ａ４版　220頁
商店建築社　2800円

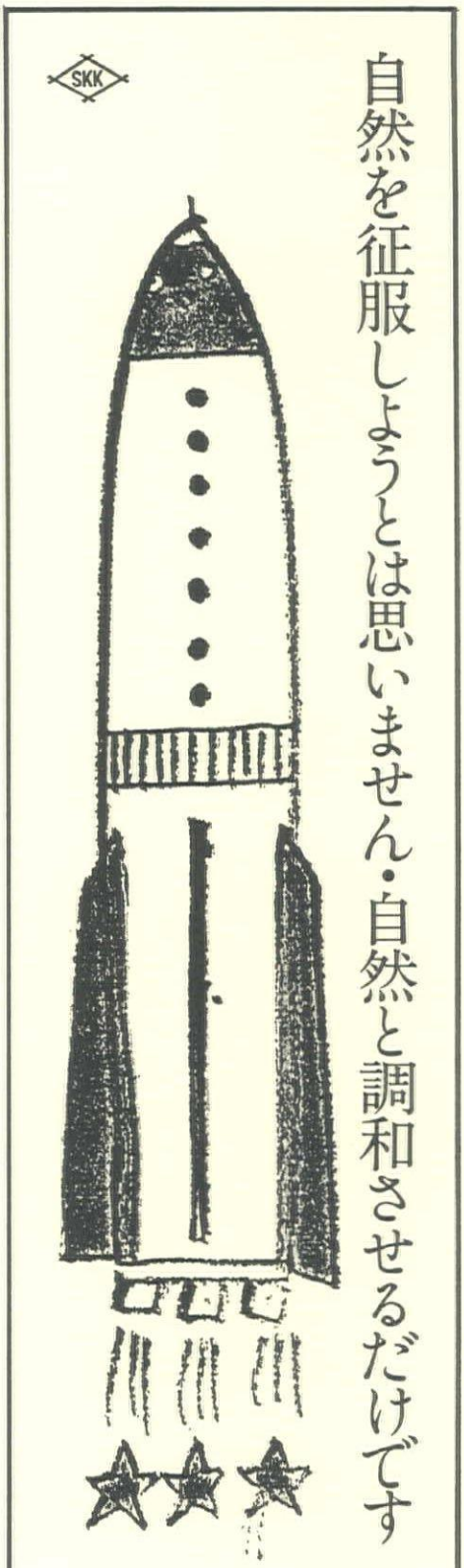
建築家やデザイナーにとって，眼で見たもの，頭で考えたことを，ドローイングやスケッチで現わすことは，ものを創造してゆく上で欠くことのできない作業であり，重要な意志伝達手段である．　本書は著名作家のドローイング，スケッチを基にその思考の軌跡を，各手法の解説を添えながら，たどり，読み取ろうとする．　建築家やデザイナーを目指す学生達には格好の書といえる．

［記号学研究５
――ポイエーシス：芸術の記号論］
日本記号学会＝編
Ａ５判　279頁
北斗出版　2900円

日本記号学会による《記号学研究》の第５号であり，〈芸術の記号学〉のテーマのもとに15の論文がとりまとめられている．　ポイエーシスとは，プラトンによれば，芸術作品の創作一般について言われるべきものであり，本書も，幅広い領域での論考がなされている．　また，芸術の諸領域での創作者による論文も数多く見られ，この学問の射程の深さを見せており，まさに〈生きた学〉としての動きを感じさせている．尚，巻頭に初代記号学会長，故川元茂雄氏の最終講義を収録してある．

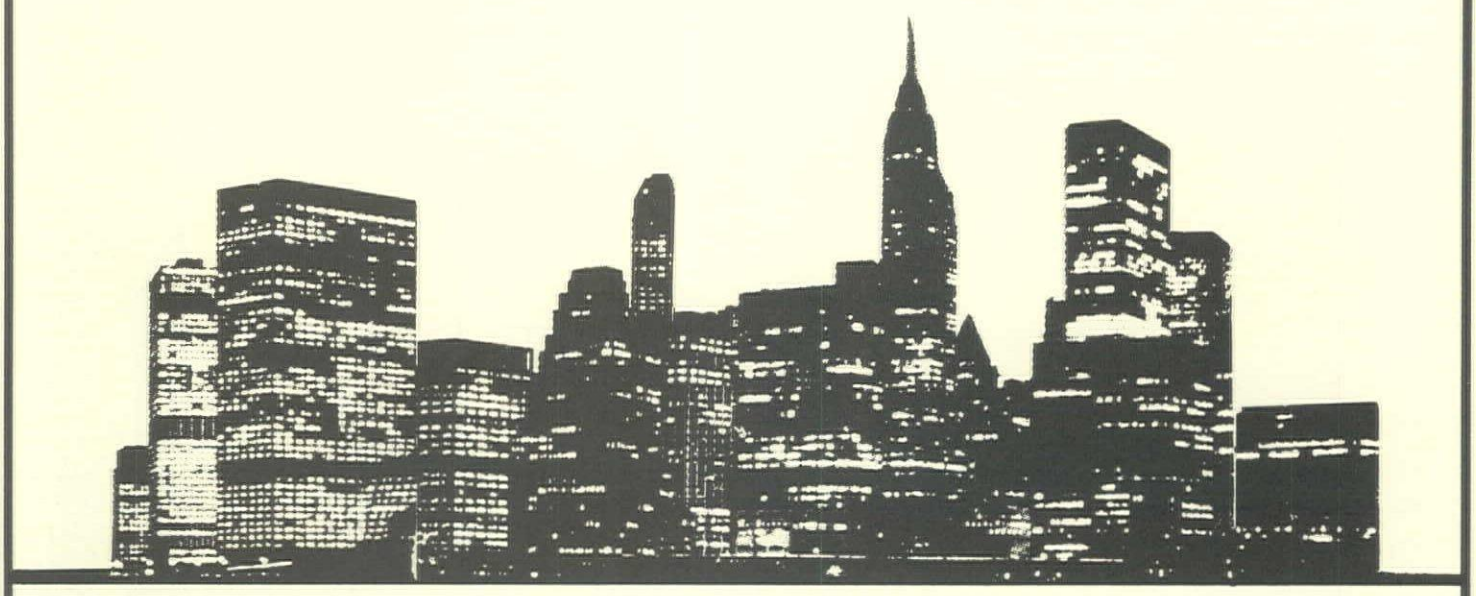
［近代建築の空間再読
――〈巨匠の作品〉にみる様式と表現］
富永譲＝編著
Ａ３判　133頁
彰国社　2400円

近代建築を〈近代建築的なもの〉と見なし切り捨てることを前提として〈現代の空間〉を云々する議論を多く見うけるなかで，本書は1923年のプラウダ支局ビル計画案から1972年のキンベル美術館に至る近代建築24作品の再読を通して次代への新たな展望を開こうとしている．　各作品は，正確に起こされた平面，断面，立面，等角透視図によって表現され，平面の構成，架構の構成，被膜の構成，形態の構成といった軸からの考察がなされている．　これらの軸が，複雑に絡み合う様を読み解くうちに，すべてを〈近代建築的なもの〉として片づけてしまう硬直した物の見方から開放され，作品に込められた豊饒な意味と夢の数々に触れることができるだろう．



三機

品質への限りない挑戦。
技術と技能。



日々刻々と進歩する先端技術、その成果を製品の中に反映させ実らせる技能。このふたつがあってこそ、確かな品質が保証されます。三機は、現代から未来へ向けて、高品質な人間環境づくりに取り組んでいます。そのために、さまざまな分野で時代をリードする、高度な技術と高水準の技能とを結合し、独自の総合エンジニアリングを推進しています。

建築設備

プラント設備

三機工業株式会社

本　店　東京・日比谷・三信ビル　TEL(502)6111
支　店　大阪・名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国

お知らせ INFORMATION

朝倉響子作品展

繊細で自由な表現の中に，女性の内面的表情や官能性を見事に映し出してきた具象彫刻家の第一人者，朝倉響子の作品展が開催される．　この展覧会では写真家安斎重男が撮影した独特の映像と彫刻自体とがあいまった，インスタレーションが繰り広げられる予定．　会場構成は朝倉摂．

日時：9月16日(月)～9月29日(日)
10：00～20：00　（9月16日は14：00より）
会場：渋谷パルコ　パート3　8階　SPACE PART3
入場料：一般700円　学生500円



〈マリ〉

安藤忠雄，アルヴァ・アアルト賞受賞

日本の建築家としては初めて，安藤忠雄氏がアルヴァ・アアルト賞を与えられた．　この賞はアアルトの業績をたたえてフィンランド建築家協会が設立したもので，過去にジェイムズ・スターリング，ヨーン・ウッツォンらが受賞しており，安藤氏で5人目となる．　アアルトについては多言を要しないだろうが，北欧の風土に根差しつつ独自のデザインを創出した近代建築の巨匠であり，1976年に没してから以降もその影響力は測り知れないものがある．　歴代の受賞者とともに安藤氏もまた風土や環境を尊重しながら，真に独創的な，そしてまた普遍的でもある表現にまで到達しえたことが評価の対象とされたようである．　授賞式は，3年ごとに開催される第3回国際アルヴァ・アアルト・シンポジウムの初日，8月12日にユヴァスキュラのアアルト自身で設計した建物内において行なわれ，同時に記念講演会も行なわれた．

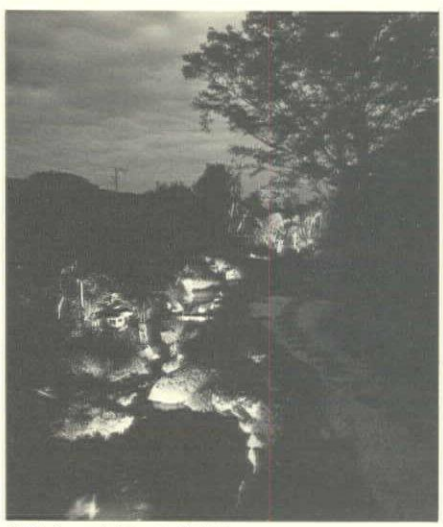


1985年国際照明デザイン賞

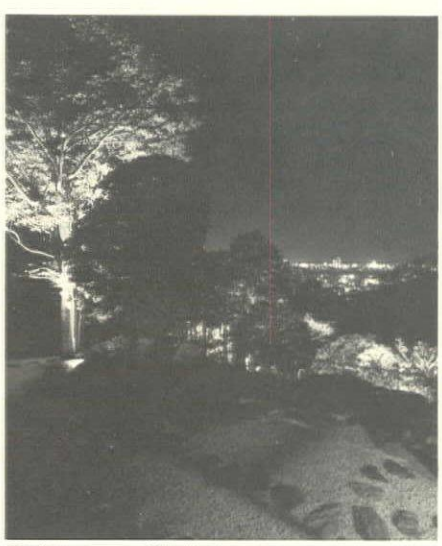
北米照明学会（IES：Illuminating Engineering Society of North America）主催による，1985年国際照明デザイン賞（IIDA：International Illumination Design Awards）優秀賞（Edwin F.Guth Memorial Award of Excellence）4作品が決定した．　各国からの数多くの応募作品の中より，日本からの2作品，面出薫・TLヤマギワ研究所による日東土地〈洗心寮〉の日本庭園照明計画と，石井幹子による志賀での〈レーザー・パフォーマンス〉がみごと，受賞し，7月24日デトロイトにて授賞式が行なわれた．

この賞の対象作品は，照明器具デザインではなく，広く環境と照明といった観点から，優れた照明計画とその実践に対して授与されるものである．

今回の受賞を機に，日本の〈環境照明〉の第一人者たる両者の，今後のさらなる活躍に期待したい．



ライトショーの1シーン〈洗心寮〉



街の灯をとりこんだ夜景〈洗心寮〉

明日の豊かな環境をつくる。

大成温調工業株式会社

本　社　東京都品川区大井1丁目47番1号
〒140 ☎03(774)1111(大代表)
支　店　東北・関東・大阪
営業所・出張所
名古屋・静岡・千葉・新潟・横浜・栃木・茨城
秋田・兵庫・青森・盛岡・長岡・甲府・沖縄

主要業務内容
●冷暖房空調設備工事／冷凍冷蔵設備工事の設計・施工請負
●設備／機器に関するコンサルタント業務
●設備装置の修理/整備/運転調整/保守点検
●日立冷凍空調機器の販売

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備/給排水衛生設備/塗装設備
/公害防止関連設備の設計・製作・施工
本社・東京本店 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル
☎03-344-1851(大代)
大阪支社 大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル
☎06-448-5851(代)
北海道支店☎011-222-3371 東北支店☎0222-21-7800
名古屋支店☎052-211-1535 中国支店☎082-247-5541
九州支店☎092-431-2147

お知らせ INFORMATION

第1回日本図書館協会建築賞

優れた図書館建築を顕彰し，一層の図書館建築の質の向上を計る目的で設けられた日本図書館協会建築賞（日本図書館協会）が決定した．　総合的に優れた作品に与えられる〈優秀賞〉4点，個性的に優れた作品に与えられる〈特定賞〉4点が選考された．〈優秀賞〉は，日野市立高幡図書館：長谷川紘都市・建築研究所，浦安市立中央図書館：佐藤武夫事務所，学習院女子短期大学図書館：前川国男建築事務所他，筑波大学中央図書館：岡田新一設計事務所他．〈特定賞〉は，軽井沢町立図書館：三輪正弘環境造形研究所，慶応義塾大学図書館・新館：槇総合計画事務所，他2点が受賞した．

第二国立劇場設計競技

建設省では，わが国初の国際的コンペとなる〈二国コンペ〉の募集要項を発表した．

応募資格：一級建築士，または日本以外の国において，それに準ずる資格を所有する者．

日程：登録期間―1985年7月26日～9月17日，質疑受付期間―1985年7月26日～9月30日，質疑応答書の発送―11月頃，応募設計図書受付期間―1986年4月1日～4月15日，入選発表―1986年6月頃

要項は登録期間中に事務局で交付する．　なお，郵送で請求する場合は22cm×28cmの封筒と240円分の切手を同封すること．

申込先：第二国立劇場設計競技事務局
〒100 東京都千代田区霞が関3－1－1
中央合同庁舎第四号館　Tel.：03-595-0053

第8回ブラウン賞作品募集

若きIDデザイナー，エンジニアに贈られるブラウン賞の応募要項が発表された．

応募対象：すべての工業デザインを対象とする．

応募資格：35歳以下のIDデザイナー，エンジニアで，学生もしくは実務経験2年未満の者とする．

応募日程：応募登録締切―1986年7月15日，予備審査結果通知―1986年8月末日，本審査結果通知―1986年11月

審査員：フリッツ・アイヒラー，栄久庵憲司，アレッサンドラ・メンディーニ，ディッター・ラムス

賞：総額約280万円

公用語：ドイツ語，フランス語，英語

資料は240円切手同封の上，SD編集部へ請求のこと．
（数に限りがあるので，お早目に）

東京コスモロジー
――都市空間の修辞学（レトリック）

感覚で捕えた東京論に飽き足りない人々に対し，建築史，都市工学的立場から東京を解読．　スライド写真多数．　11月上旬には見学会が開かれる．

日時：10月9日～3月2日 第2・4水曜日 全10回
18：30～20：15　（最終回シンポジウムのみ日曜）

講師：陣内秀信，初田亨，松山巌，松葉一清（½のみ）

会場：西武池袋店スポーツ館8階　池袋コミュニティ・カレッジ

募集人員：約35名（定員になり次第締切）

申込方法：池袋コミュニティ・カレッジ受付に直接申込にいくこと．

参加費：受講料23000円（会員以外の方は入会金5000円が必要）

問い合わせ先：池袋コミュニティ・カレッジ
Tel.：03-988-9281（加藤）

都市に棲む
――ネコのひたいに建った家

安藤忠雄，石井和紘，宮脇檀，毛綱毅曠など'30～'40年代生まれの11人の建築家と1グループが都市の極限空間に建てた作品を紹介．

会期：8月3日(土)～9月8日(日)
9：00～16：30　月曜日休館

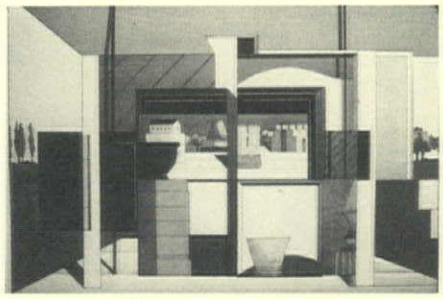
入場料：一般400円，高大生250円，小中生150円

会場：板橋区立美術館　Tel.：03-979-3251
東京都板橋区赤塚5－34－27

グレイヴス・オン・浮世絵

マイケル・グレイヴスのドローイングを原画として，日本の伝統木版技術により版画を作成．　現在〈暮らしの中の風景〉(240㎜×300㎜)，〈代替物としての風景〉(420㎜×270㎜) 絶賛発売中．

問い合せ先：青洋社　Tel.：03-445-0379
東京都品川区上大崎3－3－9－421



代替物としての風景

MITSUBISHI

設備・防犯・防災監視、制御を一体化、ビル管理の省力化に応えます。

監視業務のオンライン化・トータル化で
ビルの管理を省力化するシステムです。

三菱ビル遠隔監視システム〈メルセントリー〉は、お客様のビルと菱電サービス㈱情報センターおよび綜合警備保障㈱ガードセンターを一般加入電話回線で結び、エレベーターをはじめとするビル設備の異常や故障、不法侵入や火災の信号を監視し、緊急サービスも実施して、ビルの総合的な省力化を図れるシステムです。三菱電機の総合技術力に加えて、設備・保守、防犯・防災サービスに業界トップの実績と規模をもつ菱電サービス、綜合警備保障のすぐれたサービス技術が提供されます。

オンライン化された集中管理で
このような導入効果が生まれます。

〈ビル管理の合理化〉：設備監視、防犯・防災監視の無人化を可能にし、省人化が図れます。

〈ビル管理費の節約〉：ビルを24時間常時オンライン監視して、異常の早期発見と、迅速な対応処置が可能になります。また設備の自動制御や計測記録業務を付加することにより、省エネルギーが図れます。

〈ビル運営管理の簡素化〉：総合的な監視業務から、設備メンテナンスまで一括してお引き受けし、ビルの運営管理を簡素化します。

小規模ビル、マンションに
〈メルセントリー〉
- 設備の故障監視、防犯(侵入)、防災(火災、ガス洩れ)の監視
- 設備のスケジュール制御等





▲ ガードセンター

防犯・防災は警備業界大手の
綜合警備保障株式会社

監視サービスから
メンテナンスまで
菱電サービス株式会社

▼ 情報センター



中規模以上のビルに
〈メルセントリーU〉
- 中央監視機能——各種設備監視の一本化
- テナント単位での設備、防犯、防災の監視・制御
- 省エネルギー、省力化向上のための制御
- ビル管理の簡素化

三菱ビル遠隔監視システム 〈メルセントリー〉〈メルセントリーU〉

●詳しい資料をご希望の方は資料請求券をハガキに貼って本社へどうぞ。●お電話でのお問合わせは、お近くの各支社へどうぞ。

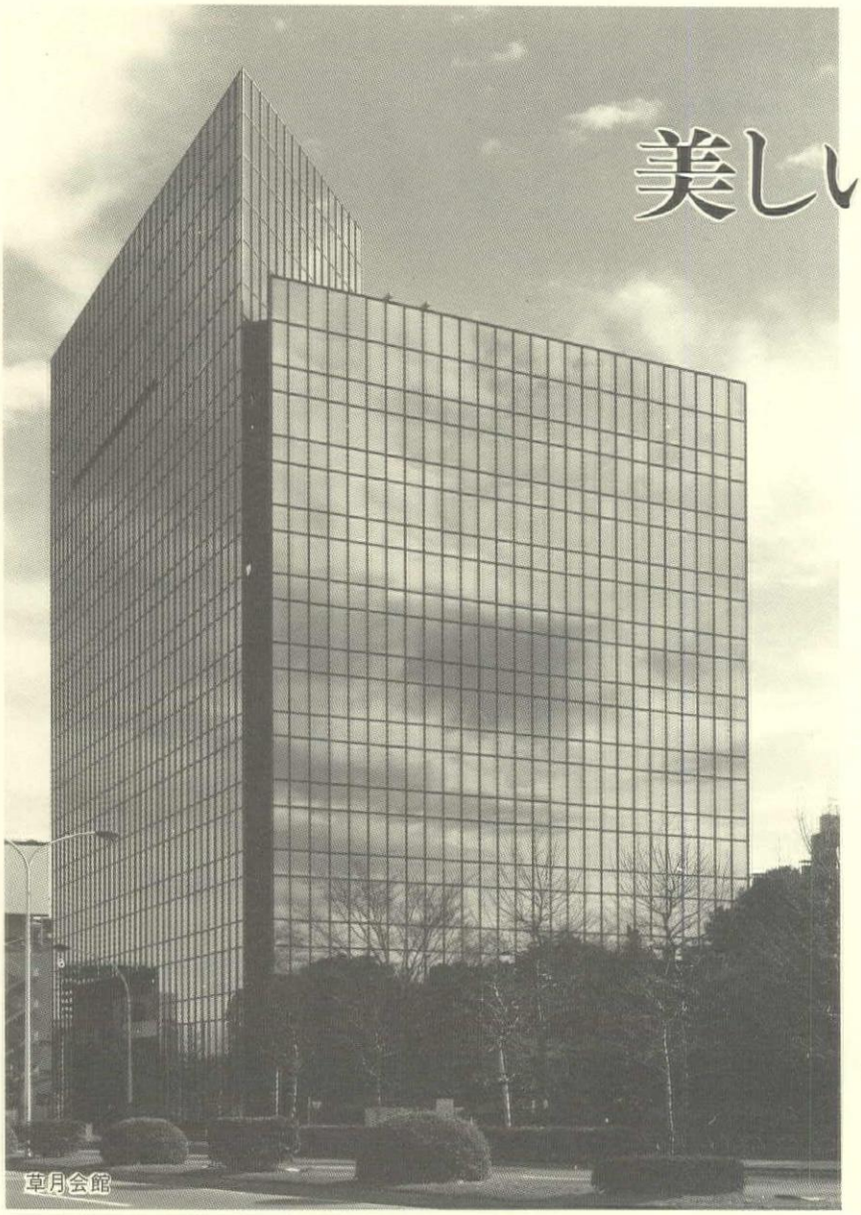
三菱電機株式会社 本社 〒100 東京都千代田区丸の内2-2-3（三菱電機ビル）昇降機事業部 支社：札幌(011)212-3727／仙台(0222)64-5633／新潟(0252)41-7221／富山(0764)42-2324／東京(03)218-2752／名古屋(052)565-3160／大阪(06)347-2271／広島(082)248-5278／高松(0878)51-0003／福岡(092)721-2163

菱ザ 菱電サービス株式会社 本社 〒100 東京都千代田区大手町2-6-2（日本ビル）(03)270-1861 支社：北海道(011)231-8055／東北(0222)21-5661／東京東(03)433-4155／東京西(03)344-2901／横浜(045)311-6433／中部(052)263-7031／北陸(0764)32-0002／大阪(06)344-1196／中国(082)248-1451／四国(0878)22-6061／九州(092)711-9520

綜合警備保障株式会社 本社 〒107 東京都港区元赤坂1-6-6（第二安全ビル）(03)402-7571

資料請求券
メルセントリー
SD
8509

あなたの電話番号をご記入ください。



草月会館

美しい映像をつくる

サスペンション方式

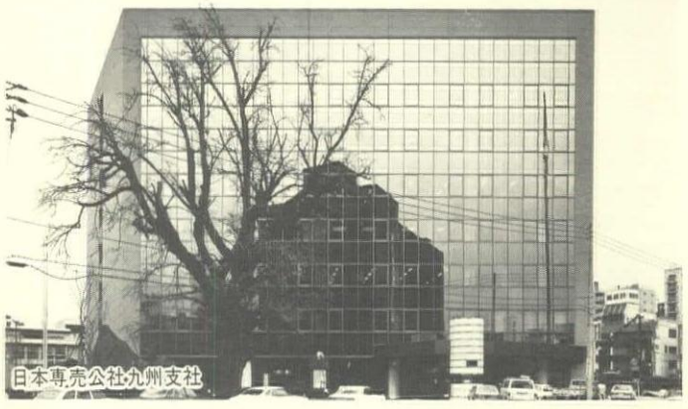
昭和サッシ

昭和鋼機株式会社

本　　社　東京都板橋区前野町６－１－10　〒174
☎東京(03)969-1101㈹営業(03)969-1171
大阪・札幌・仙台・新潟・横浜・名古屋・福岡・広島



小島工芸本社ビル



日本専売公社九州支社



志本市民会館

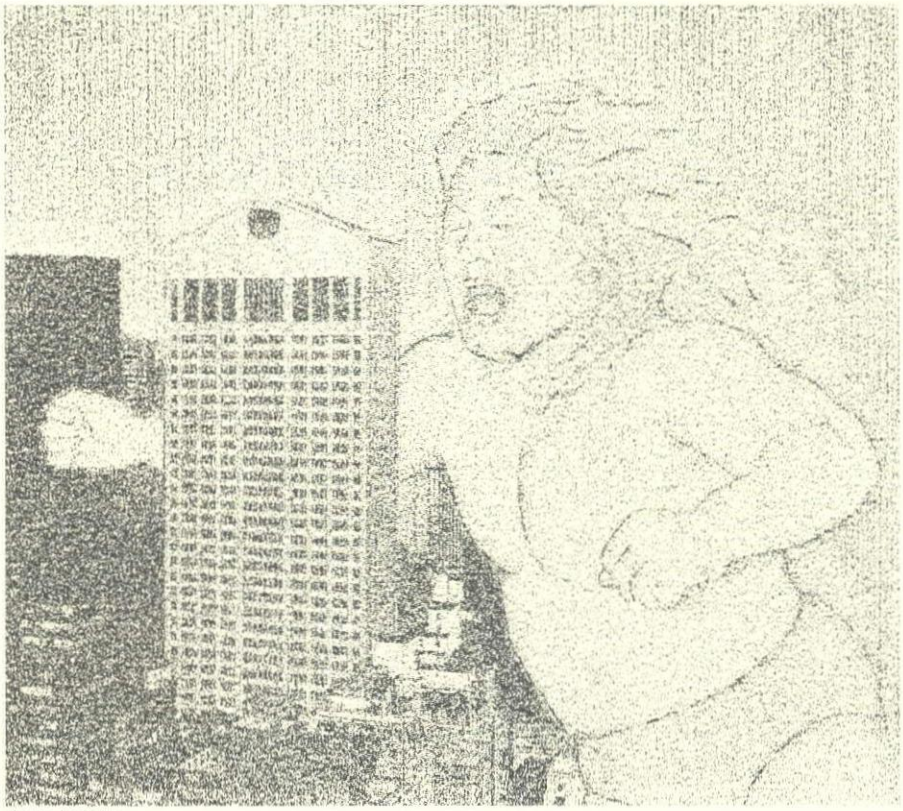


横浜関内ビル

海外建築情報
8509

荒ぶれば野性時代

編＝DUCTSPACE
伊藤恭行
小嶋一浩
小菅克巳
佐藤武志
田名網雅人
曲渕英邦
宮崎長志



drawn by Y.Ito

野性への憧憬．　人間が漆黒のモノリスに手を触れその夜明けをむかえた瞬間から，それは私達の中に芽生えたのではないか．　洞穴に住み火を使いはじめた古代人達が残した最も初期の芸術作品が疾駆する獣の姿であり，古代共同体での母性への畏敬をこめた土偶のヴィーナスであった．　文明が高度になるに従ってこの憧憬は顕著になる，と同時に少なからず歪んだ形をとり始める．　コロッセウムで行なわれた人間と野獣の闘いは人為的に仕組まれた闘いであり，それを見る観衆は見るという行為を通して闘争を擬似体験することになる．　又，日本庭園などは自然に見えるように作られながら，その実，最高度に人工的な庭園である．　野性を指向する態度は虚構性を帯びはじめたのだ．　この虚構性は現代においてますます強まりつつある．　コロッセウムの闘いはプロレスにとって変わられる．　ここでは行なわれる闘争自体がある種の約束に従った擬似的闘争であり（決して八百長などと言っているわけではない），観客はこの擬似的闘争をさらに擬似体験するという二重の構造が浮かび上がってくる．　日本庭園は延々と一つの風景を映し出す環境ビデオにその姿を変える．　さらに昨今のフィットネス・ブームに到っては，野性人の肉体を取りもどすという名目の最も反自然的行為である．　狩猟と闘争に明け暮れる野性人は体を鍛えるためにバーベルを持ち上げたりはしないのだ．　しかし，これらの現象に多くの現代人が強く魅きつけられているのも否定できない．

建築においても野性への憧憬は何度も形を変えて現われてくる．　古代文明における様々な建築にも植物文様などは頻繁に登場する．それらは構造的直感を与えてくれる理知の源であると同時に自然への深い思いを示しているように思われる．　近代建築の流れを見ても19世紀のヴィオレ・ル・デュク，アーツ・アンド・クラフツ，アール・ヌーヴォー，ガウディ，サリバン，ライト，さらに時としてコルビュジエまでもそのような強い換起力を持った建築を創り出している．

現代にもそのような建築は存在している．　今回ここに取り上げる五つもそのような視点で選んだものであるが，現代社会においてこのような建築が新たなムーブメントになっていくなどと言う気は毛頭ない．　これらは極めて局所的な現象であり，何より建築家個人の資質や強烈な土着的表現に依存しているからである．　設計した建築家達にしても自分達がある種のムーブメントを代表したり，ましてや新たなムーブメントを作り出そうなどとしているようには思われない．　と言うよりも，彼らは建築界の動向，ジャーナリズムの思惑や他人の批評などにはおかまいなく，ただ自分の作りたいものを黙々と作っているようにさえ見える．　そこには自らの表現意欲を押し通そうとする精神の強靱さ（野性と言ってもよい）が感じられるし，大体こんな変な形を作ってしまったら図面を描くのもさぞ大変だったろうと単純にそのパワーと体力に驚かされてしまうようなところもあるのだ．

ともあれ，これらの建築が先に論じたような現代における虚構性をふくんでいることは否定できない．　いかに野性的であろうともその形を支えているものは現代の技術力であるのだから．　そしてこれらの建築を単に虚構であると切って捨てることもできるかもしれないし，あるいはその虚構性こそが極めて現代的なのだと言うこともできるかもしれない．自己の立場を際立たせようとする建築家の戦略的ポーズとも言えるだろうし，世紀末の徒花に過ぎぬとも言えるだろう．　しかし，そこには建築家の奥深く秘められていた野性が思わず知らず顔をのぞかせたように思われるし，どのような否定的な言い方ができるにしても，やはりこれらの建築の持つ強い換起力を否定することはできない．　野性の換起力．野性への憧憬．　（伊藤恭行）

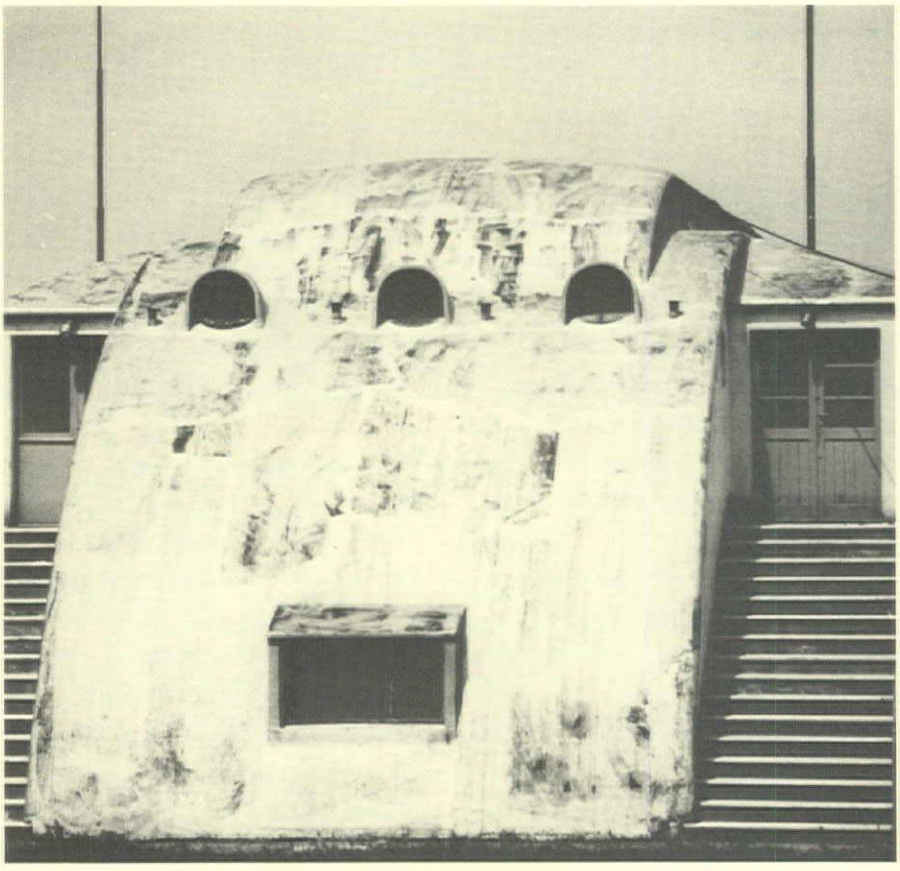
AA : L'architecture d'aujourd'hui
AR : Architectural Record
a+u : Architecture+Urbanism
d : domus

［海のコロニー〈28 Ottobre〉または〈Le Navi〉］

百聞は一見に……

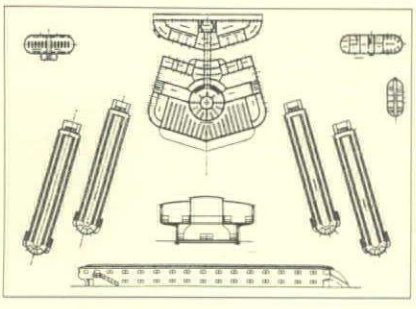
Colonia Marina 〈28 Ottobre〉, or 〈Le Navi〉, 1932
Cattolica／Forli, Vie Germania 2, Italy
architect : Clemente Busiri Vici
〈d 8503〉

まずは，写真をとくと御覧あれ．
何これ，とおもわず叫んじゃいそうなのは30年代にイタリアにたくさんつくられたコロニーの一つ．青少年をあつめて短期の集団生活をさせるための施設である．　ファシズムの台頭をまえにしたこの時期には国中にこんな施設がありこれらを設計したのはまだほとんど実績のない若い建築家達だった．　彼等はやっと与えられたチャンスにここぞとばかり全力でぶつかった．　かくしてこの名建築が世に姿をあらわしたという次第．
イタリア合理主義，未来派，いろいろ説明はできるだろうけれども，それだけじゃあこのド迫力は生みだせない．　こんなものを一生懸命に考えていたとなるとこれはもうタダゴトではなく，変でもあり怖くもある．　あるいは逆に全然一生懸命じゃなかったのならこのひとは相当精神的にタフな人には間違いない．
我々が，建築というものをはなれて日頃イメージしているワインと陽気な人々と広場の喧燥の国と，その同じ国の近代以降の建築とのあいだには少なからぬギャップがある．　バロックのバタ臭さはともかくとして20世紀に入ってからの彼らは妙にとりすましているようで，本来が陽気で，悪く言えばいいかげんなのが信条のくせをして変にsocialだのfacismだのという概念の洗礼を受けてうまく抑制のきいた理知的な建築に走っている．　それは現代のrationalismに至るまで彼らの作品の中で一貫していていくらその作品が美しとはいえこれではちょっとエエカッコしすぎ．　それだけではイタリアの風土が泣くというもの．　しかしやっと見つけたというのがこれ，ここではしっかりと建築の背後にそれを創りあげた１人の人間の姿を見ることができる．　まだまだ例の合理主義をひきずってはいるけれどこの明るさといいかげんさこそがイタリアの魅力．　創りたいものをてらいなく創りたいように創っている．　理屈に縛られない自由さ．　この調子でコルビュジエにお株を奪われっぱなしだった地中海の野性をイタリアの地に再び奪い返してほしいもんです．（KK）











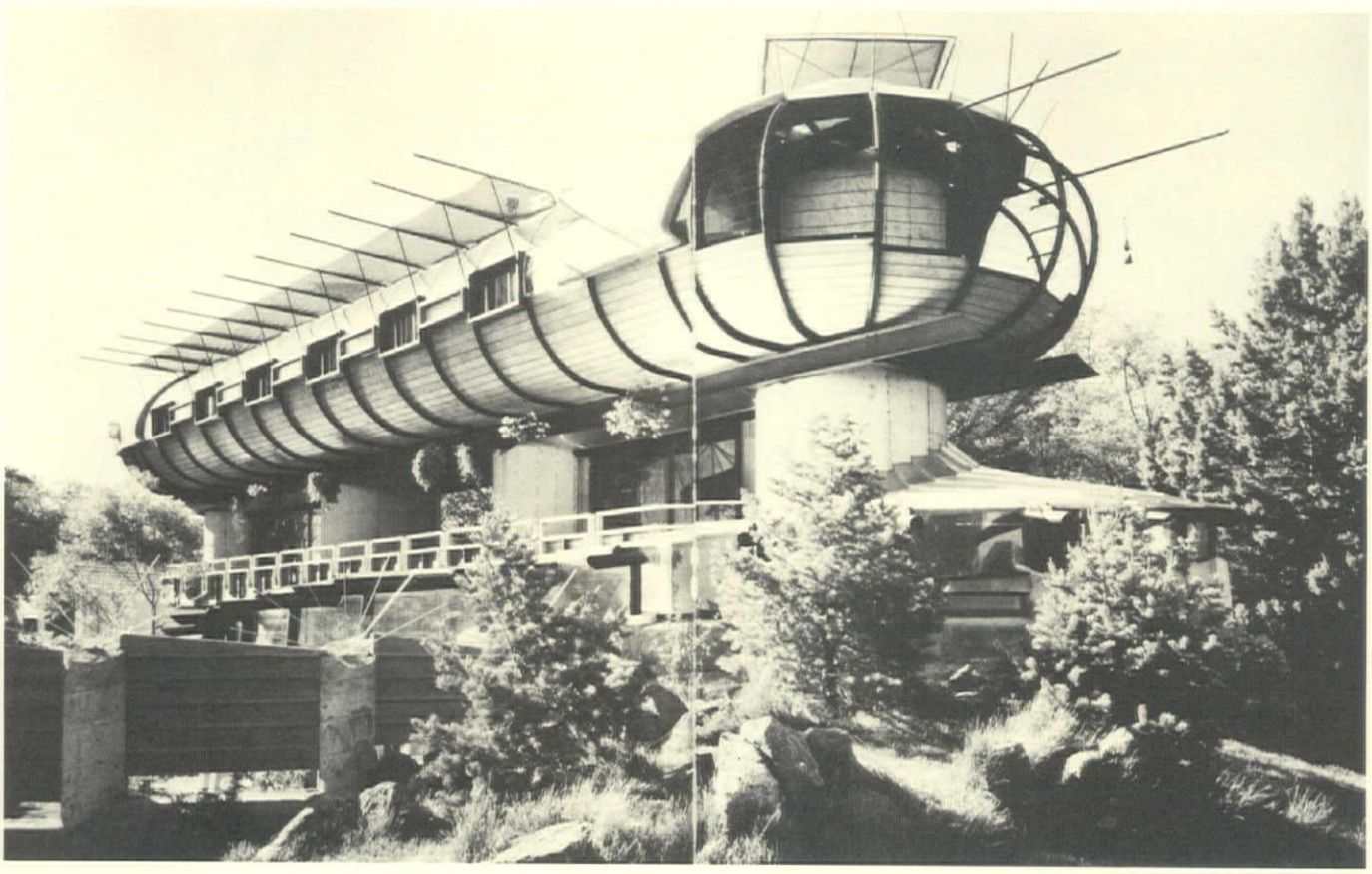


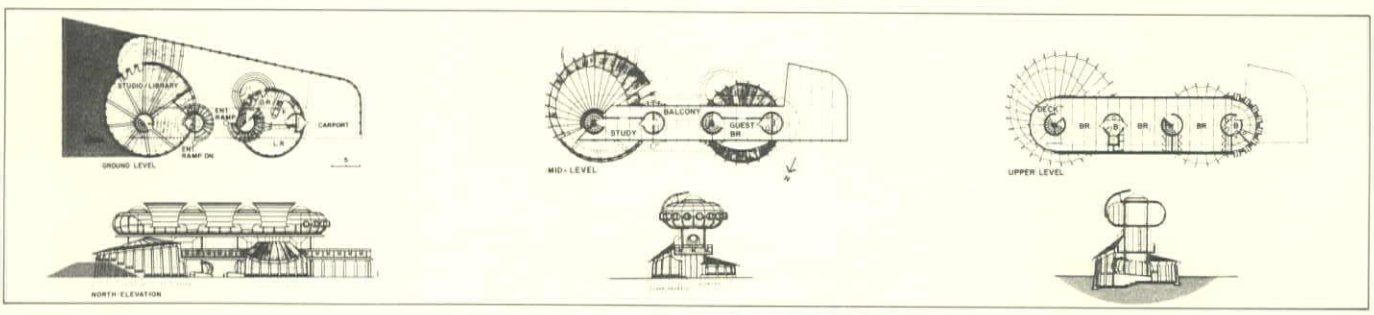
［プリンス・ハウス］

理性的？／野性的？—表現主義

Prince House
Albuquerque,New Mexico,U.S.A
architect : Bart Prince
〈AR 85Mid-April〉

「結局のところ，ケッタイなもんが良い（売れる？）ケンチク」，青白い建築美学をふりかざし己の生業の芸術性を主張するせがれの手から最新建築誌を奪い取って，世の中の雑事にかけては百戦錬磨の親父はこともなげにこう断言してしまう．　大声で反論したい小せがれは有効な言葉を見いだし得ない．　ただただ口をぱくぱくさせる……．
とりたてて説明の要無き作品だろう．　アメリカはその南西部，ニューメキシコ州のアルバカーキ（へんてこな名前ですがこれでも一応州都です）．その街に突如襲来した脱皮しかけのモスラの幼虫．さて，この形の趣味は建築家のものなのかクライアントのものなのかと申せば，実は両者を演ずるのは同一人物．　この地に生まれ育ち未だ40才そこそこのバート・プリンスがその人．　ライトのアリゾナ州立大学から作風に関して最初の影響を受け，さらに大学卒業後の４年間をブルース・ガフのオフィスで過ごした彼はガフ，ライト，ソレリもしくはサリバンといったいわばアメリカン・オリジナルもしくはアメリカ表現主義の最も新しい流れに乗っている作家だということもできるだろう．　ところでこの表現主義という用語は何やら異議を唱えたくなる要素がある．　一般には〈感覚的造形〉をさしてそう呼んでいるようだが，一体全体感覚的でない造形など人間に可能なのだろうか．　表現を重んじない表現など矛盾ではないか．　それでもこの用語が一つの像を実際に結ぶのは表現者も，観察者も，理性のうちに野性を，野性のうちに理性を目ざとく分別しているからかもしれない．　人はこの二極の間を揺れ動き，時に理性がらめた野性を，また野性がらめた理性をものにしようとする．
歴史をひもとけば，いわゆる表現主義の作家たちは彼らの発展途上の一時期をそれに充てたに過ぎない場合が多い．　にもかかわらず，しばしばその期間が彼らの芸術歴の中で頂点であったことは〈表現主義の作家〉という，後世が彼らに送った肩書きが端的に示している．（Mag）



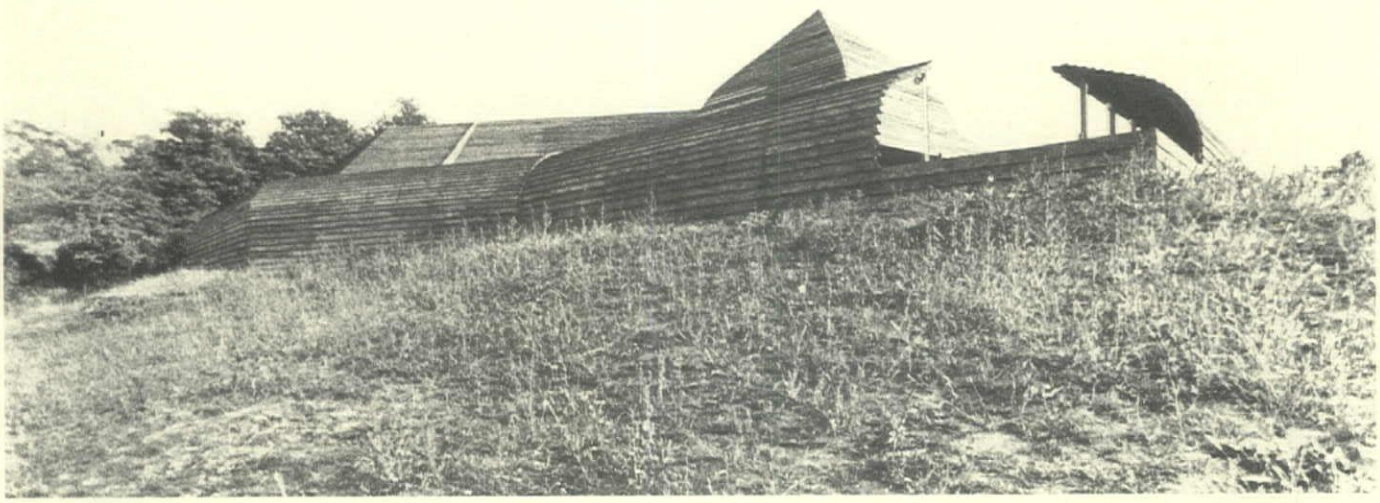


［モジュローヘジェのレストラン，ドボゴーゲーのスキーロッジ］

東欧艶歌

Restaurant at Mogyoróhegy—❶
Mogyoróhegy, Hungary
Ski Lodge at Doboǵokó—❷
Dobogókó, Hungary
architect : Imre Makovecz
〈AA 8404〉〈a+u 8403〉

平櫛田中という彫刻家がいた。 百年を超えた彼の生涯において，生きている間が即ち永遠だった。百才にもかかわらず，十数年も彫り続けられる程の量の数mの巨木群を自宅の庭に横たえていた。宇野千代も，物置部屋に何万枚もの原稿用紙を作って積んであるという。 彼女は死ぬことを考えないと言う。 自分の仕事を信じでいる人々の美しい話である。 つまりは，不死の妙薬を探し求めて奔走するよりも小さくとも動かない真実を誠実に温めることが素敵なのだと言いたい。 そして，そういう人々が，実に野生的である。 ジャングルに住み火を自力でおこさずとも，野生は人間社会にこそ幅をきかせて存在する。 以前話題の中心であった〈伝統〉。 我々は，建築ジャーナリズムの中で絶えずその真実その本物を，建築の位置を明確化するためにも，求めてきたのではないだろうか。 しかし，突極の真実は見つからない。 その模索の時，見つけられないことを直感で理解して，すぐ他の方向に変える者。 とにかく自分の信じる方向に向かい努力奮闘する者。 後者のその姿こそが，真実である。 急に芸能の世界。 伝統芸能，歌舞伎，文楽と様々，いかにも伝統，伝承こそ命という感じ。 その重いところからもっと大衆化した演歌の世界。 今回紹介するイムレ・マコヴェッツの作品は，見る限り，美空ひばり，はたまた三波春夫の華やかな舞台衣装のようである。 伝統とか地域的建築とか民族建築とかを表面に押し出されてしまうと，何か，チャンネルを変えたくなる（文明病）思いがするが，もっとその人々の態度，姿勢にのみ目を向けるべきである。 初めに述べた人々も彼も，決してこれがこれこそが真実の姿と押しつけてる訳ではない。 情報は，建築に限らず，舞台衣装のみに目を奪われてはいけない。 ひばりの歌には，上野駅のうだる夏や，叩くと直るラジオが味方しているのである。 我々は，民族性を頼ってその方向のデザインをしてはいけない。《夢十夜》の中にあるように，巨木の中に隠れている眉や鼻を知ってから彫っては，何も生まれまい。（武志）



❶



❷



鏡獅子 1958／平櫛田中

［フレンケルーフェルのハウジング］

建築の有機的統合へ

Immeubles d'habitation, Fraenkelufer
Berlin, West Germany
architects : Hinrich and Inken Baller
〈AA 8409〉

生半可に真似たデザイン——偽物の類似品——なにか大義名分があってやっているかのように気取っている。　特に目新しさが主に人気があるような時代では，少なくとも暫くの間はその大義は怪しくなりすばらしい作品はできない。　永久に芸術的価値を低め退廃という結果を招くまで，すべての芸術的価値を危うくさせるのである。

——F. L. ライト　1914・5

近代以来メディアによって求められたものは，整合性があり，かつイメージが最もふさわしい理論であり，そこにインターナショナルやモダンやポスト・モダンといった旗が上げられてきたのである。　20世紀は，そうした大理論の中に押し込まれた作品群の中で時代が構成され，本質的な意味での価値は失われ，モダンムーブメントの巨人達のみの価値が高められた。　しかし，今日，目に見えない電子のネットワークがこの本来の意味を，日常的な〈実世界〉へ目に見えるメッセージを送っている。　それは言わば，巨人たちによって隠れていた姿であり，長い間求められてきた芸術の有機的な統合に向かう直接的な動きである。

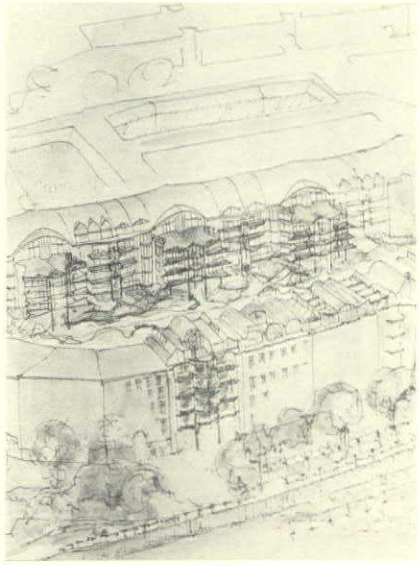
こうしてみると日は当たらないにせよ，自らのポリシーに則り建築を造るという行為は長い間脈々と続けられてきた。　そしてそれがいかに強い精神力と確信が必要であるかはおのずと理解できる。そこには模倣でないデザインポリシーと卓越したデザイン力・造形力が必要である。　これこそ，まさに野太いターザンの世界だろう。

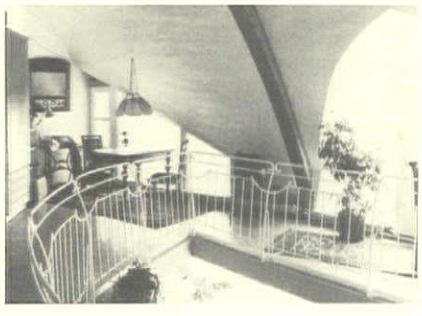
この計画はベルリン，クロイツベルグ地区再開発の一環として建てられたハウジングである。　平面形は極めて特徴的な重々しいプランニングがなされているが，反面その立面はそれから想像できないような軽快なものを造り出し，造形力は独創的でありかつ並々ならぬものである。　それはなんらかのスタイルの範疇に入るものではない。　作者の卓越した手腕が自らのスタイルをつくり出している例である。　その軽快な作品とは裏腹な太い腕を想像し，作者の野太さを感じざるをえない。

（人＋K_2）

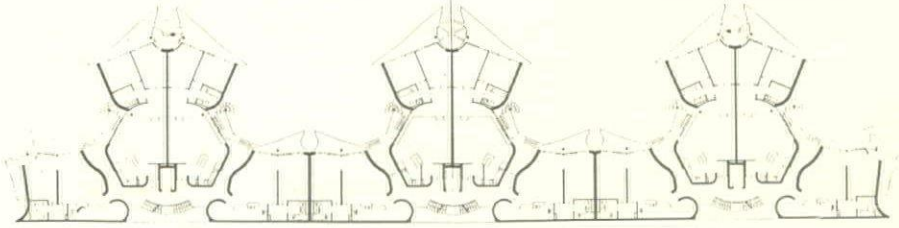












［ニューメキシコ美術館］

フリーク達の宴

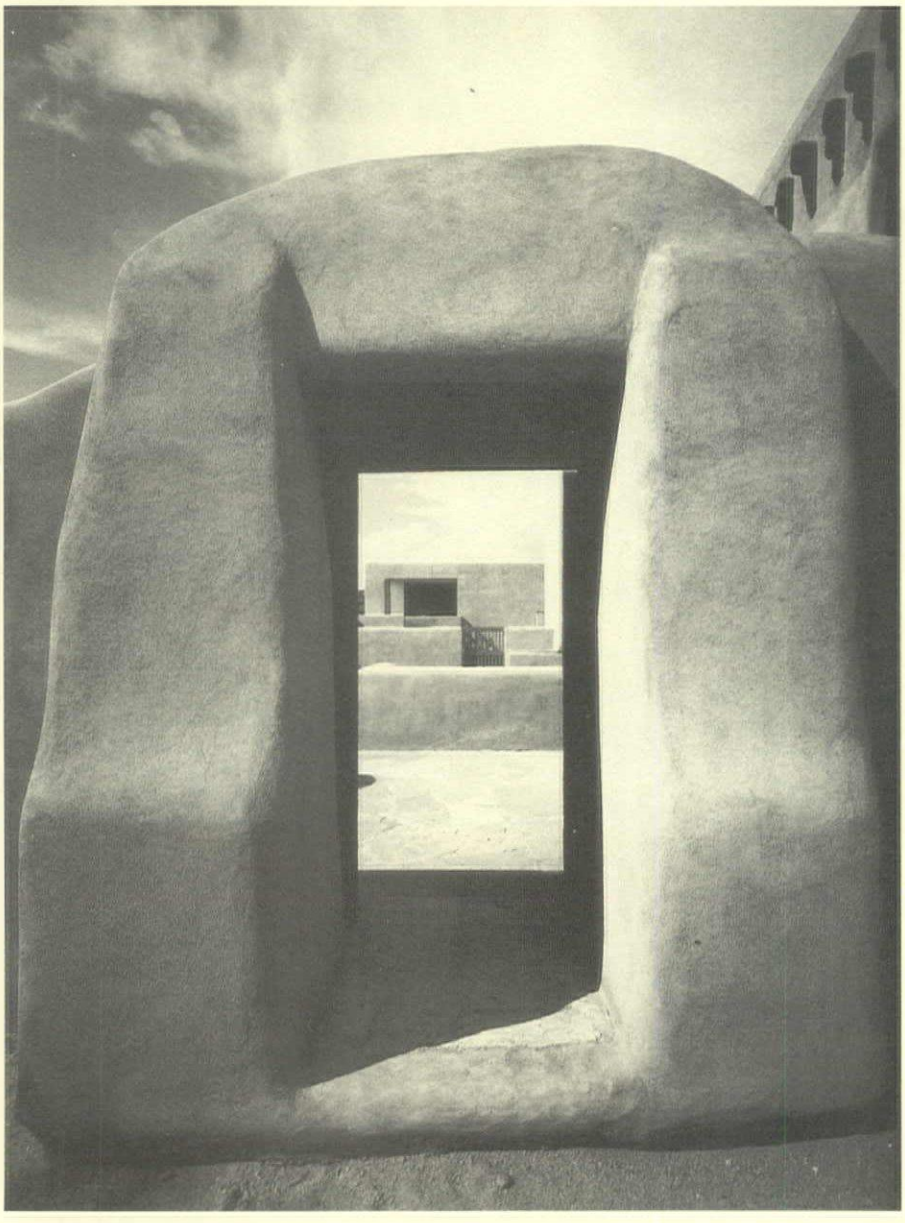
Museum of Fine Arts/Museum of New Mexico
Santa Fe, New Mexico, U.S.A.
architects : I.H.Rapp & W.M.Rapp (original, 1917),
Edward Larrabee Barnes Associates (addition),
Antoine Predock Architect (renovation)
〈AR 8505〉

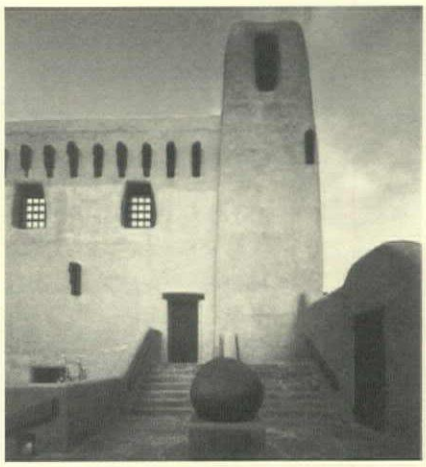
ポスト・モダンの煉獄は終わりを告げ，今や時代はフリーク達が跳梁跋扈するワンダーランドへと突入した． あるかなきかの差異を強調され，中心を活性化するために消費されていく作られたフリーク（最近のキャラクターブーム，フリークブームはすべてこの範疇に入れてよい）に対して，真のフリークは，強い表現をめざす時，自然発生的に立ち現われ，その生命力に満ちたパワーは強烈な印象をともなって人々に受け入れられるところとなる．

1917年，ニューメキシコ州，サンタフェの町に奇妙な建築が誕生した． 建築家，I.H.ラップ，W.M.ラップ兄弟は，州政府に，1913年のパナマ＝カリフォルニア博におけるニューメキシコ州パヴィリオンを忠実に復原するように要請されていたが，彼らはこれを受け入れつつ，同時にアコマのミッション・チャーチや，サンフェリーブ等のヴァナキュラーなインディアン建築のヴォキャブラリーを取り入れて，この有機的でアルカイックな〈フリーク〉を創り出した． 明日香の石舞台を思わせるゲート，ガルダイヤのモスクのようなファサードetc……．

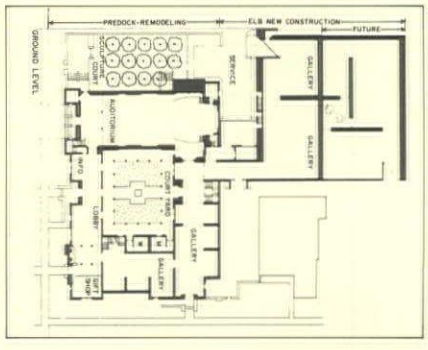
今回のリノヴェーションおよび増築にあたって，サンタフェに招かれたのは，かのモダニスト，ララビー・バーンズであった． A.プレドックにリノヴェーションをあたらせ，自ら増築に着手した彼も，この〈フリーク〉のパワーには辟易したらしく，増築部分においては，ほとんど表現らしきものを見せていない．

内的生命の爆発の発露であるフリーク建築は，自己完結的な特異解であって，他者の介入を拒絶し，システムとして開いていくことはないが，その発するメッセージは時代を超えて迫るものがある．おそらく，本質的に〈闇〉の代弁者であるフリーク達が時代の〈光〉を占めることはないだろう．しかし，たしかな底流として彼らの宴は続いていくにちがいない．（M）





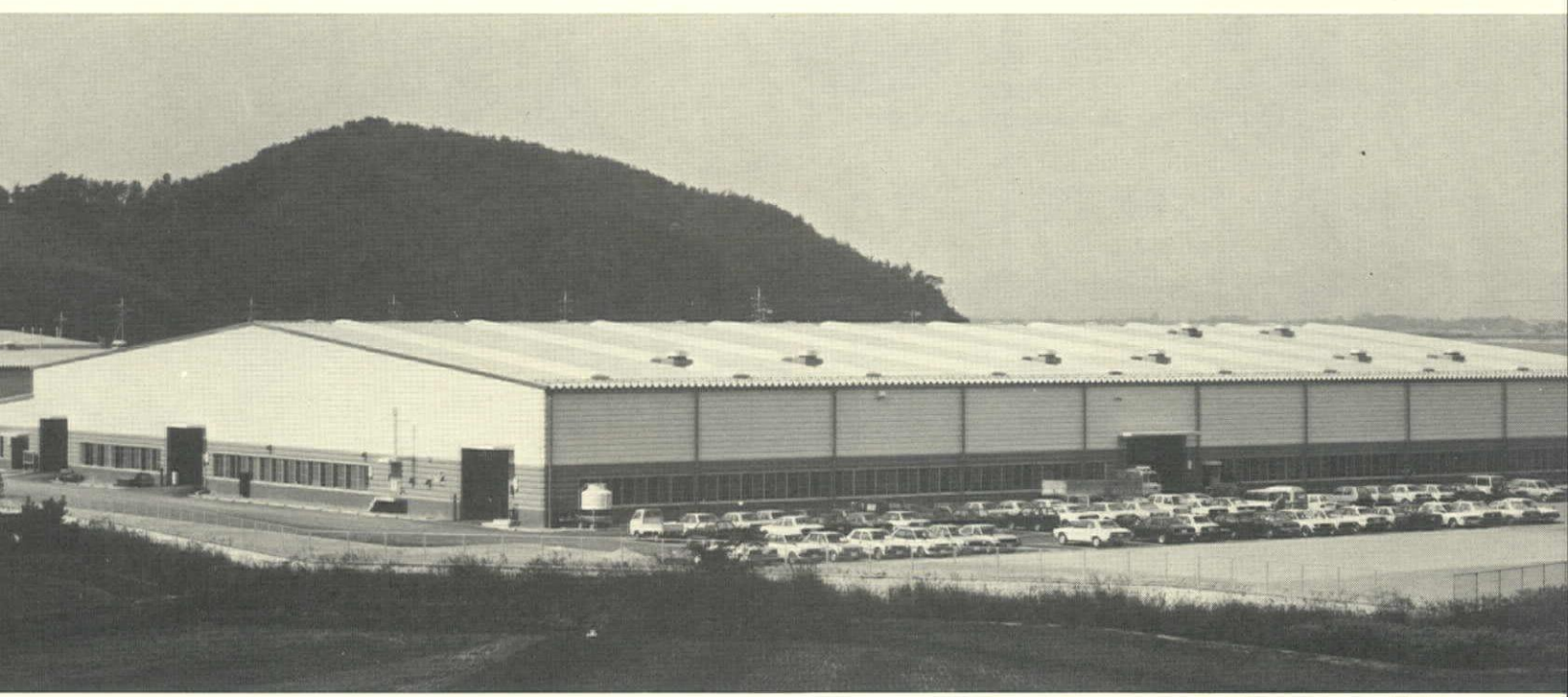




美しさを堅持する。

海岸地帯や工業地帯などの厳しい環境のもとでは、屋根材や壁材が建物の寿命を大きく左右します。日新製鋼の「耐候用アルスター鋼板」は、鉄の強さにアルミニウムの長所をプラス。あらゆる環境条件のもとで、長期間にわたって耐久性と美しい外観を保つ新素材です。とくに、亜鉛鉄板などに比べて、数段高い耐食性、耐熱性を発揮。さらに熱反射性にもすぐれ、断熱性能を要求される用途にも適しています。工場や倉庫の屋根・壁材に、保温外装材に、このすぐれた特性を幅広くご活用ください。

信頼を保持する。



出雲造機本社工場(島根県安来市)

鉄の強さにアルミニウムの耐食性をプラスした10年保証の耐久性鋼板

耐候用アルスター鋼板

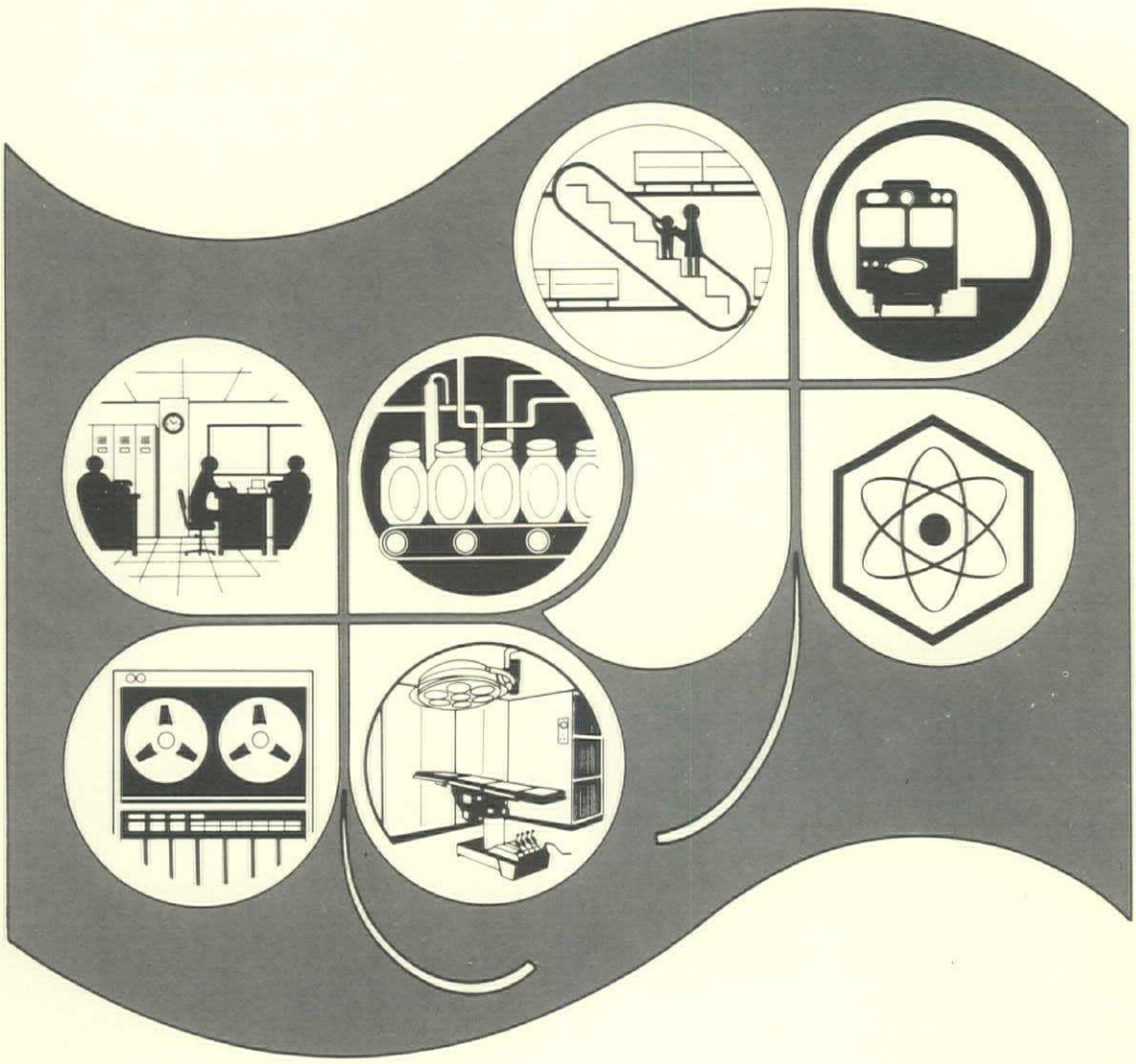
日新製鋼

■お問合せは――●本社〒100東京都千代田区丸の内3丁目4番1号(新国際ビル)☎03(216)5511●大阪支社〒541大阪市東区大川町1番地(日土地淀屋橋ビル)☎06(202)1331●名古屋支社〒450名古屋市中村区名駅3丁目25番9号(堀内ビル)☎052(582)6061●札幌営業所☎011(241)7524●仙台営業所☎0222(22)5835●新潟営業所☎0252(43)3491●富山営業所☎0764(33)8011●岡山営業所☎0862(31)4355●広島営業所☎082(248)4611●高松営業所☎0878(51)9756●福岡営業所☎092(781)1251

資料請求券 509 アルスター

MODAIR

あすの空気調和をになう



自然より清浄な環境づくり
それが東熱のねがいです

〔東熱〕がめざす「空気調和」とは、温湿度調整だけでなく、有毒ガスの除去、脱臭、除塵等、人間の生活環境、あるいは高度生産環境を作り出す総合技術です。

この開発された個々の技術を更に、総合的に発展させ、都市全体としての環境改善に寄与してゆくことに東熱としての使命感を持っております。

〔東熱〕によって開発された技術は●地域冷暖房●アイソレーター●サンシャイン計画●超高層ビル●病院●地下鉄等、あらゆる分野に生かされ都市環境の整備、浄化に貢献しております。

〔東熱〕は常に社会の要望に対応した、技術の開発をし、より清浄でより快適な生活環境を皆様に提供いたします。

東洋熱工業

本　社／〒104／東京都中央区京橋2－5－12
TEL 03（562）1351大代表
支　店／札幌・仙台・関東・新潟・横浜・名古屋・大阪・広島・九州
営業所／水戸・前橋・静岡・京都・神戸・岡山・高松

国内建築ノート
聖吾評
8509

読者はもう御存じと思うが，聖吾評のごほうびのリストに新たに〈はみだし〉が追加された．　これで以前からあった入選，佳作とあわせて，やっと三役そろいぶみ，あるいは聖三位一体（父と子と聖霊，trinity）が完成したわけである．　入選の栄誉に輝くものには，なんと6ヵ月分ものSDが贈られる．　佳作には2ヵ月．　そして〈はみだし〉者もSDを1冊手に入れることができるのである．　あの滋養満載，内容幽遠なるSDが手にはいる．　しかも，聖吾評は入選，佳作に対して依然厳格なる規準をもってあたらんとするものの，〈はみだし〉に関しては，聖母の如き寛容さをもって，〈はみだし〉乱発を辞せずの構えである．　求めよ，さらば与えられん．

今月の宿題

「筑波博
どこが面白かったか
どこがつまらなかったか」

評者＝隈研吾

諸君はその目で筑波博を見たろうか．　その目は筑波に何を見たろうか．　筑波博をとりあげた雑誌の特集号もすでに出そろった．　それらに載った筑波の記事を読まれただろうか．　それらは諸君の若き感性には，退屈至極であり，老練な知性から見れば未熟千万であったに違いない．　ならばこそ，今こそその欲求不満と鬱憤のたけを晴らすべき時である．もしこの時をのがせば，痛恨の情は末代にまで及ばんとす．

月評的な書き方というのがひとつある．　個々の作品をけなしたり，もちあげたり，細部をとりあげてあげ足をとったり，見え見えのよいしょをして，先生と自分との人間関係の緊密化を図ったりといった様々の趣向が考えられる．　聖吾評では月評的な書き方をした応募作は稀である．　聖吾評の宿題があまりに気宇壮大にして，荒唐無稽にすぎたということもあったかもしれない．　しかし今回は異なる．対象が限定されている．　思いきって対象に肉迫し，力いっぱいあげ足をとったらおもしろいのではないだろうか．　あげ足をとったとしてもたかが数カ月の命という建物である．　あげ足をとられた方でも，軽く聞き流してくれるかもしれない．

筑波博を生んだ社会情勢，経済情勢に肉迫し，分析し，ずたずたにするという手もある．　博覧会は建築的イベントであるが，それと同等に，あるいはそれ以上に，社会的，経済的，政治的なイベントであり事件である．　ここはひとつ社会派をきどってみて，その方からせめるのも一興である．　朝日新聞記者の建築記事に決してひけをとらぬ，鋭い切れ込みを期待する．

筑波博に関与した建築家，そのスタッフも数知れない．　それらの人々の生の声を聞きたい．　博覧会協会のアホのせいであんな建物になってしまった．広告代理店のマヌケな企画が先行して，こんなつまらん建物になってしもた．　こういう声が聞けたらどんなにすばらしいだろうか．　書き手のプライバシーは責任をもってお守りします．

各媒体，各雑誌に，筑波の記事は頻出している．おおむね参考にはならないかもしれないけど，しかし評者がものした筑波ルポ〈埃まみれの筑波博会場に日本建築界の現状を見た〉（カラム96）は読んで損はないかもしれない．　反面教師として一読することをおすすめします．　●隈研吾

●宿題解説

つくば博のことをよくいう建築家はまずいない．　ひどい，信じられない，考えられないというのが，大方の建築家のつくば博評である．　そういう風に言葉にだして，つくばを悪くいううちはまだつくばに対して好意的な方であって，つくば博のことなど語るにも値しない，つくばを口に出すだけでも口に出した当人の知性が疑われるというのが時の空気である．　そのつくば博が今回の課題であった．　〈悪くいっておきさえすれば，まず間違いがない〉――それが今回の課題の顕著な特性である．　これは何も珍しい特性ではない．　悪くいっておけば間違いない建築家，けなして間違いのない建築作品，そういうのよくありますよね．　踏み絵みたいなもの．それをけなせばけなした当人の知性，感性はある程度のお墨付を獲得する．　共通の対象をけなすことで，決してお互いに仲がいいとばかりはいいがたい〈けなす側〉に，一種の連帯感がめばえる．　いいかえればスケープゴート，卑近な例を用いれば〈いじめ〉である．　建築界あげての〈いじめ〉に対し，今さらわざわざこの聖吾評が加担することもなかろう．　これが審査をするに際しての，私の前提であった．　それは〈いじめ〉がいけない，〈つくば〉がかわいそうという倫理的な正義感，あるいは感情的な同情論からでたものではない．　けなすというのは本来批評性の強い行為であるはずだが，この手の言説における〈いじめ〉には，批評のかけらもないからである．　あるのは自己保身と追従と思考停止である．　小学生における〈いじめ〉と少しも変わることがない．　そんなものの片棒を聖吾評で担ぐわけにはいかない．〈いじめられっ子〉を俎上にあげながら，いかにして〈いじめ〉を超えた包丁がその子を処理するか，その包丁の選択，そのさばき方が今回のテーマであった．

けなされ，馬鹿にされ続けてきたつくばを，意表をついて誉めあげ，たたえるというのも一手である．　なにしろけなされ，さげすまれ続けてきたつくばであるから，否定的な姿勢をとりながらなおかつ従来の否定的な言説の蓄積を凌駕したものを提出するのは，困難きわまる作業である．　その困難な作業を成就させるには，一つには，論の切れ味で行くという手もあるが，執拗，精密，堅実なる論の進め方で従来の言説を凌駕せんとすれば，論はある程度のヴォリュームを必要とする．　しかしいかんせん聖吾評の争われるトラックの距離は，たかが1000字である．　その条件を逆手にとって奇手を用いつくばを誉めるという手はあったかもしれない．　その気になってさがせば，誉める所の一つや二つ，軽くみつかるだろう．　〈いじめ〉に便乗するよりは，はるかに批評的たりえたかもしれない．　逆説に溢れた高度な批評テクニックが誌上に展開されたかもしれない．　しかし残念ながら，講評者はそのような知的ひねくれ者には出くわさなかった．

■間抜けの構造論——つくば'85

最近の科学技術というものの，例えばAからBへの直接的なアプローチばかりを追求し，かつ，AとBのみの高度化を図っている点，及びAB間の過程（間）というレヴェルにおいては全くといっていい位無視しているという点に大きなワナが存在しているのではなかろうか．　この現象は高度経済成長期から着実に日本に浸透しはじめたように感ずる．　日本は危機である．　車だって危ない時はキキーッといってとまろうとする．　（ちゃんと笑えよ．）　しかし，今はそれすら科学をもって隠そうとする．　そして，それが科学の力なのだと人々は信じ込む．　間抜けだぜ，日本人!!　オリンピックのおかげで立派な日傘を作ってもらった日本橋君，240km／hの電気あんま機をプレゼントしてもらったガード下の民家さん，お達者してますか？　歴史は再びくりかえそうとしています．

〈EXPO'85より〉

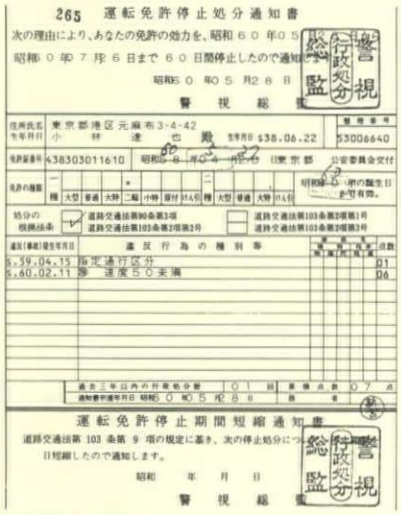
よく晴れて，よく混んだある日，東ゲートに1人の老女が入場した．　岩崎ヨネ，75才．　孫が住友銀行に勤めているヨネさんは義理でAブロックの3Dファンタジアムへ向かおうとしたが，場所がわからないので情報を得る為，千円を投資してスペシャルマップを購入．　炎天のもと，8分間太陽をあびて目的地を発見，出発する．　北，東，南の各大通りをぬけ住友館まで1350m，ヨネさんの歩く速度で約30分間，太陽光線をあびながら歩く．　しかし，いざ到着してみると入場まで2時間45分待たねばならなかった．　あきらめずに165分間紫外線をあび続け，入場して席に付くとヨネさんは今までの疲れで一気にヨガの眠り．　退場後もねむ気がとれずに西ゲート付近を漂っていると元気のよい子供とぶつかって倒れ，さらに5，6人に踏まれる．　自力でたちあがり（だって助けてくれないんだもん），空腹感だけでも満たすために西のレストラン街を目指す．　しかし，今度はランチタイムとぶつかって大混雑にのまれる．結局20分間ウロウロしたがどこにも入れず，空腹感，疲労感，日射病の三重奏のメロディーがいつしか階段の2段ぬかしを誘う!!　近づくサイレンの音．　ヨネさんは薄れる意識の中で呟く．「ああ，これが科学なのね．」　（免停ライダー）

号外

その1）会場の中にある休憩所は，はっきりいってエチオピアの難民キャンプとそっくり．

その2）あったら一番人気のでるバビリオン，疲労館．

その3）一番科学してたバビリオン，万場一致で吉野屋！　おつかれさまでしたあー．



265　運転免許停止処分通知書

次の理由により，あなたの免許の効力を，昭和60年05月28日から昭和60年07月16日まで60日間停止したので通知します．

昭和60年05月28日

警視総監　警視　行政処分

警視総監

住所氏名　東京都港区元麻布3-4-42　小林達也殿　生年月日 s38.06.22　登録番号 53006640

免許証番号 4383030116l0　昭和60年05月28日 日警察署長交付

免許の種類　普通

処分の根拠法条　道路交通法第90条第3項　道路交通法第103条第2項第1号　道路交通法第103条第2項第2号　道路交通法第103条第2項第3号

違反（事故）発生年月日	違反行為の種別等	点数
s.59.04.15	指定通行区分	D1
s.60.02.11	速度50未満	D6

過去3年以内の行政処分歴　01回　累積点数07点

通知書作成年月日 昭和60年05月28日　署名　警視総監

運転免許停止期間短縮通知書

道路交通法第103条第9項の規定に基き，次の停止処分について日短縮したので通知します．

昭和　年　月　日

警視総監　警視　行政処分

❶免停通知書

よく考えれば，これも一種の間抜けの構造．　60日間の〈間〉をどうやって埋めればよいのだろうか？　それが僕への府中からの課題！　（発行，警視庁）



❷ボクちゃんのお姿

その返答はコレだ！　スモークバイザーをかぶり，ラムちゃんをトレースしてひたすら60日間の荒行に挑む！

❸新建築8505，建築文化8505，近代建築8504，SD8505



❸東芝館／黒川紀章建築・都市設計事務所

黒皮氏　「つまり，この外装のフレームが仮設足場を表して，まだ工事中のような感じにさせているんですよ，おばあちゃん．」

ヨネさん「そんなこと，どうでもいいから道路に屋根つけてよ．　あつくてねえー」

黒皮氏　「……」

あるいは月評的な言説という手も考えられる．　つくば博という名のもとにくくられ，〈論ずるに足らぬ〉と総括された死せる兵士達．その累々たるしかばねの山にわけいり，その中から一つを拾いだし，肉迫すれば，つくばのまた別の顔が見えてくるかもしれない．　そうすることで，怯懦と惰性によってすっかり硬直してしまったつくばに関する言説に，意外な風穴，予期せぬスリットをあけることができたかもしれない．　しかし，講評者はそのようなスリットにも出あえずじまいであった．　寄稿子は総論が好きである．　あくまでつくばを一つにくくりたがる．　総論はいかに手厳しく，容赦がない表現を用いようと，実は極めて穏当であたりさわりがない．　単体の建築を論じることは，その建築の設計者に単騎で挑みかかることであり相手は当然さまざまな意味でつわものである．　ひとたび挑みかかった以上，挑みかかった当人の目と脳味噌が逆に厳しく検証される．　ふりあげた刃は，ふりあげた本人に対して最も容赦のない刃となる．　それゆえに，多くの人は敢えてその挙に出ることがない．　しかして建築界は猿山の蚤取のごとき風景を呈する．　お互いに作品をけなしあうことは，誰の得にもならない．　手厳しさや，批評精神は，せいぜい総論で発揮しましょうということになる．聖吾評の応募子は，多くの場合若く，若さ故に匿名の応募子である．　にもかかわらず，建築批評の世界をおおう猿山の蚤取構造に，驚くばかりにすっぽり呑みこまれているのは，いったいどうしたわけか．　つくばは確かに月評的批評には不向きだったかもしれない．

■脱セーラー服・コンプレックス

科学館とは名ばかりとか，おもしろい建築物は入口のみとか今回の万博なかなか手きびしいものがある．　わるいウワサばかり流れているせいか人気は今一つ，かと思いきやいってみるとそうでもなさそうだ．　何しろいってみられた方はお気付きであろう．　なんとなく原宿に似てません？　そう六本木みたいに女子大生の臭いがするでなく赤坂みたくＯＬがわいてるわけでもなく，あのセーラー服の香りがするではありませんか．　しかも原宿とは違いまさにセーラー服を着て，セラ・コンのおにいさんにはまことしなやかたまりません．他にもコンパニオンのオネエサマにふとあこがれてみたり，下手な展示よりよっぽどこっちの方が楽しくて仕方ない．　ムフッ，右を見ても左を見ても男ばっかりの建築関係者の皆様，ぜひ一度筑波へナンパーマンして下さい．

さて，なぜかセーラー服は清純なまだ開かれぬ花をイメージさせる．　そしてなぜかコンパニオンのオネエサンは学芸会のコスチュームといった感じ，あのぎごちなさがなつかしい．

ぎごちないといえば，筑波博の建築，足場をそのまま残す発想など，文化祭と同じもの．　つい学生時代を思いだす．　仮設性を追求するあまりじっくり考えない．　ウン，これが悪いという訳じゃない．　ボクはセラ・コンだもん，ダ〜イスキ，でもでもですね，竹下景子オネエサマも某建築家の奥様もなかなか．　その点僕はただのセラ・コンではない．　ナニそれじゃセラ・コンじゃないって？　そりゃそうですよ，なにしろ，女子高生じゃ熟しきった魅力がないもん．　などとゴタクを並べても最愛のヒトと共に年齢も上がっていくんだろうな．　万博の建築も物理的に仮設建築だけでなく精神的にも仮設建築なんだろうな，だからどこかでしらけてしまうんだ．　（渡辺修）



同一の敷地の上で，似たりよったりの与条件をもとに，建築設計が行なわれる．　普通の建築作品をあつかう月評の場合には敷地の違いとか，施主にめぐまれたかどうかとか，与条件の良悪といったファクターが，ある程度の逃げとなる．　設計者の技量を超えたそれらのファクターに，設計の質の良悪のある程度の部分を帰することができる．　しかしつくばではそれができない．　できたとしても小部分でである．　設計者はあたかも競争馬のごとくに，その能力の隅々までを世間に晒すことになる．　当然その結果はデリケートな神経と気くばりをもってしてとりあつかわなくてはいけない．　傍若無人に，月評風に切りまくるというのは，危険が伴う作業である．その結果，つくばのような対象に対する批評は概して，総論は〈いじめ〉，各論は〈不在〉という体裁をとる．　大阪万博もそうであった．　博覧会という名で呼ばれる，建築家の出走する競馬は，そのような批評の構造に晒されることを，あらかじめ覚悟しなくてはいけない．　博覧会は必要以上に実体以上にけなされるという宿命をもつ．　今回の聖吾評に寄せられた論も，この構造にあきれるばかりにきれいにのっかっていった．　その構造をはみだすものはなかった．　それはなるほどでもあったが，失望でもあった．

では総論における〈いじめ〉はどのようにしてなされただろうか．　**免停ライダー**君の論は，〈科学技術批評〉の体裁をかりて，つくばを批評している．　科学技術を批評するという体裁を用いて博覧会を批評するという手口は，エッフェル塔のパリ博以来の，博覧

■キーワードは〈つくば〉だ！

これは，たぶんかなり大勢の人達もそう感じていると確信しているのだが，はっきりいって〈筑波博〉という名前そのもの，もっと正確にいうなら，例えば〈科学万博つくば'85〉などというときに〈科学万博〉ということばと〈つくば〉ということばが並列して置かれるということ，このことが筑波博にまつわるあらゆるまちがいや胡散臭さの最大の根源であると私は考えている．　別に茨城がイナカだから悪いといっているのではない．　そうあの千葉県にある大遊園地が，しかし〈東京ディズニーランド〉という名前になっているという現実を捉えて欲しかったのである．　さらに例を挙げれば，建築ジャーナリズム界の文芸春秋ともいえる新建築誌は筑波博を特集するにあたって標題を〈特集／国際科学技術博覧会〉とし，筑波という文字をはずしている．　このような国民感情を尊重して欲しかった．

なぜ今，コピーライターがカッコいい職業なのか，なぜテレビのCMがあのように手間暇かけて創られているかを博覧会をプロデュースしたスタッフの諸氏はもう少し考慮の対象とすべきだったのだ．重ねていっておく．　筑波が茨城にあるとか，人里離れた所で狐狸の類が出没するとか，未だに飛脚が郵便物を運んでいるとかいう現象は決して本質的な問題ではない．　〈筑波〉という字面や音のもつ何か，（筑波という語に憑く言霊の怨念？）とにかくこれが最大の原因なのだ．

磯崎新が，つくばセンタービルを設計したとき，それを取りまく状況のなかで〈つくば〉ということばが独りでに遊離して，ある微妙で複雑な雰囲気をつくりだしていたといえなかっただろうか．何かと話題の絶えない筑波大学，筑波学園研究都市，そして今回の科学万博．　いずれに関しても〈つくば〉ということばゆえに胡散臭さがついてまわるのである．　いかに磯崎が国家的なプロジェクトであった〈つくば〉を設計するにあたって『明瞭な，実体としては欲しくなかったから，むしろそれを空洞として消してしまおうとした*』としても，〈つくば〉ということばの持つ政府広報的，町内会の回覧板的な，どこかズレをもった野暮ったさ（あまりにソフィスティケートされていないだけまだ安全なのかもしれないが）のため，後ろの国家の影を消しきることができなかったように，

（スナフキン）

❶〈ヤンバルはうす〉坂本みゆき　《プーケ》8505 集英社



オカミの描く未来像，上意下達の回覧板的イメージのせい？

＊〈ポスト・モダン原論〉磯崎新　《週間本17》朝日出版社

会批評の常套手段である．　古典的な論ということができる．　岩崎ヨネという老婆がつくばでひどい目にあって死にそうになるというエピソードで，古典的手法に味つけをほどこしている．　エピソードは具体的でイメージを鋭く換起する．　ただし大阪万博を舞台に選んでも，またパリ博を舞台に選んでも，この同じエピソードで充分通用する．　博覧会に老婆がいくと，たいていひどい目にあうのであって，それはつくばに限ったことではない．　ただし博覧会自体が旧態依然としていて，いっこうに変わりばえしないという事にその責任があるともいえる．　免停ライダー君によれば吉野屋が最も科学していたそうだが，こういうおもしろい指摘を堀りさげるだけで，充分一つの論がなせると思うのだが，なぜそれをしないのだろうか．

渡辺修君の論は，〈青春批評〉の体裁を借りたつくば批評である．　企画も建物もつくばは青くさいというのである．　博覧会は青くさいというこれもまた古典的で伝統的である．　その伝統的な骨組をはぐらかすように，『ボクはセラ・コンだもん，ダーイスキ，でもでもですね』といったチャチャがはいるわけである．　ただしあまりにフィールドワークが不足で，この程度のチャチャでそれを救うことはできない．

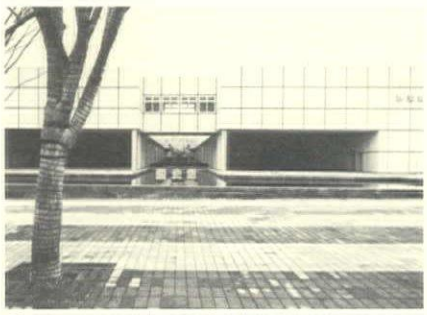
スナフキン君のは，〈権力批評〉の体裁を借りたつくば批評である．　つくばの胡散臭さの裏には，結局は国家の黒い影が見えかくれする，と指摘する．　博覧会の裏に国家の影を指摘するというのも常套手段である．　ただしスナフキン君は，7月号の血液型チャー

■ハニカミについて

さて，つくば博である．
観光地としての人気はなかなかのようである．　会場の建物の評判は特にないようである．　よく考えると，あれは結構ユニークな建物であって評判にならないのは幸運としなければなるまい．
企画〜実施の過程が明確ではないが，建築側に主導権がなかったのはほぼ確かである．　外から与えられた条件を解決しつつ，それらしい建物にするのが建築スタッフの専らとしたころであり，この条件には建物外観もしばしば含まれたようである．
これは何というか真正の〈機能主義〉ということで，形態イメージがどこか他のところで決まったとなれば，建築計画上の課題のほとんどが，設計着手の時点で解決済ということになる．
社会に対して何事かを提案するといった建築家像からすれば，つくば博には建築家はいないということにほかならない．　社会が建築をつくるといいかえるならば，ここには社会などと無縁な建築家しかいないということになる（ううん，恥かしい言葉使いじゃ）．　とはいえ建築的課題がなにもなかったわけではない．〈仮設〉とか〈転用〉また〈撤去〉などもその一つだが，これらはどちらかといえば枝葉のことで，ポイントはやはり6ヶ月という会期のほうにある．　つくば博の建物が6ヶ月しかこの世に存在しないところから，どのように止めをさすかということで上記〈　〉内のテーマが出てきた．　くりかえしになるがこれは逆立ちした考えかたであって，6ヶ月の会期中の建物をどうするかがやはり中心的な問題である．

ようするに6ヶ月こともなく過ぎること，メンテナンスフリーでイニシャルイメージを維持することは結構重要な論題であったはずである．　たとえば，平滑で均一な面は近代建築の夢，というよりは必要条件であって，それが得られなかったことが『近代建築の失敗』の一つに数えられている（P．ブレイク）が，ここではうまくゆくかもしれない．　こうしてつくば博では思う存分，近代建築をつくることができたのである．
ある日企画屋が現れていう．「私が合図しますから，一気に設計してください．　さあ，いきますよ……」　かくして多くの人が近代建築したわけである．　ちょっとハニカミながら．　便りのないのは，よい便りであるのに違いない．（系庵主人）

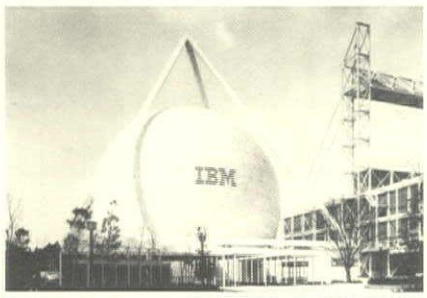
❶❷❸新建築8505，建築文化8505，近代建築8504，ＳＤ8505



❶歴史館／日建・久米・安井設計監理共同企業体
「日本の陣子をイメージした……」　ムム……



❸健康・スポーツ館（デサント・スズケン・大塚製薬）／清水建設
正面のガラスがわずかに外倒れになっていることに注意．しかし誰でも気づく程度に倒れているのはハニカミの結果？



❷日本アイ・ビー・エム／黒川紀章建築・都市設計事務所
「同館のシンボルマークである○△□をデザイン化して……」
何となく気恥しいような気がしませんか？

トを作製したのと同じおとぼけ精神と，〈つくば〉という言葉を利用した田舎者遊び（サイタマと同じ）で，彼のスタイルをまた一つ深化させた．

系庵主人君は，つくばでは建築家が不在であると指摘した．　建築側に主導権がなく，ほとんどの場合第三者から与えられた企画にもとづいて，建築家は下請けとして仕事をしたというのである．　これも目新しい指摘ではない．　しかし何も目新しい指摘をする必要はないのである．　目新しい指摘はそうどこにもころがっているわけではなく，もしころがっていたとしてもその多くはかなりあやしげである．　また指摘が目新しくないのが自分でもよくわかるものだから，〈目新しい言葉〉〈若い感性の言葉〉で，その指摘の古びたさまをカモフラージュするというのも，いさぎよくはない．　必要なのは目新しい指摘をすることではなく，誠実に一つの指摘をする勇気である．　それには自分の足で歩き，実物に充分近づいてそれをよく眺めなくてはいけない．　そうすることによってはじめて，〈いじめの構造〉から脱出できるのである．

〈国内建築ノート・聖吾評〉原稿募集のお知らせ

御礼の規定が少し変わります。
イッチョ応募してみようかという意欲・やりがい・闘争心をより高める為に，応募作は次のように層別されます。

入選：入選された方にはSD半年分（採用号以降）を差し上げます。
佳作：佳作の方には，SD２か月分（採用号以降）を差し上げます。
ハミダシ：ハミダシの方は，名前のみSDに掲載し，SD１カ月分（採用号）を差し上げます。（ハミダシに選ばれるのはわりと簡単です。どんどん応募してSDを手に入れて下さい。）
特待生：SDを通算して１年分以上手に入れた方は特待生に任命されます。（すなわち入選２回すれば特待生ですし佳作６回でも特待生です。ただハミダシは計算の対象にはなりません。）

■応募規定
応募の資格　とくになし
提出物　本文（1,000字以内），本文の内容に即した写真・図・そのコメント。　本文は原稿用紙に清書のこと。　写真・図は現物またはコピーとし最大Ａ４判程度。　また，出典（掲載誌名，掲載年月）を明記のこと。
応募原稿には，本名・職業・年令を明記のこと（ペンネーム希望者も同様）。
送り先　〒107　東京都港区赤坂６－５－13
鹿島出版会ＳＤ編集部聖吾評係
提出物の返却　提出物はいっさい返却いたしません。
問合わせ　宿題に関する問合わせは御遠慮下さい。

1985年11月号・宿題
「あなたはどのプレハブ住宅に住みたいですか」

締切―９月９日（当日消印有効）

プレハブ住宅というのはもうはやらない。　もう少し正確な言い方をすれば，生産技術としてのプレハブがはやらないのである。　プレハブ住宅の生産技術は，青く，危なかっしく，みずみずしいその青春時代―SALADA DAYSをとうのむかしに通りすぎてしまった。　かつての青年はいつのまにやら酸いも甘いも知りつくし，渋く，落ちつきはらった「おとなの技術」になってしまった。　住宅産業の成熟技術化という現象である。　なにもこれをせめるというのではない。　人が年をとるのを止めることができないように，技術も年をとり，それをとめることは何人たりともできないのである。　かつて東大の内田研はプレハブ技術のメッカであり，セキスイハイムのうみの親である大野勝彦をはじめとする工業化住宅の研究者，技術者をうみ出した。　しかしプレハブ界の一大イベントであったハウス55のプロジェクトをさかいとして，内田研の研究テーマは在来構法の見直しへとシフトしていった。　プレハブはすでにアカデミッシャン，アカデミックエンジニア達の手を離れたのである。
かといって，これはプレハブ住宅，工業化住宅が，建築界の外の出来事になったわけでは少しもない。　弱小設計事務所の経営基盤は，悲しいかなローコスト小住宅の設計である。　ローコスト小住宅の分野で，建築家の最大のコンペティターは工業化住宅である。　〈いやあっ，やっぱし○○ホームに決めちゃいましたよ。　先生にはインテリアのことでいろいろまた相談にのっていただけたらと思ってるんですけど〉　技術の横ならび化は，プレハブメーカーを新たなるテーマ〈様式〉へと向かわせた。　〈様式〉で武装したプレハブメーカーは，建築家にとっていよいよ手ごわいコンペティターとなったのである。　青二才の書生建築家などひとたまりもない，こわい〈おとな〉へといつのまにやら変身していったのである。　おおこわ！というところである。
まさに〈由々しき大問題〉である。
〈由々しき大問題〉を扱うにしては，今回のタイトルは軽い。　本来だったら〈建築家は工業化住宅に対抗できるか〉とか〈工業化住宅にどんな可能性があるか〉といった，鋭利な切れ味をもったタイトルがくるべきかもしれないが，ここはぐっととぼけて，問題をひとひねりしてみる。　そのひねりが，この欄のスタイルである。　軽きスタイルを借りながらいかに長い射程をもちえるか。　応募諸子の技術がとわれている。　工業化住宅のメーカーサイドからの，寄稿があったりしたら，すごくもりあがるのではないかとも期待する。　〈うちのメーカーの○○シリーズが本当におすすめデッセ〉という論がでてきたら，脱帽である。　●隈研吾

1985年12月号・宿題
「SD Reviewに何を期待するのか，諸君!」

締切―10月７日（当日消印有効）

〈ＳＤ Review〉とは何ぞや？
〈ＳＤ Review〉とはあなたにとっていかなる意味を持っているのか？　〈ＳＤ Review〉に何が可能か!!　ハアハア，ついキバって意気ごんで息切れしてしまった。　交通事故で頭打ってこのかた，持続力とゆーものに欠ける今日此の頃である。　ア，変に気をまわさないよーにね，ウン。　で，何しろバイクでクルマに正面衝突だもんね，生きてる方が不思議なくらい。　1985年７月16日をもって聖氏永眠，今回の聖吾評は追悼特集，これをもって聖吾評の輝かしき歴史の頁が閉じられましたなんともはや，なんてことにもなりかねなかった。　〈当たったら交通事故〉は麻雀だけにしときませうネ，皆さん。　とゆーわけで今回は，ほとんど三途の川を渡ろうかという出題者に追いすがった編集部の伏見嬢（当欄の担当なのです）の「せめて原稿渡してから渡って下さい」の声に思わず渡るのやめて引き返したという出題者が三途の川のほとりで思いついた宿題であります。　〈ＳＤ Reviewに何を期待するのか，諸君！〉やっぱり頭打って良くなったかなあ……
この宿題の評が出る頃は'85年も押しつまって師走ってくらいの12月号でありまして，恒例の〈ＳＤ Review〉特集号なわけですね。　今年で４回目，これまで幾多の話題作を世に出してきた日本建築界にとって画期的なこの展覧会。　出題者も２度ほど出展させていただきました。　なに？　知らない人がいる?? そーゆー人はこの聖吾評に応募する資格はないので，火急すみやかに本屋さんへ走って'82年から'84年の12月号を買い求め，〈ＳＤ Review〉の歴史を勉強するよーに。　そしてお正月とかお盆とかと同じように10月＝〈ＳＤ Review〉という季節の感覚養うよーに努めて下さい。　あ，言うまでもないと思うけど，それが展覧会の会期で，場所は槇さんの名作代官山ヒルサイドテラスのギャラリーですから，念のため。
こーゆー種のコンクールは審査員によってその権威とか信頼度が大きく左右されるわけで，その点，第１回からずっと審査員のトップに名を連ねている槇文彦氏の存在が大きい。　ちなみに第１回目から審査員の顔ぶれを見てみますと，〈槇文彦＋鈴木恂＋元倉真琴＋布野修司〉〈槇文彦＋鈴木恂＋山本理顕＋布野修司〉〈槇文彦＋竹山実＋山本理顕＋八束はじめ〉そして今度が〈槇文彦＋竹山実＋小宮山昭＋八束はじめ〉。　まさしく日本建築界を代表する布陣であるよーに思うわけであります。　とゆーよーなわけで，果たして〈ＳＤ Review〉にあなたがたは何を期待しているのか。　どういう役割を，どういう方向づけを，(ex，若手の育成，㊚と㊛のコミュニケーション，地方の動向の紹介，権威，イデオロギー，お祭り，賞金，賞品，ＰＡ賞との日米対決，等々)望むのか。　忌憚のない御意見，御批判，お寄せ下さい。　●竹山聖

<都市住宅>1985年8月号　定価1,200円

特集｜街並の設計手法

戸建住宅地の場合：宮脇檀建築研究室

●

インタビュー：[個]から発想して[街並]をつくる——宮脇檀

作品：高幡鹿島台ガーデン54　九州の家プロジェクト

戸建住宅の街並・設計マニュアル—5つのハードと1つのソフト

1.造成計画—道は狭いほど親密感が出る　他　2.施設計画—ひとつの大公園より小公園の分散を　他　3.外構計画—統一外構は美しさを生む　他　4.宅地内計画—自然発生するものを誘導する　他　5.建物計画—建物の変化は楽しさを生む　他　6.管理計画—住民も参加しなければ街は育たない

●

今月の住宅：

スピニング・ハウス——設計｜石井和紘建築研究所

鎌倉のアトリエ——設計｜小川守之建築・設計事務所

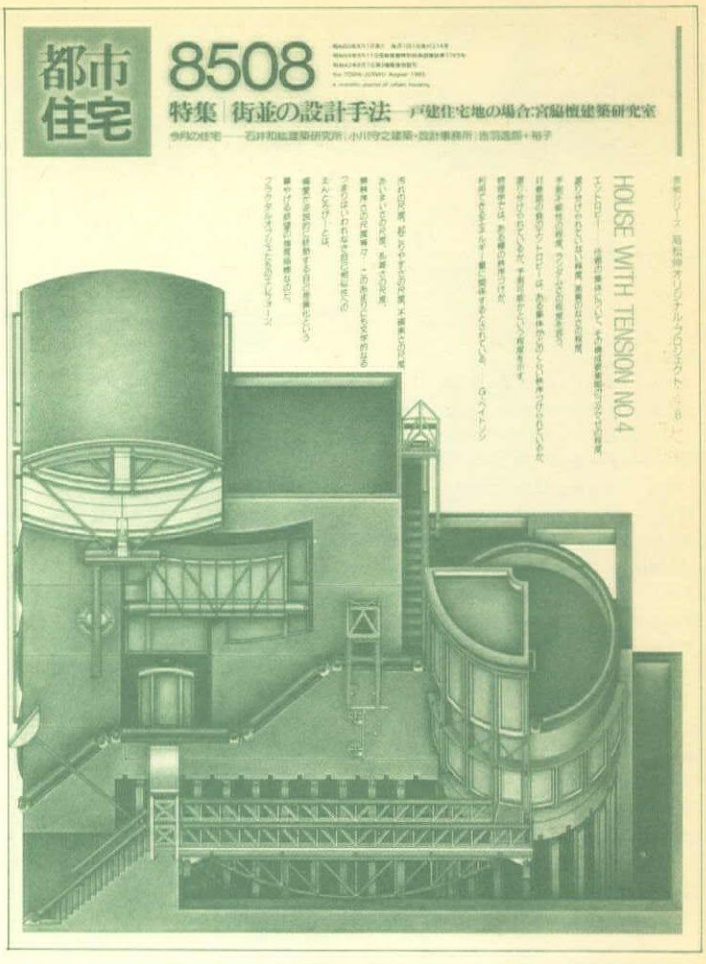
吉羽邸＋アトリエ——設計｜吉羽逸郎＋裕子：アイエフ建築研究所

●

シアトルの浮家——鈴木信宏

■

表紙シリーズ：高松伸オリジナル・プロジェクト8——HOUSE WITH TENSION NO.4



<都市住宅>1985年9月号　定価1,200円

特集｜都市に住む——都住創の10年

●

座談会：参加・差異性・迷路的空間——原広司＋植田實＋中筋修

論：パルスのある集住体——<都住創>1975—1985——延藤安弘

手法としてのコーポラティヴ・ハウス——安原秀

文：都市に住む——<都住創のフィロソフィ>，ドキュメント<都住創10号>——中筋修

<都住創>10年の推移と手法——小島孜＋中村清久

知的冒険集団としての<都住創協会>——山口順三

作品：<都住創>1975—1985

<1号・松屋町プロジェクト>から<10号・釣鐘町プロジェクト>までの全10プロジェクト

●

今月の住宅

中川邸——設計｜小林恒建築研究所

光明台の家——設計｜石松豊之

■

表紙シリーズ：高松伸オリジナル・プロジェクト9——HOUSE WITH RATIO NO. 1



SD

バックナンバー

8501—8506

SDバックナンバー常備店
●東京
中央区　八重州ブックセンター03(281)1811
千代田区　三省堂本店(神田)　03(233)3314
　　書泉ブックマート　03(294)0011
新宿区　紀伊国屋本店　03(354)0131
渋谷区　大盛堂書店　03(463)0511
豊島区　西武百貨店ブックセンター03(981)0111
●札幌
旭屋書店　011(241)3007
●横浜
有隣堂本店　045(261)1231
●大阪
北区　旭屋書店本店　06(313)1191
西区　柳々堂　06(443)0167
●京都
駸々堂京宝店　075(223)1003
大龍堂書店　075(231)3036
●大学生協内書店
東北工業大学
早稲田大学理工学部
法政大学理工学部
関東学院大学

8501

ハイテック・スタイル

論文：難波和彦，杉村憲司，岡部憲明
人物研究：C.イームズ，P.シャロー，J.プルーヴェ，池辺陽，N.フォスター，O.アロプ，F.オットー，B.フラー
作品：R.ピアノ，ABK，アロプ・アソシエイツ，T.ファレル，N.グリムショウ，J.ヌーヴェル，R.アースキン，F.O.ゲーリー，他
ハイテック論：伊東豊雄，押野見邦英，黒川哲郎，小西敏正，小宮山昭，高橋公子，中込清，野沢正光，松永安光，村田豊，葉祥栄
ハイテック辞典
特別定価＝2800円

8502

ポスト・モダンのフランス建築

論文：A.エメリ，進来玄，三宅理一，松浦寿夫
建築家：H.シリアニ，J.P.ビュフィ，Y.リオン，アルシステュディオ，R.スピッツ，J.P.ワテル，F.モンテス，B.ポール，ケトフ&プティ，C.ドヴィレー，C.ヴァスコーニ，H.パゴ，プリュネル&ロボネン，P.ベルジェー，M.N.ヤノヴスキー，J.ヌーヴェル，ベショー&ブルジョア，ガルースト&ボネッティ，キャナル，P.スタルク，S.ケトフ，F.セニュール，P.L.ファローチ
定価＝1500円

8503

グローバル・アール・デコ

対談：山口昌男×松永安光
論文：松永安光，小林克弘
ロサンゼルス　文：松永安光
マイアミ　文：松永安光
ニース　文：石上申八郎
パリ　文：柴田いづみ
モスクワ　文：三宅理一
ロンドン　文：下村純一
上海　文：村松伸，山口幸夫
東京　文：松山巖
C.アレギザンダー：盈進学園計画
文：H.ナイス
特別定価＝1800円

8504

長谷川逸子

インタヴュー：長谷川逸子
論文：長谷川逸子，鈴木博之，八束はじめ，多木浩二，菊池誠，松永安光
作品：BYハウス，小山の住宅，作品M，NCハウス，池袋の住宅，金沢文庫の住宅，伊丹の住宅，眉山ホール，焼津の住宅1，鴨居の住宅，緑ヶ丘の住宅，柿生の住宅，焼津の住宅2，焼津の住宅3，焼津の文房具屋，徳丸小児科，松山・桑原の住宅，AONOビル
特別定価＝2800円

8505

アドルフォ・ナタリーニの建築 1979—83

論文：A.ナタリーニ，磯崎新，他
作品：アルツァーテ・プリアンツァの銀行，ゾラ・プレドーサのコンピューター・センター，イェルサレムの〈嘆きの壁〉周辺地区計画，他
大橋晃朗
——家具ゲーム，文化ゲーム
インタヴュー：大橋晃朗
作品：ハンナン・チェア，フロッグ・チェア，ボード・テーブル＃3，他
ザハ・ハディドのプロジェクト
[科学万博つくば'85]をめぐって
定価＝1500円

8506

モロッコ，スペイン，ポルトガル
〈いえ〉と〈まち〉調査紀行

論文：鈴木成文，小川信子，畑聰一，服部岑生
モロッコ：クサール，メディナ，スーク，ベルベル人の住宅，他
スペイン：チンチョン，モンテフリオ，セテニール，カサレス，グァディス，他
ポルトガル：アルファマ，ナザレ，他
文：曾田忠宏，長沢悟，斉木崇人，初見学，笠島泰，林章，植松貞夫，峯成子，曾根陽子，畑聰一
建築家によるテーブルウェア
P.A.キング&S.ミランダの最新作
定価＝1500円

●待望のハードカバー装出来！

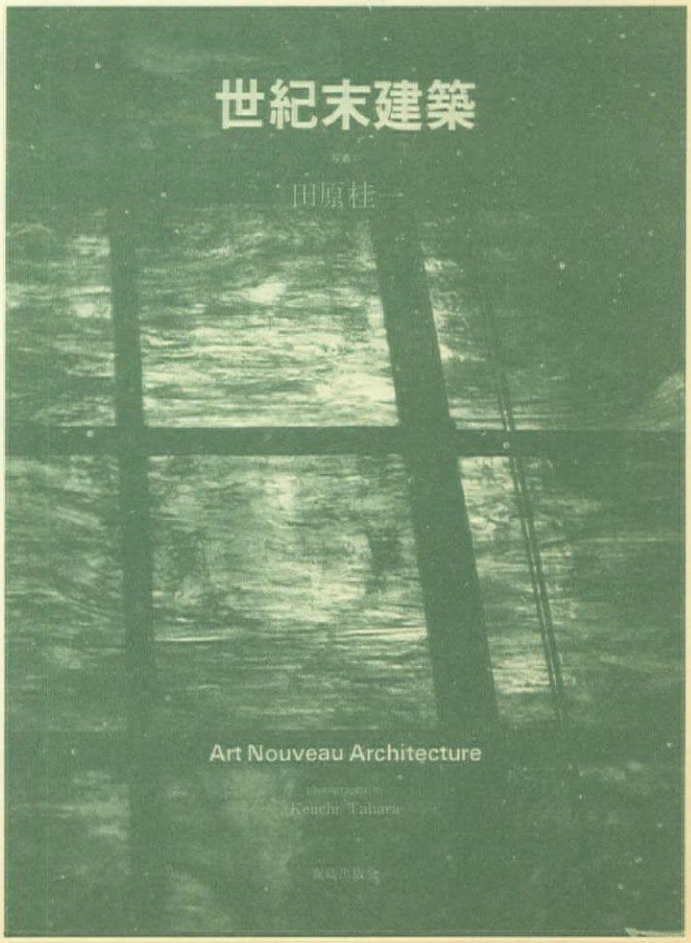
世紀末建築
Art Nouveau Architecture

写真＝田原桂一

本年度の木村伊兵衛賞を受賞した，今，最も注目される写真家
田原桂一の眼が捉えた，妖美なる光と影の世紀末建築．　その写真集！
ガウディ，オルタ，ギマール，ヴァークナー，ロース，マッキントッシュ，……，
微かな，あるいは充溢する光の下に繰り広げられる，
ヨーロッパの世紀末建築の精華．　その形と空間！

●PART 1——スペイン，フランス，ベルギー
●PART 2——イタリア，トルコ，ハンガリー，ロシア，ルーマニア，他．
●PART 3——スイス，ドイツ，オーストリア，オランダ，イギリス，他．
A4判変型　116頁
SD8407の上製・保存本．　定価＝3000円

絶賛発売中！



SD 10月号予告

特集＝

ステージ・建築・都市

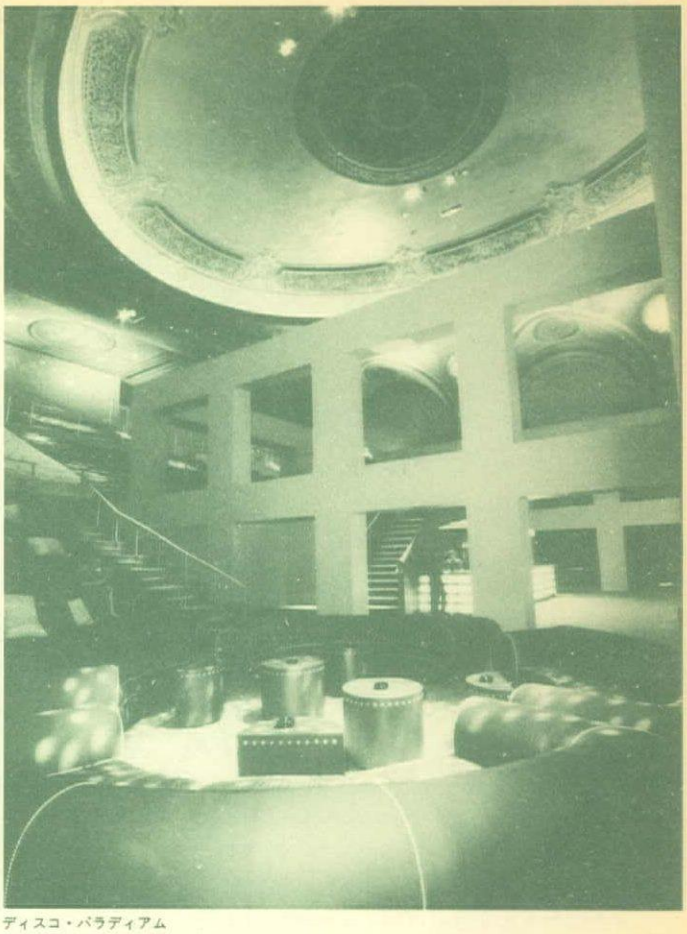
——センセーショナル・スペースの仕掛人——

現代の都市では，型通りの空間ではなく，
転変する空間にこそ，楽しさ，魅力がある．
そこには，生きた空気と情報と時代感覚が溢れている．
都市に息づく感覚空間を，
その仕掛人へのインタヴューと共に紹介する異色特集！

対談＝磯崎新×朝倉摂

●ニューヨークのディスコ：パラディアム，ライムライト，エーリア
●ディスコ：情報と感性の発進地／秦誠一
●ウィンドー・ディスプレイ：そこは街のイメージを生む／八島治久
●パブ＆ブティック：人にしぐさと振舞いを喚起させる場／内田繁
●ファッション・ショー：商品ではなく時代感覚を見せる場／四方義郎
●照明計画：空間の生きた空気を感じさせること／二瓶マサオ

インタヴュアー＝隈研吾

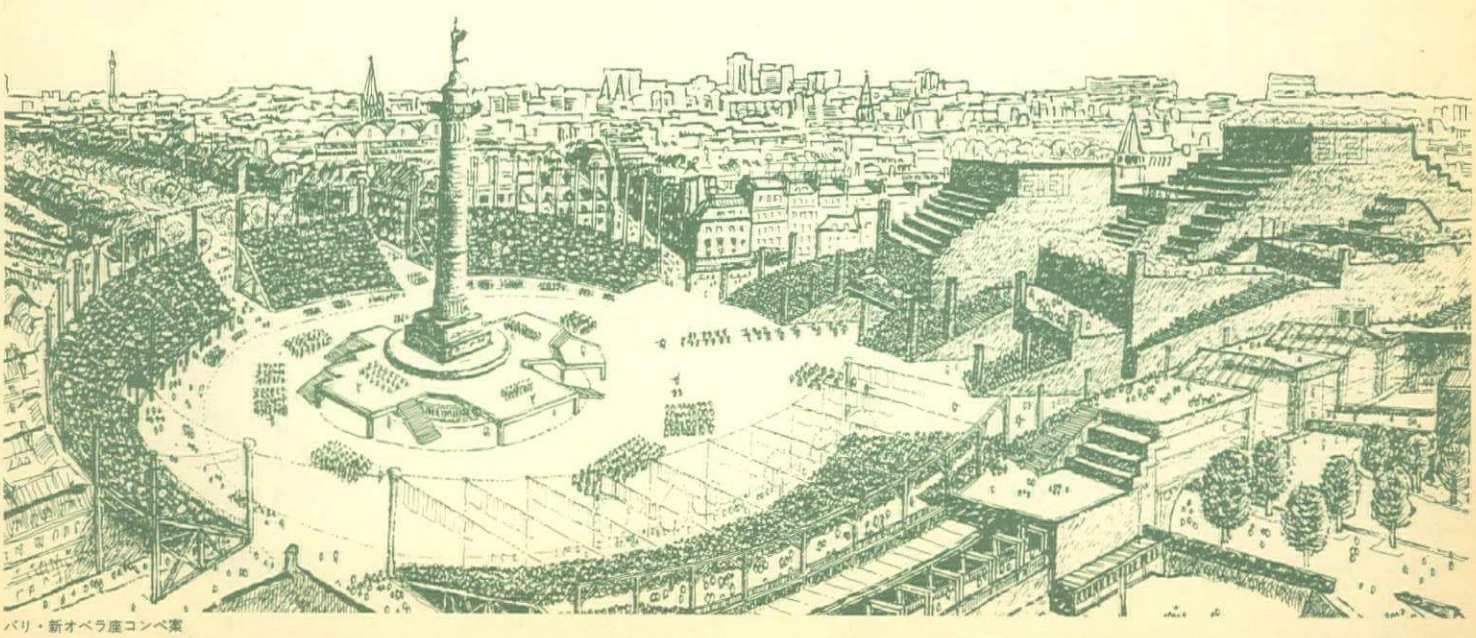


ディスコ・パラディアム

SD 11月号予告

特集＝ **象設計集団**

熱気溢れる雄叫びとともに活動を続ける象設計集団．
独自の造形理念と設計手法により生み出された数々の作品は，
常に新鮮な驚きを与え続けてきた．
そのデビュー作から最新作まで，
住宅・公共施設から壮大なコンペ・計画案に至るまで，
全貌をあますところなく紹介する．



パリ・新オペラ座コンペ案

明日を築く知性と技術 ●鹿島出版会 ●東京都港区赤坂6-5-13 ●電話(03)582-2251 ●振替 東京6-180883 ●SD選書：各四六判

SD 選書

■今日の造形文化に関心のあるすべての人びとにおくる，新しいタイプの選書 ■現代文明のあらゆる課題をあつかい，新鮮でダイナミックな視点を提供する選書 ■高度に細分化し，専門化した現代文明の各領域をつなぐかけ橋となる選書 ■写真・図版を豊富に入れて，ヴィジュアルに編集し，感覚と知性に富む読者のよき伴侶となる選書．

①現代デザイン入門
勝見 勝著 ¥1,500

②現代建築12章
カーン，ルドルフ他著／山本学治訳編 ¥980

③都市とデザイン
栗田 勇著 ¥980

④江戸と江戸城
内藤 昌著 ¥1,500

⑤日本デザイン論
伊藤ていじ著 ¥1,500

⑥ギリシア神話と壺絵
澤柳大五郎著 品 切

⑦フランク・ロイド・ライト
谷川正己著 ¥1,500

⑧きもの文化史
河鰭実英著 ¥1,500

⑨素材と造形の歴史
山本学治著 ¥1,500

⑩今日の装飾芸術
ル・コルビュジエ著／前川国男訳 ¥980

⑪コミュニティとプライバシイ
シャマイエフ，アレクザンダー共著
岡田新一訳 ¥1,500

⑫新桂離宮論
実藤 昌著 ¥1,200

⑬日本の工匠
伊藤ていじ著 ¥1,500

⑭現代絵画の解剖
木村重信著 品 切

⑮ユルバニスム
ル・コルビュジエ著／樋口 清訳 ¥980

⑯デザインと心理学
亀山貞登著 ¥1,500

⑰私と日本建築
アントニン・レーモンド著 ¥1,500

⑱現代建築を創る人々
神代雄一郎編 ¥980

⑲芸術空間の系譜
高階秀爾著 ¥1,500

⑳日本美の特質
吉村貞司著 ¥1,500

㉑建築をめざして
ル・コルビュジエ著／吉阪隆正訳 ¥1,500

㉒メガロポリス
J.ゴットマン著／木内・石水共訳 ¥1,500

㉓日本の庭園
田中正大著 ¥1,500

㉔明日の演劇空間
尾崎宏次著 品 切

㉕都市形成の歴史
アーサー・コーン著／星野芳久訳 ¥1,500

㉖近代絵画
オザンファン，E.ジャンヌレ共著
吉川逸治訳 ¥980

㉗イタリアの美術
A.ブラント著／中森義宗訳 品 切

㉘明日の田園都市
E.ハワード著／長 素連訳 ¥1,500

㉙移動空間論
川添 登著 品 切

㉚日本の近世住宅
平井 聖著 品 切

㉛新しい都市交通
B.リチャーズ著／曾根・森岡共訳 ¥980

㉜人間環境の未来像
W.イーウォルド編／磯村・星野共訳 ¥980

㉝輝く都市
ル・コルビュジエ著／坂倉準三訳 ¥1,500

㉞アルヴァ・アアルト
武藤 章著 ¥1,500

㉟幻想の建築
坂崎乙郎著 ¥1,500

㊱カテドラルを建てた人々
J.ジャンペル著／飯田喜四郎訳 ¥1,500

㊲日本建築の空間
井上充夫著 ¥1,500

㊳環境開発論
浅田 孝著 ¥980

㊴都市と娯楽
加藤秀俊著 ¥980

㊵郊外都市論
H.カーヴァー著／志水英樹訳 品 切

㊶都市文明の源流と系譜
藤岡謙二郎著 品 切

㊷道具考
栄久庵憲司著 ¥1,500

㊸ヨーロッパの造園
岡崎文彬著 ¥1,500

㊹未来の交通
ハル・ヘルマン著／岡 寿麿訳 品 切

㊺古代技術
H.ディールス著／平田 寛訳 品 切

㊻キュビスムへの道
D.H.カーンワイラー著／千足伸行訳 ¥1,500

㊼近代建築再考
藤井正一郎著 ¥980

㊽古代科学
J.L.ハイベルク著／平田 寛訳 品 切

㊾住宅論
篠原一男著 ¥1,500

㊿ヨーロッパの住宅建築
S.カンタクシーノ著／山下和正訳 ¥980

(51)都市の魅力
清水馨八郎・服部銈二郎共著 ¥1,500

(52)東照宮
大河内直躬著 ¥690

(53)茶匠と建築
中村昌生著 ¥1,500

(54)住居空間の人類学
石毛直道著 ¥1,500

(55)空間の生命―人間と建築
坂崎乙郎著 ¥980

(56)環境とデザイン
ゲレット・エクボ著／久保 貞訳 ¥980

(57)日本美の意匠
水尾比呂志著 ¥1,500

(58)新しい都市の人間像
イールズ，ワルトン共編
木内信蔵監訳 ¥780

(59)京の町家
島村 昇他著 ¥1,500

(60)都市問題とは何か
レイモンド・バーノン著／片桐達夫訳 ¥980

(61)住まいの原型(I)
泉 靖一編 ¥980

(62)コミュニティ計画の系譜
佐々木 宏著 ¥1,500

(63)近代建築
V.スカーリー著／長尾重武訳 ¥1,500

(64)SD海外建築情報(I)
岡田新一編 ¥980

(65)SD海外建築情報(II)
岡田新一編 ¥980

(66)天上の館
J.サマーソン著／鈴木博之訳 ¥780

(67)木の文化
小原二郎著 ¥1,500

(68)SD海外建築情報(III)
岡田新一編 ¥980

(69)地域・環境・計画
水谷穎介著 ¥980

(70)都市虚構論
池田亮二著 ¥780

(71)現代建築事典
ウォルフガング・ペーント編
浜口隆一・神代雄一郎監訳 ¥1,900

(72)ヴィラール・ド・オヌクールの画帖
藤木康雄著 ¥780

(73)タウンスケープ
T.シャープ著／長 素連・もも子共訳 ¥780

(74)現代建築の源流と動向
L.ヒルベルザイマー著／渡辺明次訳 品 切

(75)部落社会の芸術家
マリアン・W.スミス編／木村重信他訳 ¥780

(76)キモノ・マインド
B.ルドフスキー著／新庄哲夫訳 ¥1,500

(77)住まいの原型(II)
吉阪隆正・他共著 ¥980

(78)実存・空間・建築
シュルツ著／加藤邦男訳 ¥1,500

(79)SD海外建築情報(IV)
岡田新一編 ¥780

(80)都市の開発と保存
上田 篤・鳴海邦碩共編 ¥980

(81)爆発するメトロポリス
W.H.ホワイト・他著／小島将志訳 ¥980

(82)アメリカの建築とアーバニズム(上)
V.スカーリー著／香山寿夫訳 ¥980

(83)アメリカの建築とアーバニズム(下)
V.スカーリー著／香山寿夫訳 ¥980

(84)海上都市
菊竹清訓著 品 切

(85)アーバン・ゲーム
M.ケンツレン著／北原理雄訳 ¥980

(86)建築二〇〇〇
C.ジェンクス著／工藤国雄訳 ¥980

(87)日本の公園
田中正大著 ¥1,500

(88)現代芸術の冒険
オト・ピハリ＝メリン著
坂崎乙郎・宝木範義共訳 ¥980

(89)江戸建築と本途帳
西 和夫著 ¥980

(90)大きな都市小さな部屋
渡辺武信著 ¥980

(91)イギリス建築の新傾向
R.ランダウ著／鈴木博之訳 ¥980

(92)SD海外建築情報(V)
岡田新一編 ¥980

(93)IDの世界
豊口 協著 ¥980

(94)交通圏の発見
有末武夫著 ¥980

(95)建築とは何か
B.タウト著／篠田英雄訳 ¥1,500

(96)続住宅論
篠原一男著 ¥1,200

(97)建築の現在
長谷川 堯著 ¥980

(98)都市の景観
G.カレン著／北原理雄訳 ¥1,500

(99)SD海外建築情報(VI)
岡田新一編 ¥980

(100)都市空間と建築
U.コンラーツ著／伊藤哲夫訳 ¥1,500

明日を築く知性と技術 ●鹿島出版会 ●東京都港区赤坂6-5-13 ●電話(03)582-2251 ●振替 東京6-180883 ●SD選書：各四六判

⑭トーネット曲木家具

K.マンク著／宿輪吉之典訳
四六・224頁・¥1,500
永遠のモダン曲木家具の木材職人，ミヒャエル・トーネットは，ブナ材の熱蒸気によって曲げ加工する技術を開発した。本書は，単純・優美な曲木椅子の加工技術と現存する世界的企業トーネット社の全容を伝えている。

---

⑩①環境ゲーム
T.クロスビィ著／松平　誠訳　¥980

⑩②アテネ憲章
ル・コルビュジエ著／吉阪隆正編訳　¥1,500

⑩③プライド・オブ・プレイス
シヴィック・トラスト著
井手久登・正子共訳　¥980

⑩④構造と空間の感覚
F.ウィルソン著／山本・稲葉共訳　¥1,500

⑩⑤現代民家と住環境体
大野勝彦著　¥980

⑩⑥光の死
H.ゼーデルマイヤ著／森　洋子訳　¥980

⑩⑦アメリカ建築の新方向
R.スターン著／鈴木　一訳　¥980

⑩⑧近代都市計画の起源
L.ベネヴォロ著／横山　正訳　¥980

⑩⑨中国の住宅
劉敦楨著／田中　淡・沢谷昭次共訳　¥980

⑪⓪現代のコートハウス
D.マッキントッシュ著／北原理雄訳　¥980

⑪①モデュロールⅠ
ル・コルビュジェ著／吉阪隆正訳　¥1,500

⑪②モデュロールⅡ
ル・コルビュジエ著／吉阪隆生訳　¥1,200

⑪③建築の史的原型を探る
B.ゼーヴィ著／鈴木義治訳　¥980

⑪④西欧の芸術1　ロマネスク(上)
H.フォション著／神沢栄三・他訳　¥1,500

⑪⑤西欧の芸術1　ロマネスク(下)
H.フォション著／神沢栄三・他訳　¥1,200

⑪⑥西欧の芸術2　ゴシック(上)
H.フォション著／神沢栄三・他訳　¥1,500

⑪⑦西欧の芸術2　ゴシック(下)
H.フォション著／神沢栄三・他訳　¥1,200

⑪⑧アメリカ大都市の死と生
J.ジェコブス著／黒川紀章訳　¥1,500

⑪⑨遊び場の計画
R.ダットナー著／神谷五男・他共訳　¥1,500

⑫⓪人間の家
ル・コルビュジエ他著／西沢信秀訳　¥1,200

⑫①街路の意味
竹山　実著　¥1,500

⑫②パルテノンの建築家たち
R.カーペンター著／松島道也訳　¥980

⑫③ライトと日本
谷川正己著　¥980

⑫④空間としての建築(上)
ブルーノ・ゼーヴィ著／栗田　勇訳　¥1,500

⑫⑤空間としての建築(下)
ブルーノ・ゼーヴィ著／栗田　勇訳　¥980

⑫⑥かいわい〔日本の都心空間〕
村野博司著　¥1,500

⑫⑦歩行者革命
ブライネス，ディーン共著
岡　並木監訳　¥980

⑫⑧オレゴン大学の実験
C.アレグザンダー著／宮本雅明訳　¥980

⑫⑨都市は「ふるさと」か
ローマイス著／武　基雄・他共訳　¥980

⑬⓪建築空間「尺度について」
P.ブドン著／中村貴志訳　¥980

⑬①アメリカ住宅論
V.スカーリーJr.著／長尾重武訳　¥980

⑬②タリアセンへの道
谷川正己著　¥980

⑬③建築 vs. ハウジング
M.ポーリー著／山下和正訳　¥980

⑬④思想としての建築
栗田　勇著　¥980

⑬⑤人間のための都市
P.ペーターズ著／河合正一訳　¥980

⑬⑥都市憲章
磯村英一著　¥980

⑬⑦巨匠たちの時代
R.P.バンハム著／山下　泉訳　¥980

⑬⑧三つの人間機構
ル・コルビュジエ著／山口知之訳　¥980

⑬⑨インターナショナル・スタイル
ヒッチコック・他著／武澤秀一訳　¥980

⑭⓪北欧の建築
S.E.ラスムッセン著／吉田鉄郎訳　¥980

⑭①続建築とは何か
ブルーノ・タウト著／篠田英雄訳　¥980

⑭②四つの交通路
ル・コルビュジエ著／井田安弘訳　¥980

⑭③ラスベガス―忘れられたシンボリズム
ヴェンチューリ他著／石井・伊藤共訳　¥1,500

⑭④ル・コルビュジエ
C.ジェンクス著／佐々木宏訳　¥1,500

⑭⑤デザインの認識
R.ソマー著／加藤常雄訳　¥980

⑭⑥鏡―虚構の空間―
由木常雄著　¥980

⑭⑦イタリア都市再生の論理
陣内秀信著　¥980

⑭⑧東方への旅
ル・コルビュジエ著／石井　勉・他共訳　¥980

⑭⑨建築鑑賞入門
コーディル，ケノン共著／六鹿正治訳　¥1,500

⑮⓪近代建築の失敗
P.ブレイク著／星野郁美訳　¥1,500

⑮①文化財と建築史
関野　克著　¥1,200

⑮②日本の近代建築(上)
その成立過程――稲垣栄三著　¥1,200

⑮③日本の近代建築(下)
その成立過程――稲垣栄三著　¥1,200

⑮④住宅と宮殿
ル・コルビュジエ著／井田安弘訳　¥1,200

⑮⑤イタリアの現代建築
V.グレゴッティ著／松井宏方訳　¥1,200

⑮⑥バウハウス――その建築造形理念
杉本俊多著　¥1,500

⑮⑦エスプリ・ヌーヴォー
〈近代建築名鑑〉
ル・コルビュジエ著／山口知之訳　¥1,200

⑮⑧建築について(上)
F.L.ライト著／谷川睦子・正己共訳　¥1,200

⑮⑨建築について(下)
F.L.ライト著／谷川睦子・正己共訳　¥1,200

⑯⓪建築形態のダイナミクス(上)
R.ルドルフ著／乾　正雄訳　¥1,200

⑯①建築形態のダイナミクス(下)
R.アルンハイム著／乾　正雄訳　¥1,200

⑯②見えがくれする都市
槇　文彦・他共著　¥1,500

⑯③街の景観
J.バーク著／長　素連・もも子共訳　¥1,200

⑯④環境計画論
田村　明著　¥1,500

⑯⑤アドルフ・ロース
伊藤哲夫著　¥1,200

⑯⑥空間と情緒
箱崎総一著　¥1,200

⑯⑦水空間の演出
鈴木信宏著　¥1,500

⑯⑧モラリティと建築
D.ワトキン著／榎本弘之訳　¥1,200

⑯⑨ペルシア建築
A.U.ポープ著／石井　昭訳　¥1,500

⑰⓪ブルネッレスキ
G.C.アルガン著／浅井朋子訳　¥1,500

⑰①装置としての都市
月尾嘉男著　¥1,500

⑰②建築家の発想―私の師匠たち
石井和紘著　¥1,500

⑰③日本の空間構造
吉村貞司著　¥1,500

⑰④建築の多様性と対立性
R.ヴェンチューリ著／伊藤公文訳　¥1,500

⑰⑤広場の造形
カミロ・ジッテ著／大石敏雄訳　¥1,500

⑰⑥西洋建築様式史(上)
H.バウムガルト著／杉本俊多訳　¥1,500

⑰⑦西洋建築様式史(下)
H.バウムガルト著／杉本俊多訳　¥1,500

⑰⑧木のこころ―木匠回想記―
J.ナカシマ著／神代・佐藤共訳　¥1,500

⑰⑨風土に生きる建築
若山　滋著　¥1,500

⑱⓪金沢の町家
島村　昇著　¥1,500

⑱①ジュゼッペ・テッラーニ
ブルーノ・ゼーヴィ編／鵜沢　隆訳　¥1,500

⑱②水のデザイン
D.ベーミングハウス著／鈴木信宏訳　¥1,500

⑱③ゴシック建築の構造
R.マーク著／飯田喜四郎訳　¥1,500

⑱④建築家なしの建築
B.ルドフスキー著／渡辺武信訳　¥1,500

⑱⑤プレシジョン(上)
ル・コルビュジエ著／井田・芝共訳　¥1,500

⑱⑥プレシジョン(下)
ル・コルビュジエ著／井田・芝共訳　¥1,500

⑱⑦オットー・ワーグナー
〈ウィーン世紀末から近代へ〉
ゲレーツェッガー著／伊藤・衛藤訳　¥1,500

⑱⑧環境照明のデザイン
石井幹子著　¥1,500

⑱⑨ルイス・マンフォード
木原武一著　¥1,500

⑲⓪「いえ」と「まち」―住居集合の論理
鈴木成文・他共著　¥1,500

⑲①アルド・ロッシ自伝
A.ロッシ著／三宅理一訳　¥1,500

⑲②屋外彫刻―オブジエと環境―
M.A.ロビネット著／千葉成夫訳　¥1,500

⑲③「作庭記」からみた造園
飛田範夫著　¥1,500

明日を築く知性と技術 ●鹿島出版会 ●東京都港区赤坂6-5-13 ●電話(03)582-2251 ●振替 東京6-180883 ●図書目録呈

パタン・ランゲージ［環境設計の手引］

C.アレグザンダー他著　平田翰那訳

A5判　656頁　¥9,800

本書を用いれば，家族とともに自分の家を設計したり，隣人とともに自分たちの町や近隣を改良することができる。さらにオフィス，作業場，公共建物などの設計や，実際に建物を施工する手引きとしても役立つ。

10年の沈黙の後，環境構造センターのクリストファー・アレグザンダーとその仲間たちは，3部作の形でその成果を発表した。それらは彼らの言葉を借りると，「建築と建設と計画に対するまったく新しい取り組み方の基本を示し，今日の考え方や実践に完全にとって代ることを，私たちは願っている」というものである。その3部作とは，『The Timeless Way of Building』，『オレゴン大学の実験』，そしてこの『パタン・ランゲージ』である。

これらの本の核心となる考え方は，人びとは自宅や街路やコミュニティを自らの手で設計すべきだというものである。このような考え方は急進的(建築関係の職能に急激な変革を迫るかも知れないが，それは単に，世界の美しい場所のほとんどが建築家以外の人びとによってつくり出されたという事実から生じるのである。

もうひとつの核心は，環境を設計する際には，人びとは普通言語のようなある種の「言語」に頼っており，一貫性の生れる一種の文法を用いて，デザインの無限の多様性を分化し，伝達することができるのである。

本書に示すのは，このような言語である。本書を用いれば，あらゆる建物や建設環境の設計が可能になるのである。

このランゲージの基本単位である「パタン」は，デザインのあらゆる問題に対する解答を示している。(窓台の高さはいくらにすればよいか。建物は何階建にすべきか。近隣内のどれだけの土地を草や木に提供すればよいか。)このパタン・ランゲージには，250以上のパタンがあり，各パタンは問題提起，イラスト付きの問題の検討，そして解答の3部分から構成されている。

著者が前文で述べるように，パタンの多くは原型的であり，あまりにも物の本質に根ざしており，500年たっても今日と同様に，人間の本性や行動の一部であり続けるように思えるのである。

図版写真867点収録



あらゆる食品や家庭用品を，1つ屋根の下で買えるような市場が望まれるのは当然であり，また便利である。だが，スーパーマーケットのように単独経営だと，食品に個性がなくなり，そこに出かける楽しみが失われる。
［パタン46　多店舗マーケット］より

ストリート・ファニチュア

屋外環境エレメントの考え方と設計指針

西沢　健著　A5・240頁　¥2,900

都市街路や広場・公園の設備に関する資料が皆無に等しい中で，我が国で初めて全容が紹介された実務に役立つガイドブック。内容は極めて分り易く，デザイン・分類・設計指針，配置と実例に及んでいる。

環境の空間的イメージ

イメージマップと空間認識

ダウンズ，ステア共編　吉武泰水監訳　A5・450頁　¥9,300

都市計画へのデザイン手法の導入は，われわれの生活環境の質と位置とを考える上で重要である。イメージマップは，その空間認識において，有益なデザイン効果につながる新素材であろう。

人間のための街路

B.ルドフスキー著　平良敬一，岡野一宇共訳　A5・344頁　¥3,200

とらわれない眼で世界に現存する街路を観察するとともに，歴史の中の街路をも想起しつつ，街路のもつ人間にとっての豊かな意味性を考え，未来の街路のモデルへの示唆を示したユニークな文明批評の書。

環境のデザイン

R.P.ドーバー著　土田　旭訳　B5・334頁　¥5,500

建築よりも大きなスケールを対象とし，都市計画よりも総合的な瑞境デザインについて，著者ドーバーのアイデアを十分に生かして体系的に考察したもので，広い視野に立った事例研究の書である。

水辺の計画と設計

吉村元男・芝原幸夫共著　A5・240頁　¥2,900

河川・湖沼・港湾や海岸線など，水辺や親水性の空間に関するデザインやプランについて，幅広く全国各地の事例を総合的に把え紹介している。都市計画家，土木・建築関係者，造園家，自治体関係にすすめる。

新しい建築・都市環境デザインの方法

T.ムーア編　環境デザイン研究会訳　B5・444頁　¥6,900

世界各国の建築・都市計画・システム工学・心理学・社会学等，多方面の専門家の協力によりまとめられた〝人間環境の設計・計画についての新しい方法〟に関する最新の研究報告であり，かつ指針書である。

住居：その本質とプラン

A.ギュトン著　佐々木隆文訳　B5・256頁　¥5,800

エコール・デ・ボザールの定評ある講義録。Ⅰ住居，Ⅱ宮殿，Ⅲ都市の住居（A私的な邸宅，B積層集合住宅）Ⅳ郊外住宅，Ⅴ都市地域外の住居，Ⅵ住居の周囲：環境。豊富な写真，図面共4百点収録。

驚異の工匠たち

知られざる建築の博物誌

B.ルドフスキー著　渡辺武信訳　A5・436頁　¥3,800

〝みっともない人体〟に続いて読者に贈るルドフスキーの最近作。従来の建築史の視野の外にあった地方的，土着的建築物を再評価し，人類文明の多様性を積極的に肯定しようとするユニークな建築論。

人気急上昇
予約申込殺到!!
年間予約購読、郵送制
書店ではお求めになれません

月刊 ダルトンレポート
DALTON REPORT
「建設業のいま」を満載したニューリトルマガジン



8507号 目次

スポット 建設業のデータベースを考える
●プロジェクト●中央高速道恵那山トンネルが全通
第26回BCS・第10回吉田五十八賞決定
★視点★シェイプアップ・マイタウン計画
建設業のEC化戦略3―段と拍車かかるエアドーム商戦
連載 建設業の生いたち＊建築請負業者の受注拡大
●わいどあんぐる●東京湾横断道は、トンネル主体に／宇宙の無重量状態を、地下に再現
●霞が関ホットライン●21世紀のエネルギービジョンを展望／「国有地の有効活用方策」まとまる
●タウンパトロール●浅草寺境内に奥山の江戸時代を再現／通信衛星利用 日本PRのネットワークづくりへ
●情報るうむ●減少傾向にある建設労働死亡災害／岩盤ひび割れをコンピュータで解析
●ハウジング●不動産流通事業を活性化―全宅連／旭化成工業「エヴァンス」を開発
●地域レーダー●北海道開発の長期ビジョン／横商が工業制限法規制の見直し要望
●ローカルスポット●黒潮文化都市の提言を答申
DALTON EYE／らんきんぐ／世界の街角／海外トピックス／サイエンス
GOODS & GOODS／マガジンジャック／用語／他

建設マンのための気楽に読めるユニークな建設情報誌です。
●忙しいあなたに代って必要な情報を収集・整理してお届けします。
●これさえ読んでいれば高度情報化社会で遅れをとることはありません。

購読のお申し込みは今すぐに！
大変割安な定期購読料金です。

ただいま定期購読のお申込みを受付けています。
申込書用紙をきりとり、もれなくご記入のうえ、ハガキに全面のり付け貼付し、下記までお送りください。
※お申込みは個人名でおねがいします。

購読申込書の送り先
〒107 東京都港区赤坂6-5-13
㈱鹿島出版会 情報システム事業部
ダルトンレポート読者係 ☎03(583)6050
●定期購読料 1年購読(12冊) 4,800円(1冊当り400円)
（送料共） 3年購読(36冊) 9,600円(1冊当り266円)

※購読料金のお支払いは、ダルトンレポート本誌に添付の郵便振替用紙でお近くの郵便局からお払込みください。

DALTON REPORT 定期購読申込書

□新規購読申込 SD

フリガナ
お名前

ご自宅 〒 ☎
住所

お勤め先	該当のものに○印を	ご専門	建築 土木 機械 電気 事務 ほか
（職種）		ご担当	設計 施工 管理 営業 経理 ほか

購読期間(☑印をつけてください) □1年 □3年

明日を築く
知性と技術　●鹿島出版会　●東京都港区赤坂6-5-13　●電話(03)582-2251　●振替　東京6-180883　●図書目録呈

近代建築ガイドブック

古い街に見えがくれする近代建築を見に行こう

さあ，見て歩こう！　街は生きている博物館だ

〈全5巻〉

[関東編]

四六判　276頁　2,300円



東京建築探偵団著　顧問＝村松貞次郎＋山口廣　団員＝宍戸実＋植松光宏＋河東義之＋藤森照信＋堀勇良＋清水慶一＋高橋喜重郎

建築探偵団始末記——藤森照信

皇居一周コース／銀座・築地商店建築探訪コース／日本橋・兜町オフィス街コース／本郷・お茶の水大学街コース／上野公園コース／浅草六区映画館街コース／赤坂・麻布・六本木高級住宅街コース／三田・白金・高輪大邸宅コース／田園調布・成城コース／川巡り・橋巡り／横浜旧居留地コース／横須賀・猿島コース／関東環状別荘帯・湘南コース／関東環状別荘帯・箱根コース／関東環状別荘帯・軽井沢コース・信濃路巡遊コース／藤村式擬洋風建築コース／房総近代建築巡遊コース／駒杵勤治と茨城の建築コース／産業遺跡コースⅠ／産業遺跡コースⅡ／宇都宮・日光コース／那須野ヶ原プランテーション別荘コース／新発田・新潟・上越市コース

[関西編]

四六判　308頁　2,800円



石田潤一郎＋沢田清＋柴田正巳＋中川理＋福田晴虔＋山形政昭＝共著

はじめに——福田晴虔

船場コース／キタコース／ミナミコース／ニシコース／東天満・上町台地コース／なにわの名橋めぐりコース／堺・泉南コース／ステンショめぐりコース／三条・烏丸コース／東山コース／京都御所一周コース／七条コース／丹波・丹後コース／旧居留地・税関構内コース／山本通・北野町コース／海岸通・栄町通コース／須磨・塩屋・舞子コース／あめりか村コース／阪神間コース／産業施設と公共建築コース／滋賀コース／琵琶湖周遊ヴォーリズコース／紀州・灯台巡りコース／奈良県コース

[西日本編]

四六判　280頁　2,800円



松葉一清＋宮本雅明＋片野博＋大森久司＋土田充義＋宮本達夫＋桑原三郎＋山口光臣＋村田明久＋阿久井喜孝＋川上秀人＋木島安史＋福原昌明＋伊藤行＋中力昭＋杉本俊多＋中川幸治＋小野木重勝＋山本忠司＋松村正恒＋四宮照義＋山本長水＝共著

日没する国より——松葉一清

関門コース／洞海湾コース／博多天神コース／九大コース／筑豊炭鉱遺跡コース／有田・唐津コース／長崎市街地コース／南山手・東山手コース／軍艦島コース／五島教会堂建築コース／熊本コース／日豊本線コース／鹿児島コース／岡山・牛窓・和気コース／倉敷・児島・笠岡・高梁コース／津山を中心とした美作コース／広島コース／呉・江田島コース／岩国・柳井コース／山口・宇部・萩コース／山陰コース／香川コース／愛媛コース／徳島コース／高知の建築コース

[北海道・東北編]

越野武＋坂田泉＝編

四六判　272頁　2,800円



北海道の近代建築——越野武

函館西部市街コース／函館東部市街・効外コース／小樽・山手コース／小樽・運河コース／札幌都心コース／札幌周辺コース／北海道開拓の村／石狩川流域コース／旭川コース／帯広・根室コース／北見・網走コース／いぶり・日高コース／追分そ～らんライン

みちのく有情——坂田泉

安積コース／会津コース／信夫・伊達路コース／仙台コース／仙北コース／岩手路コース／奥むつコース／津軽コース／米代川コース／秋田・日本海コース／雄物川コース／最上川コース／庄内コース

[東海・北陸編]

飯田喜四郎＋瀬口哲夫＋竺覚暁＝編著

四六判　308頁　2,800円



東海の近代建築——瀬口哲夫

官庁・東区コース／広小路商業建築コース／熱田・港コース／八事・覚王山住宅地コース／名古屋近郊・明治村コース／岡崎・豊田コース／豊橋・渥美コース／高山・飛騨コース／岐阜コース／多治見・瀬戸コース／伊賀・北勢コース／伊勢・熊野コース／浜松・遠州コース／静岡・駿河コース／勢海・伊東別荘地コース／伊豆コース

北陸の近代建築——竺覚暁

富山市近郊コース／高岡市近郊コース／新川・黒部コース／小矢部・砺波平野コース／金沢城周辺コース／兼六公園周辺コース／犀川左岸コース／能登半島コース／加賀平野コース／福井平野コース／丹南コース／嶺南コース

完結記念・建築ウォッチング

講師：藤森照信氏（東大・生産技術研究所）

日時：昭和60年9月28日（土）

13:30～16:30

■集合——鹿島建設赤坂別館・地下1階

■見学——丸の内・石の列柱コース

（第一生命相互館の内部見学他）

■参加料——￥1,000（資料代を含む）

（見学用地下鉄代は各自ご負担願います）

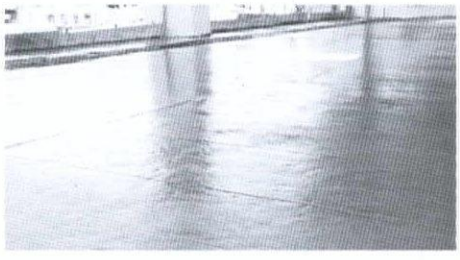
■人数——先着50名様（1次）

申込みは…

往復はがきで●住所●氏名●職業●電話番号をご記入の上、鹿島出版会営業部へ

●
塗床
タフコンスーパー

●
美州興産株式会社



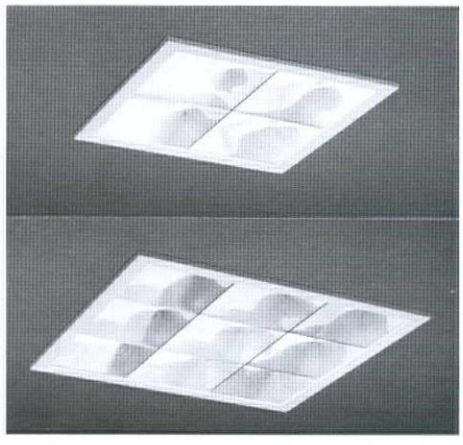
美州興産㈱では，今度床用に設計開発したステンレスファイバーをフルに活用し，他に比類のない床性能を発揮するように配合した塗床材，タフコンスーパーを新発売した．

特長

①荷重に耐えられる強度と長期間の連続使用に耐える強靱さを持っている．
②錆の発生がほとんどない．
③クラックの発生がなく，構造ラックも小さいものは防止する．
④海水・水道水の常用にも耐える．
⑤長繊維ステンレスファイバーが使われているので，導電性があり，静電防止効果もある．

●
照明器具
HIDエクセルソフト

●
東芝電材株式会社



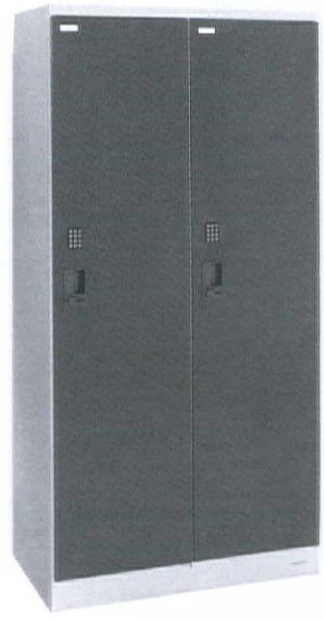
東芝電材㈱では，従来より販売し好評を得ているエクセルソフト・ＦＬタイプに続き，新たにＨＩＤランプ用の２機種（ＤＤ-2560ＥＸ，ＤＤ-4060ＥＸ）を発売した．　これはＦＬタイプに比べ，小形なため天井面をスッキリ仕上げ，陰影のあるハイパワーでグレアレスな照明環境が得られるため，デパート，銀行，各種専門店などのスペース照明として幅広く使用できる．

特長

①蛍光灯と比べ，点光源でハイパワーのため適度な陰影ができ，商品のツヤなど材質感，立体感が出せ，またグレアのない視環境が得られる．
②ルーバはアルミ鏡面仕上げで，しかもパラボリック形状の高効率ルーバにより，ワイドな配光が得られる．
③ＨＩＤランプは，小形で高効率なため器具寸法が小さくてすみ，天井面がスッキリと仕上がる．
④ランプは水平点灯のため埋込深さが少なく(320，350㎜）ですむ．

●
家具
レジャーロッカー

●
株式会社岡村製作所



㈱岡村製作所では，今度防犯性に優れたレジャーロッカー（電子ロックタイプ・テンキーロックタイプ）を新発売した．　これはロッカーの管理を集中的に行なえるレジャーロッカー集中管理システムも可能で，利用者が施錠したあとフロント側の操作でもう一度ロックする二重ロック方式ができ，また手元に設置された端末機の画面で，利用状況・施錠の確認ができ，付加ソフトの利用により料金精算やロッカーの個別利用状況の記録もとれるなど，合理的なロッカールームの管理ができる．

電子ロック錠タイプ

①同社独自の電子ロックが採用されている．
②特殊マグネットタンブラーを採用しているので，合鍵の複製ができない．
③ロックしていないと鍵がぬけない．

テンキー式ロックタイプ

①利用者が自分で決めた４桁の暗証番号を入力して，ロッカーの開閉をする．
②タイマーにより暗証番号の有効登録時間を，自由に認定でき，万一暗証番号を忘れても，マスター番号による管理ができる．

美州興産株式会社
名古屋市名東区社台３丁目228番地
〒465　Tel 052-771-6141㈹

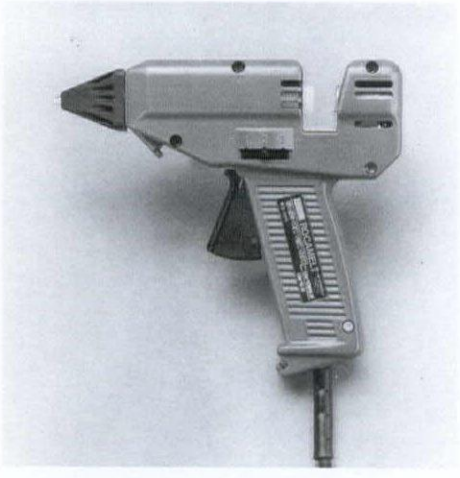
東芝電材株式会社
東京都港区三田１丁目４番28号
〒108　Tel 03-457-6150～2

株式会社岡村製作所　オフィス家具部
東京都千代田区永田町２丁目14番２号
〒100　Tel 03-593-5619

●
接着システム

リョービロカメルト

●
リョービ株式会社



リョービ㈱では，従来より販売し好評を得ている，ホットメルト接着システム，リョービロカメルトにニュータイプのアプリケーター（接着剤吐出器）２機種を加え新発売した。　この接着システムは，電熱ヒータを内蔵したガンタイプのアプリケーターにより，スティック状のホットメルト接着剤を溶解して接着するもので，材木・布類・陶器・ガラス・石・金属・樹脂なども簡単に秒速接着することができる。

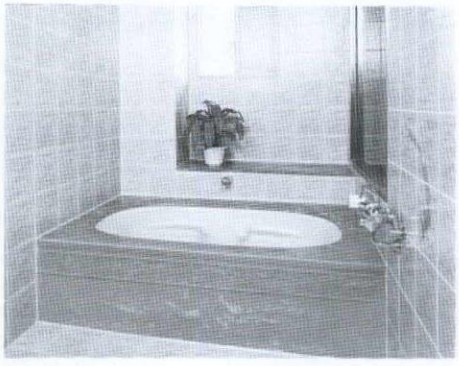
特長

①秒速接着が可能で，乾くまで待つことなく次の作業に移れる。
②シーリングにも適している。
③凹凸面，多孔質材料への接着にも適している。
④固化後もある程度柔軟性があるので，柔らかい材質の接着にも適している。
⑤有機溶剤（シンナー・トルエン等）を含まず，無毒，無公害，安全である。
⑥チューブ入り溶剤型接着剤のように保管中に硬化したり，蓋が開かなくなるなどのトラブルがない。
⑦接着剤が固形のため，取扱と保存が容易で，また一度接着したものを再加熱により，取外しが可能である。

●
シーリング材

NSシール

●
日本化成株式会社



日本化成㈱では，今度湿気硬化型ポリウレタン樹脂をベースとした一液型の弾性シーリング材で，金属をはじめ各種材質の目地シーリング防水に優れた効果を発揮する，ＮＳシールを新発新売した。

特長

①押し出し性に優れ，極めて良好な作業性を示す。
②ノンサグ性に優れ，高温時でも広目地の施工にも適している。
③硬化中の目減りが殆んどなく，また内部にクラックや気泡の発生もない。
④低モジュラスで伸び率が極めて高く，機械的強度が優れている。
⑤耐候性に優れており，長期間にわたって弾性・接着性を保持する。

●
ブラインド

ロールスクリーン

ソフィー

●
株式会社ニチベイ



㈱ニチベイでは，従来より販売し好評を得ているロールスクリーン・ソフィーの新柄44点，スクリーンの昇降をチェーンで操作するチェーン・ソフィー，および生地の汚れた時や部屋の模様がえ時などに最適なソフィー取り替え用生地セット３種を新発売した。

ロールスクリーン・ソフィー

巻き上げ式のスクリーンで，住宅・店舗などの間仕切り，窓，タペストリーなどに使われ，従来の生地には不透明，シースルー，レースなどシンプルな風合いとファッション性および機能性に優れていた。　新柄は綿や麻など，自然の素材を用いたベーシックな無地柄の充実，アート感覚豊かなワンポイント柄まで選ぶ楽しさが広がった。　またガラス繊維を素材とした遮光性に優れた暗幕タイプや遮熱効果の高い省エネタイプも新たに加えられている。

チェーン・ソフィー

スクリーンの昇降をチェーンで行なうもので，幅の狭いもの（最少幅20cm）から，高さは最大45mまで製作できる。　操作チェーンは右側か左側かいずれか一方なので，見た目もスッキリしており，はき出し窓も立ったままで楽に操作できる。

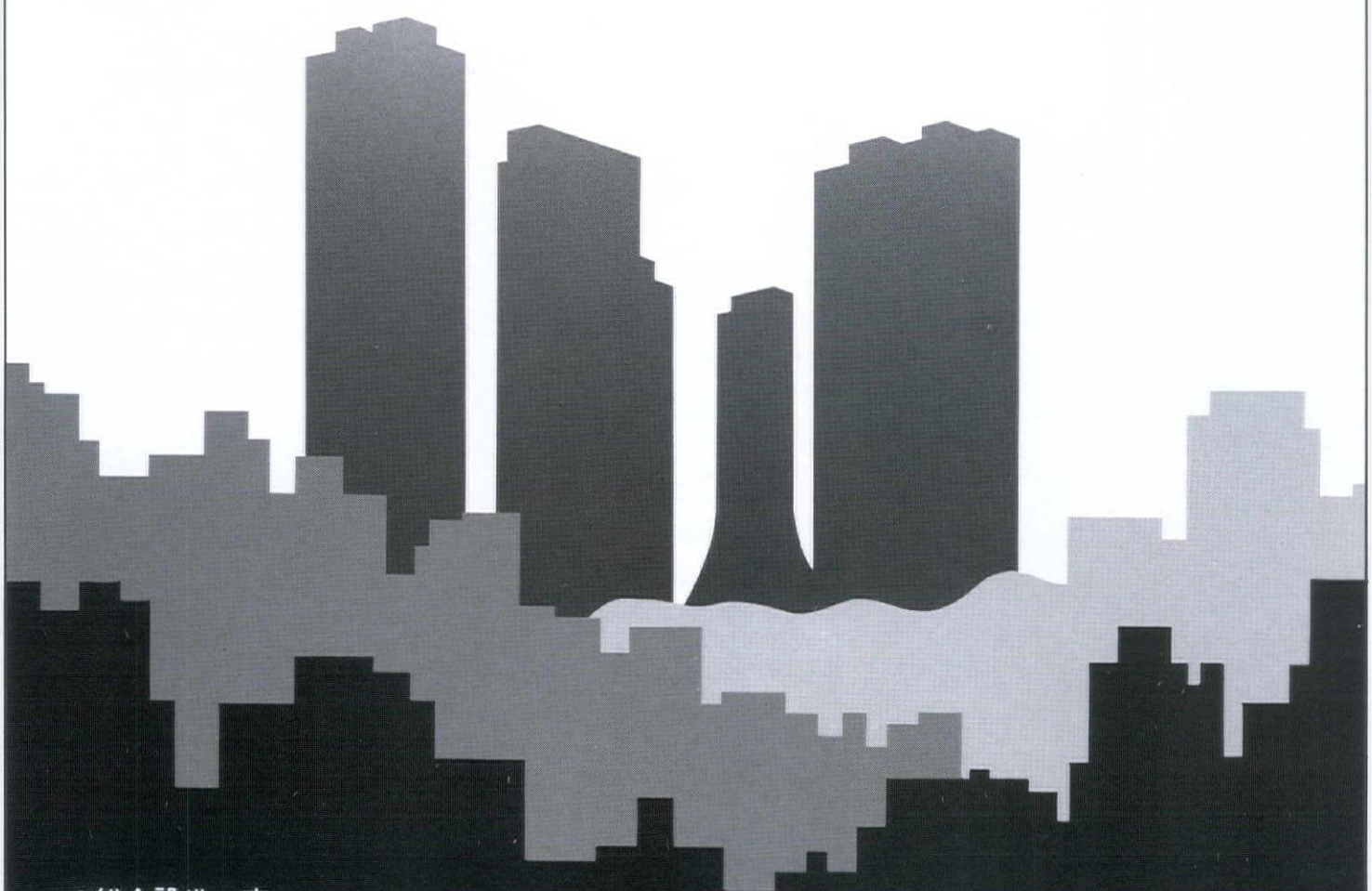
リョービ株式会社　マーケッティング部
東京都千代田区外神田３丁目15番１号
〒101　Tel 03-257-0791

日本化成株式会社
東京都新宿区西新宿１丁目５番12号
〒160　Tel 03-346-0581

株式会社ニチベイ　営業統括部
東京都中央区日本橋３丁目15番４号
〒103　Tel 03-272-2011㈹

空気と熱と水
そして人間と

産業環境から都市環境まで



●総合設備工事

〈ビル設備 工場設備 プラント設備〉
空調・衛生・電気・防災・公害防除・諸配管

●環境整備工事

上水道・下水道・道路・舗装・宅造
その他一般土木

●建築工事

新時代の環境を創る

東横工業

本　　社　横浜市西区平沼2-11-11 ☎(045)323-2531㈹
東京本社　千代田区内幸町2-1-1 飯野ビル ☎(03)593-0671㈹
支　　店　大阪、東北(仙台)
営 業 所　名古屋、静岡、千葉、埼玉、福島、岩手、栃木、福岡、宮崎、他

良心的な

電気工事

- ゆたかな経験
- すぐれた技術



大正海上火災本社ビル　設計㈱日建設計

東光電気工事株式会社

取締役会長　松本福男　　取締役社長　菅　保之

東京都千代田区西神田1－4－5　〒101　電話292－2111　大代表

建築と設備の調和

給排水衛生設備　消火設備　冷暖房設備



赤坂プリンスホテル

NEO 株式会社 西原衛生工業所

東京都港区芝浦3-6-18　TEL 03-452-7441代表

名古屋・横浜・千葉・新潟・仙台・札幌
静岡・藤沢・大宮・長岡・盛岡・青森・函館・旭川・帯広

日章工業株式会社

●本　　社　〒101　東京都千代田区内神田3－11－7（日立神田別館）☎03-254－3000
●大阪支店　〒541　大阪市東区平野町2－7（豊　ビ　ル）☎06-201－5704
●仙台駐在　〒980　仙台市中央3－2－27（日産生命館）☎0222-21-6989

日立製作所エレベーター・機電特約店
日立製作所ＯＡシステム特約店
日立金属フリーアクセス、ハイベース特約店
旭化成建材パイル・ヘーベル代理店
大和ハウス工業代理店

施設商品

エレベーター・エスカレーター
立体駐車場設備（新明和工業）
バスユニット（日立化成工業）
住宅機器類
集中浄化槽
受水槽
ソーラー
受変電設備
自家発電設備
無停電定電圧定周波電源装置
ビル監視制御装置
冷暖房空調設備
通信設備
ターボ冷凍機・吸収式冷凍機
各種ポンプ設備・換気設備

OAシステム機器

パーソナルコンピューター
ワードプロセッサー
ファクシミリ
オフィスコンピューター

建材商品

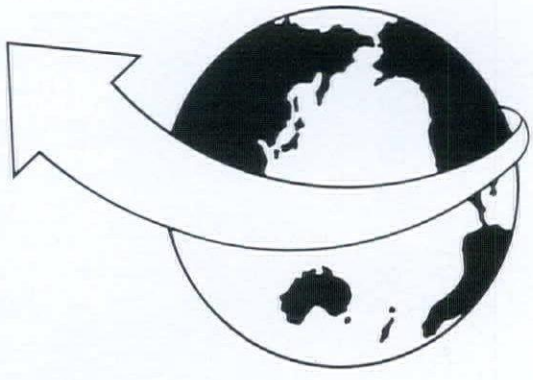
AHSパイル
ヘーベル
フリーアクセスフロア
ハイスプリット・ハイベース
鉄骨
大昭和ユニボード

建設商品

クローラクレーン
ショベル
軽量鉄骨プレハブ規格建築物
軽量鉄骨系プレハブ住宅

未来に向って…

限りある資源
限りある空間の中で
より快適な環境づくりの
ために努力しています。



●営業種目
空気調和・冷暖房・給排水・衛生設備・設計施工

C.C 株式会社 朝日工業社

本社・東京支社　〒105 東京都港区浜松町1－25－7　電話03(434)6171(大代)
大阪支社　〒532 大阪市淀川区加島1－58－59　電話06（302）2271(代)
支　　店　北海道／東北／名古屋／中国／九州

桟木工法による壁体用打込ブリック

一般タイル工事

五十年の歴史と実績の

不二窯業株式会社

取締役社長　松嶋健壽

本　　社	東京都中央区新富2—14—5	電話 03 (551) 7255 代 〒104
札幌営業所	札幌市中央区大通西14—1	電話011 (241) 8960 代 〒060
仙台営業所	仙台市二日町3—11	電話0222 (22) 5124 代 〒980
関越営業所	高崎市中居町2—6—23	電話0273 (53) 0588 代 〒370
大阪営業所	大阪市淀川区西中島3—5—8	電話 06 (301) 9166 代 〒532
福岡営業所	福岡市博多区奈良屋町11—8	電話092 (281) 0378 代 〒812
新潟出張所	新潟市女池4—14—14	電話0252 (85) 6638 代 〒950
シンガポール	Tonan Trading Co., Ltd. Singapore Office.	
事務所	Tel. 2227570, 2227157. Telex. Rs 34755 Tonasp	
韓国事務所	Royal Enterprise Co., Ltd. Tel. Seoul, 765-3631～3, Telex. K 24637. Roystar.	

トータル計画で新時代の環境づくりに貢献



人間活動の大きな変化に対応できなくなって、大気汚染という深刻な問題をかかえた都市。現代に生きる私達にとって、どのようにその問題に対処していくかは重要な課題です。いま、失われた自然環境をとりもどし、都市そのものを新しくよみがえらせる目的で都市再開発が注目されています。新菱は独自の空気調和技術で大気中の塵埃・有毒ガス・臭気を浄化して都市の体質改善をします。地域冷暖房をはじめ街ぐるみの広範囲にわたる地域の集中管理システムを開発し、健康で文化的な生活環境を築きます。

さわやかな世界をつくる

新菱冷熱

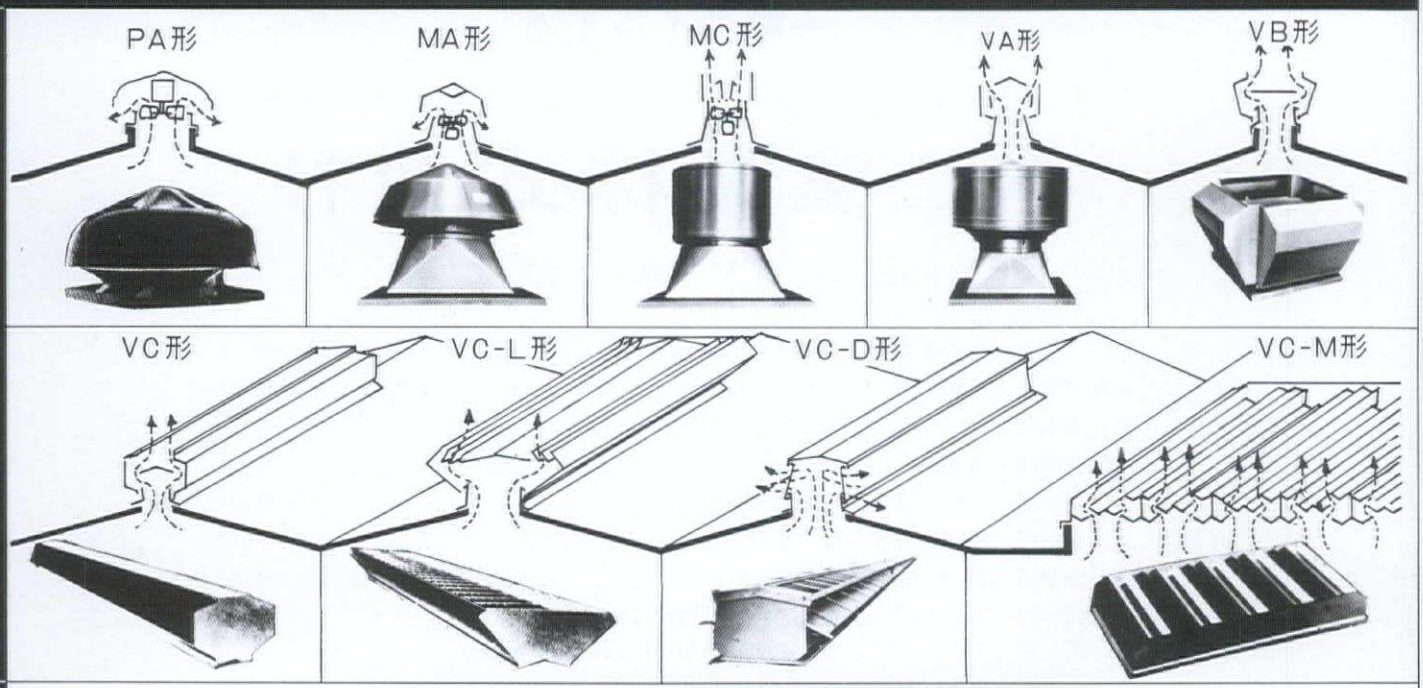
新菱冷熱工業株式会社

東京都新宿区四谷2－4　TEL (357) 2151 (大代)

坂本商会は創業68年 換気・排煙・採光の専門メーカーです

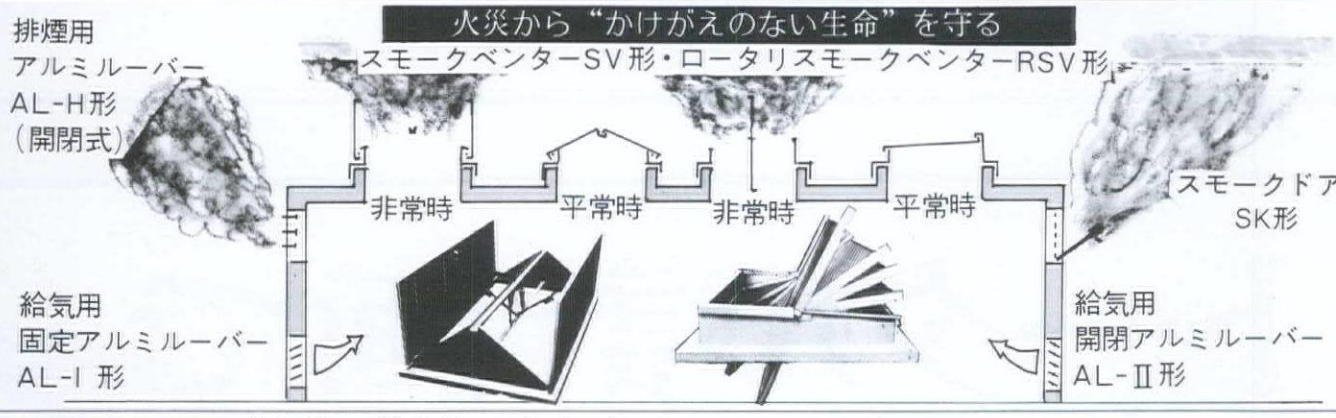
強制換気・自然換気装置

“自然の風”を効率よく招く坂本式ルーフベンチレータ群



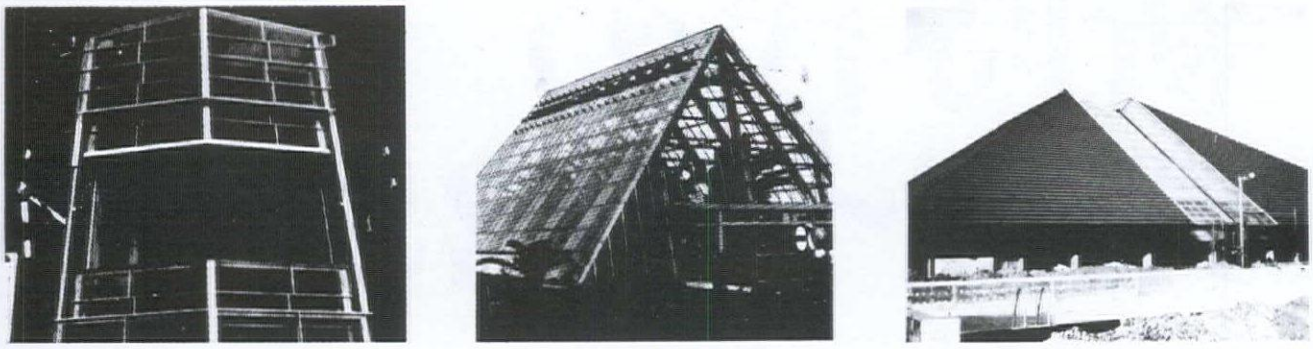
排煙・ルーバー装置

火災から“かけがえのない生命”を守る



採光装置

“太陽の恩恵”を全身でウケとめる坂本式スカイライト



株式会社 坂本商会

本　　社	東京都中央区日本橋2－16－12(江戸二ビル)	〒103	電話 東京 (03) 271－5591(代)
松戸工場	千葉県松戸市松飛台420番地	〒270	電話 松戸 (0473) 87－6595(代)
技術研究所	千葉県松戸市松飛台217番地	〒270	電話 松戸 (0473) 87－3148
施　工　部	東京都墨田区東向島2丁目15番11号	〒131	電話 東京 (03) 619－2221(代)

広告についてのお問合せの際は≪SDを見て≫と御明記願います

広告目次

SD誌に広告をお申し込みの際は

下記広告代理店にご用命下さい（五十音順）

●共栄通信社

東京——東京都中央区銀座8-2-1
ニッタビル (572) 3381
FAX (572) 3590

大阪——大阪市北区西天満3-6-8
笹屋ビル (362) 6515
FAX (365) 6052

●建報社

東京——東京都文京区湯島2-30-8
(818) 1961

大阪——大阪市東区淡路町1-12
昭栄ビル (231) 4548

●新建社

東京都中央区日本橋3-5-12
守尾ビル (271) 3271

●中外広業社

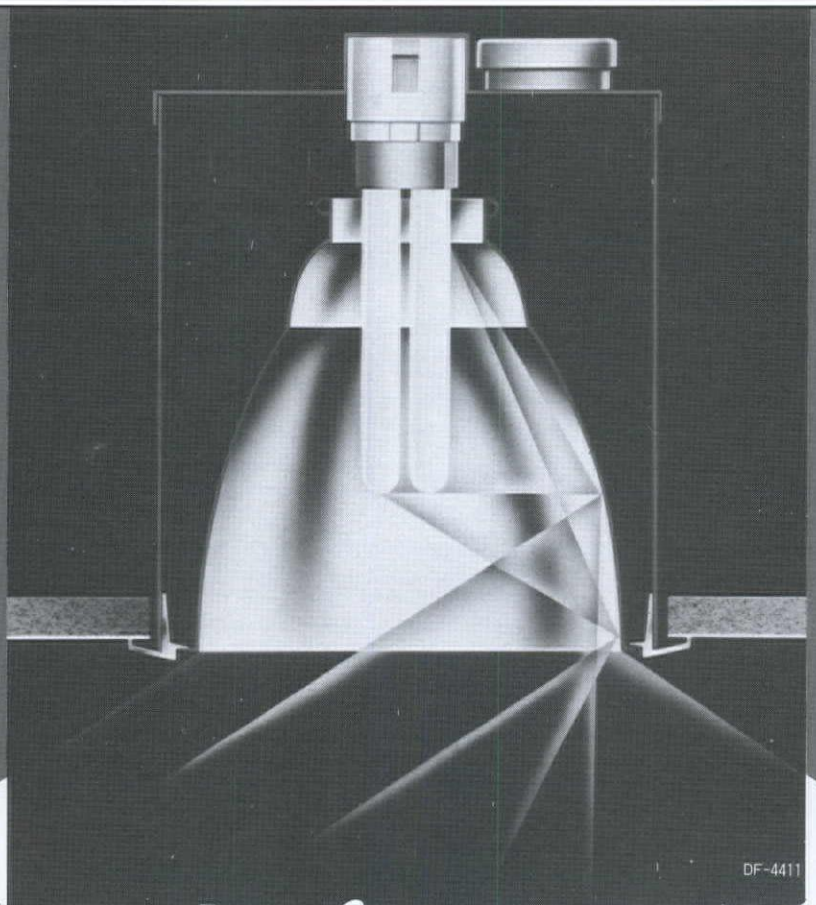
大阪——大阪市北区浪花町14-25
日本生命天六ビル (376) 1791

東京——東京都千代田区内神田1-11-1
酒井ビル (293) 0621

名古屋——名古屋市中区錦1-13-19
北辰名古屋ビル (221) 7641（代）

ア ㈱朝日工業社——020
旭電業㈱——010
オ 大阪電気暖房㈱——012
カ 軽井沢ホテル鹿島ノ森——008
鹿島建設㈱——004
㈱関電工——表2
キ 近畿電気工事㈱——006
サ 三機工業㈱——90
三建設備工業㈱——89
㈱坂本商会——022
シ 新菱冷熱工業㈱——021
昭和鋼機㈱——94
昭和電機工業㈱——88
篠原電機工業㈱——87
ス スカンジナビア航空会社——78・79
タ ㈱大気社——92
大興物産㈱——009
大成温調工業㈱——91
大栄電気㈱——012
テ 帝人ボルボ㈱——77
ト ㈱東芝——表3
東陶機器㈱——001
東横工業㈱——017
東光電気工事㈱——018
東洋熱工業㈱——102
東京避雷針工業㈱——84
ナ 中立電気㈱——013
ニ 日本楽器製造㈱——表4
日新工業㈱——007
日章工業㈱——020
日新製鋼㈱——101
ニチアス㈱——014
㈱西原衛生工業所——019
ノ ノバ工芸㈱——85
ヒ ㈱日立製作所——002
フ 不二窯業㈱——021
フジテック㈱——80
富士電機㈱——83
マ 松下電器産業㈱——005
ミ 三菱電機㈱——93
モ モビリア㈱——011
ヤ 山田照明㈱——024
ヤマギワ㈱——86
ロ ロッドリングジャパン㈱——003

C.F. DOWNLIGHT



DF-4411

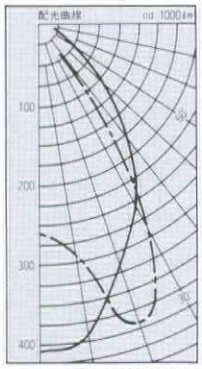
光のカプセル進化論。

また一歩、「C.F.ダウンライト」が差をつけます。

従来の½サイズで、しかも同じ光量を生むオスラム社の〈デュルックス D〉[※1]。この新光源の特長を最大限に活かした「C.F.ダウンライト・バーティカル(縦型)タイプ」の登場です。この「バーティカルタイプ」は、山田照明の高効率ダウンライト「AURA(オーラ)」[※2]の思想を受け継ぎ、ランプ位置は縦型ながら、効率は従来の「C.F.ダウンライト」とほぼ同じ。しかも、意匠的に気になる口径を最小限(DF-4411 13W×1灯でφ155㎜)におさめることができました。高効率、ノングレアに加え、省エネも可能にした「C.F.ダウンライト」が発売されて1年。今また、シリーズは充実し、パブリックスペース、商業スペースはもとより、オフィス、一般住宅まで、さまざまなスペースを効率よく照らします。



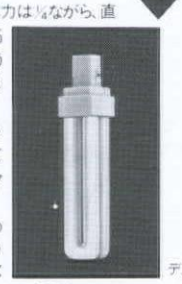
バーティカルタイプ



——…DF-4411(900ℓm)
– – –…DI-4107(810ℓm)

◀「C.F.ダウンライト・バーティカルタイプ」(DF-4411 13W×1灯)と当社の白熱灯ダウンライト(DI-4107 60W×1灯)を比較した場合、消費電力は¼ながら、直下照度(天井高2.5m)で約20%、半径2m内の平均照度で約50%優れています。また、断熱材の天井内充填が多く見られるようになった現代建築でも、蛍光灯光源の「C.F.ダウンライト」は、発熱に関する心配はいりません。

▶※1〈デュルックス D〉:オスラム社の新型蛍光ランプ。この〈D〉タイプは、ソケット1つに2灯分のランプを装着した構造を持っているため、ランプの長さが従来の〈デュルックス〉の½とコンパクトな上、効率は従来どおりという画期的なランプです。
●ランプ寿命/5000時間(白熱ランプの5倍)●省費電力/同光束の白熱ランプと比較して¼●色温度/2700k(白熱ランプに近い温白色)●演色評価数/Ra85以上と演色性も優れています。※2「AURA」:米国オメガ社との技術提携により、"効率と眩しさ"の問題に取り組んだ高効率ダウンライト。ほぼ完璧なバッドウィング配光を生み出す反射板が、グレア(眩しさ)を最小限に押え、より広い範囲へむらのない配光を可能にしています。



デュルックス D

◆DF-4411(デュルックス D・13W×1灯)
◆DF-4410 (デュルックス D・9W×1灯)

山田照明
YAMADA-SHOMEI

本社・ショールーム/〒101 東京都千代田区外神田3-16-12 TEL.(03)253-5151(大代)